

平成2年度 事業報告書

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-03-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2013654

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



平成 2 年度

事業報告書

(社) 日本栽培漁業協会 屋島事業場

屋島事業場
平成2年度事業報告目次

	頁		頁
1. 飼料培養		4. 種苗放流	
1) ナンノクロロプシス	• • • • • • • 1	1) ブリ	
2) ワムシ	• • • • • • • 4	① ブリ種苗放流、追跡結果	• • • • • • • 7 0
3) 養成アルテミア	• • • • • • • 1 2	2) トラフグ	
4) ミジンコ	• • • • • • • 1 7	① トラフグの種苗放流、追跡結果	• • • • • • • 8 2
5) ディアファノゾーマ	• • • • • • • 1 8	② 市場の聞き取り調査結果	• • • • • • • 9 3
2. 親魚養成		3) マダイ	
1) トラフグの親魚養成	• • • • • • • 2 6	① マダイの放流種苗追跡結果	• • • • • • • 1 1 8
2) マダコの親魚養成	• • • • • • • 2 8		
3. 種苗生産			
1) ブリ			
① ブリ種苗生産（中間育成を含む）	• • • • • • • 3 0		
2) トラフグ			
① トラフグの種苗生産	• • • • • • • 4 0		
② トラフグ種苗中間育成結果	• • • • • • • 5 5		
3) マダコ			
① マダコの飼育試験	• • • • • • • 6 2		

ナンノクロロプロシスの培養

1. 本年度のナンノクロロプロシスの培養は、現在の培養槽を有効に利用して、培養水量を拡大するため、ジグザグ水槽を付属の50m³水槽3槽から分離して元種拡大用に使用し、他の水槽は増殖、供給用として1槽毎の使い切り方式で培養を行った。

2. 本年度の生産結果の概要を表1に示す。2月10日～8月31日の間に1566m³（2000万セル／ml換算）を生産した。

3. ジグザグ水槽の培養日数は平均2.4日間、増殖率1.42倍、日間増殖率1.17倍となった。他の水槽の培養日数は平均8日間、日間増殖率1.07倍となった。これはジグザグ水槽のジグザグ部分の途中1ヶ所と最後の仕切り板を高くして、水面面積を拡げ、ジグザグの壁による影の部分を少なくした効果と考えられる。これにより、実効水面面積は処置前の119m²から128m²に改善された。

4. 限外ろ過膜によるナンノクロロプロシスの濃縮試験

① 濃縮装置は日本濾水機工業K.K製であり中空糸状のポリエーテルサルホン製限外ろ過膜を束ねたモジュールを3本使用している。設計能力は2000万セル／mlのナンノクロロプロシス20m³を22時間で100億セル／ml以上に濃縮処理するものである。

② 濃縮試験結果の概要を表2に示す。平成2年11月から平成3年

3月までに11回濃縮試験を実施した。11回を平均した処理能力は、1回の濃縮当たり2700万セル／mlのナンノクロロプロシス18.4m³（200万セル／ml換算24.9m³）を164億セル／mlで30mlに濃縮するものとなった。したがって、処理能力（速度）は0.71m³／時間（200万セル／ml換算0.95m³／時間）となった。濃縮過程での濃縮液の水温上昇は平均7.6°Cであった。

③ 処理能力はほぼ設定値（0.91m³／時間）であったが、2月3月5回目はろ過能力が0.68, 0.75, 0.77m³／時間と低下したため、ろ過能力の回復をするため、マニュアルに従って次亜塩素酸ナトリウムの最高の濃度の500ppmで40分間の膜の洗浄を実施したが、処理能力は回復しなかった。メーカーによる原因究明の結果、膜に付着した濃縮ナンノクロロプロシスは粘着性があること、培養水温の変化によって処理能力に差が出ること（1°Cの液温差で2.3%）、膜にCa, Mg等の金属を吸着しやすいこと等が挙げられた。対策として水洗30分間、水道水の圧力を利用した逆圧洗浄10回以上10分間、次亜塩素酸ナトリウム500ppm洗浄50分間、水洗3回30分間、クエン酸2%による酸洗浄30分間、水酸化ナトリウム1%によるアルカリ洗浄30分間をこの順序で実施した結果6回目以降能力の回復が認められたので有効と考えられた。

5. 濃縮冷蔵ナンノクロロプロシスの再生試験

① 濃縮液は全て1°Cで円錐形容器に収容して弱通気で冷蔵保存

しているが、平成2年11月に製造した濃縮液の再生試験を実施した。濃縮試験結果を表3に示す。

② 冷蔵日数が35日目まで濃縮液は順調に再生した。冷蔵日数が

50日目の濃縮液は、再生試験後の培養日数30日目まで細胞数の増加がみられなかったが、31日目から細胞の増加が確認され40日目

で3000万セル/mlに達したので再生能力を有することを確認した。

6. 次年度の課題

濃縮冷蔵ナンノクロロプロシスの有効利用方法の開発。

町田雅春

表1 ナンノクロロプシスの生産結果の概要

生産区分	水槽			培養方式	生産期間 (日数)	平均水温 (°C)	収穫回数	スタート密度 (万セル/ml)	総生産量 (m³)	収穫密度 (万セル/ml)	備考
	型	大きさ	個数								
1	ジグザグ コンクリート	30m³	1	バッチ	4. 6~8.12 (128)	22.0 (13.0~31.5)	12	1085	(162)	1544	元種用
2	角型 コンクリート	35m³	3	抜き取り	2.10~8.31 (202)	22.2 (8.90~32.5)	23	905	763	2106	供給用
3	円型 キャンバス	40m³	1	抜き取り	5.18~8.21 (93)	23.6 (19.2~30.0)	13	1481	450	1673	
4	円型 キャンバス	30m³	3	抜き取り	2. 3~8.27 (205)	22.3 (11.0~33.0)	13	716	299	1632	菌処理。
5	円型 キャンバス	15m³	1	抜き取り	4. 6~8.22 (136)	22.9 (13.0~31.5)	3	736	54	1451	• 藍藻混入時 次亜塩素酸カルシウム(有効塩素60%)3g/m³添加。 • ブロトゾア増殖時 次亜塩素酸カルシウム1g/m³添加。
計								1566		(元種用は含まず)	

表2 濃縮試験結果の概要

濃縮回次	所要時間 (H)	処理量 (m³)	処理能力 (m³/H)	濃縮液量 (l)	水温			細胞数		注) 平成2年11月~3年1月に実施 *2000万セル/ml換算
					開始	終了	差	開始	終了	
1	19	17.0	0.85	26	14.5	17.0	2.5	0.17	132	
2	21	14.4	0.68	35	12.2	16.0	3.8	0.17	82	
3	27	22.5	0.75	33	7.2	14.5	7.3	0.25	135	
4	27	35.4	1.26	50	4.5	11.1	6.6	0.42	145	
5	26	22.0	0.77	30	3.8	14.0	10.2	0.22	145	
6	23	27.0	1.05	32	5.6	14.5	8.9	0.30	170	
7	25	37.8	1.47	23	5.0	14.5	9.5	0.42	330	
8	24	23.0	0.92	25	8.5	17.8	9.3	0.23	180	
9	24	30.0	0.90	26	9.0	14.5	5.5	0.30	180	
10	26	25.5	0.90	30	5.0	11.3	6.3	0.30	170	
11	27	20.0	0.70	26	8.5	22.0	13.5	0.20	140	
平均	24.4	24.9	0.95	30	7.6	15.2	7.5	0.27	164	
	*	*								

注) 平成2年11月~3年3月に実施
*2000万セル/ml換算

表3 再生試験結果

冷蔵保存日数	培養日数	細胞数		水温	
		開始	終了	開始	終了
0	12	1300	3500	14.5	13.0
10	8	1100	3500	11.2	10.0
20	11	900	3300	7.8	11.1
35	16	1100	4400	14.2	4.5
50	40	1200	3000	11.0	5.1

注) 平成2年11月~3年1月に実施

シオミズツボワムシの培養

1. 30m³水槽4面を用い3月から6月は48時間バッチ方式で、7月から8月は抜き取り方式で培養を行った。ナンノクロロプシスは500万セル/mlから800万セル/mlでセットし、イーストの他に濃縮冷蔵淡水クロレラ（フレッシュグリーン600、日清ファインケミカルK.K製、1日3回、1回当たりの給餌基準は培養水中の濃度が100万セル/mlになるように調整）を給餌した。

2. シオミズツボワムシの生産結果の概要は表1に示す。糞除去用に排水処理用接触材を使用した結果、バッチ方式では3月21日～6月8日の78日間、41回の収穫回数でスタート密度200個体/ml取りあげ密度445/mlで総生産量1546億個体を生産し、抜き取り方式では、7月30日～8月21日の22日間、22回の収穫回数でスタート密度325個体/ml取りあげ密度528/mlで総生産量490億個体を生産し、ともに長期間の安定培養ができた。

表1 シオミズツボワムシの生産結果の概要

生産区分	水槽			培養方式	生産期間 (日数)	平均水温 (°C)	収穫回数	スタート密度 (個体/ml)	総生産量 (億個体)	収穫密度 (個体/ml)	S型の 生産割合 (%)	備 考
	型	大きさ	個数									
1	角型 コンクリート	30m ³	4	48時間 バッチ	3.21～6.8 (78)	27.0 (25.0～28.0)	41	200	1546	445	100	セット時ナンノクロロプシス500 万セル/ml、以後イースト100g/ 億個体・日 濃縮淡水クロレラ 排水処理用接触材 4.5空m ³ /水槽
2	角型 コンクリート	30m ³	1	抜き取り	7.30～8.21 (22)	28.0 (28.0～29.0)	22	325	490	528	100	セット時ナンノクロロプシス800 万セル/ml、以後イースト80g/ 億個体・日 濃縮淡水クロレラ 排水処理用接触材 3.7空m ³ /水槽

排水処理用接触材を利用した ワムシ培養試験

1. 目的

屋島事業場で行っていた48時間バッチ方式によるSワムシ培養作業は、培養水槽がGLより低いため、収穫に水中ポンプを使用せざるを得ず、糞除去材としてのエアーフィルターの出入、洗浄等重労働であった。しかも長期に及ぶため、限られた人数での作業は過労につながり高齢化した臨時雇用者の長期安定就労が困難であった。そこで平成2年度は、ワムシ培養で30m³水槽を利用できるようになったことを期に、大巾な省力化を目的にワムシ培養作業の改良を検討した。

2. 材料及び方法

①試験に供したワムシの元種

30m³水槽で間引き方式で生産中のS型ワムシ

②試験区：排水処理用接触材区（図-1），エアーフィルター区，糞除去材無使用区

③水槽：4m³屋内コンクリート製水槽

海水比重調整：80%海水

水温，PH，DO：無調整

餌料：ナンノクロロブシスはセット時に320万セル/ml，濃縮クロレラはセット時に400万セル/ml（約1ℓ），培養水槽が700-800万セル/mlで試験開始。2日目に濃縮クロレラを1ℓ×2回（am7:00, pm5:00）。イーストは2日目のam7:00のワムシ計数結果を基準とし1g/100万個体でam7:00 35% pm5:00 65%手撒き

④培養方式：48時間バッチ方式，1回目の培養のワムシを2回目の培養に植え継ぎ，1例の培養試験は2回目の培養で終了。

⑤試験例数：3例（A-C）

3. 結果（表-1）

①環境：平均水温 27.7°C(26.8-29.0), PH 8.42(7.86-9.1), DO 4.74(3.7-5.3)（図-2, 3, 4）

②ワムシ収穫用ネットの目詰り：（表-2）6回の収穫作業で接触材使用区が最も目詰りしなかった。

③糞除去材の省力化比較：（表-3）エアーフィルターは水槽の面数と規模によって作業量が増加するが、接触材は収穫時に軽く洗浄作業をするだけでよい。大巾な省力化実現。

④平均増殖率：（図-5）（3例平均）

	1回目	2回目	平均
接触材区	2.37	2.53	2.42
エアーフィルター区	2.34	2.53	2.30
糞除去材無使用区	2.03	2.27	2.28

接触材区とエアーフィルター区の平均増殖率は大差ない。

4. 考察

接触材は、糞除去材の洗浄の省力化には大きな効果が認められるが、ツリガネムシの抑制効果については今回の試験結果からは明らかにならなかった。未だ接触材の選定基準、性能を發揮させる為の設置方法、接触材表面の生物膜の性状の把握、維持の為の洗浄法等基礎的な知見で不明瞭な点が多く、さらに研究する必要がある。

5. 大量培養事例

従来のワムシ培養は4m³水槽6面を使用して行っていたが、今年度から30m³水槽4面を利用して、1面当たり18個の接触材を投入して培養を行った。省力化は、以下の点である。

- ①ワムシの抜き取り作業は、手作業であるが、水中ポンプを使用せずにドレン排水バルブに直接化織ネットを取りつけて行った。
- ②収穫したワムシの強化水槽への収容は、バイブラインを組んでポンプにより行った。又、ワムシの植え換えにもバイブラインを使用できるようにした。
- ③強化ワムシの給餌は、既存の自動給餌装置によった。

このように、ワムシの培養、収穫、強化、給餌作業のほとんどの部分を半自動化した結果、ワムシ培養作業に従事した臨時雇用者の疲労はかなり軽減でき、作業の安全性と省力化という所期の目的を達成できた。

培養結果では、接触材を使用し48時間バッチ方式で78日間41回の収穫を行い、1,546億個体を生産した。平均増殖率は2.22倍であり培養は安定してい

た。又、この後行った間引き培養試験では22日間22回の収穫で、490億個体を生産したが、毎日の収穫後の接触材の洗浄がなくなった分、さらに省力化でき、その上、培養の安定性は変わらなかった。

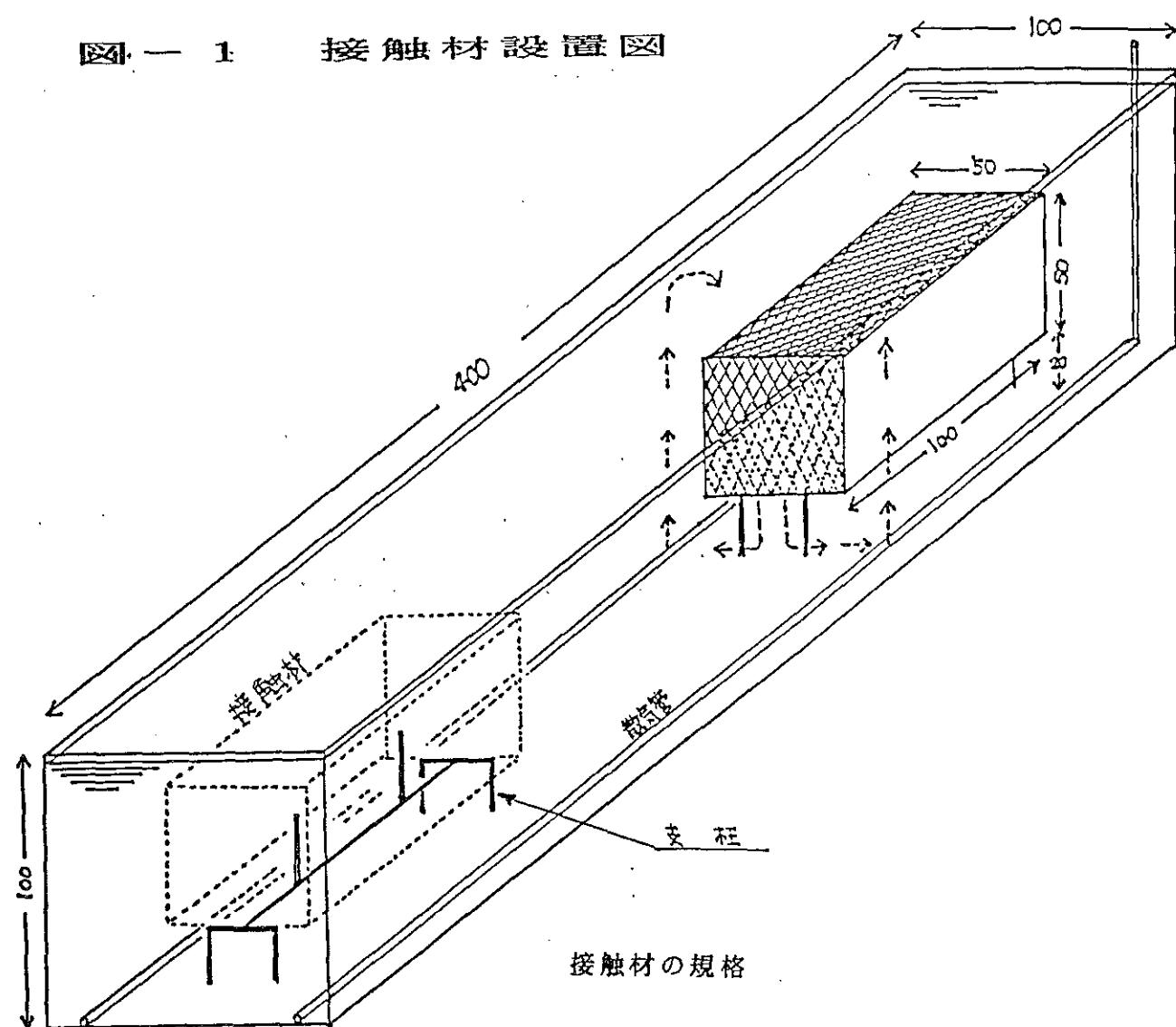
いずれの培養方式においても、ツリガネムシは発生しているが、全て接触材の間のフロック等に付着しており、ワムシへの付着は極めて少なかった。

町田雅春

試験区	糞除去材の材質	規格 (m)	数量	設置方法
排水処理用接触材区	硬質塩化ビニル	0.5*0.5*1	2個 (0.5空m ³ /水槽)	接触材に支柱を付け水槽の底部より20cm高く設置する。
エアーフィルター区	ナイロン	0.5*0.5*0.01	4枚	水槽の壁面に垂下する。
糞除去材無使用区	-	-	-	-

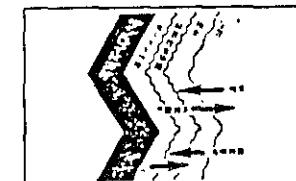
*各試験区の水槽規模（実容量） 4m³

図-1 接触材設置図

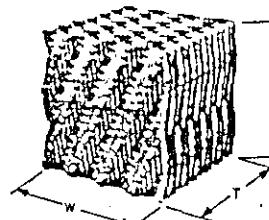


排水処理分野において、生物化学用排水処理方式は活性汚泥法のみにかぎらず、広義の接触酸化方式（散水汎床法、回転円板法、浸水汎床法etc）による高度な排水処理が開発されてきました。

当社では長年これら接触酸化方式の生命である充填用材“サンパッキン”的開発に努めてまいりました。“サンパッキン”は各種産業排水、下水処理場、し尿処理場等の高度排水処理に優れた特性を発揮いたします。



BF型(波状型)



サンパッキンBF型は硬質塩化ビニル製です。

サンパッキンBF型は独特な波状型の設計になっているため、優れた性能を発揮する高性能な排水処理用充填材です。

用途

散水汎床用、固定式接触酸化用（浸水汎床）、三次処理用（脱臭・脱硝）、上水道用

特長

- 1. 有効接触面積が大きい
污水と生物膜との接触面積が大きい為、高BOD負荷、高水量負荷で運転出来ます。
- 2. 池床の閉塞(ポンディング)がおこらない
材の空隙率が大きいので、微生物へ充分な栄養が供給出来、材の閉塞がおこりません。
- 3. 繩屈強度が大きい
強度の優れた硬質塩化ビニルを素材に使用し、形状的に配慮されているので、ブロックに相応てた時の性能

標準散水汎床法とサンパッキンBF型を利用した高速散水汎床法の比較例

項目	材質	BOD負荷 (kg/m ³ /日)	水量負荷 (m ³ /m ² /日)	塔高 (m)	除去率 (%)
標準散水汎床法	砕石	0.5~1.5	10~30	2	60~90
サンパッキンを利用した高速散水汎床法	硬質塩化ビニル	0.8~5.0	30~90	2~10	60~90

品番	サイズ" (cm)		ピ.4 (cm)	色調	シート厚 (mm)	自重量 (kg/m ³)	比表面積 (m ² /m ³)	空隙率 (%)
	厚み(T) (cm)	高さ(H) (cm)						
BF-120	50	50	100	2.5	グリ	0.4	21	98.6

表-1 試験結果

月日 時間	接触材使用区										イオ-フィルタ-使用区										貯蔵去材無使用区										
	水温	pH	DO	クリカ-ネイスト	FG	個体数	卵	数	死	卵	死	全個体数	水温	pH	DO	クリカ-ネイスト	FG	個体数	卵	数	死	卵	死	全個体数							
(A-1)																															
8.06	12	29	9.1	5.2	0	0	1	282	4	1%	0.987	29	9.1	5.3	0	0	1	268	6	2%	0.938	29	9.1	5.3	0	0	1	256	6	2%	0.896
	17	29	9	4.6	0	0	0	274	20	7%	0.959	29	9.1	4.8	0	0	0	280	20	7%	0.98	28.5	8.8	4.6	0	0	0	272	24	9%	0.952
8.07	7	28.2	8.5	4.5	0	0.43	1	308	106	29%	1.33	28.8	8.5	4.5	0	0.39	1	340	54	16%	1.19	28.3	8.5	5	0	0.35	1	314	88	28%	1.099
	12	28	8.3	4.9	0	0	0	308	60	19%	1.078	28.6	8.2	3.7	0	0	0	244	44	18%	0.854	28.1	8.3	4.3	0	0	0	250	62	25%	0.875
	17	28	8.2	4.8	0	0.87	1	302	110	36%	1.057	28.6	8.2	4.4	0	0.73	1	386	84	22%	1.351	28.2	8.2	4.7	0	0.71	1	286	98	34%	1.081
8.08	7	27.7	8.2	4.8	0	0	0	612	322	53%	2.142	28.3	8.3	4.9	0	0	0	462	218	47%	1.617	27.7	8.2	4.9	0	0	0	480	242	50%	1.68
	12	27.8	8.4	4.7	0	0	0	632	154	24%	2.212	28.2	8.3	4.5	0	0	0	510	94	18%	1.785	27.7	8.3	5	0	0	0	516	118	23%	1.886
増殖率																															
(A-2)																															
8.08	12	28.4	8.7	4.8	0	0	1	340	56	16%	1.19	28.7	8.8	5.3	0	0	1	314	44	14%	1.099	28.5	8.8	5.4	0	0	1	286	38	13%	1.081
	17	28.5	8.3	4.7	0	0	0	278	32	12%	0.973	28.7	8.3	4.4	0	0	0	280	26	9%	0.98	28.5	8.3	4.6	0	0	0	302	28	9%	1.057
8.09	7	28.4	8.4	5.3	0	0.41	1	364	20	6%	1.239	28.7	8.4	5.3	10	0.42	1	372	42	11%	1.302	28.5	8.4	5.3	22	0.41	354	34	10%	1.239	
	12	28.4	8.2	4.3	0	0	0	352	18	3%	1.232	28.7	8.2	4.6	0	0	0	350	4	1%	1.225	28.4	8.2	4.2	2	0	0	406	2	0%	1.421
	17	28.4	8.1	4.2	0	0.81	1	370	176	48%	1.295	28.7	8.1	4.2	1	0.85	1	384	78	18%	1.344	28.5	8.1	3.8	0	0.81	1	338	38	12%	1.155
8.10	7	28.4	8.2	4.7	82	0	0	620	456	74%	2.17	28.7	8.2	4.5	32	0	0	558	426	76%	1.953	28.4	8.2	4.4	134	0	0	550	458	83%	1.925
	12	28.1	8.2	5.3	108	0	0	789	178	23%	2.758	28.5	8.3	5.1	170	0	0	716	148	20%	2.506	28.2	8.2	4.3	36	0	0	748	108	14%	2.618
増殖率																															
(B-1)																															
8.15	12	28.7	8.9	5	0	0	1	186	12	6%	0.651	28.8	8.9	5.3	0	0	1	196	6	3%	0.686	28.7	8.9	5.6	0	0	1	282	14	7%	0.707
	17	28.4	8.3	5.4	2	0	0	188	26	14%	0.658	28.7	8.3	5.1	0	0	0	212	40	19%	0.742	28.6	8.4	5.4	0	0	0	288	45	22%	0.728
8.16	7	27.5	8.3	5.4	0	0.27	1	234	122	52%	0.819	27.8	8.4	5.5	1	0.29	1	256	138	54%	0.898	27.6	8.3	5.6	0	0.29	1	250	155	62%	0.875
	12	27.5	8.2	5	2	0	0	276	156	57%	0.986	27.8	8.2	4.9	0	0	0	258	106	41%	0.896	27.6	8.2	5.2	0	0	0	252	116	46%	0.892
	17	27.5	8.1	4.8	0	0.54	1	262	48	18%	0.917	27.9	8.1	4.9	0	0.58	1	274	32	12%	0.959	27.8	8.1	4.8	0	0.57	1	218	58	23%	0.763
8.17	7	27.2	8.8	4	0	0	0	382	200	52%	1.337	27.6	8.1	4.4	0	0	0	368	318	86%	1.298	27.4	8.8	4.1	0	0	0	322	256	88%	1.127
	12	27.2	8.1	4.6	0	0	0	378	232	61%	1.323	27.5	8.2	4.7	0	0	0	354	250	71%	1.239	27.3	8.1	4.7	0	0	0	310	204	66%	1.085
増殖率																															
(B-2)																															
8.17	12	28.3	9	4.7	0	0	1	208	50	24%	0.728	28.6	9.1	5.1	0	0	1	258	74	29%	0.903	28.3	9	5.2	0	0	1	236	82	35%	0.826
	17	28.2	8.8	5.1	0	0	0	260	44	17%	0.91	28.5	8.9	4.8	0	0	0	276	32	12%	0.966	28.2	8.8	5.1	0	0	0	204	56	27%	0.714
8.18	7	27.3	8.4	6.4	0	0.42	1	370	118	31%	1.295	27.6	8.4	5.3	0	0.39	1	340	120	35%	1.19	27.4	8.4	5.5	0	0.41	1	362	142	39%	1.267
	12	27.1	8.2	4.3	0	0	0	352	52	15%	1.232	27.4	8.2	5.1	0	0	0	354	58	16%	1.239	27.2	8.2	4.9	0	0	0	376	58	15%	1.318
	17	27.1	8.1	4.6	0	1.01	1	434	56	13%	1.519	27.3	8.8	4.3	0	0.78	1	470	88	17%	1.845	27.2	8.1	4.8	0	0.83	1	450	64	14%	1.575
8.19	7	27.4	8.1	4.9	0	0	0	612	520	85%	2.142	27.4	8.2	4.8	0	0	0	694	520	75%	2.429	27.2	8.2	4.7	0	0	0	648	470	73%	2.268
	12	27.3	8.1	5	0	0	0	684	388	58%	2.324	27.3	8.2	5.3	0	0	0	588	232	39%	2.058	27.1	8.2	5.3	0	0	0	586	302	52%	2.051
増殖率																															
(C-1)																															
8.19	12	27.2	9.0	5.5	0	0	1	340	61	18%	1.19	27.7																			

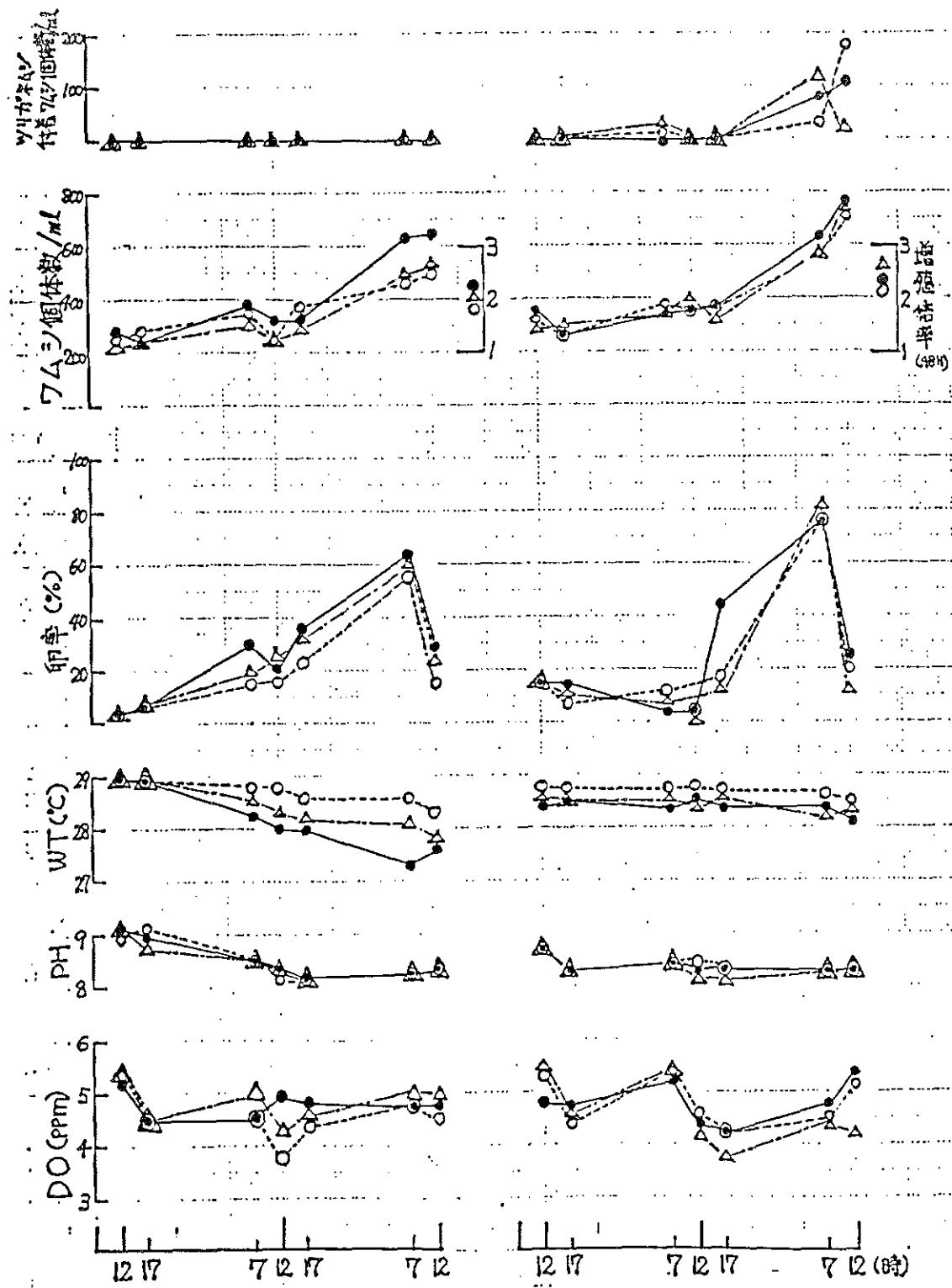


図-2 ワムシ培養試験におけるワムシ個体数と環境要因の経時変化-A

●—接触材使用区
○---エアフィルタ使用区
△---塗装材漆膜使用区

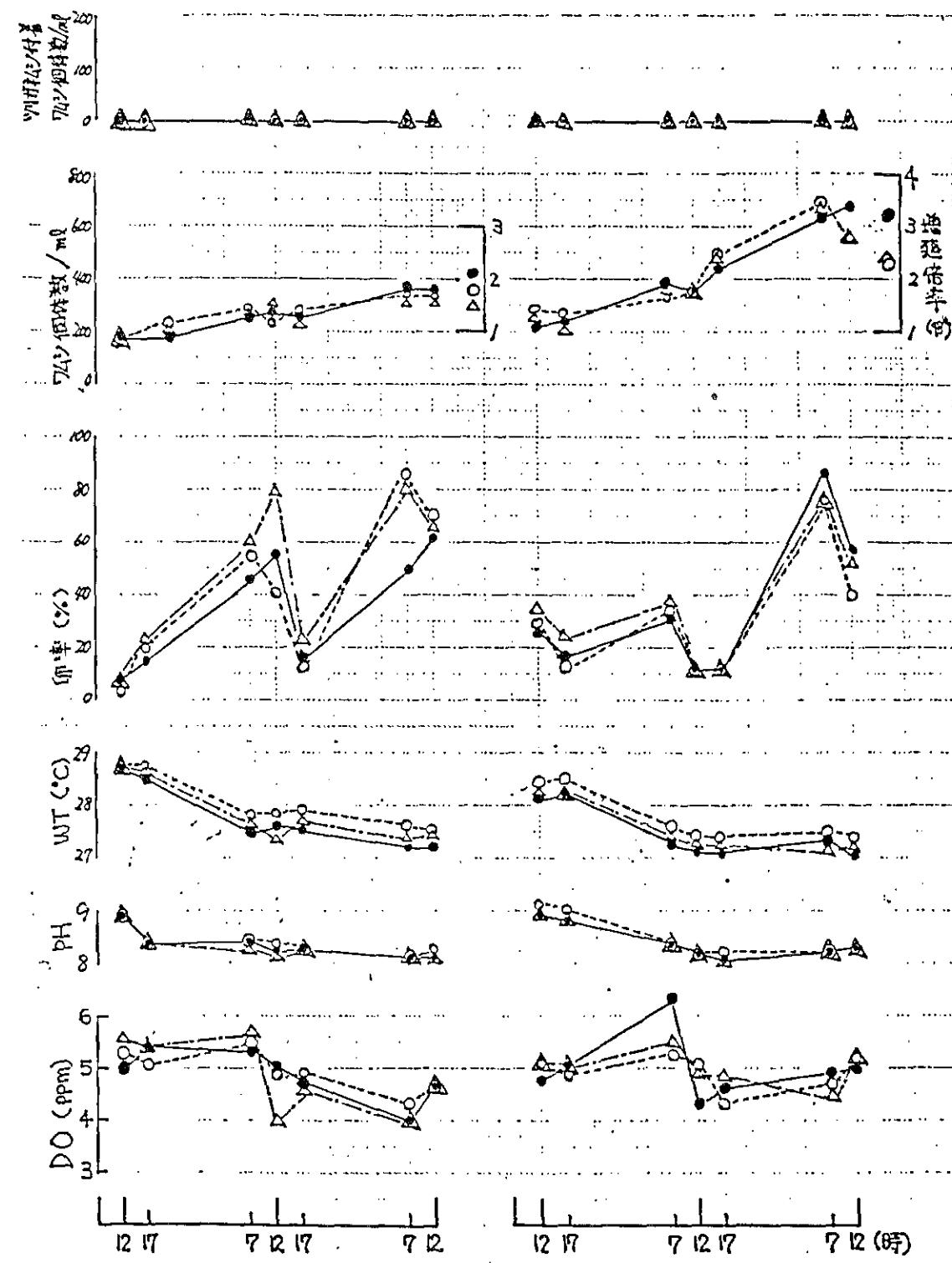


図-3 ワムシ培養試験におけるワムシ個体数と環境要因の経時変化-B

●—接触材使用区
○---エアフィルタ使用区
△---塗装材漆膜使用区

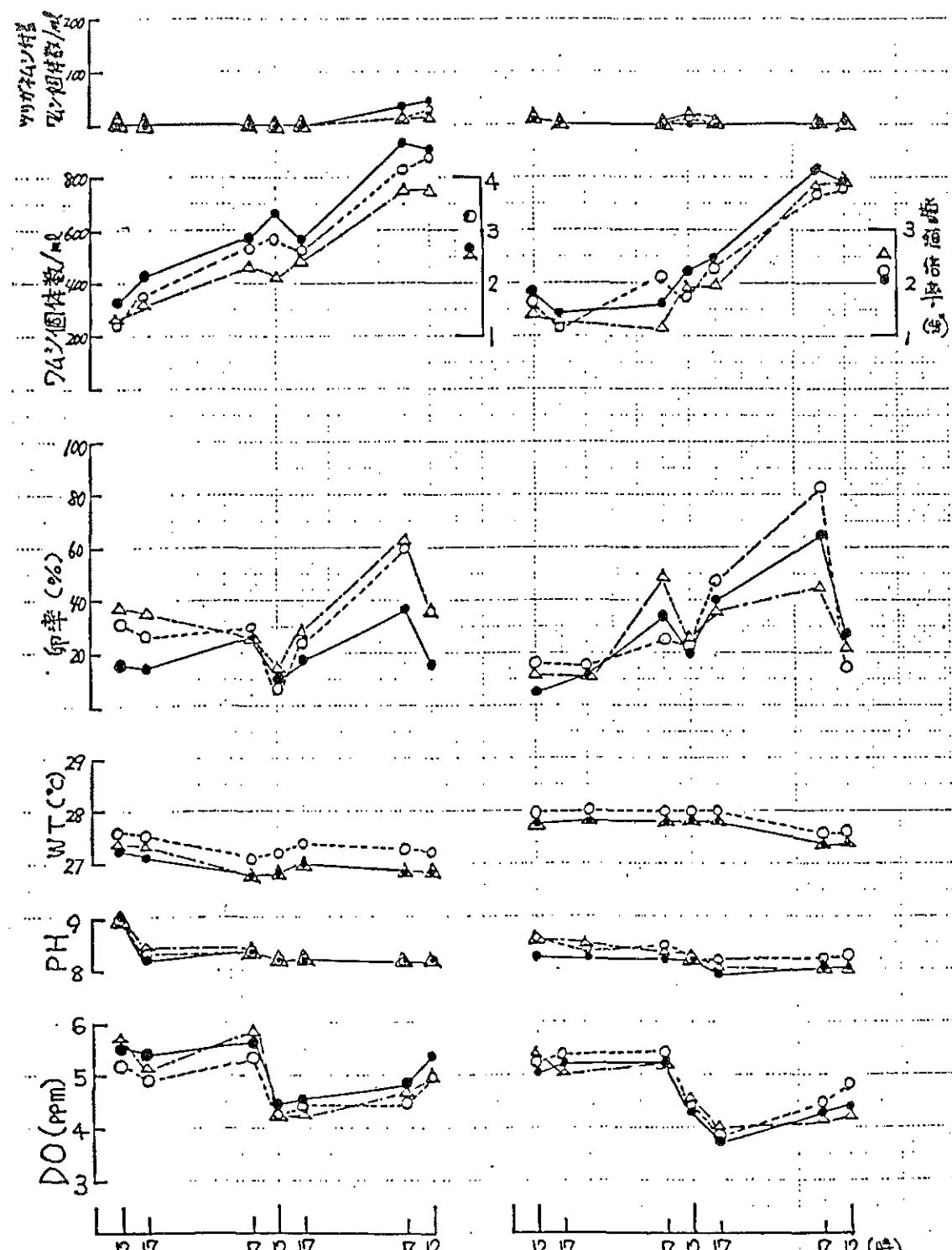


図-4 ワムシ培養試験におけるワムシ個体数と環境要因の経時変化-C

● —●— 接触材使用区
 ○ -○- エアーフィルター使用区
 △ -△- 濾除除去材無使用区

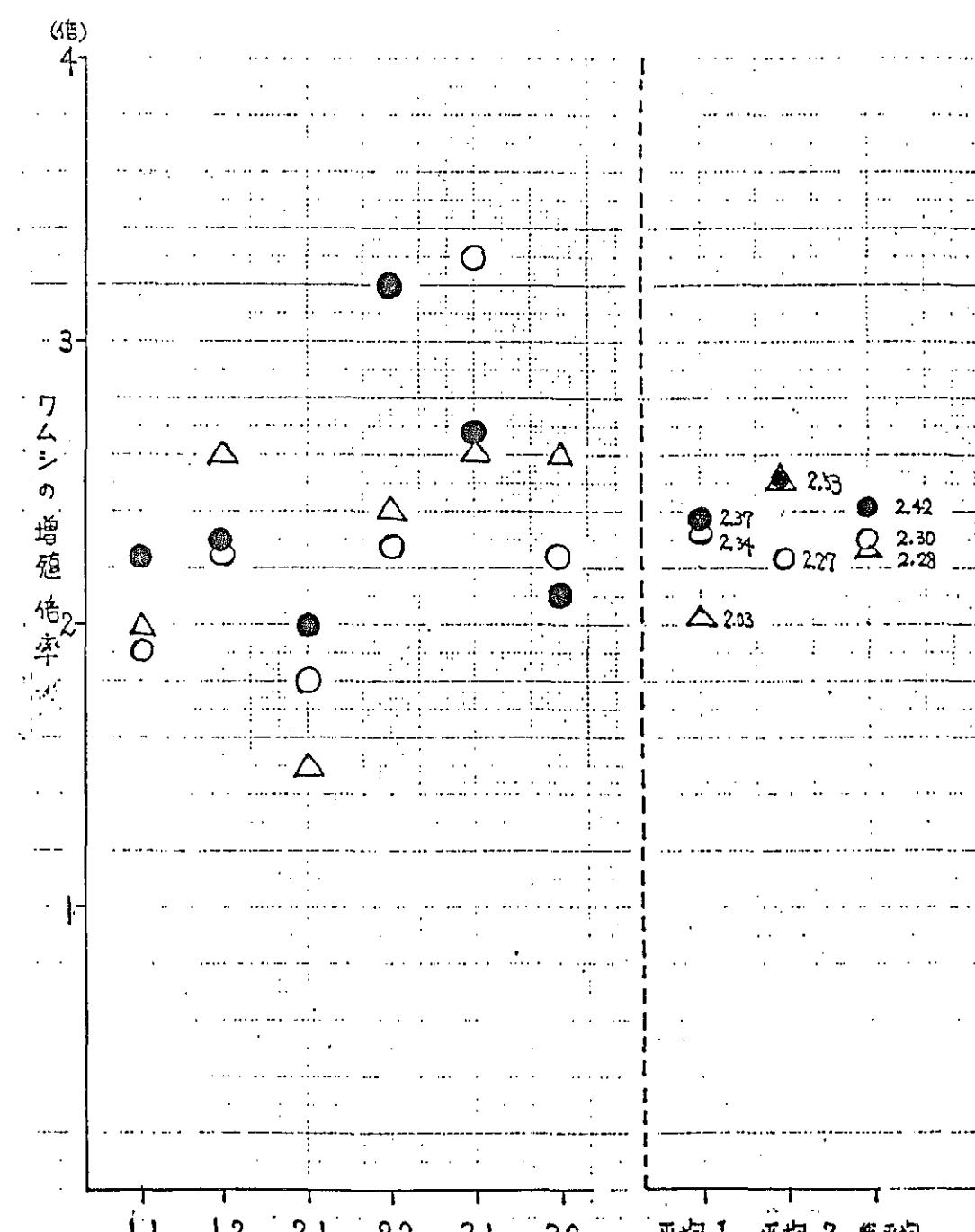


図-5 ワムシ培養試験における増殖結果

● 接触材使用区
 ○ エアーフィルター使用区
 △ 濾除除去材無使用区

表-2 ワムシ収穫用化繊ネットの目詰り比較

目詰り・○しない ●する

		接触材使用区	エアーフィルター使用区	糞除去材無使用区
		1 ○	○	●
A	1	○	○	●
	2	○	○	●
B	1	○	○	●
	2	○	○	●
C	1	○	○	●
	2	○	○	●

表-3 糞除去材の省力化比較

接触材 使用区	4m ³ 水槽に50cmX50cmX100cmの接触材2個を設置して48時間培養後、ワムシ収穫後に高圧水で洗浄する。 所要時間 15分
エアーフィルター 使用区	4m ³ 水槽に50cmX50cmX1cmのエアーフィルター4枚を4箇所に垂下する。1日2回フィルターを交換し、高圧水で洗浄後、天日乾燥し収納する。48時間工程で5回の洗浄作業 所要時間 150分

養成アルテミア

- 1) マダコの飼育試験の餌料として利用するため、全長 1.5mm以上 の養成アルテミアを安定的に量産することを目的として、生産を行った。ナンノクロロプシスを節約するため、養成水の水作りには、五島事業場で利用して高い生残率の得られている鶏糞を利用した。前半8例は乾燥生鶏糞、以降は発酵鶏糞を使用した。
- 2) 7月2日～9月14日に32.3億個体のアルテミアノーブリウスを使用し、21回の養成を行って、1.5～6.9mmの養成アルテミアを5.9億個体生産した。従って、全体的な生残率は、18.2%と低かった。
- 3) どの生産例でも培養4～5日目(1.5～2mm)以降に急激な減耗が認められた。低生残率の原因は、無加温であったが、例年なく高い気温が続き、水温が最高31℃にも達する等、培養には好適な条件ではなかったことが上げられる。しかし、主要因はアルテミア自身の成長に伴って密度が過剰となって酸素不足に陥るためと考えられ、大型のアルテミアを要求するマダコへの餌料供給では2mm以降の養成アルテミアの生残率の向上が今後の課題である。

(大槻觀三)

表 1 養成アルテミアの生産結果の概要

生産区分 (生産回次)	水槽 型	大きさ個数	培養方式	生産期間 (日数)	平均水温 (°C)	餌料種類	養成回数	収容量の 累積値 (億個体)	収容密度 (個体/ml)	総生産量 (億個体)	収穫密度 (個体/ml)	収 穫 サイズ (mm)	備 考
1	角型	50m ³	6	抜取り (75)	7.2~9.14 27.8	アルテミア 用配合飼料	21	32.3	1.52~4.56	5.88	0.1~4.0 1.48~6.85		水作りは鶏糞

平成2年度 美成アルチミア生産

生産水槽	生量 ^{III}	月日	水温	生産枚数	取扱量 万尾	平均	大きさ mm	最大 mm	最小 mm	Kg	配合飼料	吸容尾数	吸容密度 万尾/体	供給先	N.4. 大型養成用.....		
															12	12	12
E-3	58	7.02													2	2	2
	7.03	24.2	24.4	3.0	1.08	0.87	1.26										
	7.05	24.4	4.2	1.41	1.11	2.21											
	7.06	26.6	4.8	1.68	0.92	2.77											
	7.07	25.8	4.2	1.53	0.99	1.97											
	7.08	26.5	3.4	2.01	1.46	2.76											
	7.09	28.5	4.2	1.71	1.34	2.09											
	7.10	29.3	4.2	1.84	1.32	2.43											
	7.11	29.3	3.6	1.90	1.36	2.46											
	7.12	29.3	1.4	1.90	1.36	2.46											
	7.13	28.3	1.2	2.06	1.38	2.68											
	7.14	28.6	1.0	1.98	2.27	1.57	3.89										
E-4	59	7.04													12	12	12
	7.05	26.0	0.50	0.68	0.50	0.76											
	7.06	25.8	4.4	0.94	0.74	1.11											
	7.07	26.6	4.8	1.29	1.03	1.60											
	7.08	28.5	5.2	1.53	0.99	1.97											
	7.09	28.5	4.2	1.71	1.34	2.09											
	7.10	29.3	4.2	1.84	1.32	2.43											
	7.11	29.3	3.6	1.90	1.36	2.46											
	7.12	29.3	1.4	1.90	1.36	2.46											
	7.13	28.3	1.2	2.06	1.38	2.68											
	7.14	28.6	1.0	1.98	2.27	1.57	3.89										
E-5	59	7.06													12	12	12
	7.07	26.2	1.2	0.65	0.45	0.74											
	7.08	28.6	2.2	1.12	0.79	1.33											
	7.09	29.2	4.6	1.37	0.87	1.78											
	7.10	29.0	5.2	1.54	1.26	1.80											
	7.11	29.0	4.6	1.71	1.24	2.11											
	7.12	29.5	1.8	1.71	1.24	2.11											
	7.13	28.3	0.8	1.70	1.25	2.21											
	7.14	28.3	0.8	1.70	1.25	2.21											
E-6	59	7.08													12	12	12
	7.09	26.2	4.8	0.98	0.85	1.29											
	7.10	29.0	5.2	1.21	0.81	1.53											
	7.11	29.0	4.6	1.38	1.06	1.78											
	7.12	28.6	3.4	1.51	0.83	2.16											
	7.13	28.5	2.0	1.68	1.02	2.19											
	7.14	28.5	1.6	2.00	1.82	2.68											
	7.15	28.3	2.2	1.92	1.12	2.88											
	7.16	28.5	1.6	2.36	1.25	3.84											
	7.17	29.0	1.6	1.20	1.10	3.93											
	7.18	29.9	1.6	4.80	2.74	5.28											
	7.19	31.0	1.2	0.80	0.68	1.82											
E-1	58	7.11													12	12	12
	7.12	27.8	4.4	0.73	0.63	0.84											
	7.13	29.3	4.8	0.98	0.71	1.17											
	7.14	27.8	3.4	1.25	0.92	1.48											
	7.15	28.0	4.6	1.54	0.83	2.16											
	7.16	28.6	3.4	1.92	1.12	2.88											
	7.17	28.5	2.0	2.00	1.82	2.68											
	7.18	29.0	1.6	4.80	2.74	5.28											
	7.19	31.0	0.0	3.00	2.89	3.95											
E-3	58	7.11													12	12	12
	7.12	27.8	4.4	0.59	0.49	0.73											
	7.13	27.8	4.4	0.98	0.75	1.20											
	7.14	27.8	3.4	1.25	0.97	1.68											
	7.15	27.5	4.0	1.01	0.75	1.20											
	7.16	27.0	1.8	2.60	1.36	3.68											
	7.17	28.0	0.0	2.40	2.05	2.05											
	7.18	31.0	0.0	2.00	2.00	2.00											
E-2	58	7.15													12	12	12
	7.16	27.8	5.8	0.56	0.41	0.71											
	7.17	29.6	3.6	1.44	1.18	1.82											
	7.18	29.6	2.0	3.60	1.85	5.58											
	7.19	29.7	0.6	1.050	2.24	2.25											
	7.20	30.0	0.8	1.080	3.44	3.84											
	7.21	29.3	0.8	1.08	3.31	3.84											
	7.22	29.3	0.6	2.00	3.55	5.92											
	7.23	30.0	1.6	1.44	1.83	1.84											
	7.24	28.8	2.4	1.80	1.44	1.84											
	7.25	29.3	0.2	5.30	1.68	1.28											
	7.26	29.3	0.2	4.00	5.17	3.39											
	7.27	29.3	0.0	4.00	5.17	3.39											
E-4	58	7.17													12	12	12
	7.18	29.2	1.2	0.62	0.45	0.71											
	7.19	30.0	1.2	1.03	0.83	1.16											
	7.20	30.3	1.8	1.68	1.22	1.92			</								

E - 3	58	7.21	5.71	3.34	7.96	2		
			8.01	27.3	6.96	4.33		
			8.02	27	6.98	4.42		
			8.03	27	6.98	3.94		
			8.04	27.1	6.85	9.54		
			8.05		6.85	4.95		
			8.06		6.85	10.35		
			8.07					
			8.08					
			8.09					
E - 4			10	1	1.5	10800		
E - 5			10	2	9000			
E - 6			10	2	22760			
E - 7			10	2	12500			
E - 8			10	2	22000			
E - 9			10	2	24560			

E - 3	60	8.10				10		2	19928
		8.11	27.3		0.64	0.37	0.76		
		8.12	27.3	3.8	1.02	0.68	1.48	2	
		8.13	27.2	4.8	1.17	0.86	1.38	2	
		8.14	27.2	5.0	1.34	1.01	1.80	2	
		8.15	27.5	5.0	1.34	1.01	1.80	2	
		8.16	27.5	3.2	3.00	1.84	2.20	2	S2=300
		8.17	27.3	2.2	450	2.07	1.42	2	S2=150
		8.18	26.8	1.8	450	2.07	2.76	2	S2=150, S4=148
		8.19	27.2	0.6	498	2.49	1.59	2	S2=270
		8.20	27.3	0.4	270	3.20	1.86	5.25	S2=150, S4=70
		8.21			220			130	S2=10, S4=50
		8.22			130			50	S4=10
		8.23			50				
E - 5	50	8.13				10		2	21680
		8.14	27.8	4.4	0.61	0.37	0.79		
		8.15	27.8	4.4	0.88	0.72	1.28	2	
		8.16	27.5	4.4	1.24	0.83	1.48	2	
		8.17	27.5	3	1.49	1.15	1.93	2	
		8.18	27	3	1.75	1.27	2.36	2	
		8.19	27.4	3.2	1.87	1.29	2.53	2	
		8.20	27.5	2.8	1.87	1.29	2.53	2	
		8.21	27.5	1.8	2.09	1.13	3.38	2	
		8.22	27.3	1.6	2.53	1.48	4.04	2	
		8.23	27	1.2	150	2.79	1.68	3.85	S2=150
		8.24	27.4	1	150	3.2	2.29	4.23	S2=150
		8.25	28.0	0.2	130	3.38	2.11	4.79	S2=130
		8.26	27.7	0.6	130	3.64	2.27	5.56	S2=130
		8.27	26.5	0.1	120	4.1	2.21	6.68	S2=120
		8.28	26		150	4.78	2.65	12.88	S2=130, S3=20
		8.29			80	35	5.62	3.7	S2=60, S3=20
		8.3	27		15	8.98	3.36	8.91	S2=25, S3=10
		8.31	26.7		10	6.25	4.58	8.18	S2=15
		9.01	27.7		10				S2=10
		9.02			5				S2=5
E - 4	60	8.16				10		2	9100
		8.17	27.2		0.64	0.43	0.79		
		8.18	27.2	2.4	1.01	0.85	1.27	2	
		8.19	26.8	2.4	1.36	1.01	1.62	2	
		8.20	27.0	1.4	1.82	1.40	2.40	2	
		8.21	27.1	1.4	2.15	1.06	2.06	2	
		8.22	27.0	2	2.46	1.44	3.34	2	
		8.23	26.9	1.8	2.87	1.56	3.84	2	
		8.24	27.2	1.3	2.87	1.56	3.84	2	
		8.25	27.8	0.6	3.18	1.76	4.33	2	
		8.26	27.6	0.6	3.65	1.98	5.68	2	
		8.27	27.1	0.3	3.86	2.70	6.22	2	
		8.28	26.1	0.4	4.24	2.80	6.56	2	
		8.29	26.2	0.7	4.91	2.93	10	1	S4=80
		8.30	26.1	0.4	5.17	2.94	7.54	1	S4=20
		9.01	27.1	0.2	5.3	3.86	7.6	1	S4=20
		9.02	26.3	0.6	5.27	3.45	8.55	1	S4=2
		9.03			60				S4=2
E - 6	60	8.16				10		2	10500
		8.17	27.5		0.64	0.37	0.78		
		8.18	27.6	1.8	1.02	0.51	1.93	2	
		8.19	27.6	1.4	1.17	0.87	1.45	2	
		8.20	27.4	2.3	1.31	0.93	1.61	2	
		8.21	27.5	2.3	1.76	1.21	2.60	2	
		8.22	27.2	1.6	2.26	1.21	3.20	2	
		8.23	26.8	2	2.63	1.47	4.31	2	
		8.24	27.3	0.7	2.63	1.47	4.31	2	
		8.25	27.8	0.8	2.87	1.34	5.04	2	
		8.26	27.8	0.8	3.75	1.76	6.17	2	
		8.27	27.3	0.4	4.28	3.38	6.17	2	
		8.28	26.5	0.5	4.41	2.37	8.89	2	
		8.29			2				
		8.30	26.4	0.8	5.26	2.66	6.63	1	
		8.31	27.1	0.7	5.13	2.39	7.71	1	
		9.01	27.3	0.3	5.06	3.26	7.26	1	
		9.02	27.4	0.3	5.65	3.85	8.52	1	
E - 1	60	8.20				10		2	11200
		8.21			0.63	0.42	0.76		
		8.22	27.0		1.04	0.78	1.23	2	
		8.23	26.9	2.6	1.40	1.05	1.71	2	
		8.24	27.2	2.4	1.66	1.15	2.40	2	
		8.25	27.6	0.9	1.90	1.16	2.57	2	
		8.26	27.5	2	2.39	1.35	5.20	2	
		8.27	26.7	1.6	3.06	2.07	5.15	2	
		8.28	25.7	0.6					
		8.29			2				
		8.30	26.0	0.3	3.47	2.11	4.61	1	
		8.31	26.7		3.51	2.15	4.81	1	
		8.32	27.2		3.86	2.38	6.48	1	

淡水ミシンコ

- 1) 前年同様、水作りに乾燥生鶏糞を用い、餌料としてイーストを用いて培養を行った。生鶏糞の施肥量、施肥方法、イーストの給餌量は前年と同様である。収穫は、エアーリフトによる方法を用いた。
 - 2) 7月上旬に培養水温が28℃を越すまでは、比較的安定した生産を長期間維持できた。
 - 3) 6m³水槽でのモイナの培養では培養初期にワムシの発生により、培養不調に陥った例があった。50m³キャンバス水槽でのダフニアの培養では高水温でのカイミジンコの発生が培養不調の原因となつた。

(自井重行)

表 1 淡水ミジンコの生産結果の概要

ディアファノゾーマ

- 1) 昨年度の培養例を参考にして、培養水にクレワットを6g/m³添加し、餌料としてイーストを用いて培養を行った。
- 2) 昨年度の生産終了と同時に混入したワムシとチグリオプスを最後まで除去できなかったが、トラフグ生産に3.46億、ブリ生産に5.73億、冷凍として16.6億個体を生産した。
- 3) 又、市販の濃縮クロレラが餌料として有効であることが判明し、種の維持や栄養強化などに利用した。しかし、本種が当場に導入された昭和61年頃の餌料試験では、市販濃縮クロレラは好適餌料ではないという結果となっていた。イーストを餌料として利用できるようになったことから、本種の性質が変化したのか、あるいは当時の市販濃縮クロレラと現在のものの成分に違いがあるのか興味深い現象である。

(大槻觀三)

ディアファノゾーマの生産結果の概要（屋島事業場）

SF 12

86.14	13	26.8	24			2500	1500	250					
86.15	22.6	27.3	24	12		9	3	2500	4000	250	冷凍 (チルド) (重箱)	18600	
86.16	18	26.2	24			2000	2500	250				7000	
86.17	9.2	26.1	24			2000	2500	250				74200	
86.18	11.4	26.6	24			2000	2500	250					
86.19	9.8	27	24			2000	1500	250					
86.20	12.4	27.5	24			2000	2000	3500					
86.21	12	28.3	24			2000	2000	4000	125				
86.22	10.8	29	24			2000	2000	4000	250				
86.23	9.2	29.2	24			2500	2000	4000	250				
86.24	8.4	29.6	24			2500	2500	5000	250				
86.25	11	29.3	24			2500	2500	5000	250				
86.26	8.4	29.1	24			2000	2000	4500					
86.27	8.2	28.8	24			2000	2500	4500					
86.28	8.6	27.5	20	8	3	1		0					
86.29	6.6	26	20					0					
86.30	4.8	26	20					0					
87.01		26	20					0					
合計、平均		27.1		6	5.000		86500	4125	冷凍	18600			
m a x		37.1											
m i n		28.1											

$$\begin{aligned}
 & Y^3 \quad Y^5 \\
 & \downarrow \quad \downarrow \\
 & 24400 + 10200 = 34600 \\
 & Y^4 \quad Y^5 \\
 & \downarrow \quad \downarrow \\
 & 28800 + 12000 = 40800 \\
 & Y^4 \quad Y^5 \\
 & \downarrow \quad \downarrow \\
 & 117300 + 10800 + 5760 = 124460 \\
 & \text{合計} \quad 117300 + 10800 + 5760 \\
 & \qquad\qquad\qquad \underline{\qquad\qquad\qquad} \\
 & \qquad\qquad\qquad 199860
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 & \text{Total } \rightarrow 77" \quad 3.46 \text{ kg} \\
 & 4.08 + 1.65 = 5.73 \\
 & 77" \quad 4.15 + 12.45 = 16.60 \\
 & \qquad\qquad\qquad \underline{\qquad\qquad\qquad} \\
 & \qquad\qquad\qquad 15.79
 \end{aligned}$$

47-2

平成2年 度 ディアフナノゾーマ 培養

月日	個数	水温	水量	引きナンノ漬ナソFWイースト m ³	水温	水量	引きナンノ漬ナソFWイースト m ³	計	油脂酵母クレバ kg	供給量(万)	備考
03.22		23.9	11	1				0	0	0	0.5m ³ * 4 を組付
03.23		11						0	0	66	Y-3から11m ³
03.24	<0	23	11					0	0	0	/
03.25	0.5	23.5	11					0	0	24	
03.26	1	23.3	11					0	0	0	
03.27										24	ナンノゾーマ-フロ-
03.28								0	0	0	
03.29	<1	22.6	15		2	1	2	0	0	0	
03.30								0	0	24	
03.31		15									
04.01		15									
04.02	±0	23.3	15								
04.03	±0	23.3	15								
合計				3		1	2				

底葉

月日	個数	水温	水量	引きナンノ漬ナソFWイースト m ³	水温	水量	引きナンノ漬ナソFWイースト m ³	計	油脂酵母クレバ kg	供給量(万)	備考
04.08								0	0	0	
04.09	23	23	2	8	3			0	0	66	Y-3から11m ³
04.10	<0	24.7	23					0	0	0	/
04.11	1	24.2	23					0	0	0	
04.12	1.2	24.3	23					0	0	0	
04.13	1	23.6	23	4	3	1		0	0	24	
04.14	1.8	24.1	23					0	0	0	
04.15	2.6	23.9	23					0	0	0	
04.16	2.4	24.4	24	4	4	1		0	0	24	
04.17	1.5	23.6	24					0	0	0	
04.18	2	24	24					0	0	0	
04.19	2.1	24.5	24					0	0	0	
04.20	2.8	24.3	22	12	3.5	4.5	2.5	0	0	62	Y-5～1/2
04.21	1.8	23.3	22					0	0	0	
04.22	2.6	23.5	22					0	0	0	
04.23	2.2	24.2	22					0	0	0	
04.24	4.1	23.6	22					1000	1000	1000	Y-2に4m ³ / 45L/min
04.25	3.6	24.2	22					1600	1600	1500	
04.26	4.5	24	22					1500	1500	1500	ワムシ出現
04.27	4.4	23.2	22					1600	1600	2000	
04.28	4.4	24.2	22					2000	2000	2000	
04.29	7.8	23.6	22					2000	2000	2000	
04.30	10.1	23.2	22					2500	2500	2500	
05.01	10.2	24.8	22					2500	2500	2500	
05.02	10.2	24.3	22					2500	2500	2500	
05.03	9.1	24.2	22					2500	2500	2500	
05.04	11.1	23.9	22					2500	2500	2500	
05.05	12.1	23.9	22					3000	3000	3000	
05.06	16.1	24.8	22					3000	3000	3000	
05.07	17.6	23.8	22					3000	3000	3000	
05.08	15.6	24.4	24	5.5	3.5	2	2	3000	3000	45	Y-5に5.5m ³
05.09	11.6	23.6	24					3000	3000	3000	
05.10								3000	3000	3000	
05.11								3000	3000	3000	
05.12	15.1	23.8	24					3000	3000	3000	
05.13	15.1	23.6	24					3000	3000	3000	
05.14	12.6	23.3	24					3000	3000	3000	
05.15	14.5	24.2	24					3000	3000	3000	
05.16	14.5	23.7	24					3000	3000	3000	
05.17	15.8	23.3	24	4	2	1	1	3000	3000	24	サ一モ取替
05.18	14.5	23.7	24					3500	3500	3500	
05.19	17.1	25.1	24					3500	3500	3500	
05.20	17.1	25.8	24					4000	4000	3000	Y-5によるイースト経由
05.21	15.8	25.3	24					2500	2500	2500	
05.22	21.1	25.3	24					3500	3500	3000	
05.23	19.3	25.3	24					3500	3500	3000	
05.24	20.6	25.6	24					3500	3500	3000	
05.25	23.6	25.3	24					4000	4000	3000	
05.26	21.9	25.3	24	10				4000	4000	3000	
05.27	16.8	25.6	24					4000	4000	3000	
05.28	13.1	25.6	24					4000	4000	3000	
05.29	17.6	25.5	24	4	1	2	1	3000	3000	24	Y-2に4m ³
05.30	17.4	25.5	24					3500	3500	2500	
05.31	14.7	25.3	24	4	1	3	1	3500	3500	2500	
06.01	13.7	25.3	24					2500	2500	2500	
06.02	15.3	25	24					3500	3500	2500	
06.03	15.6	25	24					3500	3500	2500	
06.04	20.4	25	24	5	1	2	2	3500	3500	2500	
06.05	20.8	25.9	24	4	1	2	1	3500	3500	2500	
06.06	17.3	26.3	24	8	2	4	2	3500	3500	2500	
06.07	16	26	24					3500	3500	2500	
06.08	16	26.2	24					3500	3500	2500	
06.09	16.4	26	24					3000	3000	2500	
06.10	13.6	26.3	24					3000	3000	2500	
06.11	11.8	26.3	24					3000	3000	2500	
06.12	11.4	26.3	24					2500	2500	2500	
06.13	11.4	26	24					2500	2500	2500	
06.14	11.2	26.8	24	10				7.5	2.5	24	Y-3に5m ³
06.15	8	26	24					2500	2500	2500	
06.16	8.4	26	24					2500	2500	2500	
06.17	8.2	26.2	24	12				2500	2500	2500	
06.18	11.6	26.4	24					2500	2500	2500	
06.19	6.2	26	24					1500	1500	125	
06.20	12.6	26	24					2000	2000	2000	
06.21	21	27.5	25					2000	2000	2000	
06.22	12.6	27.8	25					2000	2000	2000	
06.23	13.2	28.1	25					2000	2000	2000	
06.24	6	28.6	25					1000	1000	1000	
06.25	12.4	28.5	25					2500	2500	2500	
06.26	9.8	28.5	25					2500	2500	2500	
06.27	3	28.4	25					1000	1000	1000	
06.28	9.6	27.4	25					2500			

平成22年度 ディアファノゾーマ培养

月日	倍数	水温	水量	引きナシノ運	SWF	Wイースト	(g)	計	油脂酵母クレワ	供給	量(万)	貯蔵量(万)	備考
04.21	2.4	23	22	3.5	4.5	2.5							4-4から12m ³
04.21	2.6	23	22										
04.22	2.6	23	22										
04.23	2.6	22.9	22										
04.24	2.6	23	22										
04.25	3.1	23.5	22										
04.26	2.8	22.1	22										
04.27	2.1	23.2	22										
04.28	2.4	22.8	22										
04.29	3.9	22.6	22										
04.30	3.4	24.1	22										
05.01	5.2	22.5	22										
05.02	4.4	23.7	22										
05.03	4.4	23.5	22										
05.04	4	22.8	17										
05.05	18	18	18										
23.1	2.3	4.5	2.5										

月日	倍数	水温	水量	引きナシノ運	SWF	Wイースト	(g)	計	油脂酵母クレワ	供給	量(万)	貯蔵量(万)	備考
05.08	4.1	23.7	24	4	10.	4							
05.10													
05.11	6.6	23.8	24										
05.12	5.7	23.5	24										
05.13	5.5	23.2	24										
05.14	10.6	23.9	24										
05.15	12.9	23.5	24										
05.16	15.1	23	24										
05.17	19.4	23.9	24										
05.18	18.8	25	24										
05.20	20.8	26	24										
05.21	20.9	25.2	24										
05.22	18.6	25	24										
05.23	24.6	25	24										
05.24	18.6	25.3	24										
05.25	22.5	25.3	24										
05.26	21.1	26.1	24										
05.27	19	25.3	24										
05.28	15.6	25.3	24										
05.29	17.7	25.2	24										
05.30	16.2	26.2	24										
05.31	11.9	25	24										
06.01	10.2	25	6										
06.02	6.4	26.1	24										
06.03	5.9	26	24										
06.04	2.4	26	24										
24.8	6	6	6										

月日	倍数	水温	水量	引きナシノ運	SWF	Wイースト	(g)	計	油脂酵母クレワ	供給	量(万)	貯蔵量(万)	備考
06.13	8	27	24	5000	9	3							4-4から12m ³
06.19	11.8	26.5	24										
06.20	13.6	27	24										
06.21	16.4	28	24										
06.22	10.2	27.8	24										
06.23	12.2	28.3	24										
06.24	10	29	24										
06.25	14	28.6	24										
06.26	4.8	28.6	24										
06.27	1	28.5	24										
06.28	8	29.6	24										

月日	倍数	水温	水量	引きナシノ運	SWF	Wイースト	(g)	計	油脂酵母クレワ	供給	量(万)	貯蔵量(万)	備考
06.18	8	27	24	5000	9	3							4-4から12m ³
06.19	11.8	26.5	24										
06.20	13.6	27	24										
06.21	16.4	28	24										
06.22	10.2	27.8	24										
06.23	12.2	28.3	24										
06.24	10	29	24										
06.25	14	28.6	24										
06.26	4.8	28.6	24										
06.27	1	28.5	24										
06.28	8	29.6	24										

27.9 8.8.5 15 5 1375 128 冷凍 12000 備考

11.6 8.8.8 15 5 33800 1375 128 冷凍 12000 備考

平成2年度 ディアファノゾーマ培養

月日	個数	水温		水量		引き		タン		SWF		Wイースト		計	油脂群母クリーフ	供給量(万)	備考	
		℃	m ³	kg	kg													
96.03	26	36	26	36	2	19	4	2000	1500	2000	4000	150	250	Y-2から14m ³				
96.04	7.8	26	36	26	36	2	19	4	2500	1500	3000	1500	4500	250				
96.05	6.8	26	36	26	36	2	19	4	3000	1500	3000	2000	5000	250				
96.06	7.2	26	36	26	36	2	19	4	3000	1500	3000	1500	4500	250				
96.07	6.8	26	36	26	36	2	19	4	3000	1500	3000	1500	4500	250				
96.08	15	26	36	26	36	2	19	4	3000	1500	3500	1500	4500	500				
96.09	11.2	26	36	26	36	2	19	4	3500	2000	3500	2000	5500	500				
96.10	14	26	36	26	36	2	19	4	3500	2000	3500	2000	5500	500				
96.11	15.2	26	36	26	36	2	19	4	3500	2000	3500	2000	5500	500				
96.12	21.2	26	36	26	36	2	19	4	3500	2000	3500	2000	5500	500				
96.13	12.2	26	36	26	36	2	19	4	3500	2000	3500	2000	5500	500				
96.14	9.8	26	36	26	36	2	19	4	3500	2000	3500	2000	5500	500				
96.15	2.2	26	36	26	36	2	19	4	3500	2000	3500	2000	5500	500				
96.16	24.2	26	36	26	36	2	19	4	3500	2000	3500	2000	5500	500				
96.17	1	26	36	26	36	2	19	4	3500	2000	3500	2000	5500	500				
96.18	1	26	36	26	36	2	19	4	3500	2000	3500	2000	5500	500				
合計	116	26	36	26	36	2	19	8	65500	4650	65500	4650	96	48	Y-2から14m ³	1200	1200	Y-2から14m ³
MIN	116	26	36	26	36	2	19	8	65500	4650	65500	4650	96	48	Y-2から14m ³	1200	1200	Y-2から14m ³
MAX	116	26	36	26	36	2	19	8	65500	4650	65500	4650	96	48	Y-2から14m ³	1200	1200	Y-2から14m ³
06.19	36	26	36	26	36	2	19	5	1000	1000	2000	1000	2000	0	132			
06.20	3	26	36	26	36	2	19	5	3000	2000	2000	1500	3000	0	132			
06.21	2.6	27	36	27	36	2	19	5	3000	2000	2000	1500	3000	0	132			
06.22	1.8	27.5	36	27.5	36	2	19	5	2000	2000	2500	2500	5000	250				
06.23	3.8	27.5	36	27.5	36	2	19	5	2000	2000	2500	2500	5000	250				
06.24	4.2	27.8	36	27.8	36	2	19	5	1000	1000	2500	2500	5000	250				
06.25	3.6	27.2	36	27.2	36	2	19	5	1000	1000	2500	2500	5000	250				
06.26	5.8	27.5	36	27.5	36	2	19	5	1000	1000	2500	2500	5000	250				
06.27	5.4	27.4	36	27.4	36	2	19	5	1000	1000	2500	2500	5000	250				
06.28	5	27	36	27	36	2	19	5	1000	2	2500	2500	5000	0				
06.29	4.4	26	32	26	32	2	19	5	1000	2	2500	2500	5000	0				
06.30	2.2	26	32	26	32	2	19	7	10000	0	40500	0	1250	132				
12月	27.0	26	36	26	36	2	19	8	65500	4650	65500	4650	96	48	Y-2から14m ³	1200	1200	Y-2から14m ³

5月
337
5726
V

トラフグの親魚養成

鹿児島県東町は、日本で一番早く天然魚から採卵できる場所であるが、最近は養殖業者が多数集中するために過当競争となり、十分な量の良質卵の入手が困難となっている。その分、人工養成親魚からの採卵の技術開発を急がねばならない。

1) 今年度は4月6, 7日に鹿児島県東町での採卵を行い、雌親魚2尾から2.4Kg 160.8万粒の人工受精卵を得た。これを1m³アルテミアふ化槽2槽に収容して、水温18℃、平均換水率300%/日で卵管理を行ったが、ふ化仔魚数471千尾 ふ化率29.3%と悪い結果となった。

目的とするふ化仔魚数を確保できなかつたので、地元の香川県瀬戸内町で採卵を行い、雌親魚5尾から約2Kg 167.4万粒の人工受精卵を得た。この卵を1m³アルテミアふ化槽2槽に収容して、東町産の卵と同様の卵管理を行つたところ、ふ化仔魚数301千尾 ふ化率21.9%となつた。瀬戸内町産の卵のふ化率が低かつたのはふ化直前に好天が続き、卵管理の水温が高くなり過ぎ、卵が斃死したためである。

2) 事業場で養成している親魚は、人工4歳魚2尾、天然?歳魚4尾、天然2歳魚4尾、人工1歳魚+当歳魚 120尾である。例年5月から11月までは、海上の5×5×1.5mの小割網に収容し、12月から翌年4月までは陸上水槽に収容して最低水温が10℃以下にならないように加温養成している。餌料はモイストペレットを主体とし、咬み傷からのビブリオ病対策としてスルファモノメトキシンを経口投与した。昨年は12月上旬に陸上水槽に収容したが、ヘテ

ロボツリウム及びトリコジナが寄生していたので、駆除のためフォルマリン40ppm液の30分浴及びニフルスチレン酸ナトリウム6ppm30分浴を行い、スルファモノメトキシン20mg/体重Kgの筋注を行つた。その結果、寄生虫は除去され、水温9℃でも遊泳、摂餌が認められている。

(勝山明里、尾野久、藤本宏)

トラフグの採卵試験結果（屋島事業場）

親魚区分 (実験群)	採卵 期間	水槽 容量	供試 個数	供試魚の大き 尾数	産卵 尾数	採卵 の方法	総産卵数 (万粒)	浮上卵数 (万粒)	受精卵数 (万粒)	ふ化供試 卵数 (万粒)	ふ化仔魚数 (尾)	備考
東町産	4.6.7		2		2	人工受精	160.8		160.8	160.8	471000	鹿児島県東町で採卵
瀬戸内町産	4.24		5		5	人工受精	137.4		137.4	137.4	301000	香川県瀬戸内町で採卵

親ダコ養成

- 1) 昨年度と同様に、輸送距離が短く、選別が可能なことから親ダコの入手先を庵治に限定し、良質と判断したものをしていねいに搬入した。搬入した親ダコは2m³水槽に5尾づつ収容し、餌料として活イシガニ、活シャコあるいは活アサリを1水槽当たり約500g給餌し、注水量を20回転／日として養成した。注水は水槽底に横向きに行ない、強制的に飼育水を回転させた。昨年同様、ストレスを最小限に抑えるために、観察は卵のチェックを行なうのみとした。
- 2) 親ダコは6月6日～6月28日に36尾を購入したが、産卵せずに斃死したものが6尾あった。産卵は6月15日～8月2日にあり、産卵中に斃死した親は5尾、産卵終了後のふ化開始前に斃死した親は5尾、ふ化中に斃死した親は1尾であった。ふ化は、7月6日～8月19日にあり、1尾の親ダコがふ化完了に要した平均日数は20日（15～26日）であった。
- 3) ふ化ダコ数は1195千尾と昨年と同様であったが、1日当たりのふ化ダコ数が平成元年の約2倍弱となり、30m³水槽への収容が容易になった。これは平成元年より短期間に親を購入できたことによると考えられる。しかし、親ダコ1尾当たりのふ化ダコ数は、63千尾と昨年（86千尾）より少なかった。これは親ダコの平均体重が1.2Kgと昨年（1.4Kg）より小型であったためと考えられる。
- 4) 平成元年12月に天然の幼ダコ16尾を購入し、親ダコの生産を目的として養成した。平成2年の6月には、6尾が生残していたが1kg以上に成長していた。その後、7月にかけて全て斃死したが、

最大の個体は3kgに達した。斃死した個体を解剖した結果、全て成熟した精巣を確認した。

（尾野 久）

表1 マダコの採卵試験結果

親魚区分 (実験群)	ふ化 期間 (日数)	水槽 容量 (m³)	水槽 個数	供試 尾数	親ダコ の体重 (kg)	産卵した 親ダコ数 (尾)	ふ化完了 親ダコ数 (尾)	ふ化仔ダ コ総数 (尾)	親1尾当り ふ化ダコ数 (尾)	1日当り ふ化ダコ数 (尾)	備考
庵治産	7.6~8.19(45)	1.8	7	36	1.18	30	19	1195051	62897	59753	

表2 天然稚ダコの養成試験結果の概要

生産 区分	水槽			収容			飼育			取り揚げ			備 考
	大きさ 型	大きさ (実容量)	個数	月日	尾数	密度 (尾/m³)	水温	主な餌の種類	飼育日数	月日	尾数 (尾)	体重 (g)	性別
天然	円	1.8	1	平・元.12.19	11	6	10.0~23.2	活イシガニ 活アサリ	172~203	平・2.6.8 平・2.6.21 平・2.7.8 平・2.7.9	1 1 1 1	1100 1000 1200 1800 2100 3000	♂ ♂ ♂ ♂ ♂ ♂

ブリ種苗生産

昨年度、市販配合飼料を中型水槽での種苗生産に利用して10%前後の予想以上に高い生残率を得ることができたので、今年度は昨年度以上の生残率を目標に、市販の配合飼料の適正な利用方法を検討する計画であった。しかし、表1に示すようにどの生産回次も極端に低い生残率となり、当初の計画を実施できなかった。

1) 7回次の生産で合計18605千尾のふ化仔魚を受入れたが、そのうち生産を完了できたのは3回の生産のみであった。その3回に利用したふ化仔魚数は5448千尾であり、31400尾の種苗を生産したので、生残率は0.6%となった。

2) 全生産回次で開口10日目までの間に原因不明の大量斃死がみられ、5回次と7-2回次を除く生産回次では、10日目の生残率は数%～20%以下となった。症状は、開口4日目頃から摂餌不良の個体が急増し、不活発な遊泳や円運動あるいはきりもみ状態の遊泳をする個体が目立つようになり、翌日には大量の斃死があった（表2）。

3) ウィルスを含めて、なんらかの病源に感染したことが疑われた

ので、4回次目以降塩素とフォルマリンによる水槽の消毒を行ったが無効であった。

4) ふ化仔魚の由来の異なる4回次の生産でも同様の結果となり、古満目からの同じふ化仔魚を利用している上浦事業場では同様の症状が認められなかつたことから、病源の感染は場内での水平感染の疑いが強いと考えられた。

5) サンプルの電子顕微鏡による検査では、ウィルスは発見されなかつた。

（勝山明里）

ブリ種苗の海上飼育

管理人が1人と少なかったことから毎日の斃死魚の除去が不完全となり、低い生残率となったと考えられる（表4）。

1) 計画を大きく下回る種苗生産尾数となつたため、上浦事業場から約16万尾の種苗を搬入して海上育成を行つた。

2) 当場が生産した31400尾と上浦事業場から搬入した161597尾を合せて192997尾の種苗から、125963尾の県配付を含む放流用種苗を生産し、生残率は65.3%となつた（表3）。

3) 上浦事業場から搬入した種苗は、腹水症と輸送によるすれによる斃死が約1週間続き、その尾数は約8600尾となつた。

4) 類結節症は、水温が23°Cを越えた7月中旬から発生し、水温が28°Cとなつた8月上旬まで続き、その間の斃死は約25000尾に達した。本年度の類結節症の菌は、本症の特効薬であるアンピシリンとオキソリン酸の両方に耐性を持つものであつた。新薬のフルフェニコールが唯一強い感受性を示したが、入手が困難であったので、やむなく弱い感受性を示したエルバージュにより対処した。

5) 甲浦での養成は、漁業者に依託して実施した。9月21日に全長268mmの種苗8500尾を甲浦漁港の地先に設置された小割網（8×8×3m）2面に収容した。47日間の育成後全長317mmの種苗3900尾を取り揚げ、標識放流した。育成期間中連鎖球菌症が発生したが、

（白井重行）

表 1 ブリの種苗生産の概要（陸上水槽）

生産区分	水槽型	収容			飼育			取り揚げ				備考		
		大きさ (実容量)	個数	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m ³)	水温 (°C)	主な餌の種類	飼育日数	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m ³)	全長 (mm)	生残率 (%)
1 角	200m ³ (165)	1	4.22	1739000	10539	20.0~22.1	ワムシ, アルテミアノープリウス, 冷凍ミジンコ, 配合飼料	21	5.12	廃棄				古満目, 天2, 人工採卵 → 166万 166万
2 角	200m ³ (165)	1	4.28	1557000	9436	19.5~21.5		8	5. 5	廃棄				古満目, 天2, 人工採卵 → 150.0万
3-1 角	200m ³ (165)	1	5. 2	1853000	11230	19.5~20.7		4	5. 5	廃棄				古満目, 養4, 人工採卵 → 140.3万
3-2 角	200m ³ (165)	1	5. 2	2231000	13521	19.8~22.0		11	5.12	廃棄				古満目, 養4, 人工採卵 → 190.0万
4-1 角	200m ³ (165)	1	5.11	1850000	11212	21.5~22.0		12	5.22	廃棄				五島, 天然, 人工採卵 → 182.5万
4-2 角	200m ³ (165)	1	5.11	1850000	11212	20.9~22.2		12	5.22	廃棄				五島, 天然, 人工採卵 → 121.5万
5 角	200m ³ (165)	1	5.16	2362000	14315	19.5~23.2		43	6.27	20000	121	39.0	0.8	古満目, 天1, 自然産卵+人工採卵 158.3万
6 角	200m ³ (165)	1	5.20	2077000	12588	19.8~22.2		18	6. 6	廃棄				古満目, 養4, 人工採卵 → 126.9万
7-1 角	200m ³ (165)	1	5.24	1750000	10606	19.8~23.2		47	7. 9	1600	10	41.6	0.1	古満目, 天然, 人工採卵 → 162.9万
7-2 角	200m ³ (165)	1	5.24	1336000	8097	20.0~23.2		47	7. 9	9800	59	52.0	0.7	古満目, 天然, 人工採卵 → 117.5万
合計				18605000				31400					0.6	

表 2 ブリ種苗生産の初期生残率の推移

単位: %

生産回次	1	2	3-1	3-2	4-1	4-2	5	6	7-1 ^a	7-2
収容尾数	1739000	1557000	1853000	2231000	1850000	1850000	2362000	2077000	1750000	1336000
開口後日数	-2	95.5		75.7	85.2		100.0		93.0	87.9
	-1						61.1			
	0	50.8	96.6	29.3	42.4	98.6	121.5	67.0	77.8	111.6
	1			廃棄						
	2						64.6			
	3	27.7	27.6		22.5	86.2	98.5	58.8	70.1	93.5
	4									
	5	22.1	8.1							
	6		廃棄		10.3	58.5	62.3	36.5		
	7						30.0			
	8	15.3		廃棄			38.6		42.7	54.9
	9				1.6	4.7		2.4	16.1	27.5
	10				廃棄	廃棄				
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
	16									
	17									
	18	廃棄								

生残率は飼育水槽の柱状サンプリングによる計数値を収容尾数で割った数値である

表 3 ブリの種苗生産の概要（海上生簀による後期飼育）

生産区分	水槽				収容				飼育				取り揚げ				備考
	型	大きさ (実容量)	個数	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m³)	全長 (mm)	水温	主な餌の種類	飼育日数	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m³)	全長 (mm)	生残率 (%)		
1	角 (3.8×3.8×1.5)	3.8×3.8×2	1	6.27	20000	923	39.0	21.0～27.5	モイストペレット, 配合飼料	13～80	7.9	12200	353	69.1	静岡県配付		
2	角 (3.8×3.8×1.5)	3.8×3.8×2	1	7.9	11400	526	50.5			7.10	12000	174	79.3	三重県配付			
3	角 (3.8×3.8×1.5)	3.8×3.8×2	4	7.3	117820	1360	39.9			7.20～7.30	70178	141～452	97.0～110.0	左腹鰓抜去, 屋島湾口放流			
	角 (4.8×4.8×1.5)	4.8×4.8×2	2	7.3	48777	633	52.9			8.8～8.11	12970	134～146	142.0～144.0	左腹鰓抜去, 屋島湾口放流			
										8.29	5260	152	228.0	鳴門へ輸送, 短期間蓄養後標識放流			
										9.11	4855	70	237.0	鳴門標識放流			
										9.20	8500	49	268.0	高知県甲浦に輸送			
合計					192997						125963			65.3			

生産区分3は上浦事業場から搬入

表 4 高知県甲浦での育成の結果

生産区分	水槽				収容				飼育				取り揚げ				備考
	型	大きさ (実容量)	個数	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m³)	全長 (mm)	水温	主な餌の種類	飼育日数	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m³)	全長 (mm)	生残率 (%)		
1	角	8×8×3	2	9.21	8500	22	268.0		配合飼料 冷凍イワシ	47	11.6	3900	10	317.0	45.9	育成現場で標識放流	

表 平成2年度 ブリふ化仔魚輸送結果

月日	由来	タンク	タンク	容量	積み込み	積み込み	到着後の輸送環境測定結果	途中経過								到着	月日	時間	輸送時間								
								番号	形状	m³	尾数	密度	水温	pH	NH3	Sal	日時	4.20	22.30	4.21	3.00	4.21	5.30	WT	pH		
4.21 古満目	1	角ヒトコ	1.2	493,000	410,833	8.04	0.0523	34.24					19.0		18.7		18.6										4.21 6.00 7.30
	2	角ヒトコ	1.2	337,000	280,833	8.08	0.0351	34.19					19.0		18.6		18.5										
	3	角ヒトコ	1.2	379,000	315,833	8.08	0.0395	34.21					19.0		18.8		18.5										
	4	角ヒトコ	1.2	938,000	781,667	8.08	0.0299	34.15					19.0		18.7		18.7										
	5	角ヒトコ	1.2	896,000	746,667	8.02	0.0638	34.15					19.0		18.5		18.2										
4.28 古満目	1	角ヒトコ	1.2	248,000	206,667	8.12	0.0308	34.59																			
	2	角ヒトコ	1.2	248,000	206,667	8.14	0.0295																				
	3	角ヒトコ	1.2	340,000	283,333	8.07	0.0736	34.59																			
	4	角ヒトコ	1.2	367,000	305,833	8.11	0.0228																				
	5	角ヒトコ	1.2	354,000	295,000	8.09	0.0385																				
5.02 古満目	1	角ヒトコ	1.2	495,000	412,500	8.00	0.148	34.54					20.3	8.16	20.2	8.13	20.0	8.08									5.02 7.30 8.30
	2	角ヒトコ	1.2	402,000	335,000	8.08	0.107						20.0	8.17	19.9	8.16	19.8	8.13									
	3	角ヒトコ	1.2	401,000	334,167	8.08	0.092						20.0	8.16	19.8	8.15	19.7	8.13									
	4	角ヒトコ	1.2	476,000	396,667	7.96	0.24						19.9	8.13	19.8	8.11	19.6	8.06									
	5	角ヒトコ	1.2	457,000	380,833	7.93	0.21	34.54					20.0	8.10	19.8	8.09	19.7	8.00									
	1	平ヒトコ	1.2	417,000	347,500	8.05	0.139																				
	2	平ヒトコ	1.2	405,000	337,500	8.08	0.112																				
	3	平ヒトコ	1.2	413,000	344,167	7.89	0.353	34.54																			
	4	平ヒトコ	1.2	618,000	515,000	8.00	0.157																				
5.11 五島	1	角ヒトコ	1.2	600,000	416,667	8.09	0.0615						20.8	8.16	20.8	8.12	20.7	8.15	20.9	8.14							5.11 18.30 21.30
	2	角ヒトコ	1.2	300,000	250,000	8.09	0.0264						20.8	8.16	20.7	8.12	20.6	8.16	20.8	8.14							
	3	角ヒトコ	1.2	400,000	333,333	8.07	0.0317						20.7	8.13	20.8	8.10	20.6	8.14	20.8	8.12							
	4	角ヒトコ	1.2	300,000	250,000	8.08	0.0193						20.7	8.13	20.7	8.10	20.6	8.15	20.8	8.12							
	5	角ヒトコ	1.2	350,000	291,667	8.08	0.0296	33.62					20.8	8.11	20.7	8.09	20.6	8.14	20.8	8.12							
	1	平ヒトコ	1.2	350,000	291,667	8.07	0.0264	33.97					20.7	8.18	20.7	8.16	20.6	8.13	20.9	8.11							
	2	平ヒトコ	1.2	300,000	250,000	8.09	0.0386						20.7	8.18	20.6	8.16	20.6	8.13	20.8	8.12							
	3	平ヒトコ	1.2	300,000	250,000	8.11	0.029						20.6	8.18	20.6	8.17	20.5	8.14	20.8	8.14							
	4	平ヒトコ	1.2	200,000	166,667	8.16	0.0174						20.6	8.19	20.6	8.19	20.6	8.18	20.8	8.18							
	5	平ヒトコ	1.2	350,000	291,667	8.10	0.0375						20.7	8.18	20.6	8.16	20.6	8.16	20.8	8.13							
	6	角断熱	1.2	350,000	291,667	8.07	0.0388	34.08					20.6	8.17	20.5	8.16	20.6	8.15	20.7	8.12							

ブリN1(A生産区)、収容173.9万尾

天2，4月17日人工授卵，点化4月20日，120.9万尾。繁殖4，天1，4月19日自然产卵，点化4月22日，检送183.4万粒、小化98万尾、追加收容53万尾。

アリニ(生産区), 収容236.2万戸

天1，自然產卵+人工採卵，凍化5月15

配合飼料合計 A = 2 E = 37.2 生産Aナンノ = 19.0 生産Eナンノ = 51.9

ブリN2(B生産区)、収容155.7万尾。

天2、4月17日人工授卵、ふ化4月20日、120.9万尾。受精4、天1、4月19日自然産卵、ふ化4月22日、輸送189.4万粒、ふ化90万尾、追加貯留53万尾。

月日	ふ化品目	水温	pH	塩分	NH3-N	尾数	生残率	全长	範囲	水量	注水	注水率	ウムシ	ワムシ	ノーフリ	アフタ	深ミンコ	O1	O2	O3	O4	N0	N1	N2	C1	ナンノ	万セル	死尾	排水	
日	日	°C		‰	mg/L	尾尾	%	mm	m³	m³/日	%	密度	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	m³	尾尾	目	
4.28	2	-1	19.5	8.21	31.79	0.256	150.0		150	0	0.0																1.5	2272		
4.29	3	0	20.0	8.20	31.57	0.474	150.4	96.6	4.50	4.25-4.65	150	50	33.3														1.5	2560	60	
4.30	4	1	20.4	8.30	31.66	0.618			150	100	66.7	8.0	10.0														1.5	2560	60	
5.01	5	2	20.7						150	150	100.0	12.0	10.0																	60
5.02	6	3	20.8	8.10	31.60	0.373	27.6	17.7	4.85	4.35-5.30	150	150	100.0	11.0	10.0											1.5	1376	60		
5.03	7	4	20.8	8.04	31.66	0.518			150	80	53.3	12.0	10.0														1.5	2320	60	
5.04	8	5	20.8	8.02	31.60	0.654	12.6	8.1		150	80	53.3	11.0	10.0	0.5											0.75	2976	60		
5.05	9	6	21.5						150	80	53.3	8.0															0.75	2976	50	
合計																													2344	



ブリN2(D生産区)、収容18.5万尾、五島天然、5月6日採卵、5月9日ふ化。

5.11	2	-1	21.5					185.0																				0.75	2144	60
5.12	3	0	21.5	8.21	31.34	0.0146	224.8	121.5	4.49	4.25-4.65	150	50	33.3															0.75	2560	60
5.13	4	1	21.5	8.18	31.36	0.022			150	50	33.3	5	10															0.75	1264	60
5.14	5	2	21.5	8.18	31.32	0.0741			150	50	33.3	11	10															0.75	1504	60
5.15	6	3	21.8	8.11	31.27	0.128	182.3	98.5	4.88	4.50-5.20	150	50	33.3	14	15	0.5											0.75	1328	60	
5.16	7	4	21.8	8.13	31.32	0.169			150	50	33.3	17	15	1													0.75	1472	60	
5.17	8	5	21.9	8.12	31.34	0.177			150	75	50.0	14	20	2													0.75	1568	60	
5.18	9	6	21.9	8.09	31.23	0.18	115.2	62.3	5.38	5.10-5.95	150	75	50.0	18	20	3										0.75	2000	60		
5.19	10	7	21.2						150	75	50.0	21	20	6												0.75	1968	60		
5.20	11	8	21.9	8.02	30.76	0.269			150	100	66.7	26	20	9												0.75	1968	40		
5.21	12	9	21.6	7.98	30.93	0.294	8.7	4.7	5.60	5.05-6.60	150	150	100.0	21	20	8										0.75	1760	40		
5.22	13	10	22.0	8.00	31.04	0.256	廢棄		150	150	100.0	21	20														0		40	
合計																													7.5	1697.6

ブリN2(G生産区)、収容175万尾、吉浦自天然、採卵5月20日、ふ化5月23日。

5.24	1	-2	19.8	8.19	31.14	0.0004	162.7	93.0																				0.75	1824	
5.25	2	-1	20.0	8.22	31.12	0			150	50	33.3			10														0.75	1632	
5.26	3	0	20.2	8.23	31.27	0.0213	136.2	77.8	4.47	4.00-4.75	150	50	33.3	5													0.75	1488	60	
5.27	4	1	21.0	8.21	31.21	0.0302			150	50	33.3	7	10															1	1616	60
5.28	5	2	21.5	8.21	31.27	0.103			150	50	33.3	4	10														1	1648	60	
5.29	6	3	21.8	8.12	31.27	0.189	122.6	78.1	4.79	4.40-5.15	150	50	33.3	6	10											1	-----	60		
5.30	7	4	22.2	8.09	31.36	0.298			150	50	33.3	6	10														1.5	1904	60	
5.31	8	5	21.7		31.27	0.422			150	50	33.3	1	15													2	2112	60		
6.01	9	6	21.5			74.7	42.7	5.25	4.85-5.55	150	75	50.0		20	8.5	5										1.5	1712	60		
6.02	10	7	21.5						150	75	50.0	26	15	2	20											1.5	1424	60		
6.03	11	8	22.0	8.08	31.27	0.388			150	100	66.7	21	15	2	20											1.5	1728	50		
6.04	12	9	21.5			28.1	16.1	5.43	4.95-5.80	150	100	66.7	7	12.5	4	30										1.5	1440	50		
6.05	13	10	21.7	8.01	31.01	0.207			150	150	100.0		10	3	20											1.5	1744	50		
6.06	14	11	21.4	8.00	31.21	0.128			150	150	100.0		10	3																

ブリN3(C生産区)、収容185.3万尾。
第4、4月28日入人工網、及5月1日。

月	日	水温	pH	塩分	NH3	尾数	生残率	全长	範囲	水量	注水	注水率	ワムシ	ワムシノ-ブリタニアフア	凍ミンコ	O1	O2	O3	O4	NO	N1	N2	C1	ナンノ	万セル	死亡	排水		
日	日	℃		万尾	%	mm	m³	m³/日	%	密度	倍	千萬	百万	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	m³	尾	目			
5.02	1	-2	19.5	8.16	31.66	0.285	149.3	75.7		150	0	0.0												1.5	1376				
5.03	2	-1	20.0	8.16	31.70	0.011				150	50	33.3														60			
5.04	3	0	20.4	8.17	31.66	0.079	45.6	29.3	4.60	4.25-4.85	150	50	33.3	5.0		2.5									0.75	2976	60		
5.05	4	1	20.7				廢棄			150	50	33.3	12.0		10.0											60			
合計																										0.225	2176		
ブリN3(D生産区) 、五島天然、採卵5月6日、ふ化5月9日、収容185万尾。																										0.75	2144		
5.11	2	-1	21.5	8.22	31.40	0.0105	182.5	98.6	4.51	4.25-4.70	150	50	33.3				10										0.75	2208	60
5.12	3	0	21.5	8.19	31.38	0.0274					150	50	33.3	4		10											0.75	1264	60
5.13	4	1	21.8	8.19	31.34	0.0591					150	50	33.3	7		10											0.75	1504	60
5.14	5	2	20.9	8.19	31.34	0.0591					150	50	33.3	12		15	0.5										0.75	1328	60
5.15	6	3	21.8	8.08	31.29	0.145	159.5	86.2	4.84	4.45-5.20	150	50	33.3	16		15	1									0.75	1472	60	
5.16	7	4	21.8	8.10	31.32	0.237					150	50	33.3	28		2										0.75	1568	60	
5.17	8	5	21.8	8.18	31.34	0.262					150	75	50.0	15		20										0.75	2800	60	
5.18	9	6	22.2	8.07	31.23	0.275	108.3	58.5	5.38	5.10-5.55	150	75	50.0	19		20	3									0.75	1968	60	
5.19	10	7	21.6								150	100	66.7	22		20	6									0.75	1968	40	
5.20	11	8	22.0	8.00	30.76	0.372					150	100	66.7	24		20	9									0.75	1760		
5.21	12	9	22.2	7.97	30.93	0.376	2.9	1.6	5.38	4.75-6.58	150	150	100.0	36		20	8									0.75			
5.22	13	10	21.9	廢棄							150	50	33.3	18		20										0.225	1744		
合計																										0.825			
ブリN3(G生産区) 、収容133.6万尾、古瀬目天然、採卵5月20日、ふ化5月23日。																										0.75	1824		
5.24	1	-2	20.0	8.19	31.12	0	117.5	87.9		150															0.75	1632			
5.25	2	-1	20.2	8.23	31.17	0				150							10								0.75	1498	60		
5.26	3	0	20.6	8.25	31.32	0.0059	149.1	111.6	4.44	4.20-4.70	150	50	33.3	5											1	1616	60		
5.27	4	1	21.2	8.25	31.23	0.0097					150	50	33.3	6		10									1	1648	60		
5.28	5	2	21.6	8.26	31.32	0.0466					150	50	33.3	5		10									1	-----	60		
5.29	6	3	22.2	8.15	31.34	0.143	124.9	93.5	4.69	4.45-4.95	150	50	33.3	11		10									1.5	1904	60		
5.30	7	4	21.8	8.11	31.36	0.276					150	50	33.3	4		10									2	2112	60		
5.31	8	5	21.6				31.29	0.412			150	50	33.3	6		15									1.5	1712	60		
6.01	9	6	22.2				73.4	54.9	5.52	5.25-5.85	150	75	50.0	20	0.5	5									1.5	1424	60		
6.02	10	7	21.3								150	75	50.0	21	15	2	20								1.5	1728	50		
6.03	11	8	21.7	8.07	31.29	0.425					150	100	66.7	20	15	2	20								1.5	1440	49000		
6.04	12	9	21.2				36.7	27.5	5.72	4.85-6.55	150	100	66.7	9	12.5	4	30								1.5	1744	50		
6.05	13	10	21.6	8.00	31.06	0.204					150	150	100.0	10	3	20									1.5	1264	21000		
6.06	14	11	21.2	8.00	31.23	0.12					150	150	100.0	10	3	20									1.5	848	50		
6.07	15	12	21.5	8.05	31.32	0.0965					6.10	5.65-6.50	150	150	100.0	3									1	1040	50		
6.08	16	13	21.8	8.06	31.36	0.0482					150	225	150.0	1.5											1.5	1840	500		
6.09	17	14	21.7	8.10	30.97	0.0208					150	150	100.0	2											1.5	832	50		
6.10	18	15	21.7	8.08	31.27	0.0206					6.67	6.18-7.35	150	150	100.0	2									1.5	640	50		
6.11	19	16	21.6	8.07	31.32	0					150	150	100.0	2											1.5	560	50		
6.12	20	17	21.7	8.06	31.36	0.0923					150	150	100.0	2											1.5	256	100		
6.13	21	18	21.7	8.06	31.42	0.114					6.97	6.25-7.75	150	150	100.0	2									1.5	320	50		
6.14	22	19	21.6	8.07	31.51	0.0925					150	150	100.0	2											1.5	352	200		
6.15	23	20	21.5	8																									

プリ N 4 (C 生産区)、収容223.1万尾。
登4、4月28日人工採卵、ふ化5月1日

ナンノ合計 C = 8.4
E = 17.1

全重約20 74×40回 俗稱
萬能機器 $74 \times 40 = 40 \times 2 = 80\text{cm}^3$

トラフグの種苗生産

前年度の種苗放流・追跡調査の結果、尾鰭の損傷の少ない種苗の再捕率が高いことが確認された。種苗生産では、全長 6mm から配合飼料への餌付けを開始した結果、餌付き完了までには 10 日間を要した。その間生物餌料を制限したため共食いが激化したが、取り揚げ時には尾鰭の損傷の少ない良質な種苗を生産でき、配合飼料に餌付いた個体間では共食いが減少するものと考えられた。従って、今年度は、尾鰭の損傷の少ない種苗を生産するため、より早期の配合飼料への餌付け技術の開発を目的に、2 回の生産試験を行った。

1) 1回次は、4月16日に鹿児島県東町産の卵からのふ化仔魚47.1万尾を30m³水槽に収容して飼育を開始した。途中2回の分槽を行ったので合計3槽となったが、5月28日に平均全長21.3mmの種苗2.0万尾を取り揚げ、生残率は4.2%となった。

2回次は5月2日に香川県瀬戸内町産の卵からのふ化仔魚30.1万尾を30m³水槽に収容して飼育を開始し、途中1回の分槽を行ったので合計2槽となったが、6月1日に平均全長14.7mmの種苗6.3万尾を取り揚げ、さらに6月4日に平均全長16.5mmの種苗5.0千尾を取り揚げ、生残率は37.5%となった(表1)。

2) 2回の生産例とも開口翌日から、松の花粉や水中のごみを摂餌している個体が認められたので、1回次は開口2日目の平均全長3.7mmから、2回次は開口3日目平均全長3.8mmから配合飼料(粒径100~150μm)の給餌を開始した。

① 1回次では、開口4日目に10個体中3個体が配合飼料を摂餌しているのが確認された。その後、餌付き個体の比率は徐々に増加の傾向は認められたものの、開口8日目から11日目にかけては全く摂餌しなくなる現象がみられた。その後配合飼料の飽食個体が確認されたのが開口24日目平均全長13.3mmであり、ほとんどの個体

が配合飼料を飽食して完全に餌付いたのは、開口33日目平均全長17.0mmであった(図1)。

②一方、2回次では配合飼料の給餌を開始した日に摂餌個体が認められた。その後、配合飼料を摂餌する個体は急激に増加し、開口16日目の平均全長7.5mmにはほとんどの個体が配合飼料を飽食して完全に餌付いたと認められた(図2)。

3) 1回次は、仔魚が一旦配合飼料に餌付きかけたにもかかわらず、生物餌料の給餌量を減らさなかったので、生物餌料の方に餌付いてしまい、配合飼料への餌付け時期を失してしまったと考えられた(図3)。2回次は、1回次の結果を考慮して、早期に生物餌料の給餌を打切ったことが配合飼料への早期餌付けに有効に働いたものと考えられる(図4, 5)。

4) しかし、取り揚げ時の尾鰭の損傷個体率をみると、1回次では25.0%, 2回次では50.5%で2回次の方が高かった。これは、取り揚げ密度が1回次では258~284尾/m³であったのに対し、2回次では2000尾/m³以上と、2回次の方が著しく高かったことに起因すると思われる。

5) 両生産回次の成長を比較すると2回次の方が10~20日の間著しく遅れ、その後も遅れ気味である。これは、2回次の生残尾数が多くなったにもかかわらず、図3, 4に見るように1日当たりの給餌量が2回次は1回次の約1/8であり、また取り揚げ単位体重当たりの給餌量を比較すると1回次では48Kg/Kg, 2回次では4Kg/Kgと1回次の1/10以下と少なかったことに起因すると思われる。このことがさらに咬み合いを助長して、2回次の尾鰭欠損率を高めたものと考えられる。

6)これを飼育の立場から見ると、1回次は、上述の様に初期の配合飼料への餌付けの失敗から、再度餌付けに成功するまでの間、生物餌料及び配合飼料を多量に給餌する必要が生じたが、2回次は順調に配合飼料に餌付いたので、そのような必要がなかったためとも考えられる。1回次はまた、3水槽に分槽して飼育密度を

下げたことも、配合飼料への餌付きを遅らせ、給餌効率を下げる原因となったと思われる。

従って、生産効率を高めながら、尾鰭の損傷率の低い健苗を生産するためには、共食いを低く押さえ、しかも給餌効率の高い飼育密度を究明する必要があり、さらに配合飼料の給餌方法も検討する必要がある。

- 7) 取り揚げ群別に平均全長を境に魚体を大小に分けて尾鰭の損傷個体の割合をみると、1回次では大群と小群に差が見られないが、2回次では2回の取り揚げ群ともに小群の方に咬まれている個体が多い（表2）。従って、咬み合い防止には充分量の餌料の供給と適正な飼育密度の上に、大小差を少なくすることが有効であると考えられる。
- 8) 本年度は早期の配合飼料への餌付け技術の端緒は掴んだものの、残された大きな課題として、陸上水槽飼育での成長にともなった適正な飼育密度の把握とともに、適正な給餌量、給餌方法の検討も必要である。

（勝山明里）

表1 トラフグの種苗生産試験結果の概要（屋島事業場）

生産区分	水槽			収容			飼育			取り揚げ			備考	
	大きさ 区分	個数 型	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m ³)	水温 (°C)	主な餌の種類	飼育日数	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m ³)	全長 (mm)	生残率 (%)	
1 角	30m ³ (25)	1	4.16	471000	18840	17.0~20.5	ワムシ, アル テミアノープ リウス, ディ アファノゾー マ, グフニア 冷凍ミジンコ 配合飼料	42	5.28	7100	284	鹿児島県東町採卵		
角	30m ³ (25)	1						42	5.28	6450	258	21.3	4.2 分槽	
角	30m ³ (25)	1						42	5.28	6450	258		分槽	
2 角	30m ³ (25)	1	5. 2	301000	12040	18.0~20.3	ワムシ, アル テミアノープ リウス, 配合 飼料	30	6. 1	63000	2520	14.7	香川県瀬戸内町採卵	
角	30m ³ (25)	1						33	6. 4	50000	2000	16.5	37.5 分槽	
合計		5		772000						133000		17.2		

表2 トラフグ種苗の尾鰭損傷調査結果

生産区分	調査月日	調査個体数	平均全長 (mm)	尾鰭損傷個体数	平均サイズ以下の個体数(A)	平均サイズ以上の個体数(B)	A/B
1	5.28	100	21.3±2.2	25	13	12	1.1
2	6. 1	100	14.9±1.4	45	27	18	1.5
	6. 4	100	16.7±2.3	56	33	23	1.4

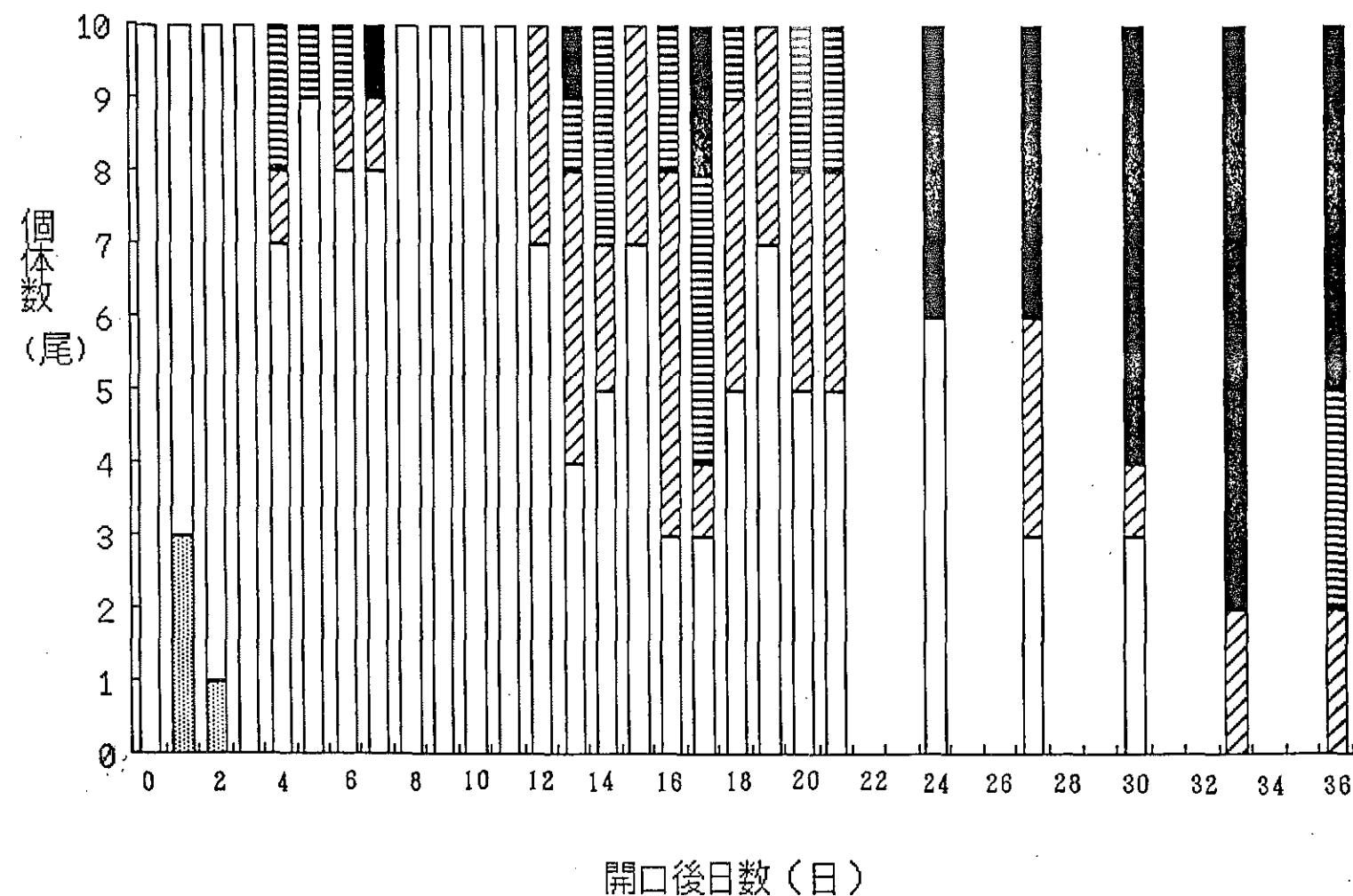


図1 トカラフグ種苗生産状況1回次の配合飼料餌付き状況

胃内容物中の配合飼料の割合

- ：生物餌料の間に配合飼料を確認できない
- ▨：生物餌料の間に配合飼料片を確認
- ：生物餌料の間に配合飼料の塊を確認
- ：配合飼料が充满
- ▨：配合飼料給餌以前に花粉等を確認

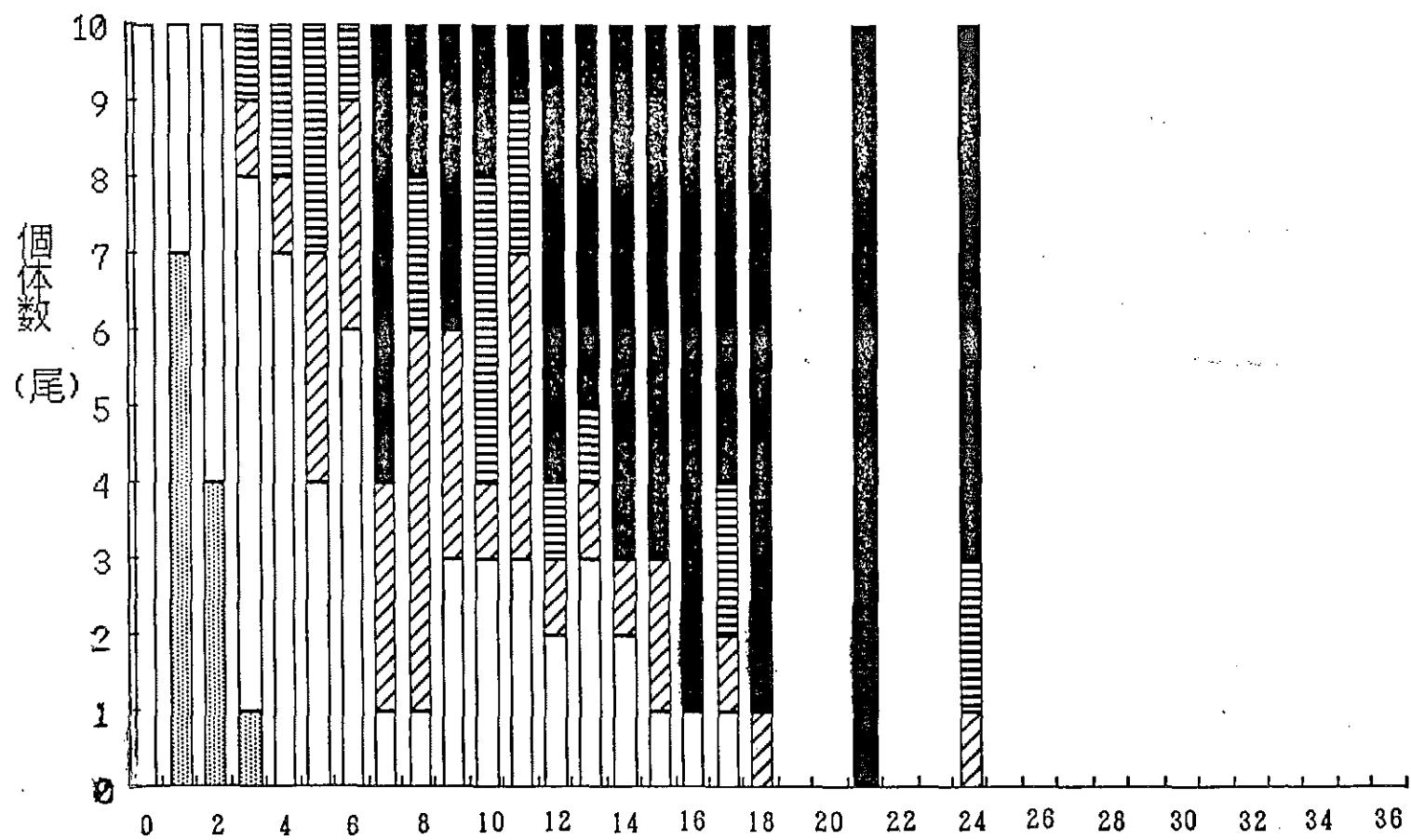


図2 トラフグ種苗生産2回次の配合飼料餌付き状況
胃内容物中の配合飼料の割合

- : 生物飼料の間に配合飼料を確認できない
- ▨: 生物飼料の間に配合飼料片を確認
- ▨: 生物飼料の間に配合飼料の塊を確認
- : 配合飼料が充満
- ▨: 配合飼料給餌以前に花粉等を確認

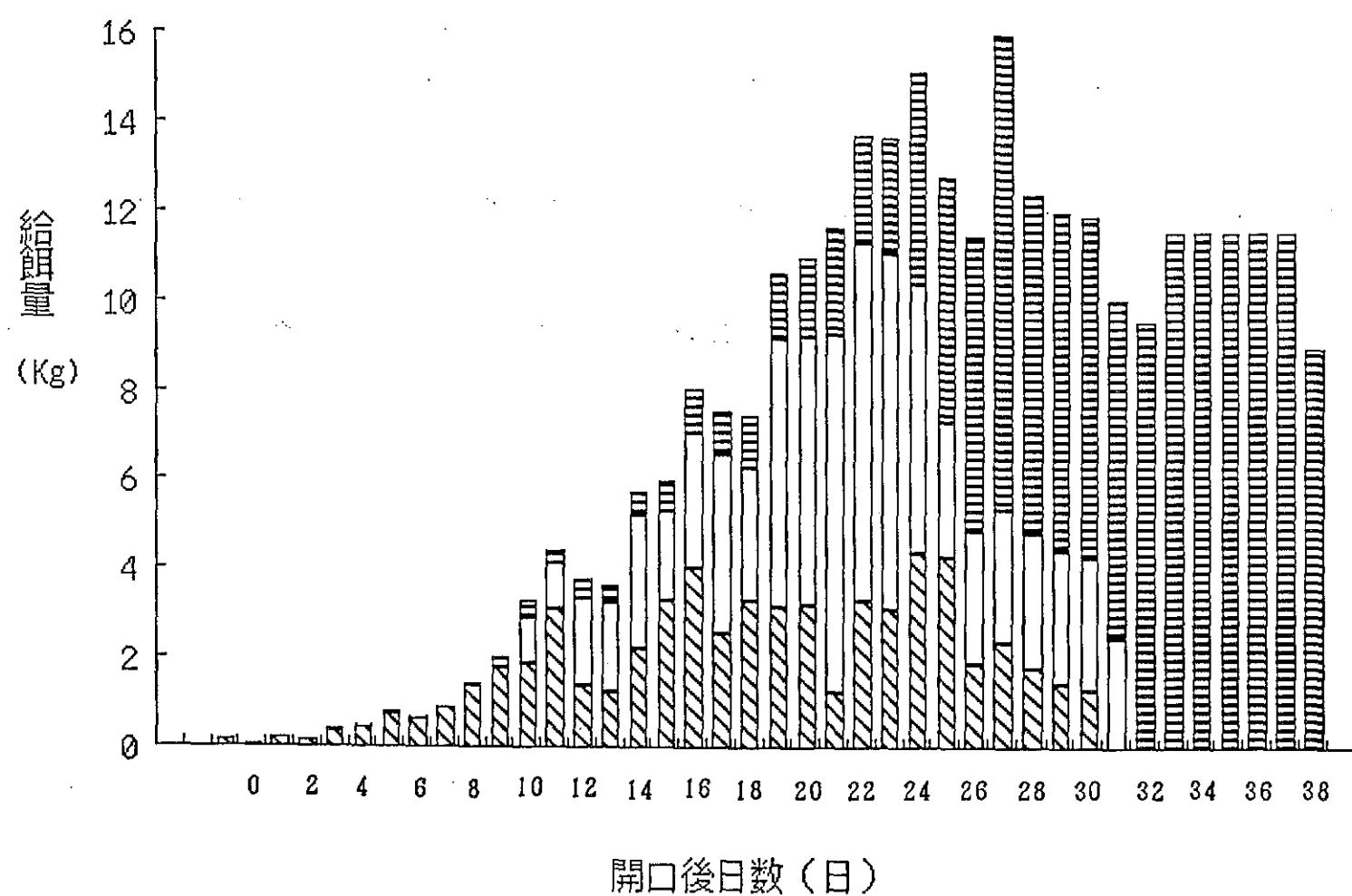


図3 トラフグ種苗生産1回次の餌料種類別給餌量の推移

■：配合飼料

□：冷凍ミジンコ

▨：ワムシ, アルテミア, ディアファノゾーマ, ダフニアの生物飼料

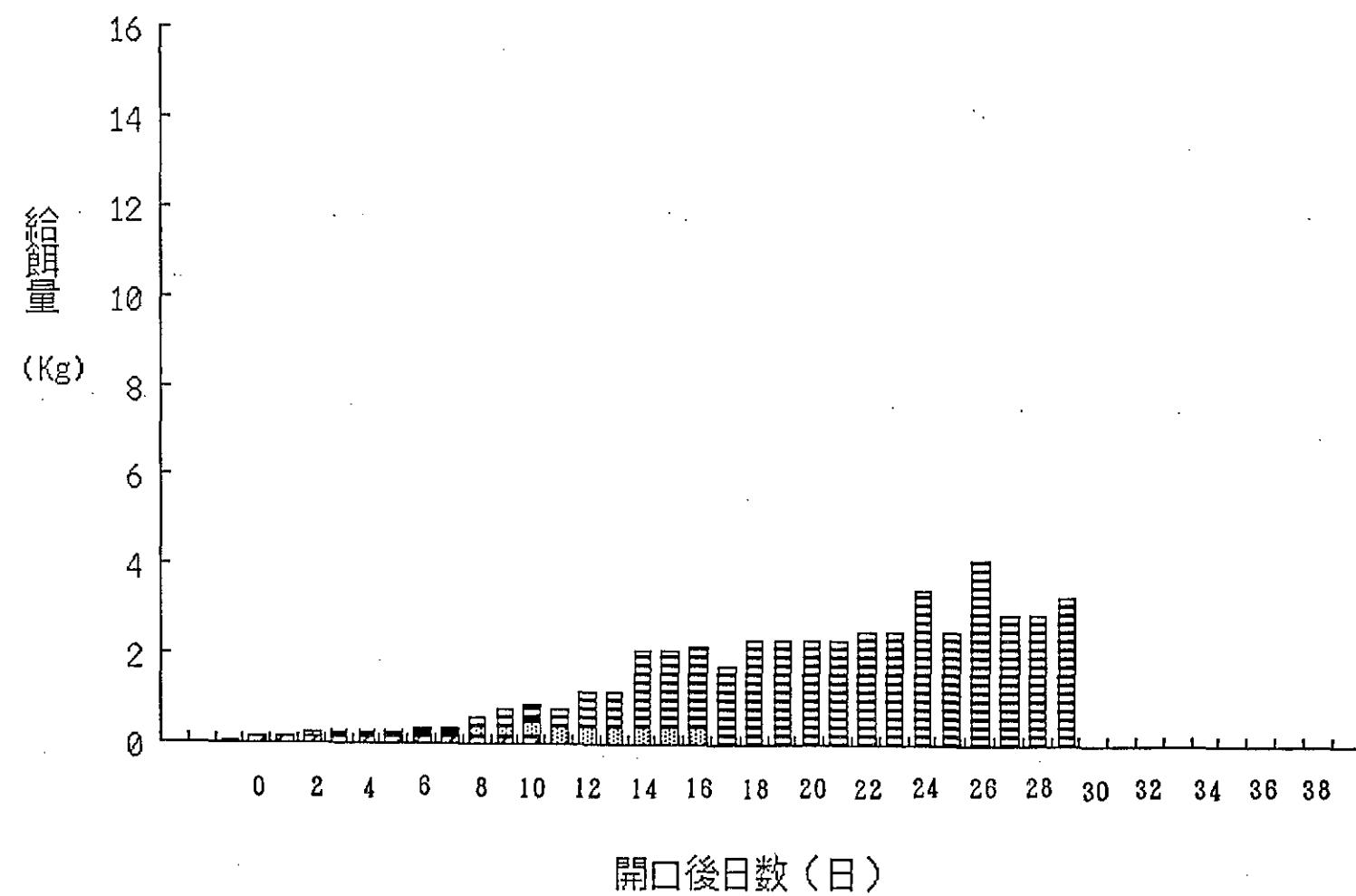


図4 トラフグ種苗生産2回次の餌料種類別給餌量の推移

■：配合飼料

■：アルテミアノーブリウス

□：ワムシ

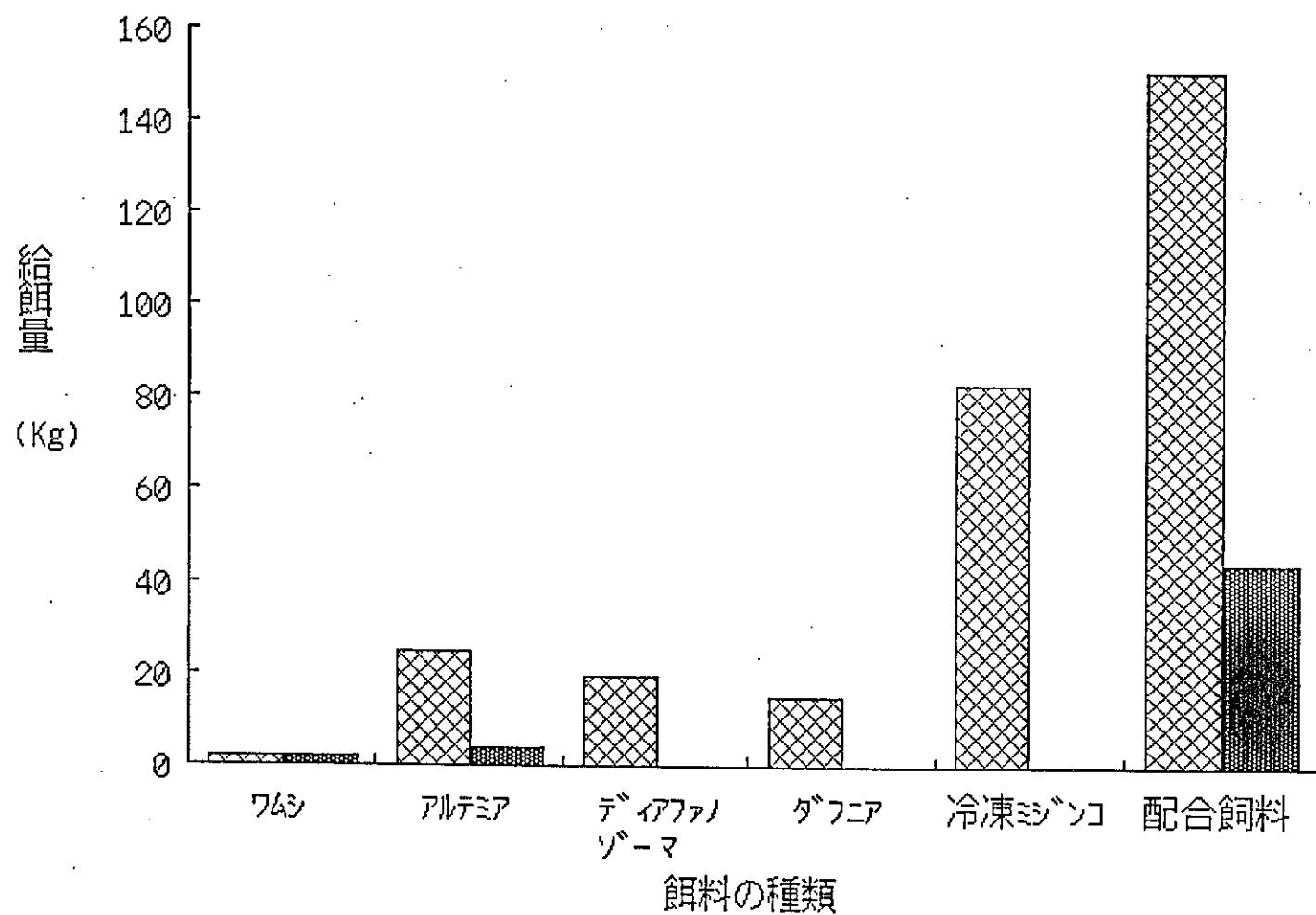


図5 トラフグ種苗生産試験における生産回次別、餌料種類別総給餌量

■ 1回次

■ 2回次

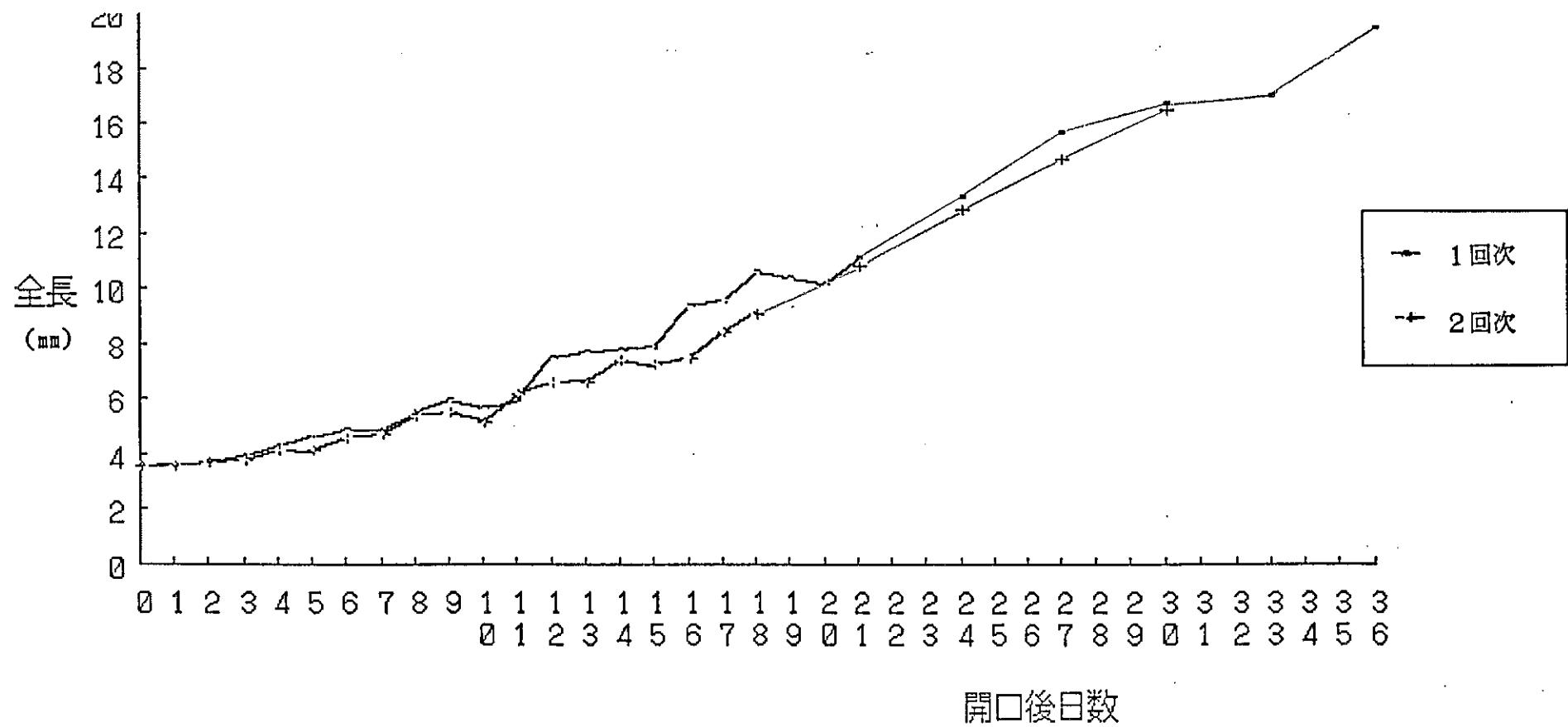


図6 平成2年度トラフグ種苗生産の成長

トラフグS1（A生産区）

採卵 4月6、7日、2.4kg、160.8万粒（鹿児島県東方にて）。ふ化 4月16-17日、収容16日21.4万尾、17日25.7万尾、合計47.1万尾

2000万t²/m³換算 = 4.42

$$z = 24 \text{ v} = 1 \mu\text{F} \quad 74 \text{ v} / (10 + 20) \approx 24 \text{ V}$$

$$T = 2\pi \sqrt{\frac{I}{k}} \quad T = 2\pi \sqrt{\frac{m}{k}} \quad T = 2\pi \sqrt{\frac{I}{k}}$$

$$T(37_p) = 63.48$$

$$g^{\prime \prime} \gamma = 3 = 25 \mu g$$

$$1 \text{ Hartree} = 100 \text{ eV}$$

トラフク S 2 (B 生産区)

採水 4月 24日、2.05kg、137.35万粒(香川県瀬戸内町にて)。ふ化 5月 2-3日、收容 3日 20.3万尾、3日 9.8万尾、合計 30.1万尾。

2000万セル/ml換算 = 1.89

アラフクふ化仔娘牛羅試験

A 生産区

B 生産圖

日付 生産区	500	30	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	21	0	1	1	30
	ふ化後日数																日
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	日
	開口後日数																日
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	日
	水温																平均
	18.5	20.0	20.2	20.4	21.2	22.6	24.8	21.8	20.5	20.1	20.0	19.6	20.0	20.8	19.2		20.6

試験区	水量 ml	収容 尾数	月日															合計	SAI	備考
			5.03	5.04	5.05	5.06	5.07	5.08	5.09	5.10	5.11	5.12	5.13	5.14	5.15	5.16	5.17			
2 日目	500	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	6	10	6	30	70.7	鉄輸送	
1 日目	500	30	0	0	B	0	0	0	0	0	0	0	7	4	10	30	62.2	瀬戸内町		
1 日目	500	31	0	0	B	0	0	0	0	0	0	15	6	8	2	31	54.5			
1 日目	500	30	0	0	D	0	0	0	0	0	0	0	5	7	13	5	30	66.3		
20 日目	500	29	0	0	B	0	0	0	0	0	0	1	5	2	12	9	29	76.1		

		トラフク S.4 (A牛糞区)						トラフク S.3 (A牛糞区)													
		S.1より5月4日分種			S.1より5月13日分種																
タンノ	万t	脱死	排水	水温	pH	塩分	NH3	水量	注水	注水率	脱死	排水	水温	pH	塩分	NH3	水量	注水	注水率	脱死	排水
m ³		尾	目	°C		m ³	m ³ /日	m ³	m ³ /日	%	尾	目	°C		m ³	m ³ /日	m ³	%	尾	目	
0.2	2500																				
0.2	2000	60																			
0.2	2500	60																			
0.1	3000	60																			
0.1	3000	60																			
0.1	3000	800	60																		
0.2	3000	40																			
0.2	3000	900	40																		
0.3	2000	40																			
0.3	2000	600	40																		
0.3	2500	40																			
0.4	2500	1000	40																		
0.4	2500	20																			
0.4	2500	2000	30																		
	2500	30																			
	5200	30																			
	8000	30																			
8000	30	20.0				25	25	100		30											
6000	30	20.2				25	50	200	1500	30											
5500	30	20.0				25	50	200	2000	30											
6000	30	20.2				25	75	300	2500	30											
6500	200	20.0				25	75	300	3500	200											
5500	200	20.0				25	75	300	3000	200											
7000	200	20.2				25	75	300	3500	200											
7900	200	19.6				25	75	300	3500	200											
6500	200	19.0				25	75	300	3000	200											
5500	200	19.0				25	75	300	3500	200											
3900	200	18.7				25	75	300	4800	200	19.0										
7500	200	18.7				25	75	300	4900	200	19.0										
5600	200	18.7				25	75	300	5050	200	18.8										
6500	200	18.0				25	75	300	5200	200	18.5										
8700	200	17.8				25	75	300	4100	200	18.0										
9400	200	17.2				25	75	300	6100	200	17.8										
9500	200	17.0				25	75	300	6600	200	17.3										
8200	200	17.2				25	75	300	9100	200	17.6										
6000	200	17.8				25	75	300	5400	200	17.8										
2520	200	17.7				25	75	300	4800	200	17.9										
3500	200	17.8				25	75	300	5500	200	17.9										
1920	200	17.8				25	75	300	3200	200	17.8										
600	200	18.1				25	75	300	700	200	18.1										
1760	200	17.9				25	75	300	1800	200	17.9										
3.4	161900					95340										38820					

トラフグ種苗の中間育成

昭和61～63年に実施した放流・追跡試験では標識放流魚の累積再捕率は1～4%であったが、平成元年は8～9%と高い再捕率となった。この差は、昭和61～63年の放流種苗に用いた標識が脱落率の高いダート型であったことと尾鰭の健全な種苗が皆無であったことに対して、平成元年の標識が、脱落率の低いアンカーディスク型であり、さらに尾鰭の損傷の少ない種苗であったことに起因すると考えられた。そこで本年度は、平成元年度の再現をめざして配合飼料による育成を行った。さらに配合飼料の給餌方法を検討するため海上小割での中間育成に、自動給餌機を使用して早朝から日没まで給餌する方法と、昨年と同様の手撒きで給餌する方法の比較を行った。

① 放流用及び配布用の種苗の育成

i) 陸上水槽で生産した平均全長16.4mmの種苗13.3万尾を海上の小割網に収容して育成し、64日間で平均全長26.9～93.5mmの種苗11.3万尾を育成することができた（表1）。

沖出した種苗は、配合飼料に餌付いていたので、沖出し以降も昨年と同様配合飼料のみを用いた。

配合飼料の給餌方法は、昨年同様手撒き方式とした。かみ合い防止対策として、常に飽食状態となるように給餌し、さらに、全長60mm

からは配合飼料に水分を含ませてダンゴ状にして給餌した。稚魚の成長に合わせて海上小割の飼育密度の調整を行い、全長15～27mmで380尾/m³、28～45mmで140尾/m³、45～50mmで70尾/m³、50～80mmで50尾/m³、80～100mmで35尾/m³とした。

ii) 沖出し以降3日間の日間斃死率は3.7%であったが、以後日間斃死率は0.2%未満となり、最終的な歩留りは85%となった。中間育成が高歩留りであったのは、かみ傷からのビブリオ病対策としてスルファモノメトキシンを配合飼料に添加して経口投与した効果と考えられる。

iii) 育成中発生した魚病とその対策等は以下の通りであった。育成後25日目の6月21日に、水温22.5°Cで、全長40mmの稚魚の鰓や体表がびらんした状態となり、患部には滑走細菌が確認されたので、塩酸オキシテラサイクリンを配合飼料に添加し経口投与した結果、9日間で日間斃死数は0.6%から0.07%に減少した。また育成後34日目の6月30日に、水温22.0°Cで、全長55mmの稚魚の体表に多数のタカノハジラミが付着して摂餌不良の症状を示したが、6月29日から7月3日にかけての雨による海面表層の淡水化により本虫体が徐々に体表から脱落し回復した。さらに、本年は例年になく雨が少なかったが、7月3日の降雨後7月12日にヘテロシグマによる赤潮が発生した。この時期は小潮に当っていて水質の悪化した海水が滞留したた

め、摂餌不良の症状が認められると共に日間斃死数約1.2%の日が2日続いた。

② 給餌方法の試験

i) 材料及び方法 全長100mm（中間育成63日、日令100日）から自動給餌機を使用して夜明けから日没まで14回／日給餌し25日間で終了、尾鰭欠損率は開始時46.7%終了時53.5%となり6.8%の増加となった。手撒きの場合午前7時から午後6時まで5回／日給餌し尾鰭欠損率は開始時51.1%終了時56.6%となり5.5%の増加となった。自動給餌機使用区の試験終了時の全長は、開始時の123%，体重は186%であり、同様に手撒き区は127%，198%であって、成長は手撒き区の方が良かった（表2）。

③ しかし、試験期間の終了5日前に放流作業のための標識作業を行ったが、その後放流までの日間斃死率は自動給餌機使用区は0%であったが、手撒き区は斃死が増加し続け日間斃死率2%となった。すなわち、手撒き区の方が自動給餌区より成長は良いにもかかわらず弱い種苗であったということであり、原因については次年度の検討課題としたい。

④ 本年度は全長100mmから自動給餌機を使用したが、沖出した時から100mmまで同様の方法で再試験する必要がある。

表1 海上生簀におけるトラフグ稚苗の育成結果の概要

生産区分	生 簠			収 容			飼 育			取 り 揚 げ					備考
	型	大きさ (実容量 m ³)	個数	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m ²)	全長 (範囲 mm)	水温 (°C)	主な餌の種類	飼育日数	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m ²)	全長 (mm)	生残率 (%)
1 角 3.8×3.8×2.0 (28.9)	7	5.28	20000	231	21.3 (15.4-25.7)	21.4 (19.0-24.0)	配合飼料	19	6.15	8100	93	36.0 (29.6-43.1)	和歌山県配付		
								32	6.28	5000	58	51.3 (41.1-60.5)	徳島県配付		
								40	7.6	3809	44	55.7 (40.8-71.0)	南西水研配付		
小計			20000							16909				84.5	
2-1 角 3.8×3.8×2.0 (28.9)	5	6.1	63000	436	14.7 (11.6-18.1)	23.3 (19.0-27.5)	配合飼料	15	6.15	22700	157	26.9 (22.2-32.9)	徳島県、和歌山県配付		
								28	6.28	9500	110	44.8 (36.1-55.4)	和歌山県配付		
								36	7.6	1391	48	55.7 (40.8-71.0)	南西水研配付		
								34-60	7.4-7.30	8400				無標識放流	
								62	8.1	13273	38	93.5 (82.7-104.3)	屋島事業場	標識放流	
2-2 角 3.8×3.8×2.0 (28.9)	5	6.4	50000	346	16.7 (11.2-22.1)	20.7 (20.0-21.2)	配合飼料	15	6.15	33000	228	26.9 (22.2-32.9)	徳島県配付		
										8251				無標識放流	
小計			113000							96515				85.4	
合計			133000							113424				85.2	

トラフグ育成中の給餌量等

飼料の種類	給餌期間	給餌量(kg)
O社トラフグ用配合飼料 №3	5.28~6.13	25.0
同 №4	5.28~6.13	46.5
N社トラフグ用配合飼料 №3	6.13~7.12	131.8
同 №4	6.25~8.28	361.8
同 №5	7.19~8.30	543.8
ダイメトン(抗菌・抗原虫剤)	5.28~8.30	3.2
テラマイシン(抗生素質)	6.21~8.27	2.8
ウルソ(強肝剤)	5.28~8.30	3.9
アスパ(栄養剤)	5.30~7.20	6.1
アクアプラス(栄養剤)	7.2~8.30	3.2
スタンガード(戻着剤)	7.17~8.30	3.1

表2 トラフグ中間育成後の尾鰭欠損率の推定結果

区分	配布			自動給餌		手撒き		
	a	b	c	開始	終了	開始	終了	
測定日	6.15	6.28	7.05	8.02	8.27	8.02	8.27	
収容密度(/m³)	55.6	33.6	33.0	35.1	35.0	35.3	35.1	
日令	60	73	80	100	125	100	125	
中間育成日数	19	32	39	63	88	63	88	
全長 (mm)	平均	36	51.3	55.7	93.1	115.1	93.5	119.1
	最大	43	60.5	71	104.3	136.1	107.6	137.9
	最小	29.6	41.1	40.8	82.4	92.8	78.9	96.4
体長 (mm)	平均	29.1	42.7	46.9	83.2	104.4	84.3	108.7
	最大	34.7	51.4	62	91.4	124.1	96.4	121.4
	最小	23.7	34.9	33.3	72.7	87.3	70	88.9
体重 (g)	平均	0.5	2.29	3.4	23.5	43.8	25	46.7
	最大	2.79	1.33	5.3	32.3	70.6	35.2	64.1
	最小	0.63	4.05	1.8	16.4	22.7	16	28.9
尾鰭の長さ (mm)	平均	6.9	8.6	8.8	9.9	10.7	9.2	10.4
	最大	8.3	9.1	9.0	12.9	12.0	11.2	16.5
	最小	5.9	6.2	7.5	9.7	5.5	8.9	7.5
*天然魚の全長 推定(mm)	平均	36.3	52.8	57.9	101.8	127.4	103.1	132.6
	最大	43.1	63.3	76.1	111.7	151.3	117.8	148.0
	最小	29.8	43.3	41.4	89.1	106.7	85.8	108.7
天然魚の 尾鰭の長さ 推定(mm)	平均	7.2	10.1	11.0	18.6	23.0	18.8	23.9
	最大	8.4	11.9	14.1	20.3	27.2	21.4	26.6
	最小	6.1	8.4	8.1	16.4	19.4	15.8	19.8
尾鰭欠損率 (%)	平均	4.4	14.7	19.7	46.7	53.5	51.1	56.6
	最大	1.2	23.6	36.3	36.5	55.8	47.6	38.0
	最小	3.1	26.5	7.4	40.8	71.7	43.7	62.1

* 完全な尾鰭長は、天然魚 TL(mm) = 1.11 + 1.21 SL(mm) (昭和60年度放流技術開発事業報告書から推定)

* 自動給餌区の欠損率の増減(終了時/開始時)(平均10%増、最大50%増、最小80%増)

* 手撒き区の欠損率の増減(終了時/開始時)(平均10%増、最大20%減、最小40%増)

マダコの飼育試験

親ダコ養成試験用の稚ダコの確保を目的として、養成アルテミアによる仔ダコの飼育試験を行った。また、昨年度に引き続き仔ダコの摂餌量を調べる試験も合せて実施した。

1) 飼育試験

①飼育水槽には30m³水槽を用い、飼育水量を25m³として3回の飼育試験を行った。1回の収容尾数は、10万尾を目指して2~3日間に渡って収容した。餌料としては、1.5~7mmの養成アルテミアを用い、仔ダコのサイズに従って大きなものを給餌した。飼育初期の餌料密度は、1個体/m³としたが、仔ダコの成長に従い適宜その密度を減じた。飼育水には、昨年度と同様、養成アルテミアの栄養補給および水質環境の維持のために、飼育水にはナンノクロロプロピシスを100万セル/mlになるように添加した。

②全ての飼育例で、飼育10日目までの間に大きな減耗が起り、その時点での生残率が24~37%となった。この要因としては、養成アルテミアの流出による餌料密度の減少を避けるために飼育水の換水率を2回転以下/日と抑えたこと、ナンノクロロプロピシスの添加で培養水に残留していたNH₃が混入したために飼育水のNH₃が0.2~0.5ppmと高くなつたこと、平均飼育水温が26°C以上とな

ったことが考えられる。

③1回次では27日目の取り揚げまで養成アルテミアのみで飼育した結果、20日目以降大型個体の斃死が目立つた。これは養成アルテミアのみによる栄養の偏りによるものと考えられたので、2, 3回次では20日目以降にはビタミン剤を裹着した冷凍アミの細片などを給餌して栄養のバランスを保つとともに、徐々に死餌に切り替えた。その結果、当場としては初めて30m³の中型水槽で500~2500尾/槽の稚ダコが生産できた。

④取り揚げ後、引き続き白色と水色の小割網および30m³水槽に収容し、シェルターとしてφ13mmの塩ビ管の束、ノリ採苗用のカキ殻の連、円筒形の黒色塩ビ製ネットを投入して飼育した。小割網に収容した稚ダコは、小割網の底に沈着したまま全く遊泳も摂餌もせず斃死した。小割網の中が明かる過ぎたことが稚ダコに大きなストレスとなったものと考えられる。

⑤水槽飼育では、φ13mmの塩ビ管の束とノリ採苗用のカキ殻の連に稚ダコが住み着いているのが確認された。従って、適当なシェルターを開発することにより、沈着ダコを、簡便に、傷つけずに取り揚げることが可能になると考えられる。

2) 仔ダコの摂餌量試験

本年度は仔ダコの成長にともなう餌料の適正サイズと摂餌量の把握を目的に試験を行った。

①試験は以下の方法により行った。飼育水槽から毎日5尾の仔ダコを抽出し、1尾ずつ500mlビーカーに収容し、餌料として飼育水槽中の養成アルテミアを30尾ずつ給餌した。仔ダコは予想以上に敏感で、収容容器やその設置場所によっては容器底に沈着して全く動かない例等が多かったので、種々試験した中で最も仔ダコが安定していた飼育水中にウォーターパス方式としてビーカーを水面に浮かべる方法を用いた。試験の飼育水には、濾過海水を用い、ナンノクロロプシスは添加しなかった。試験は午前10時に開始し、午後5時に終了し、各ビーカーの養成アルテミアの個体数とふ化ダコの吸盤数を測定した。

②その結果を図1、2に示した。仔ダコを500mlビーカーに収容すると、それまで活発に遊泳していたものがビーカーの底に沈着して動かなくなる等、ふ化ダコ以上に仔ダコが神経質なことが目立った。また、給餌した養成アルテミアのサイズが不揃いであったために、図1に示すように明確な摂餌量の変化は認められなかつた。しかし、図2の養成アルテミアの平均全長と仔ダコの成長の関係から、仔ダコの成長に伴い摂餌行動が俊敏になることを考慮

すると、吸盤数7~8個までは2~3mmサイズの養成アルテミアを仔ダコ1尾当り約10個体、吸盤数10個以上では3~4mmサイズの養成アルテミアを同量与えればよいと推定した。

(尾野 久, 勝山明里, 町田雅春)



III-3 種苗生産技術の開発

マダコの飼育試験結果の概要（屋島事業場）

生産区分	水槽		収容			飼育			取り揚げ				備 考		
	型	大きさ (実容量)	個数	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m ³)	水温 (℃)	主な餌の種類	飼育日数	月日	尾数 (尾)	密度 (尾/m ³)	吸盤数 (個)	生残率 (%)	
1	角	30(25)	1	7.17,18	109500	4380	24.0~27.9	養成アルミア	28	8.14	893	35.7	11~16	0.8	
2	角	30(25)	1	7.30,31	117600	4704	26.5~27.9	養成アルミア	28	8.27	2535	101.4	13~22	2.2	20日目以降冷凍アミ細片等も給餌
3	角	30(25)	1	8.5~7	156200	6248	26.8~27.8	養成アルミア	29	9.3	510	20.4	13~15	0.3	"
合計			3		383300					3938		11~22		1.0	

平成2年度 マダコ飼育試験(3R-82)

S-2		月日	飼育収容尾数	生残尾数	死尾数	吸盤数	環境測定値			養成アルテミア			アミカンクロロフシス 細肉片添加量 g	濃縮 パラライトナン ml	換水量 R/DAY	飼育 水量 m³				
日数							平均	最小	最大	水温 °C	pH	塩分	NH3	給餌量 万尾	サイズ mm	平均	最小	最大		
08.05	-2	54100				Iラ-	Iラ-	Iラ-	27.8	8.12	31.71	0.0279 *	2500	1.48	1.08	1.92	2	0.96	25	
08.06	-1	42700				Iラ-	Iラ-	Iラ-	27.8	8.09	31.85	0.179 *					1	0.6	0.96	25
08.07	0	59400	102600	1120	3	3	3	27.4	8.13	31.85	0.235 *	1600	1.87	1.14	2.64	0.5	0.6	1.44	25	
08.08	1			800	3.22	3	4	27.2	8.07	31.88	1.294 *	780	2.05	1.08	3.25	1	0.6	1.44	25	
08.09	2		109200	3900	3.61	3	4	27	8.01	31.94	0.394 *	550	2.44	1.52	3.61	1	0.6	1.44	25	
08.10	3		122200	7750	3.5	3	4	27	8.03	31.92	0.241 *	400	2.74	1.44	4.65	1.5	0.6	1.728	25	
08.11	4		124800	5400	3.92	3	5	27.3	8.02	31.96	0.202 *	380	2.92	1.58	4.28	1.5	1.1	1.92	25	
08.12	5		114400	4800	4	3	5	27.2	8.04	31.96	0.19 *	250	3.29	2.10	4.78	1.5	0.8	2.4	25	
08.13	6		100620	5000	4.35	4	5	27	7.98	31.73	0.382 *	600	1.74	1.17	2.72	1.3	0.8	3.36	25	
08.14	7			6300	4.75	4	6	27	8.02	31.79	0.452 *	480	1.91	1.3	2.89	1.3	0.6	3.36	25	
08.15	8		49400	5760	4.92	4	6	27.4	8.00	31.81	0.286 *	500	2.06	1.42	3.24	1.2	0.6	3.648	25	
08.16	9		43350	5720	5.41	4	7	27.3	7.98	31.77	0.132 *	350	2.63	1.55	4.31	1	0.6	3.648	25	
08.17	10		34450	2520	6.4	5	8	27.4	8.01	31.77	0.12 *	420	1.84	1.20	2.74	1	0.6	3.441	26.5	
08.18	11		15600	2900	6.4	5	8	27.1	8.02	31.47	0.0947 *	450	2.07	1.42	2.76	1.2	0.6	3.323	26	
08.19	12		13000	1960	7.14	5	9	27.2	8.00	31.49	0.184 *	350	2.49	1.59	4.22	1.2	0.6			
08.20	13		10720	900	7.66	7	9	27.2	8.00	31.55	0.106 *	270	3.20	1.85	5.25	1.1	0.6			
08.21	14		10800	300	7.42	5	10	27.2	8.03	31.49	0.114 *	150				1.1	0.6			
08.22	15		8100	250	8.16	5	10	27.1	8.01	31.42	0.0827 *	80				1.1	0.6			
08.23	16		4050	250	10.6	9	12	26.9	7.97	31.55	0.0631 *	150	2.79	1.68	3.85	1.1	0.6			
08.24	17		5400	210	10.6	10	12	26.8	7.97	31.42	0.0073 *	150	3.2	2.29	4.23	1.2	0.6			
08.25	18		4050	200	12.5	10	15	26.9	7.97	31.55	0 *	130	3.38	2.11	4.79	1.4	0.6			
08.26	19		3550	150	12	10	14	27	7.99	31.64	0.00565 *	130	3.64	2.27	5.56	1.3	0.7			
08.27	20			Iラ-	Iラ-	Iラ-	27.3	7.99	31.62	0.0133 *	120	4.1	2.21	9.68	1.3	0.7				
08.28	21			12.4	11	14		7.98	31.73	0 *	130	4.78	2.65	12.88						
08.29	22			Iラ-	Iラ-	Iラ-				*	60									
08.30	23			Iラ-	Iラ-	Iラ-		7.93	31.57	0.201 *	25	5.62	3.7	8.17						
08.31	24			12.8	11	14		7.94	31.68	0.0519 *	15	5.98	3.36	8.91						
09.01	25			Iラ-	Iラ-	Iラ-		7.87	31.64	0.0721 *	10	6.25	4.58	8.18						
09.02	26			Iラ-	Iラ-	Iラ-		7.96	31.83	0.0132 *	10									
09.03	27	取り揚げ	510			14.2	13	15			*	5								
合計		156200	0.3	Iラ-	Iラ-	Iラ-				11045				27.8	14.3	0	2.36			
平均				Iラ-	Iラ-	Iラ-	27.2	8.00	31.70	0.2							3.65			
最高				Iラ-	Iラ-	Iラ-	27.8	8.13	31.96	1.294		6.25						0.96		
最低				17.6	14	21	26.8	7.87	31.42	0		1.48								

平成2年度 マダコ飼育試験(2R-S4)

月日	飼育日数	収容尾数	生残尾数	死尾数	環境測定値				養成アルテミア			ナノクリオフリス		濃縮	換水量	飼育水温	
					水温 ℃	pH	塩分	NH3	給餌量 万尾	サイズ mm	平均	最小	最大	添加量 m³	パンライト m³	ナン	R/DAY
07.30	-1	67300			26.6				1200	2.79	1.88	4.52	2		0.96	25	
07.31	0	60300			26.6	7.96	31.68	0.359	650	3.44	1.92	5.36	1.2		1.344	25	
08.01	1	142800	280	26.6	8.00	31.68	0.522	660	1.58	1.17	2.06		1.5		1.728	25	
08.02	2	138000	1000	27	8.01	31.73	0.494								1.728	25	
08.03	3	117000	5600	27.1	8.07	31.73	0.318	360	2.16	1.15	3.26	1.6			1.92	25	
08.04	4	80600	5200	27.1	8.11	31.88	0.2	1080	2.73	1.48	3.78	3.2			1.92	25	
08.05	5	10750	4800	27.9	8.03	31.79	0.211	400	3.24	1.67	5.36	3.2			2.112	25	
08.06	6	95000	5000	27.5	8.06	31.79	0.219	430	2.04	1.32	3.10	1.5	0.7		2.112	25	
08.07	7	69000	3750	27.4	8.18	31.85	0.288	400	2.29	1.35	3.592	1.5	0.7		2.304	25	
08.08	8		4250	27.2	8.09	31.85	0.198	450	2.81	0.91	5.36	1.2	0.7		2.4	25	
08.09	9	63550	2100	27	8.04	32.00	0.246	310	3.71	1.96	5.83	2	0.7		2.4	25	
08.10	10	43350	4250	27	8.03	31.96	0.176	90	2.74	1.44	4.66	2	0.7		2.592	25	
08.11	11	61200	3000	27.3	8.07	32.05	0.161	190	3.22	1.76	4.837	1.5	1.2		2.592	25	
08.12	12	46800	3120	27.2	8.04	31.94	0.126	100	3.85	2.362	5.496	1.5	0.8		2.592	25	
08.13	13	36400	3410	27	7.99	31.75	0.351	220	2.19	1.453	3.29	1.3	0.8		3.36	25	
08.14	14		2240	27	7.99	31.79	0.429	230	2.54	1.648	3.736	1.4	0.7		3.456	25	
08.15	15	35280	3640	27.4	8.02	31.81	0.282	220	2.06	1.42	3.24	1.2	0.7		3.648	25	
08.16	16	30600	2100	27.3	7.98	31.77	0.142	170	2.63	1.55	4.31	1	0.7		3.648	25	
08.17	17	32400	2040	27.4	8.00	31.77	0.127	25				1	0.7		3.377	27	
08.18	18	18900	1550	27.2	8.02	31.49	0.193	25				1.2	0.6		3.555	27	
08.19	19	23800	1520	27.1	7.99	31.53	0.178	160	2.49	1.59	4.22	1.2	0.6				
08.20	20	13500	1240	27.2	8.03	31.47	0.133	25				1.3	0.6				
08.21	21	15720	1000	27.2	8.04	31.53	0.121	85				1.2	0.6				
08.22	22	13500	810	27.1	8.03	31.40	0.101	52				1.2	0.6				
08.23	23		8100	360	26.9	7.96	31.57	0.0689	50			1.3	0.6				
08.24	24	10800	288	26.8	7.96	31.49	0.0178					1.2	0.6				
08.25	25		8160		26.9	7.96	31.53	0				1.6	0.6				
08.26	26	5440	410	27	7.96	31.57	0.0167					1.5	0.7				
08.27	27	取り揚げ	2535	27.3	7.95	31.53	0.0446										
08.28																	
08.29																	
08.30																	
08.31																	
09.01																	
09.02																	
09.03																	
合計					27.1	8.02	31.71	0.2	786.2				7562	48.51	27.87		
平均										2.7					2.5		
最高					27.9	8.11	32.05	0.522		3.854					3.648		
最低					26.5	7.95	31.40	0		1.58					0.96		

43, 14.6, 0

平成2年度 マダコ飼育試験

L M V

S-3

月日	飼育収容尾数	生残尾数	死尾数	環境測定値				養成アルテミア				添加量		換水量	飼育水量			
				水温 ℃	pH	塩分	NH3	給餌量 万尾	サイズmm 平均	最小	最大	m³	m³	ml	R/DAY			
07.17	-1	42000		24.0				2500	1.36	0.97	1.58	1		0.3	26			
07.18	0	67500		26.0	8.11	31.19	0.108	1440	2.19	1.10	3.93			0.3	26			
07.19	1	93600		26.2	7.99	31.17	0.372	680	2.74	1.57	4.28	1		0.8	26			
07.20	2	110250	600	26.0	7.98	31.19	0.303	660	2.32	1.525	2.99	2		1.8	26			
07.21	3	97500		26.6	8	31.23	0.305	1050	2.24	1.46	3.04	2		3.0	26			
07.22	4	110250	1100	26.5	7.99	31.27	0.281	1080	3.44	2.26	5.18	2.5		2.2	26			
07.23	5	91020		26.0	7.98	31.36	0.278	900	3.95	2.65	6.26	2		1.7	24.6			
07.24	6	79200		2200	26.1	7.89	31.36	0.355	200	3.55	2.03	5.92	1	900	2.4	24		
07.25	7	112500		2160	26.0			240				1	600	2.3	25			
07.26	8	57200		5400	25.9	7.92	31.47	0.338	530	1.68	1.28	2.79	1	0.5	2.3	25		
07.27	9	49400		8400	26.2	7.95	31.53	0.305	400				1	0.5	3.9	25		
07.28	10	28600		10200	26.3	8	31.53	0.291	260	3.77	1.89	6.94	1	0.5	2.3	25		
07.29	11	40480		12300	26.8	7.98	31.62	0.219	250	4.29	2.39	6.79	1	0.5	2.3	25.3		
07.30	12	20400		7200	26.5	7.97	31.55	0.311	410	2.79	1.80	4.52	1	0.5	2.4	25		
07.31	13	10880		3190	26.5	8.02	31.6	0.299	100	3.44	1.92	5.36	1	0.5	2.6	25.2		
08.01	14	13000		1750	26.4	8.09	31.62	0.233	200	1.58	1.17	2.86	1	0.8	2.6	25		
08.02	15	13000		2000	27.0	8.05	31.7	0.147					1	0.6	2.6	25		
08.03	16	7800		1120	27.1	8.14	31.68	0.0933	450	2.16	1.15	3.26	1	0.8	2.7	25		
08.04	17	5200		480	27.1	8.14	31.77	0.0934	1150	2.73	1.40	3.78	3.2		2.7	25		
08.05	18			900	27.9	8.05	31.78	0.149	510	3.72	2.268	5.993	3.2		2.7	25		
08.06	19			2800	27.5	8.01	31.75	0.17					1.5	0.7	2.7	25		
08.07	20			450	27.6	8.1	31.79	0.189	100	2.43	1.42	3.91	1.5	0.7	2.9	25		
08.08	21				27.3	8.1	31.81	0.102	130	4.63	2.14	8.37	1.3	0.7	2.9	25		
08.09	22			150	27.0	8.06	31.9	0.115	110	5.33	2.41	7.98	1.5	0.6	2.9	25		
08.10	23			175	27.1	8.07	31.88	0.104					2		2.9	25		
08.11	24			156	27.3	8.08	31.96	0.0672	50	5.8	3.29	9.58	1.5		2.9	25		
08.12	25				27.2	7.97	31.83	0.158	40	6.11	3.41	8.36			2.9	25		
08.13	26				27.0	7.93	31.7	0.211	30	6.68	4.29	8.99		3.4	25			
08.14	27	取り揚げ	893		27.0	7.95	31.68	0.146	30	6.71	3.97	9.38			25			
08.15					7.93	31.7	0.0777											
08.16		生残率	0.8		7.89	31.68	0.0314											
08.17					7.91	31.68	0.0404											
08.18					7.93	31.51	0.0399											
08.19					7.86	31.53	0.0588											
08.20					7.94	31.55	0.0529											
08.21					7.95	31.49	0.0135											
08.22					7.94	31.34	0.069											
08.23					7.88	31.55	0.0625											
08.24					7.86	31.38	0.026											
08.25					7.87	31.53	0.00846											
08.26					8.01	31.55	0.0134											
08.27					7.99	31.66	B											
08.28					7.98	31.55	0.215											
08.29					7.95	31.64	0.0557											
08.30					7.88	31.62	0.0762											
08.31					7.95	31.81	0.0325											
09.01																		
09.02																		
09.03																		
合計		109500						13500				37.2	7.7	1400				
平均				26.6	8.02	31.59	0.2127		3.568					2.398				
最高				27.9	8.14	31.96	0.372							3.916				
最低				24.0	7.89	31.17	0.0672							0.3				

1200 ml/cm³
2.5 計算

表1 平成2年度 マダコ摂餌試験結果

試験 日数	仔タコの大きさ			給餌したアルテミア			摂餌したアルテミアの数			実験場所の環境測定値		
	吸盤数(個)	全長(mm)	(倍体)	水温 ℃	照度(Lux)	10時	13時	17時				
	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最少	最多			
1	3.0	3.0	3.0	2.1	1.2	4.3	3.0	0.0	7.0	26.9	6800	11000
2	3.6	3.0	4.0	2.5	1.5	4.5	0.8	0.0	3.0	27.3	7500	6500
3	3.8	3.0	4.0	2.6	1.7	4.0	3.2	2.0	4.0	27.9	6500	17000
4	4.2	4.0	5.0	2.5	1.5	3.4	2.8	1.0	5.0	27.8	5800	17000
5	4.6	4.0	5.0	3.5	1.8	6.8	2.4	1.0	5.0	28.9	8100	14000
6	5.2	5.0	6.0	2.4	1.3	3.5	1.6	0.0	3.0	27.8	8500	10000
7	5.2	4.0	6.0	2.3	1.4	4.1	4.6	2.0	8.0	27.5	8700	14000
8	5.8	5.0	7.0	2.7	1.8	4.5	5.4	2.0	10.0	27.2	7200	12500
9	6.2	6.0	7.0	3.5	2.0	5.5	3.0	1.0	5.0	27.5	7200	9800
10	6.8	6.0	8.0	3.7	1.8	8.1	2.8	0.0	3.0	27.0	2400	7500
11	6.8	6.0	7.0	3.5	1.8	6.6	3.0	0.0	5.0	27.8	9200	14000
12	8.0	7.0	9.0	4.0	2.6	7.2	1.2	0.0	2.0	27.6	6800	7400
13	7.8	7.0	9.0	4.1	1.8	9.0	3.2	0.0	8.0	27.3	9200	4000
14	11.0	10.0	12.0	4.9	1.4	8.1	1.6	0.0	4.0	27.5	7100	9500
15	10.6	10.0	12.0	4.7	1.6	8.7	3.0	1.0	5.0	27.8	8100	2100
16	11.0	10.0	12.0	4.8	1.5	9.9	3.2	0.0	8.0	27.8	6700	11000
17	12.0	11.0	14.0	5.0	1.5	10.0	6.4	4.0	8.0	27.8	5200	9800
												30

注：試験期間 8月1日～8月17日。給餌したアルテミアは各区30尾

(個体／尾)

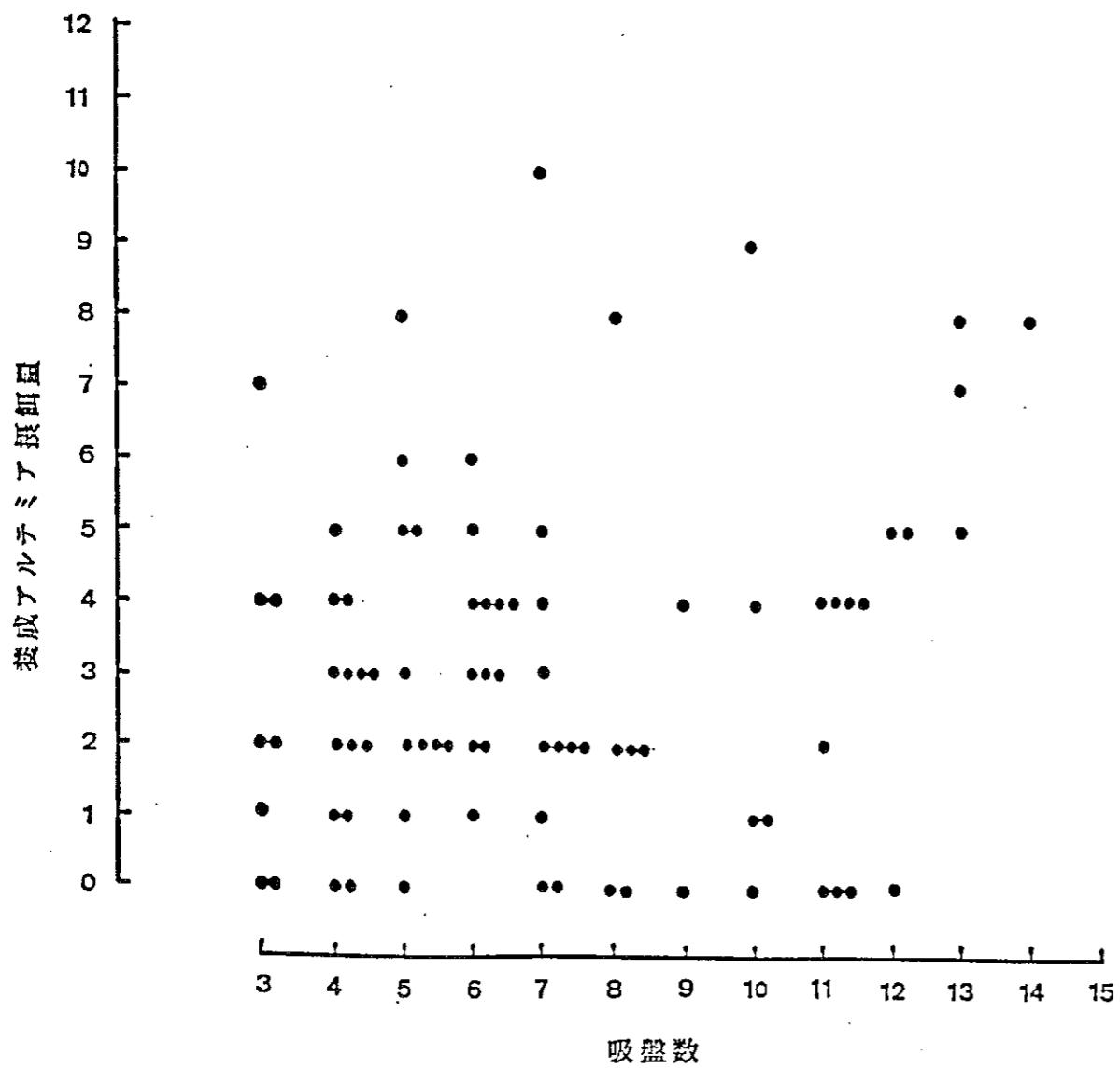


図-2 吸盤数と摂餌量の関係

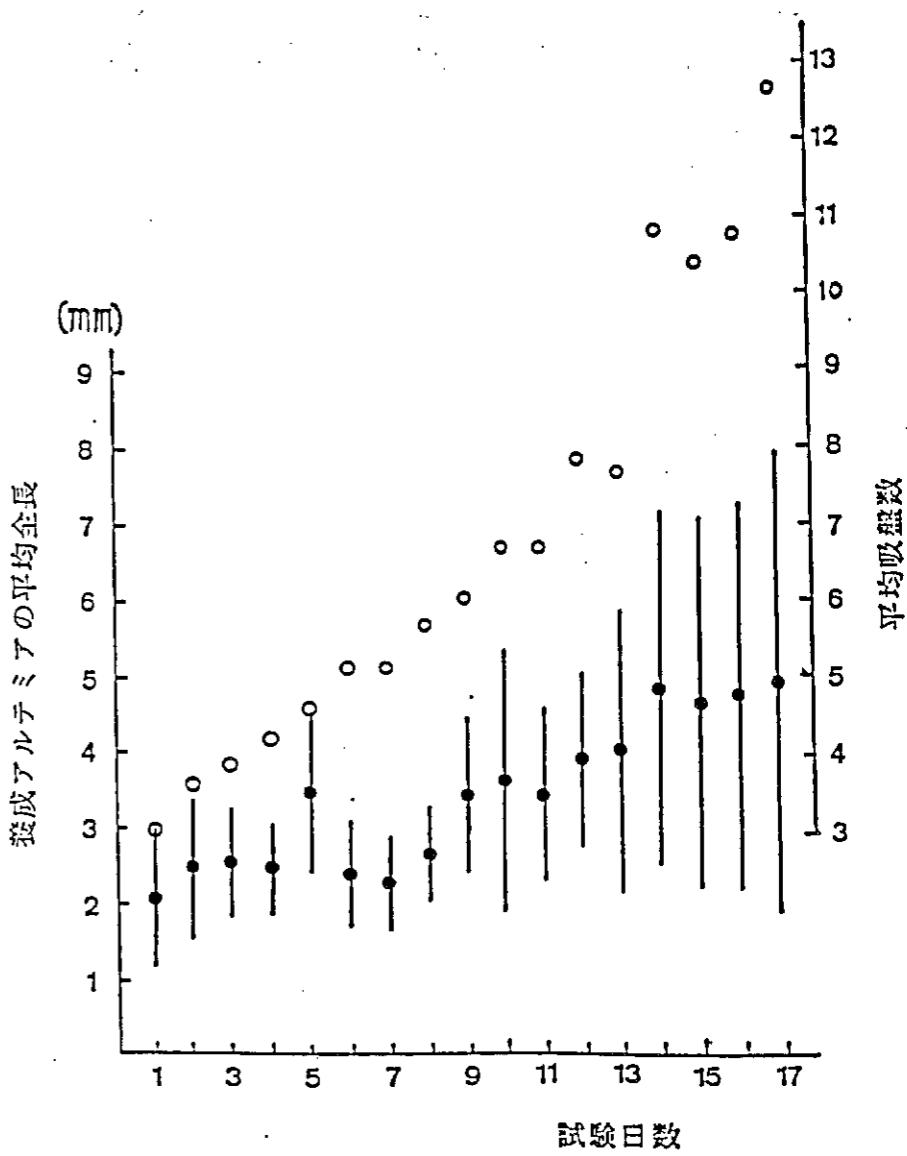
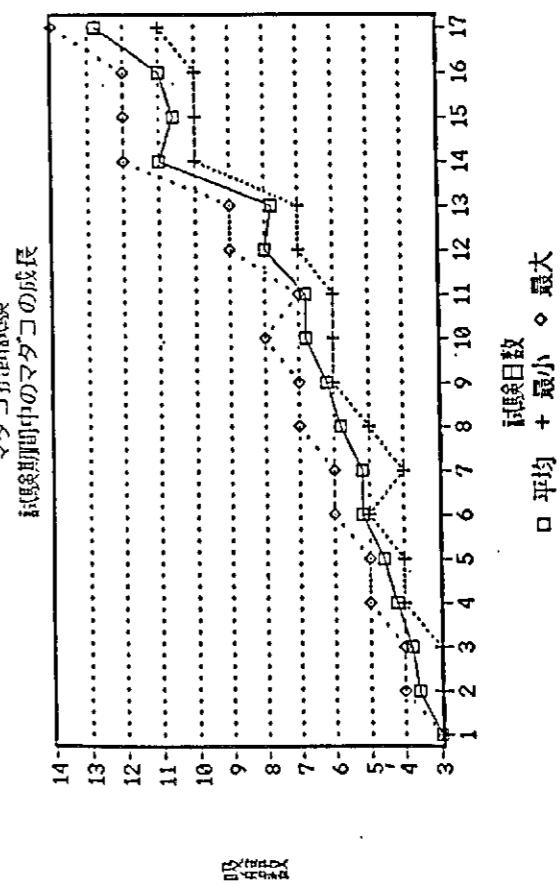
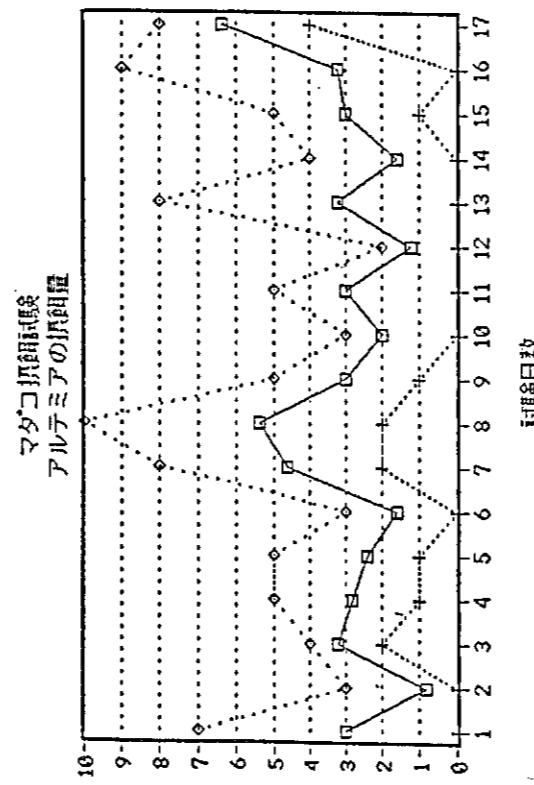
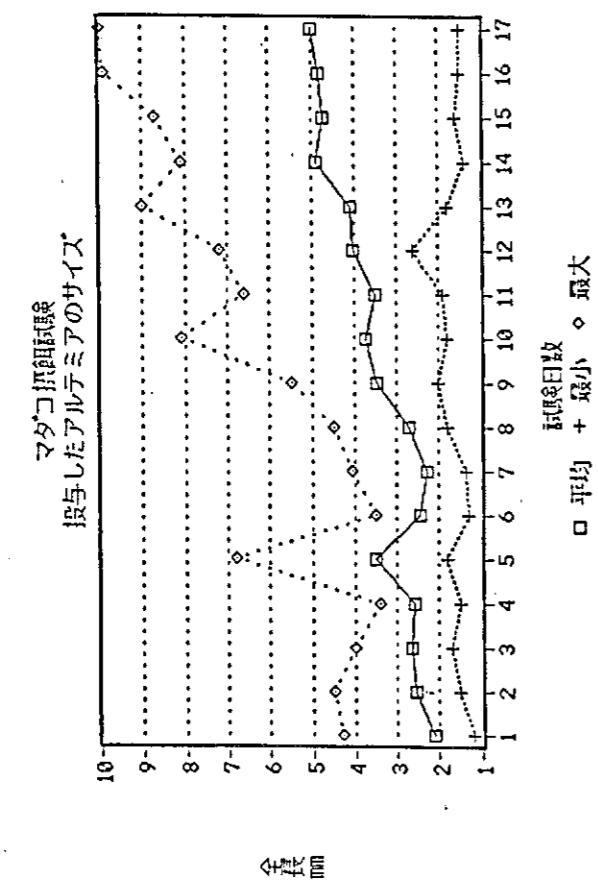
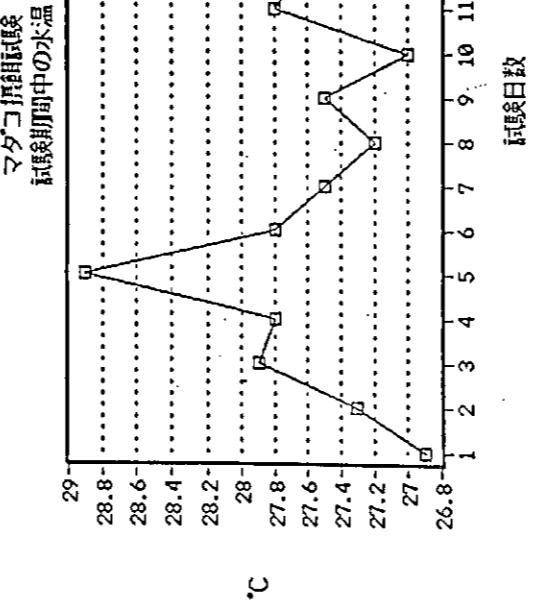
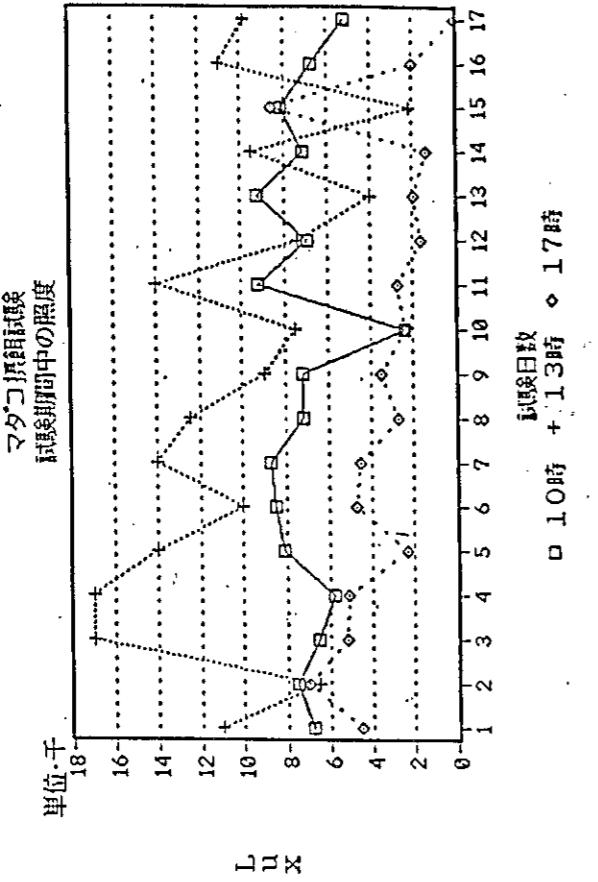


図-3 使用した摂成アルテミアの平均全長とふ化タコの平均吸盤数



平成2年度ブリ種苗放流技術開発

70

1)これまでの経緯

当場は昭和54年から瀬戸内海東部海域を本種のナーサリグラウンドとして、人工種苗の標識放流によりその移動分散、漁業との関わり等について調査してきた。その結果、昭和61年までに当才についてはその概略がほぼ明らかとなつた。しかし、1.5才魚以降については再捕報告が少ないとから不明な部分が多いままであった。この点を明らかにするため、昭和62年からは放流点を紀伊水道域に移して1.5才魚以降の移動分散経路及び外海域への添加過程を把握することを目的として水道中央部での大型種苗による晚期放流を実施した。昭和63年度からは上記放流に加えて、徳島県木岐において越冬養成を行った後に現地での放流も実施した。木岐放流の2年間の結果では、放流群は再捕の殆どが放流点から20km以内という特異な状況が見られた。これは地付き型の資源造成という新しい資源添加の技術の可能性を示すものと考えられた。そこで平成2年度は高知県甲浦で標識放流を実施し、その可能性について検討した。

また、人工種苗と天然魚の移動分散の特性を検討するために、徳島県と共同で鳴門で人工魚と天然魚の同時、同尾数放流を実施した。

さらに、将来の大量種苗放流による放流効果の実証に向けての標識方法、放流点、放流尾数等を検討する目的で、昭和63年から1単位10万尾を目途として小型種苗放流を実施している。

ここでは昭和63年度放流群の追加報告と平成元年、平成2年度の再捕の状況についてその概要を報告する。

2)昭和63年度追加報告(表-2参照)

①63年ヤシマ2群(紀伊水道沼島-徳島市中間地点放流群、従来型の放流)

昨年の報告以降の追加報告は5尾で、そのうち平成2年度の報告は3尾であった。再捕地点はすべて沼島近辺で放流後479~630日目に定置網で再捕された。

②63年ヤシマ3群(紀伊水道中央域放流群)

1.5才魚以上の標識魚の移動分散の情報が少ないとから晚期大型種苗を用いた標識放流を実施し、紀伊水道域での移動分散、外海域への添加過程を把握することを目的としている。昨年の報告以降の追加報告は5尾で、そのうち平成2年度の報告は4尾であった。再捕地点は紀伊水道の和歌山県側が2尾、沼島で1尾

見られた。なお、特筆すべきこととして内海の愛媛県新居浜市大島(移動距離152km)の定置網での放流後533日目の再捕がある。

③63年ヤシマ4群(木岐放流群、越冬魚)

1.5才魚以上の移動分散等の情報を得るために、上記の(水道中央域)放流群より更に大型種苗を放流することとし、徳島県木岐で越冬養成後放流を行った。昨年の報告以降の追加報告は4尾で、全て平成元年度の報告であった。再捕場所はすべて放流点より20km以内であった。

3)平成元年度再捕報告

①元年ヤシマ1群(鰯抜去、屋島湾放流群)

徳島県北灘での有標識率調査で167尾中2尾、鳴門での天然魚の標識放流作業中に3688尾中2尾の計4尾の放流魚が確認された。

②元年ヤシマ2群(鳴門放流群)徳島県との共同放流(図-1、表-3参照)

人工種苗の特性を把握することを目的として徳島県と共同で標識放流を実施した。徳島県では鳴門で漁獲される天然魚の標識放流試験を実施し、当事業場ではこの放流と同時に同尾数の人工種苗を放流した。なお、人工種苗は放流までの1~2週間放流地点で蓄養することになった。

【移動分散】

累積再捕尾数496尾(累積再捕率7.17%)で、放流年内の再捕は458尾(94.4%)あり、そのうち放流点から20km以内の再捕が439尾(93.8%)と集中し、人工種苗の帰留性が強いことが窺われた。内海側における再捕は年内の9~10月に北灘、引田での再捕が多く、淡路島西岸域では翌年6月に1尾小型定置での再捕が見られた。鳴門を下った紀伊水道海域では、淡路島南岸域の南淡町で34尾中14尾が翌年1~3月に小型定置によって再捕された。放流点より20km以遠での総再捕報告数は34尾で、そのうち徳島県側の再捕が20尾と多く、次いで中央域が9尾、和歌山県側は5尾と少なかった。なお、外海域での再捕はなかつた。

【再捕漁具】

小型定置網による再捕が72.8%で、大型定置網による再捕は僅かに0.4%であった。定置網以外では釣が21.4%を占めた。

③元年ヤシマ3群（紀伊水道中央域放流群）（図-2～3、表-4参照）

- ・全長294mm サイズで14000 尾に8cm のダート型標識を装着した。

【移動分散】

放流後年内の再捕は916尾（全体の82.7%）で、放流点の両岸の徳島県蒲生田岬と和歌山県日の御崎での再捕が多く、また、放流点より外海域側での再捕が主体で特に徳島県側では由岐、牟岐での再捕が多く見られた。紀伊水道域の放流点より内海側は再捕尾数も少なく、内海に入っての再捕は鳴門海峡を越えた報告ではなく、紀淡海峡を越えた大阪泉州沖での報告が3尾あるのみであった。外海域への添加では西方は室戸岬突端の椎名で大型定置による再捕があり、東方では潮岬を越えた報告は放流後9日目に三重県海山町で1尾と静岡県浜名湖地先で2尾の報告があった。なお、浜名湖での報告は放流翌年の3月と6月に釣り及び小型定置網で再捕されたものであった。

元年度の移動傾向はほぼ昭和63年度の同海域への放流群と同様であり、内海域への入り込みは少なく、紀伊水道内外域への移動傾向が強いことが窺われた。また、一部大型魚の外海域との関連が窺われたがまだ報告数は少ない。

【再捕漁具】

当海域での再捕漁具は小型定置網（46.5%）、釣り（20.1%）が主体であった。なお、和歌山県日の御崎周辺では地曳網、徳島県木岐では敷網による再捕が多くあった。

④元年ヤシマ4群（木岐放流群、越冬魚）（図-4～5、表-5参照）

放流目的は前年と同様であったが、前年度の再捕結果から地付き型の資源培養手法の可能性を併せて検討した。

【移動分散】

再捕報告は放流後2～3ヶ月の間に集中（全体の91.3%）しており、そのうちの90.0%が放流地点近辺の小型定置網と刺網で再捕された。また、放流点より40km以内の再捕が全体の94.0%を占めており、ほぼ昨年と同様の傾向を示した。外海域での再捕は放流後36日目に高知県須崎市福良で巻網にて1尾再捕された。なお、内海域への入り込みでは、放流後89日目に岡山県呂久町嵐島で小型定置網により1尾再捕された例があった。

昭和63年度および平成元年度の再捕結果から、越冬養成した大型種苗放流群は水温の上昇する夏場までは放流点周辺に滞留する傾向が強く、その後紀伊水道内域への逸散傾向が強い。この長期滞留の要因としては、12月から3月までの4ヶ月間もの長期間放流点で越冬養成を行ったことと、放流点近辺にブリの養殖

場があり飼い付け的な効果を生み出したとの2点が考えられた。

【再捕漁具】

放流点近辺での再捕が多かったことから、再捕漁具も小型定置網、刺網が主体であり、釣りによる再捕は5.6%と僅かであった。

4) 平成2年度再捕報告

①2年ヤシマ1群（鰓抜去 屋島湾放流群）

昨年に引き続き全長11cmサイズで83049尾の左腹鰓を抜去して屋島湾内に放流を行った。平成2年10月上旬から12月中旬まで香川県高松市魚市場から徳島県徳島市魚市場にかけて市場調査を実施し、15尾の腹鰓抜去魚を発見した。有標識率は0.25%であった。なお、11月末の調査で発見された標識魚は全長42.9±2.9cm、体重863±170gに成長しており、天然魚の全長44.6±1.9cm、体重950±159gに匹敵する体型を有していた。なお、漁業者からの再捕報告は3尾だけあり、鰓抜去標識が目立たずに報告漏れもありすることが窺われた。

②2年ヤシマ2-1～2群（鳴門放流群） 徳島県との共同放流

昨年の放流結果より人工魚を放流点で1～2週間蓄養した影響が窺われたので、今年度は事業場より放流点に搬入後1～2週間蓄養した群（2-1群、黄色）と搬入後に直接放流した群（2-2群、白色）に分けてそれぞれの行動特性を調査することとした。なお、徳島県の放流した天然魚は、2-2群と同時期に同尾数放流を行った。

【移動分散】

・2-1群（蓄養後放流群、黄色）（図-6、表-6参照）

昨年同地点で放流した人工魚と放流までの条件（蓄養期間）は同じであったが、再捕の状況は、昨年は放流点より20km以内で93.8%が再捕されたのに対し、今年度は69.6%と分散傾向が強かった。また、昨年の放流点では全体の67.7%が再捕されたのに対して、今年度の放流点での再捕は22.1%に留まった。なお、淡路島西岸域の湊沖から五色町にかけての昨年の再捕率は2.82%であったのに対し、今年は33.8%となり、小型定置網、刺網によって再捕されている。

なお、昨年は内海の水温が高く推移したことでも影響したと思われるが、12月に入ても紀伊水道域へ南下せずに放流点から淡路島西岸海域にかけての再捕が多く見られた。

・2-2群（搬入直後放流群、白色）（図-7、表-7参照）

累積再捕率は2-1群が8.76%に対し、直接放流を行った2-2群は3.38%と

再捕率にかなりの差が見られた。放流点での再捕率は21.1%であり、2-1群で再捕が多く見られた淡路島西岸海域での再捕率は16.8%であった。放流点より20km以内の再捕率は70.8%であり、2-1群と同様な傾向を示した。

【考察】

昨年は放流点近辺に滞留する傾向がかなり強かったが、今年は放流点周囲20km以内の移動ではあるが放流点での再捕は少ない。また、2-1群と2-2群ではその移動傾向は同様であった。この要因としては、今年の放流では2-1群（蓄養後の人工種苗）は天然魚と同時放流を行う必要から9月1日から8日にかけて先に放流を行い、その3日後の9月11日に2-2群を放流したため、先に放流した2-1群が昨年同様に近辺に滞留した群を形成したと仮定すると、新たに放流した2-2群が滞留した群れを誘引して放流点より逸散したことが推察された。

【再捕漁具】

再捕率の高かった鳴門周辺及び淡路島西岸海域では、主な再捕漁具は前者が釣りであり、後者は刺網と小型定置網が主体であった（図-10参照）。2-1群では小型定置網(55.7%) >釣り(25.3%) >刺網(12.1%) の順であり、2-2群では小型定置網(47.8%) >釣り(26.7%) >刺網(14.3%) と両者に差は見られなかつた。

③2年ヤシマ3群（甲浦放流群）（図-8～9、表-8参照）

昨年まで徳島県木岐で放流を行っていたが、今年度から高知県甲浦に放流地点を変更した。この放流群は、昨年までの木岐における放流同様養成現場での放流により、地付き型資源の造成の可能性について検討することを目的とした。

今年度は養成期間を9月下旬から11月初旬までの44日間行い、放流後は放流地点（養成現場）での給餌は行わなかった。

【移動分散】

累積再捕率は48.85%ときわめて高い値を示したが、再捕日数は放流後1週間以内に集中しており、近隣（放流点より5km以内）の小型定置網で漁獲された。甲浦港より室戸側での再捕は全体の86.6%となり、放流魚の大半は岸よりに南下し、松下が鼻を挟む2統の小型定置網に入網したものと推察された。紀伊水道域を北上した群は蒲生田岬周辺と対岸の和歌山県和歌浦湾、由良町大引で僅かに再捕が見られた。なお、外海域での報告はまだ無い。

放流後の聞き取り調査から放流後1週間に定置網の周辺に標識魚が多数遊泳していたことが分かった。また、この時期は小アジ、小イワシが多く入網してお

り、この群れを追って標識魚が多数入網したと推察される。なお、入網した標識魚の胃内容物調査からも消化された小魚（全長5～10cm）が2～3尾程度確認されたことから、天然餌料は比較的豊富な場所と考えられた。

【再捕漁具】

再捕魚の99.4%が小型定置網により再捕された。周辺の定置網の設置状況は甲浦が大型と小型定置が各1統（放流点より約2.5kmに設置、設置時期：9月～翌年5月）ある。野根には大型定置1統、小型定置が5統（放流点より約3.5～13.0kmに周年設置）ある。また、宍喰では小型定置のみ15統（放流点より約2.0～5.0kmに周年設置）あり、今回再捕が多かった定置網は、放流後の南下群が最初に出会う甲浦と野根の小型定置（放流点より約2.5～3.5kmに設置）各1統に集中していた。

5) 平成3年度ブリ種苗放流計画（案）

1) 小型種苗の内海域への集中放流による追跡調査

市場調査による有標識率が低い原因としては放流直後に近辺の小型定置網等による漁獲が考えられ、その実態を把握していく。また、漁業者からの再捕報告が少ない点は、標識が目立たないための見過ごしが大きいと思われる。小型魚に適した永久的且つ装着が容易で目立つ標識の開発が必要であり、今年度は鰓抜去と併せて焼き印標識の試験を実施する。

①小型種苗放流（鰓抜去標識）

- ・放流は7月頃に全長10cmで10万尾程度を行う予定。
- ・放流後の生残率向上のために放流後も給餌する群を設定し、市場での有標識率調査からその効果を判定する。

②市場での有標識率調査からの放流効果の確認

- ・効率的な調査を行うための実施体制作り
- ・庵治漁協、小田漁協に漁獲物調査の記帳を依頼し、放流直後的小型定置による漁獲減耗を把握する。

③再捕率を向上させるための標識方法の改良

- ・焼き印標識の可能性について試験を行う。
- ・試験規模、放流尾数等は未定。

2) 太平洋系群の中～大型魚の生態の把握

人工種苗の持つ行動特性を把握することを目的として平成元年～2年に鳴門で行った放流試験の結果は今年8月までの再捕報告を蓄積し、徳島県と共同でデーター

ターの解析を行なう予定である。

甲浦の試験では木岐から引き続き地先型の資源造成の可能性について検討したが、場所の選択が重要であることが分かった。新たな育成放流適地を現在検討中である。

①地先型の資源造成の可能性についての検討

- ・甲浦では7月中旬から9月上旬まで育成し、放流後も給餌を継続することにより、放流群の滞留状況を把握していく。尾数、給餌方法等は未定（平成2年度との比較）。

・新たな場所の選定

②飼い付け漁業および大敷網の漁獲銘柄別漁獲尾数調査

③紀伊水道域の大型魚の漁獲実態調査

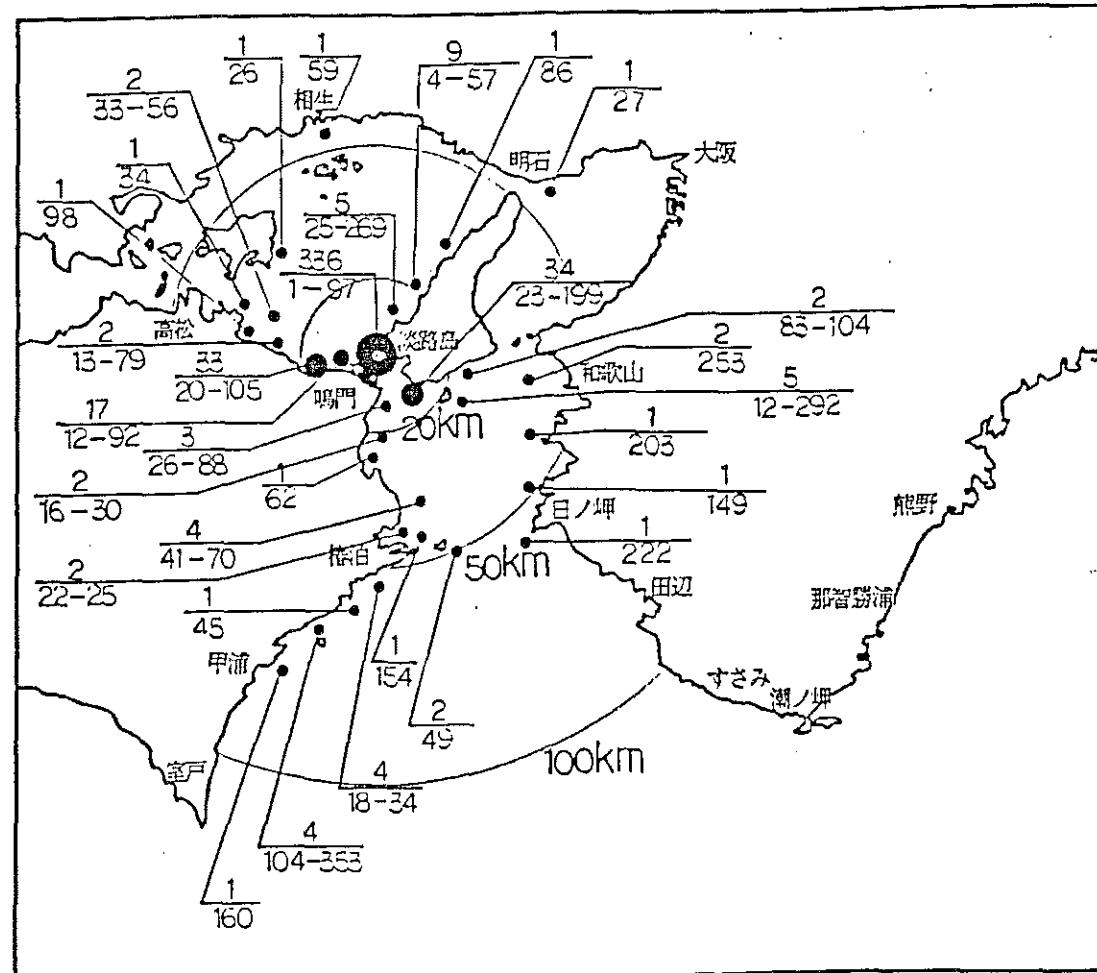
表1 屋島事業場のブリ放流再捕状況の概要

放流群	放流 月日	放流場所	標識放流 尾数	全長 (mm)	範囲	体重 (g)	範囲	年別再捕尾数								累積 尾数	累積 再捕率 (%)	標識の種類		
								昭和 57	昭和 58	昭和 59	昭和 60	昭和 61	昭和 62	昭和 63	平成 1	平成 2				
57年ヤシマ1	8.13-9.01	播磨灘小豆島東	29614	185	137-253			1843	152	4	2						2001	6.76	ダート型	
57年ヤシマ2	9.10	播磨灘小豆島東	5574	229	155-280			531	24								555	9.69	ダート型	
58年ヤシマ1	9.05-9.06	播磨灘小豆島東	19820	179	105-241				1301	34							1355	6.74	ダート型	
58年ヤシマ2	9.07	紀伊水道日ノ御崎	9894	192	152-257				111	4							115	1.16	ダート型	
58年ヤシマ3	9.21	播磨灘小豆島東	10254	206	135-262			240	17	2							259	2.53	スバゲティー型	
59年ヤシマ1	8.13	播磨灘小豆島東	20432	174	144-198				591	15	1						607	2.97	ダート型	
59年ヤシマ2	9.19	紀伊水道沼島南	9523	162	134-207				412	21							433	4.54	ダート型	
60年ヤシマ1	9.10-9.11	播磨灘中央	17700	186	149-227				1287	140	5						1432	8.09	ダート型	
60年ヤシマ2	9.12	紀伊水道沼島南	9700	204	167-242				893	185	24						1102	11.36	ダート型	
60年ヤシマ3	11.12	播磨灘中央	960	310	270-370				118	36	8						162	16.83	背骨型	
61年ヤシマ1	8.22	紀伊水道沼島南	9940	170	143-206				169	13							182	1.83	ダート型	
61年ヤシマ2	8.23	播磨灘中央	9910	180	136-205				573	57							630	6.36	ダート型	
61年ヤシマ3	9.03	大阪湾中央	9930	201	160-235				599	232							831	8.37	ダート型	
61年ヤシマ4	11.13	播磨灘中央	4950	265	223-310				219	56							275	5.56	背骨型	
62年ヤシマ1	11.27	紀伊水道中央	2600	331	310-350				238	41							279	10.73	背骨型	
62年ヤシマ2	11.27	紀伊水道中央	7300	320	280-350				577	205	12						794	10.88	ダート型	
63年ヤシマ1	7.11-7.15	屋島湾	77000	99	78-132													左腹鳍切除		
63年ヤシマ2	10.01	沼島徳島市中間点	8500	263	220-301												735	107	ダート型	
63年ヤシマ3	11.30	紀伊水道中央	5000	330	300-372	466										511	165	13.60	ダート型	
63年ヤシマ4	3.23	木岐地先	2456	357	335-388	493	360-650										235	235	9.57	背骨型
元年ヤシマ1	7.05-7.22	屋島湾	100847	117	71-154											4	4		左腹鳍抜去	
元年ヤシマ2	9.09-9.19	鳴門	6918	217	144-265											468	28	496	7.17	背骨型
元年ヤシマ3	12.02	紀伊水道中央	14000	294	248-343											916	191	1107	7.91	ダート型
元年ヤシマ4	3.23	木岐地先	2765	320	241-363												252	252	9.11	背骨型
2年ヤシマ1	7.20-8.11	屋島湾	83049	111	78-165												15	15	0.02	左腹鳍抜去
2年ヤシマ2-1	9.01-9.08	鳴門	5000	218	159-242												438	438	8.76	ダート型
2年ヤシマ2-2	9.11	鳴門	4770	237	219-270												161	161	3.38	ダート型
2年ヤシマ3	11.06	高知県甲浦港地先	3900	317	259-337	440											1905	1905	48.85	背骨型

表-2 昭和63年度のブリの各放流群の再捕状況

放流群	再捕年月	再捕尾数	漁具別再捕尾数(尾)						移動距離別再捕尾数(尾)						
			小定	大定	釣り	刺網	底曳	他	不明	20km未満	-40km	-60km	-80km	-100km	以上
63トシ72	1988.10	357	219	3	78	46	2	1	8	219	129	3	2	4	
1988.11	189	115	2	5	57	2	1	7	47	139	2	1			
1988.12	189	94	13	63	10	1	3	5	32	125	25	7	3		
1989.01	36	5	4	22	2			3		8	23	2	1		
1989.02	13	4		6		2		1		4	3	3	1		
1989.03	8	2		4		2				4	2	2			
1989.04	26	19		7		1				2	24	1			
1989.05	13	9		3						1	12				
1989.06	4	3		1						1	1			2	
1989.07	1	1													
1989.08	2	1		1											
1989.09	2	1		1											
1989.10	1	1													
1989.11	1														
1990.02	1														
1990.06	2	2													
計		845	476	23	191	118	7	5	25	316	445	62	13	9	0
63トシ73	不明	1							1				1		
1988.11	3	1													
1988.12	507	161	49	137	36	19	78	27		112	324	64	7		
1989.01	68	12	9	25	10	10	7	6	12	24	26	14	2	2	
1989.02	31	4		1	11	3	1		4	13	16	2			
1989.03	20	4								7	7	5	1		
1989.04	22	5		3	9				5	12	10				
1989.05	12	2		1	6	3				2	6	3			
1989.06	3			2		1			1	1	1	1			
1989.07	1	2								1	2				
1989.08	2									1	3				
1989.09	3														
1989.10	0														
1989.11	1														
1989.12	1														
1990.01	1														
1990.02	1														
1990.05	1														
1990.06	1														
計		680	193	60	200	70	27	79	51	173	401	92	11	2	1
63トシ74	不明	5	1												
1989.03	110	1													
1989.04	40	16													
1989.05	8														
1989.06															
1989.07	45														
1989.08	16	6													
1989.09	10	2													
1989.10	1	1													
計		235	27	0	55	104	0	47	2	222	13	0	0	0	0

表-3 平成元年ヤシマ2群（鳴門放流群）の再捕状況



上段：再捕尾数
放流点 1-10 -20 -50 -100 100以上

下段：経過日数

再捕年月	再捕尾数	漁具別再捕尾数(尾)							移動距離別再捕尾数(尾)						
		小定	大定	釣り	刺網	底曳	地曳	敷網	他	20km未満	40km	60km	80km	100km以上	
1989.9	138	134		28		1			7	135	3				
1989.10	204	166	1	32	4				1	188	7	8	1		
1989.11	99	63	1	30	3				6	94	4	1			
1989.12	27	11		12	1				3	22	4	1			
1990.1	5	4		1						3	1	1			
1990.2	12	11							1	8	1	2	1		
1990.3	4	4								3		1			
1990.4	1			1									1		
1990.5	2			2								2			
1990.6	2	1								1	1	1			
1990.7															
1990.8		2		2									2		
計	496	361	2	188	8	1	8	8	18	454	23	14	5	8	9

図-1 平成元年ヤシマ2群（鳴門放流群）の再捕結果

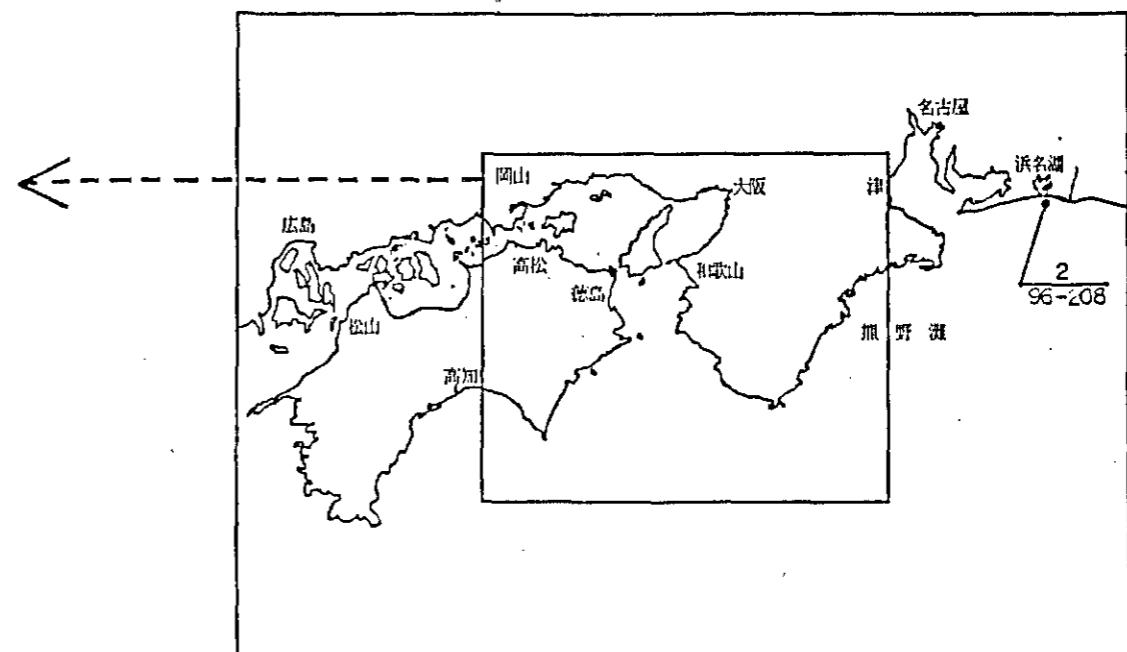
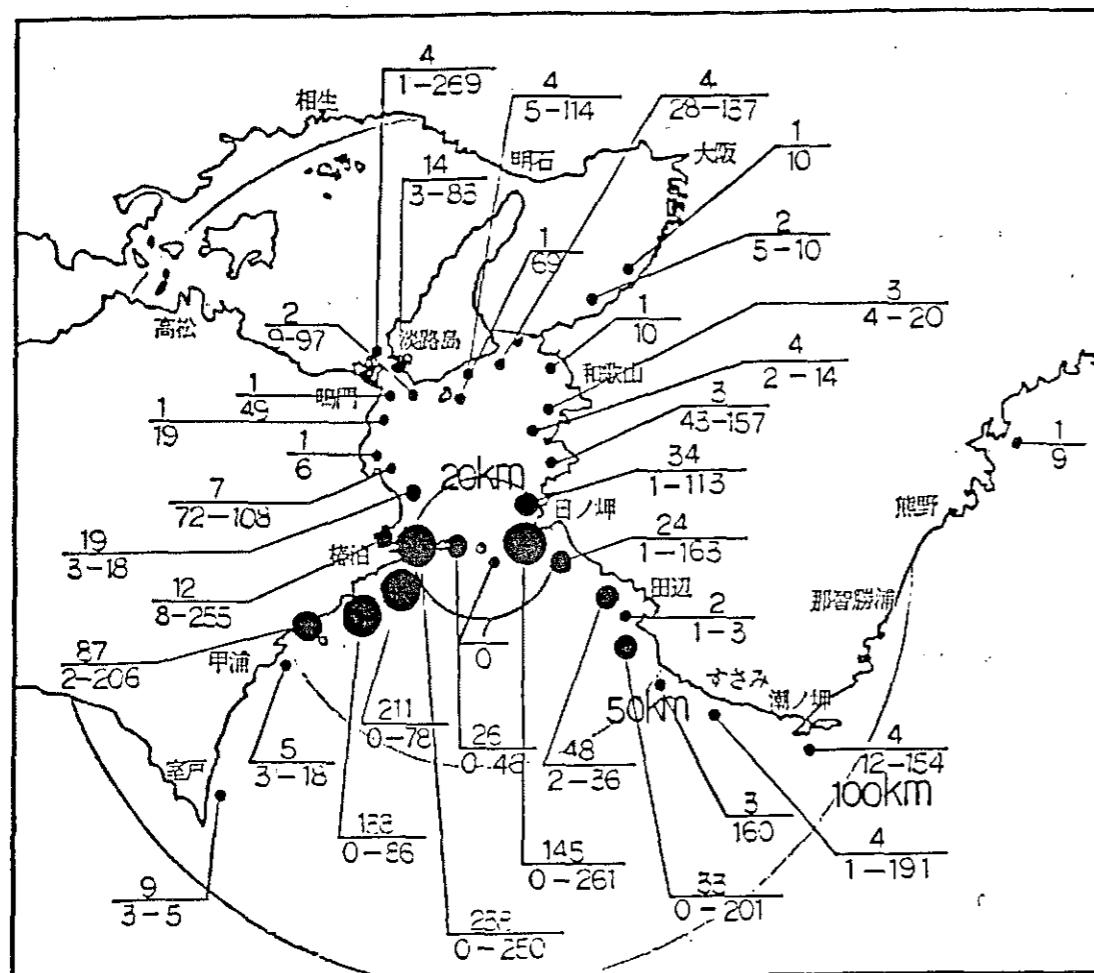


図-3 平成元年ヤシマ3群（紀伊水道中央域放流群）の再捕結果

表-4 平成元年ヤシマ3群（紀伊水道中央域放流群）の再捕状況

上段：再捕尾数
○ 1-10 ● 11-20 ▲ 21-50 ■ 51-100 ▪ 100以上

下段：経過日数
放流点 1-10 -20 -50 -100 100以上

再捕年月	再捕尾数	漁具別再捕尾数（尾）								移動距離別再捕尾数（尾）						
		小定	大定	釣り	刺網	底曳	地曳	敷網	他	20km未満	40km	60km	80km	100km	100km以上	
1989.12	916	438	23	188	41	5	81	78	62	215	554	138	7	9	1	
1990.1	188	33		7	9		50		1	24	71	5				
1990.2	26	19		3	2				2	3	21	1	1			
1990.3	31	8		12		1	10			13	9	8			1	
1990.4	6	4		1	1					1	2	3				
1990.5	12	6		5	1					2	9	1				
1990.6	8	4		4						6	1				1	
1990.7	2	2								2						
1990.8	6	1		2				3		1	4	1				
計	1107	515	23	222	54	6	141	78	68	257	665	163	18	9	3	

図-2 平成元年ヤシマ3群（紀伊水道中央域放流群）の再捕結果

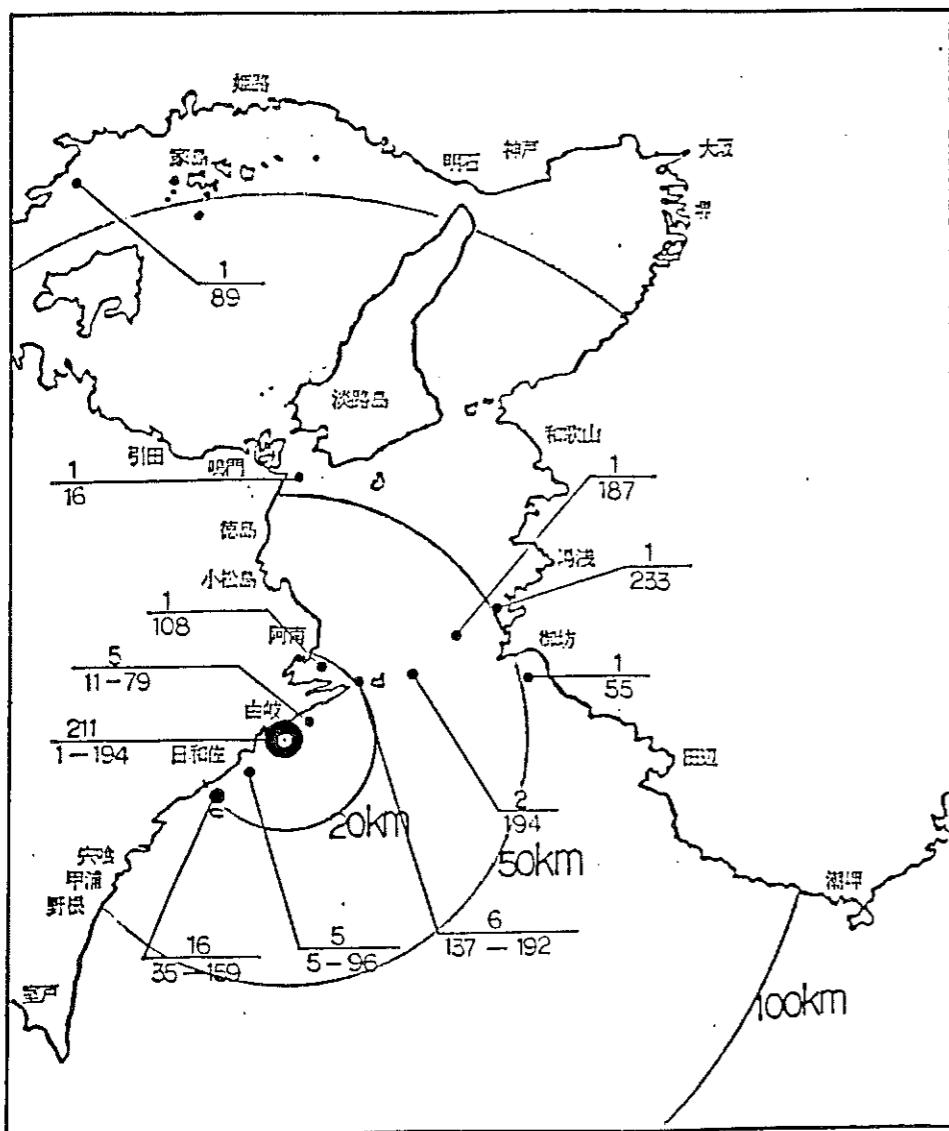


図-4 平成元年ヤシマ4群（越冬魚木岐放流群）の再捕結果

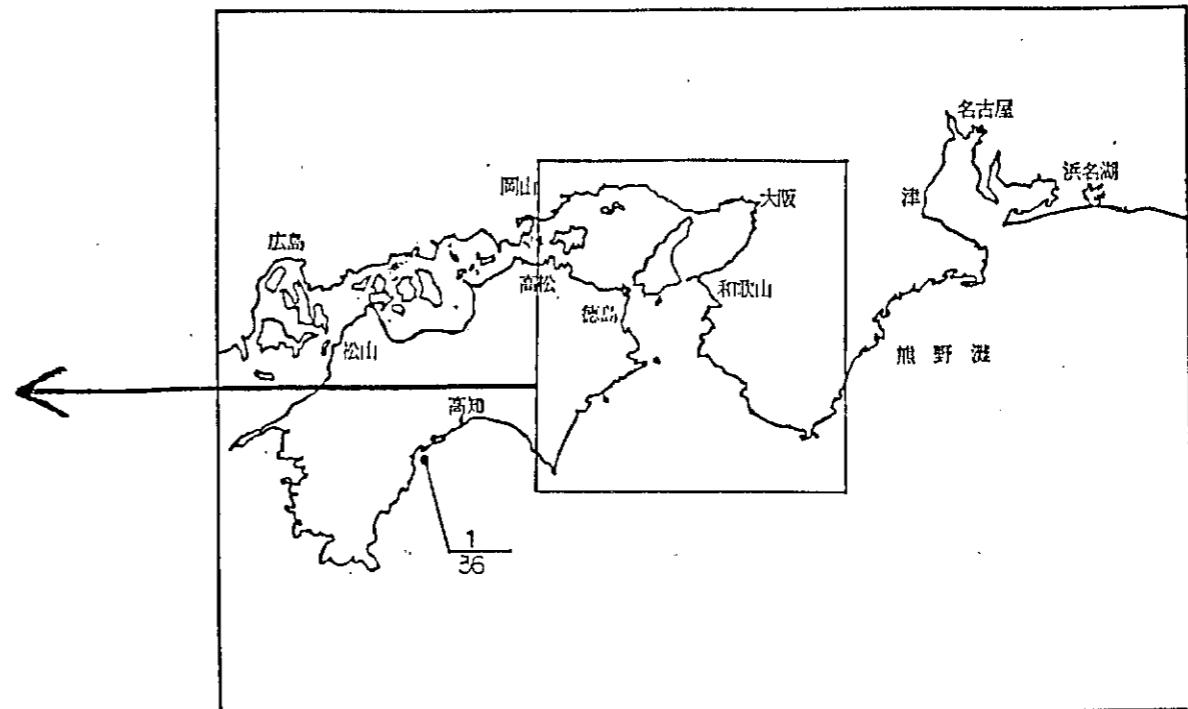
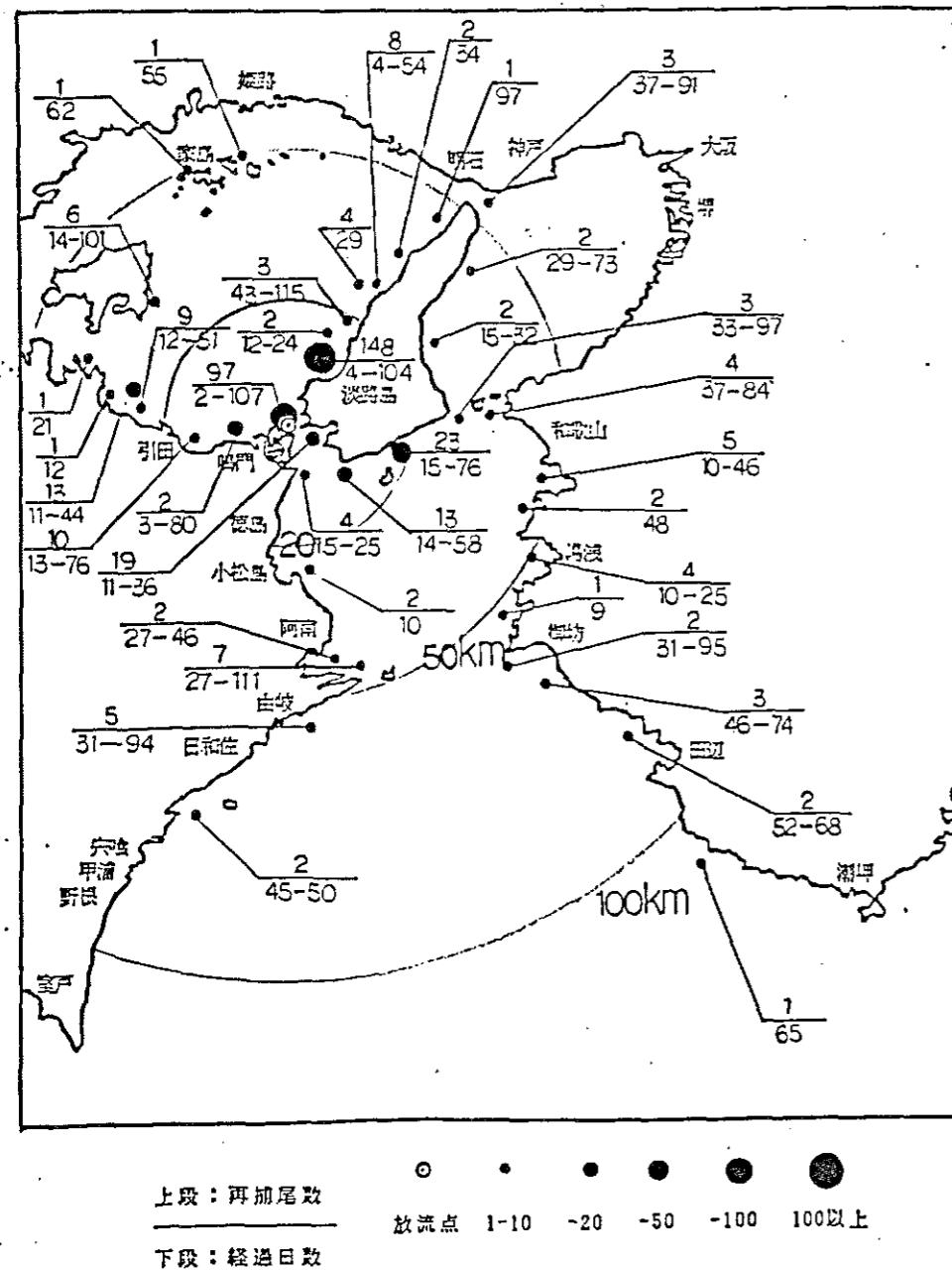


図-5 平成元年ヤシマ4群（越冬魚木岐放流群）の再捕結果

表-5 平成元年ヤシマ4群（越冬魚木岐放流群）の再捕状況

再捕年月	再捕尾数	漁具別再捕尾数（尾）							移動距離別再捕尾数（尾）					
		小定	大定	釣り	刺網	底曳	巻網	他	不明	20km未満	-40km	-60km	-80km	-100km
不明	1								1	1				
1990.3	4	1							3	4				
1990.4	124	118		1	1				3	115	1	1		
1990.5	102	45		4	52				1	88	13	1		
1990.6	6	6								3	1			1
1990.7	2	2								2				
1990.8	2	1							1		2			
1990.9	5			4		1	1			1	3	1		
1990.10	5			5						1	2	2		
1990.11	1	1										1		
計	252	174	8	14	53	1	1	8	9	217	28	6	8	1

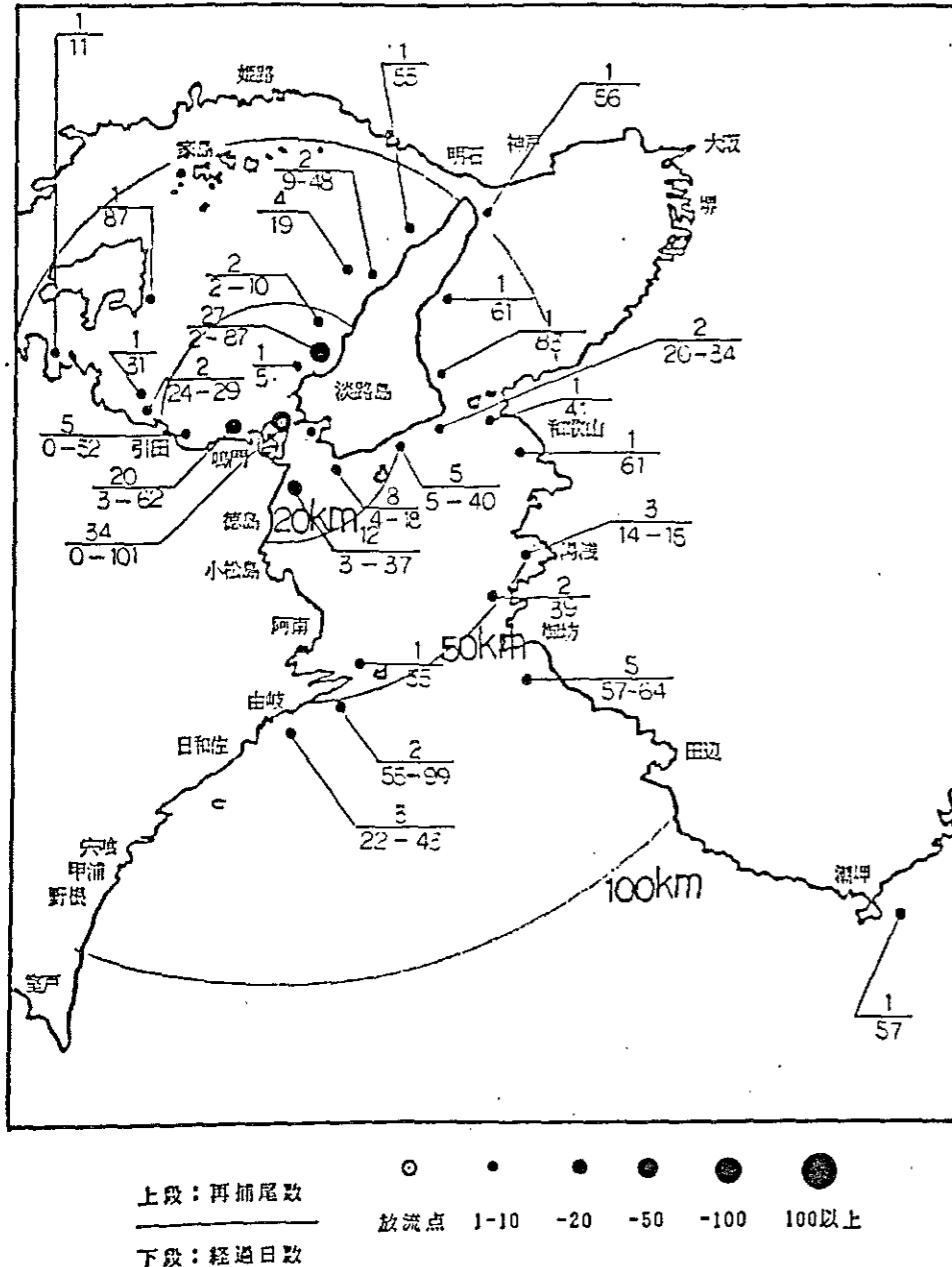
表-6 平成2年ヤシマ2-1群(鳴門放流群 黄色)の再捕状況



再捕年月	再捕尾数	漁具別再捕尾数(尾)							移動距離別再捕尾数(尾)					
		小定	大定	釣り	刺網	底曳	地曳	敷網	他	20km未満	40km	60km	80km	100km以上
不明	6				6					6				
1990.9	239	158	10	52	7				12	190	36	13		
1990.10	139	66	3	33	33	1			2	82	35	14	5	2
1990.11	29	11		11	7					15	3	7	2	1
1990.12	26	9		9	6	2				18	3	4	1	
計	438	244	13	111	53	3			14	305	77	38	8	3
														1

図-6 平成2年ヤシマ2-1群(鳴門放流群 黄色)の再捕結果

表-7 平成2年ヤシマ2-2群（鳴門放流群・白色）の再捕状況



再捕年月	再捕尾数	漁具別再捕尾数(尾)							移動距離別再捕尾数(尾)					
		小定	大定	釣り	刺網	底曳	地曳	敷網	他	20km未満	40km	60km	80km	100km以上
1990.9		74	37	7	19	4	1			6	59	6	7	2
1990.10		60	35	1	14	9				1	43	10	6	
1990.11		19	3		8	6	1			1	7	5	6	1
1990.12		8	2		2	4				5	2	1		
計		161	77	8	43	23	2			8	114	18	19	8
														2

図-7 平成2年ヤシマ2-2群（鳴門放流群・白色）の再捕結果

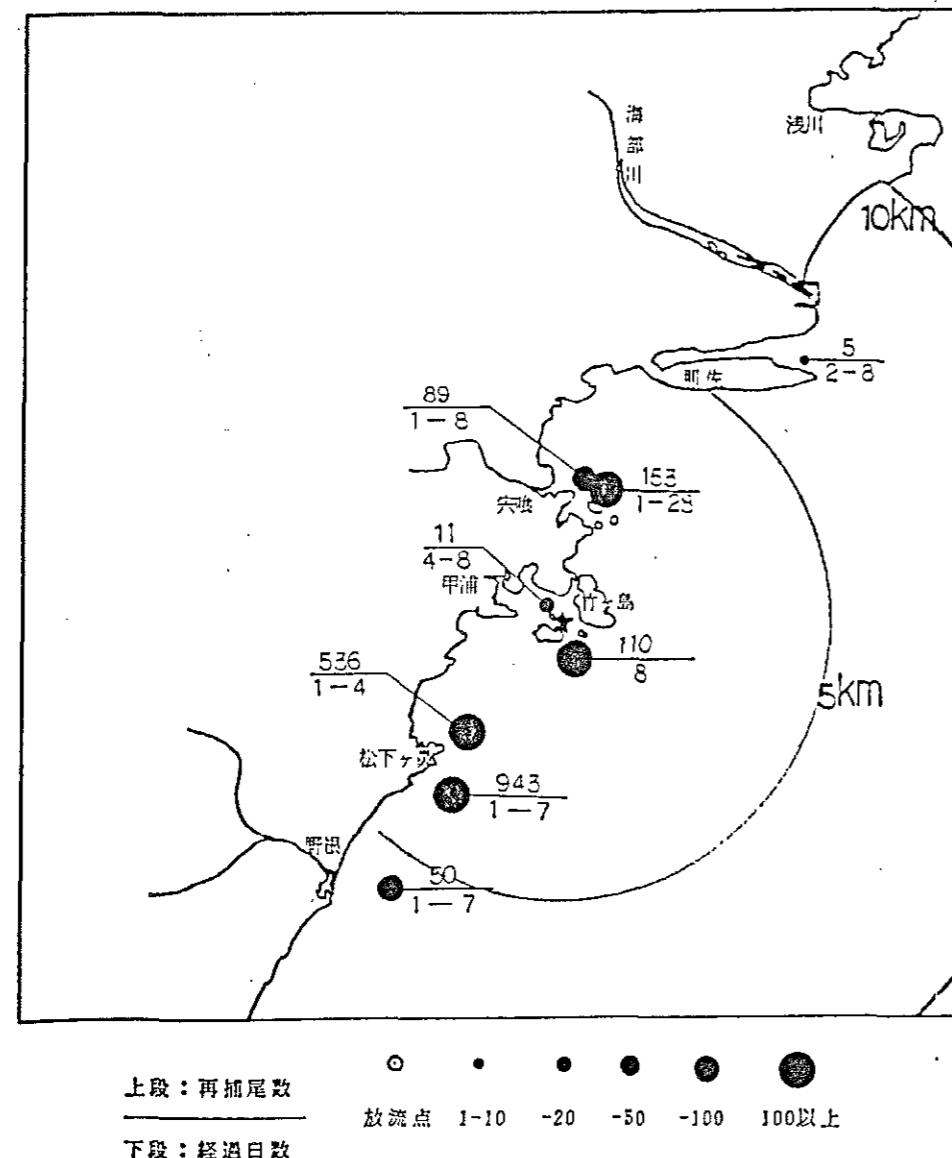


図-8 平成2年ヤシマ3群（甲浦放流群）の再捕結果

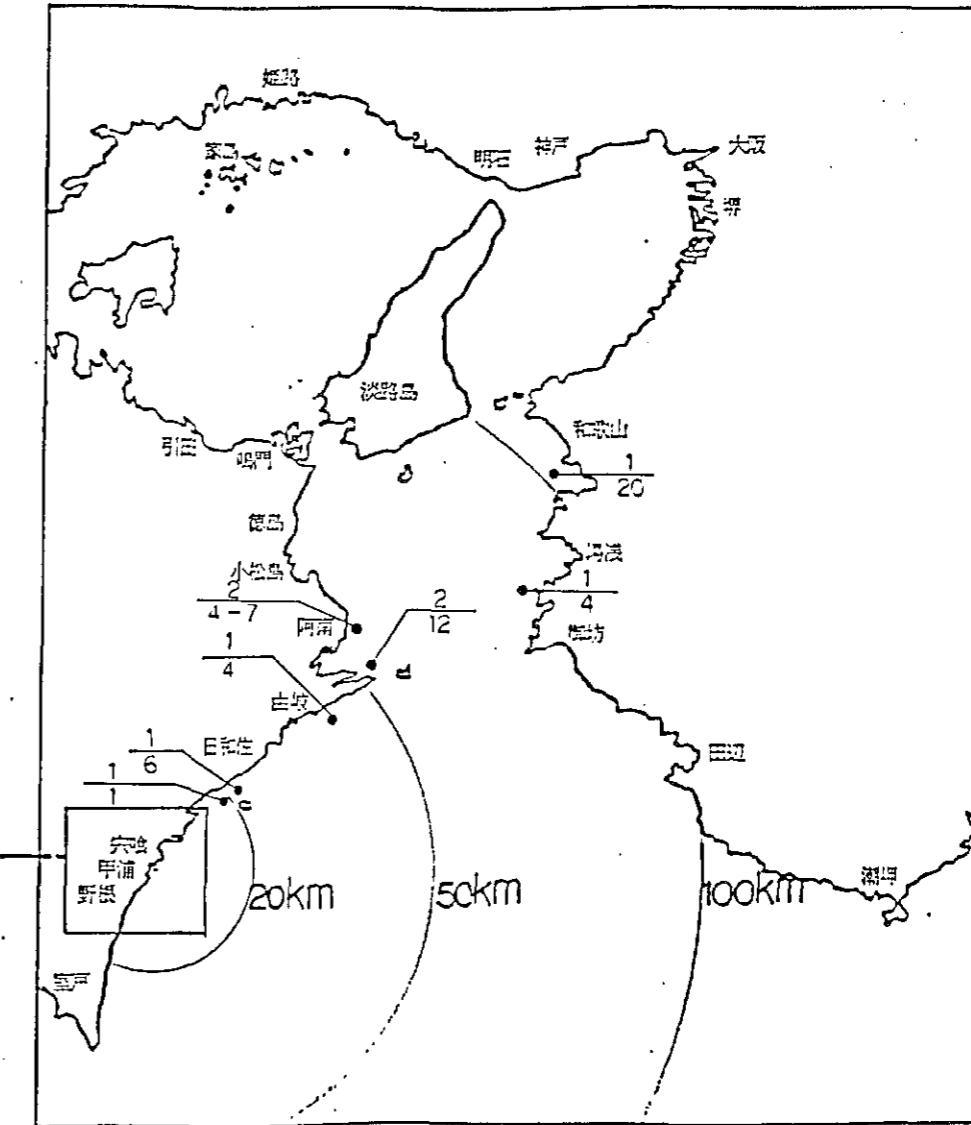
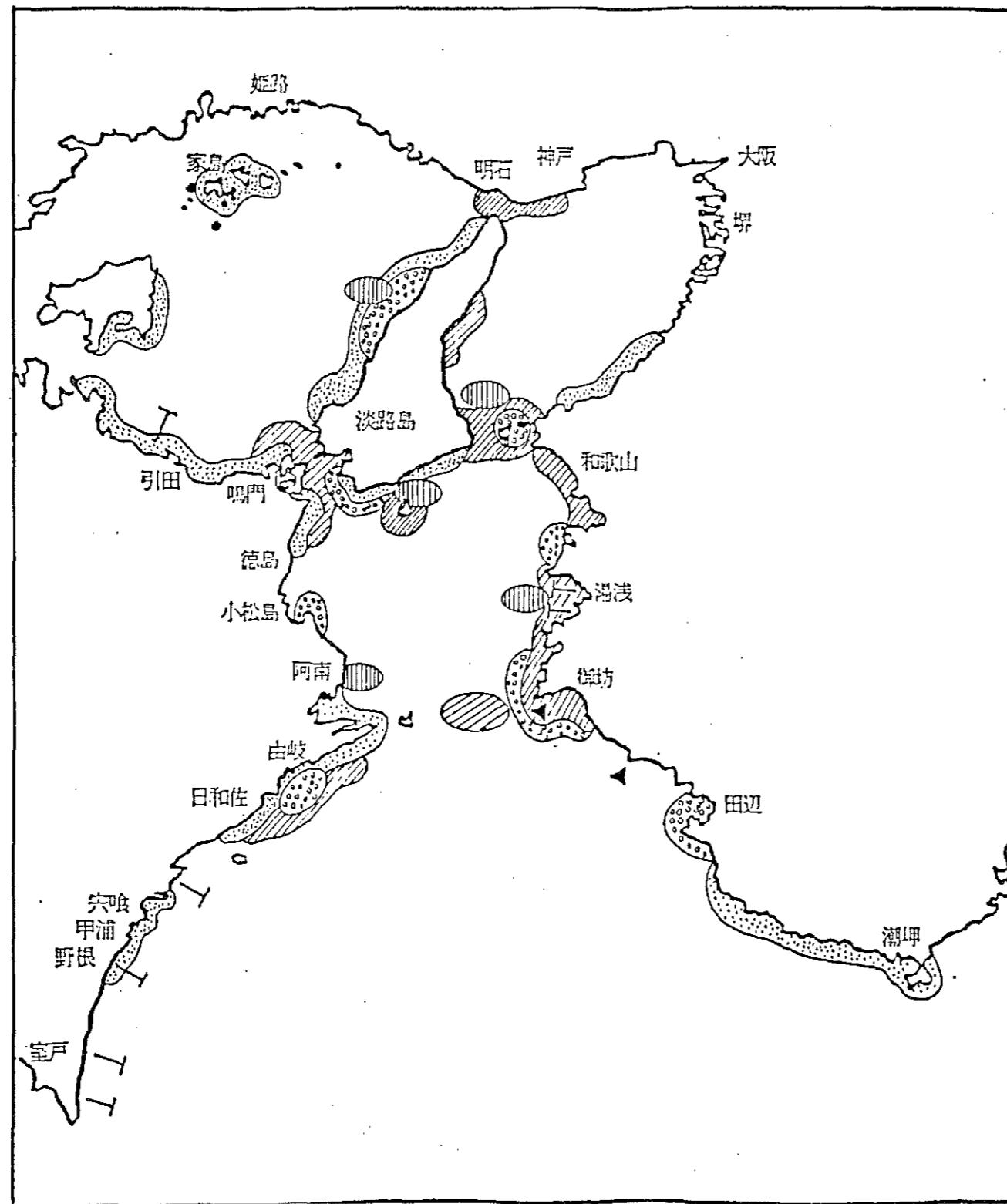


図-9 平成2年ヤシマ3群（甲浦放流群）の再捕結果

表-8 平成2年ヤシマ3群（甲浦放流群）の再捕状況

再捕年月	再捕尾数	漁具別再捕尾数(尾)						移動距離別再捕尾数(尾)				
		小定	大定	釣り	刺網	底曳	他	20km未満	-40km	-60km	-80km	-100km
1990.11	1885	1873	12				1877	2	4	1	1	
1990.12	28	20					20					
計	1985	1893	12				1897	2	4	1	1	



- … 小型定置網
- | … 大型定置網
- ▨ … 釣り
- … 刺網
- ▨ … 底曳網
- ▲ … 地曳網

図-10 平成元年～2年度のブリ再捕報告より描いた漁具マップ

トラフグの放流および追跡調査

トラフグは、瀬戸内海における重要な広域回遊魚種であるが、その資源生態的知見は乏しい。このため当場では、本種の産卵場といわれている内海中部海域を調査海域に設定して、昭和61年より人工種苗の標識放流、追跡調査を実施している。昭和61年から平成2年までの放流の再捕経過を表1に示す。

1) 平成2年の種苗放流と再捕状況

① 表2に本年実施した標識放流の実施状況を示した。放流点は従来と同じ位置とした。表3に平成2年10月末日までに報告のあった再捕結果を示した。

② 粟島放流群は、尾鰭の損傷の再捕への影響を調査する目的で中間育成で配合飼料を手撒した群（平成2年ヤシマ1A）と自動給餌をした群（平成2年ヤシマ1B）の2群を放流した。

③ 粟島放流群（平成2年ヤシマ1A 配合飼料手撒き群） 再捕尾数は84尾、再捕率は1.7%であった。移動分散は、東方へは備讃瀬戸を経て岡山県牛窓町沖まで、西方へは芸予諸島周辺までの半径80kmまでの範囲で、昨年度と同様な移動傾向を示した（図1）。

④ 粟島放流群（平成2年ヤシマ1B 配合飼料自動給餌群） 再捕尾数は50尾、再捕率は2.6%であった。移動分散は、（平成2年ヤシマ1A）と同様な移動傾向を示した（図2）。

⑤ 因島放流群（平成2年ヤシマ2） 再捕尾数は125尾、再捕率は2.5%であった。移動分散は、放流点から60kmまでの範囲で、東方への移動は少なく、西方へは芸予諸島沿いに広島県呉市沖まで、昨年と同様な移動傾向を示した（図3）。

⑥ 粟島放流群の2群の漁法別再捕数を調べた結果、自動給餌群（平成2年ヤシマ2）は手撒き群（平成2年ヤシマ1A）と比較して小型底曳網の再捕数が16%多く小型定置網と刺網の合計再捕数は13%少ない。放流後2ヵ月間という短期間のため、詳細な検討は今後の再捕報告データの蓄積を待って来年度行いたい。

⑦ 3群とも再捕率が昨年度より低いのは、尾鰭の欠損率が高いことが原因と思われる。

2) 平成元年度放流群の再捕状況

表4に平成元年放流群の再捕状況を示す。

① 粟島放流群（平成元年1ヤシマ1） 全再捕尾数は344尾、累積再捕率は8.6%であった。平成元年11月以降、放流点から40km以上の西方で再捕率は2.6%，東方で0%であり燧灘から芸予諸島への西

方移動が認められた。再捕報告結果から燧灘で越冬するもの、周防灘を通って玄海灘に移動するもの、豊後水道を下り鹿児島県沖に移動するものがあることが確認された（図4）。

② 因島放流群（平成元年1ヤシマ2） 全再捕尾数は383尾、累積再捕率は9.5%であった。燧灘から安芸灘にかけて越冬するものと、安芸灘を通って周防灘に入り下関に移動するものと放流後対岸の香川県、愛媛県の沿岸に移動して一部越冬するものと豊後水道へ移動するものがあることが確認された（図5）。

③ 粟島放流群（平成元年1ヤシマ3 晩期大型放流群） 全再捕尾数は111尾、累積再捕率9.2%であった。12月から4月頃までは、60km以内の海域で越冬したと考えられる。晩期大型放流群は平成元年1ヤシマ1群より、東方に移動する傾向がある。平成元年1ヤシマ1群は放流後2ヶ月以内(8~9月)では放流数の2.8%が小型定置網、2.9%が小型底曳網で再捕されたが、晩期大型放流群は、0.3%が小型定置網、4.6%が小型底曳網で再捕された。このことから晩期大型放流群は放流直後から沿岸への移動は少なく混獲による放流種苗の初期減耗の回避に効果があると考えられるが晩期大型放流は中間育成施設、コスト等から大量放流には限度があると考えられる（図6）。

（町田 雅春）

表 1 トラフグ放流の再捕経過

放流群名	放流年月	放流水域	標識放流尾数	年別再捕尾数(尾)					累積再捕尾数(尾)	累積再捕率(%)	備考
				s61	62	63	H1	2			
栗島放流群(S61+シ71)	61.9.04	香川県栗島	1714	25					25	1.46	タート型858尾, スパゲティ型856尾
因島放流群(S61+シ72)	61.9.04	広島県因島	1997	21					21	1.05	タート型998尾, スパゲティ型999尾
栗島放流群(S62+シ71)	62.8.10	香川県栗島	2990		81	2			83	2.78	タート型
因島放流群(S62+シ72)	62.8.10	広島県因島	2985		104				104	3.48	タート型
栗島放流群(S63+シ71)	63.8.23	香川県栗島	2971		18	1			19	0.64	タート型
因島放流群(S63+シ72)	63.8.23	広島県因島	2975		48	1			47	1.57	タート型
栗島放流群(H1+シ71)	1.8.17	香川県栗島	4000				331	13	344	8.6	アンカーティスク型
因島放流群(H1+シ72)	1.8.18	広島県因島	4000				364	19	383	9.57	アンカーティスク型
栗島放流群(H1+シ73)	1.11.17	香川県栗島	1200				67	44	111	9.25	アンカーティスク型
栗島放流群(H2+シ71A)	2.8.30	香川県栗島	4900					84	84	1.71	アンカーティスク型, 投餌方法=手撒
因島放流群(H2+シ71B)	2.8.30	香川県栗島	1900					50	50	2.63	アンカーティスク型, 投餌方法=自動給餌器
栗島放流群(H2+シ72)	2.8.31	広島県因島	4900					125	125	2.55	アンカーティスク型, 投餌方法=手撒

表2 平成2年トラフグ標識放流の実施状況

放流群名	放流場所	放流月日	放流尾数(尾)	体長(mm)	体重(g)	標識の種類、色、記号	備考
栗島放流群 (H2タツマ1A)	香川県栗島保護育成水面	2.8.30	4900	103(88-121)	46(28-64)	アンカーティスク型、白、ヤシマ90	投餌方法=手撒
栗島放流群 (H2タツマ1B)	香川県栗島保護育成水面	2.8.30	1900	104(87-124)	43(22-72)	アンカーティスク型、青、ヤシマ90	投餌方法=自動給餌器
因島放流群 (H2タツマ2)	広島県因島メカリ漁戸	2.8.31	4900	103(88-121)	46(28-64)	アンカーティスク型、ピンク、ヤシマ90	投餌方法=手撒

表3 平成2年放流群の再捕状況(平成2年10月31日までの報告)

放流群名	再捕年月	再捕尾数	漁具別再捕尾数(尾)					移動距離別再捕尾数(尾)					
			(尾)	小型定置網	底曳網	釣	刺網	不明	20	40	60	80	100
栗島放流群 (H2タツマ1A)	2.9	65	18	36	2	9		41	17	5	1	1	
	.10	19	11	8				7	12				
	合計	84	29	44	2	9		48	29	5	1	1	
栗島放流群 (H2タツマ1B)	2.9	35	8	26	1			22	11	2			
	.10	15	5	8	2			8	7				
	合計	50	13	34	3			30	18	2			
因島放流群 (H2タツマ2)	2.8	3		3				3					
	2.9	66	13	36	12	5		48	18				
	.10	56		19	29	8		41	12	3			
合計		125	13	58	41	13		92	30	3			

表4 平成元年放流群の再捕状況(平成2年10月31日までの報告)

放流群名	再捕年月	再捕尾数	漁具別再捕尾数(尾)							移動距離別再捕尾数(尾)							
			(尾)	小型定置網	大型定置網	底曳網	呑嚥網	釣	刺網	不明	20	40	60	80	100	200	300
栗島放流群 (H14ソ21)	1. 8	134	48			78		4	4	99	31	2	2				
	9	138	67			42	20	2	3	4	87	48	1	2			
	10	31	15			11	2	3			25	4		1			
	11	23	4			17			2		7	16					
	12	5	1			3			1		5						
	2. 1	2				2					2						
	2	2							2		1		1				
	4	4	2			2					2			2			2
	5	2			1					1							
	6	1				1										1	
	10	1				1											
合計		343	137	1	157	22	5	7	14	226	181	7	5	1	2	1	
因島放流群 (H14ソ22)	1. 8	78	28			22		2	34	45	31	3					
	9	281	66			48	1	6	62	6	65	126	18				
	10	54	8			18		10	18		28	23		3			
	11	16	1			4		8	3		10	5	1				
	12	14	1			6		5	1	1	8	3	1	1	1	1	
	2. 1	5				2		1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	2	3	1			1				1		1		1	1	1	
	3	4	1			2				1	1	1		2			
	4	2	1						1					1			
	5	3	2						1					2			
	7	1						1			1						
	9	2						2			1			1			
	10	1						1									
合計		383	181		95	37	139	11		168	193	16	5	1	6	4	
栗島放流群 (H14ソ23)	1. 11	32	1			28		1	2	22	9	1					
	12	35	2			28			5	33	5						
	2. 1	14	7			4			3	12	1	1					
	2	17	1			9			7	13	1	1	1	1			
	3	6				6				2	4						
	4	5	3					1	1		3	2					
	6	1				1					1		1				
	8	1				1					23	5	2	1			
合計		111	14		77	2	18		1	80	23	5	2	1			

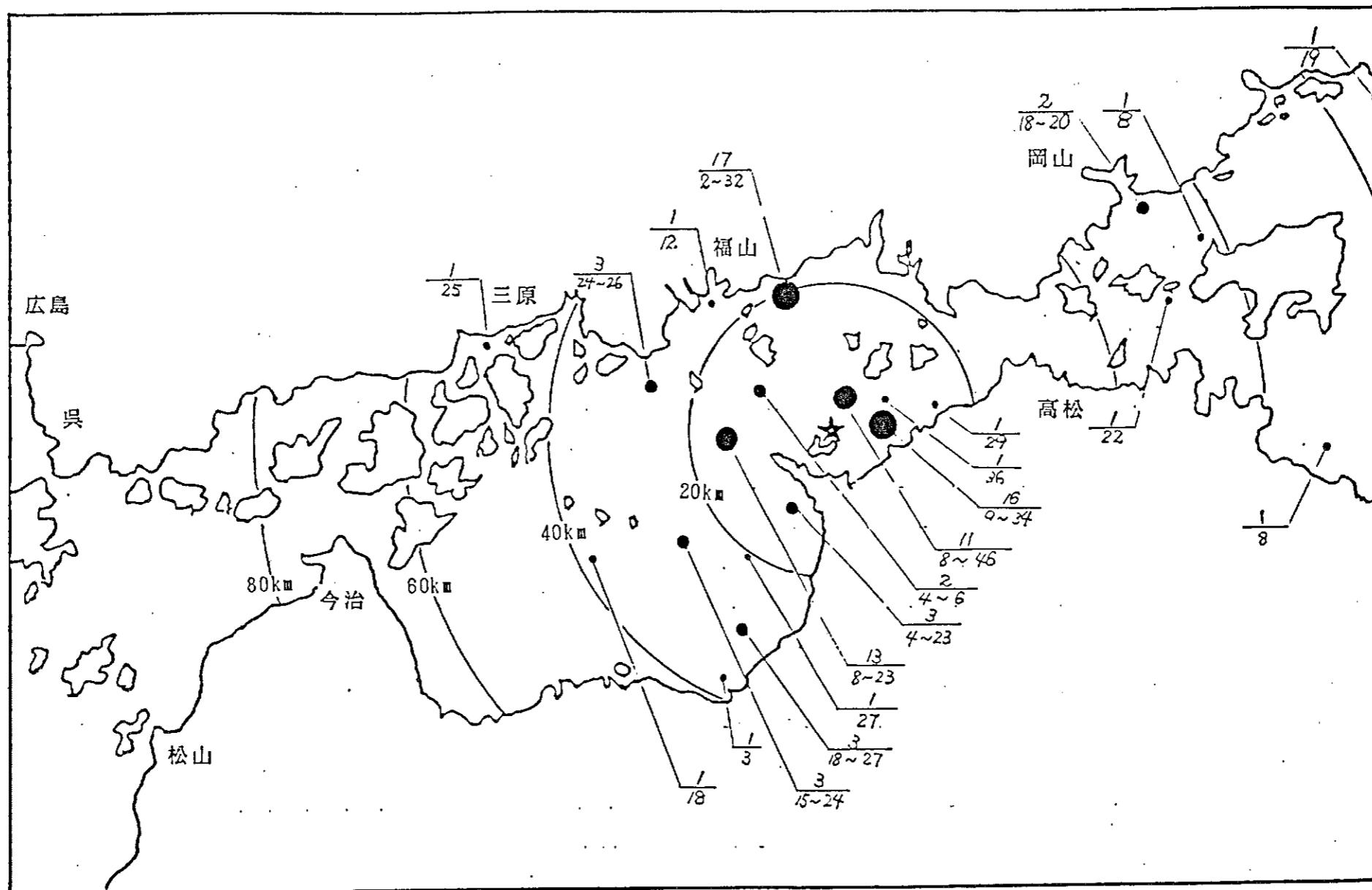


図1 平成2年香川県栗島保護育成水面放流群（平成2年ヤシマNo.1A）の再捕結果（屋島事業場）

放流点 ★

● ● ● ● ●
1 ~ 5 ~ 10 ~ 15 ~ 20

上段：再捕尾数
下段：経過日数

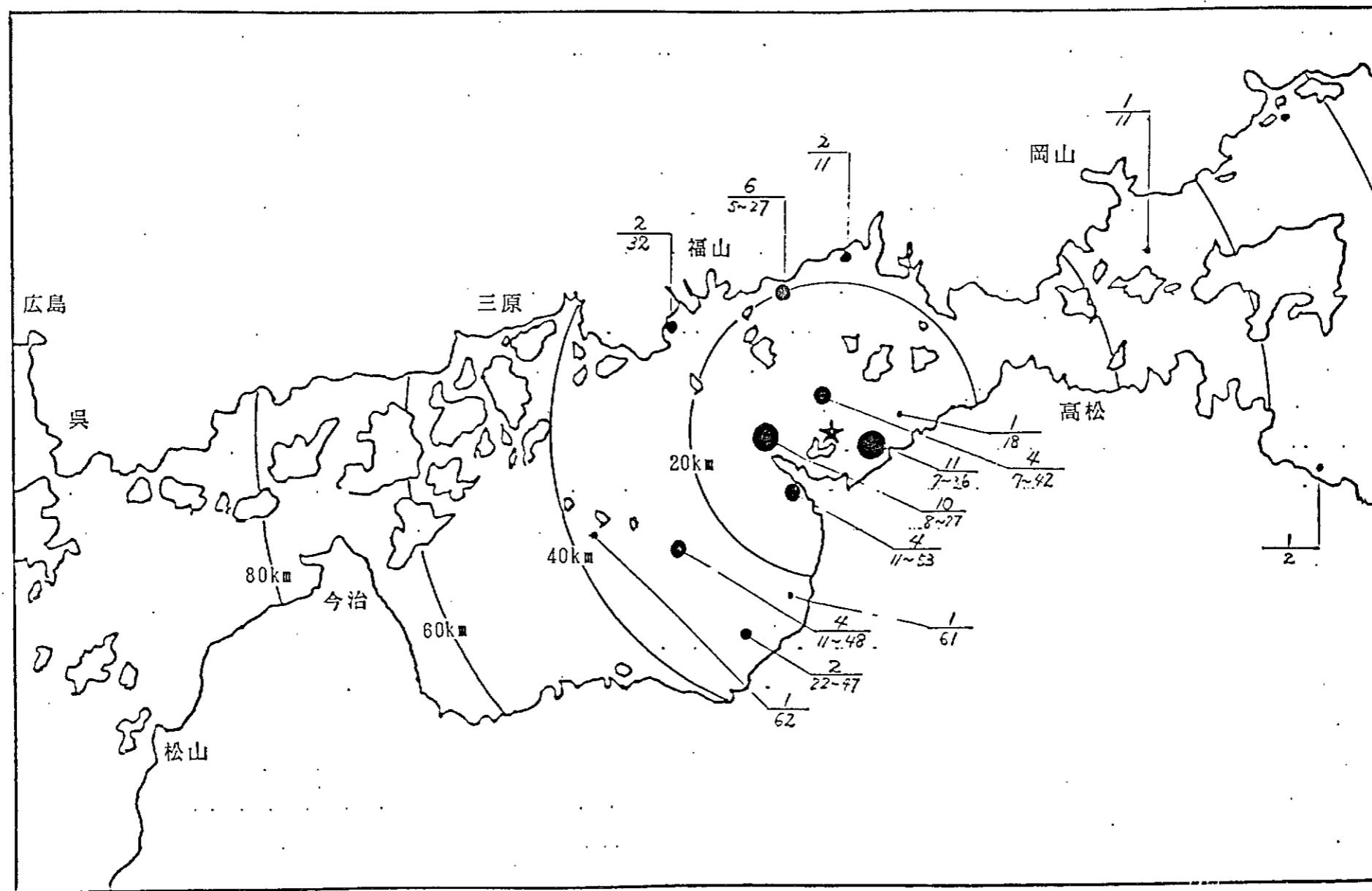


図2 平成2年香川県栗島保護育成水面放流群（平成2年ヤシマNo.1B）の再捕結果（屋島事業場）

上段：再捕尾数

放流点 ★

● ● ○ ○ ○ ○
1 2~3 4~6 7~9 10~11

下段：経過日数

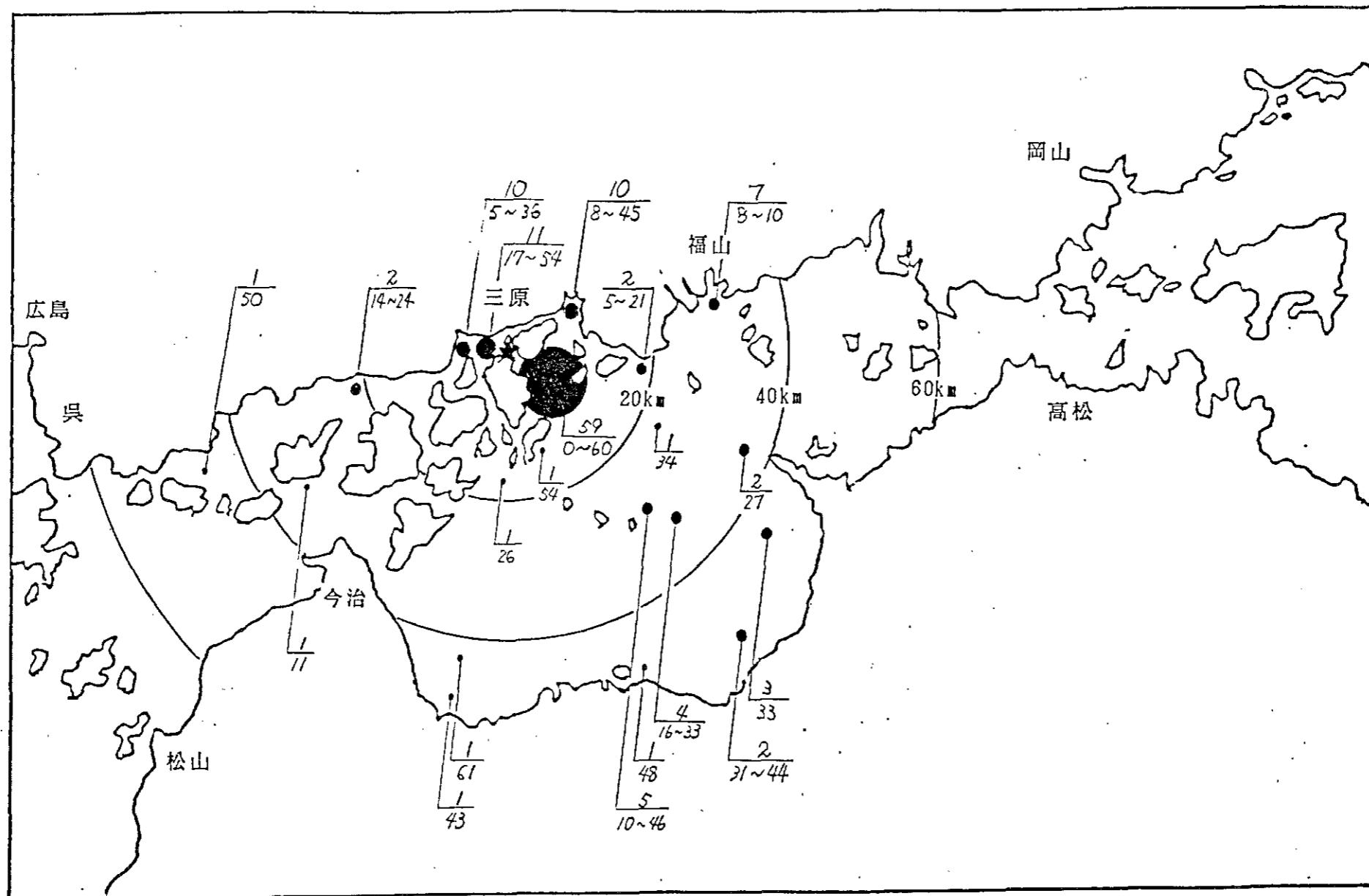
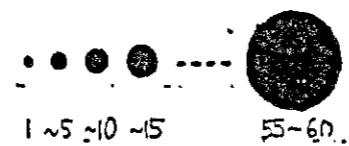


図3 平成2年広島県因島メカリ瀬戸放流群（平成2年ヤマNo.2）の再捕結果（屋島事業場）

放流点 ★



上段：再捕尾数

下段：経過日数

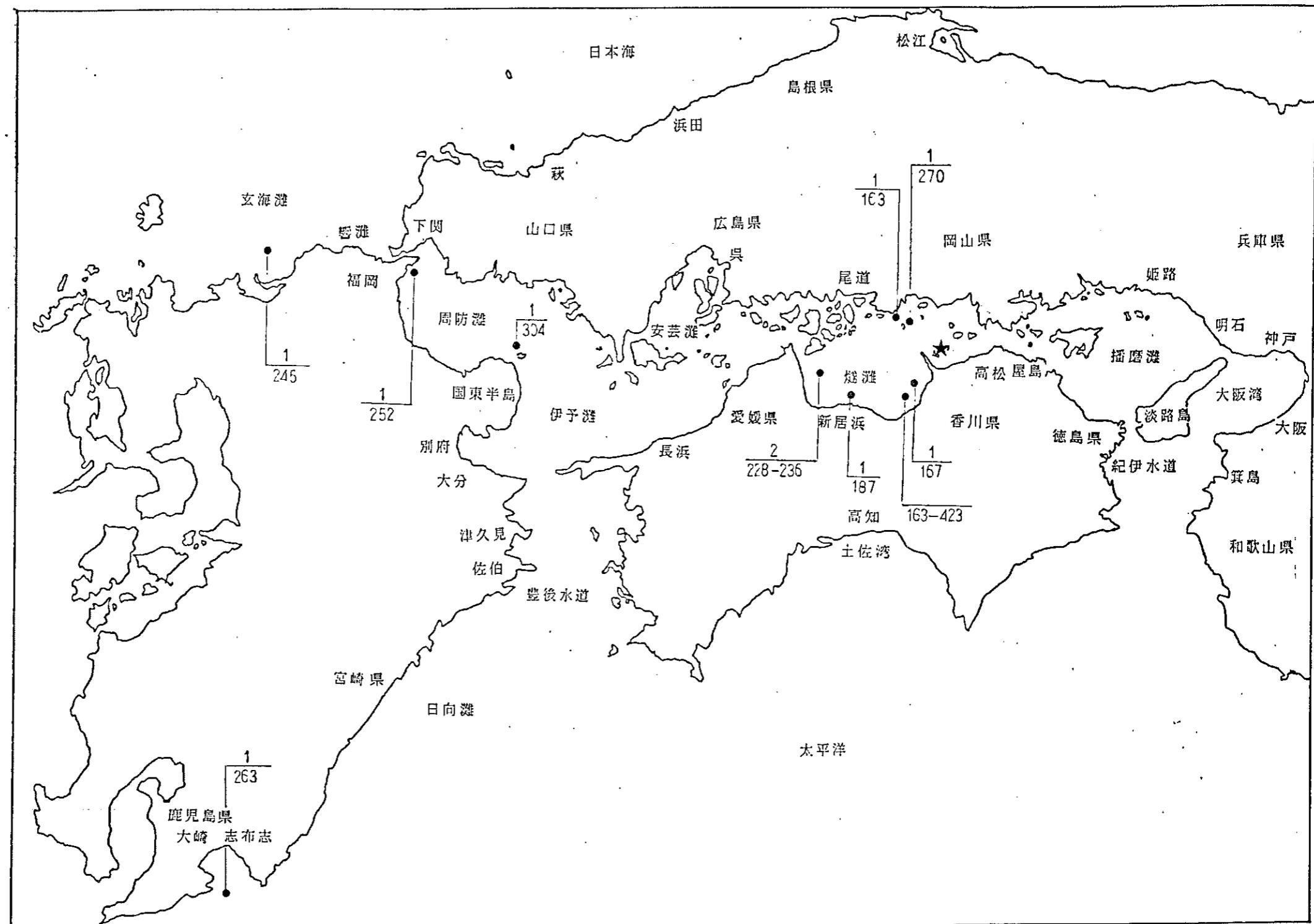


図4 トラフグ 平成元年ヤシマ1群の再捕状況 (屋島事業場)
(遠距離)

★放流点

●10以下

上段：再捕尾数

下段：経過日数

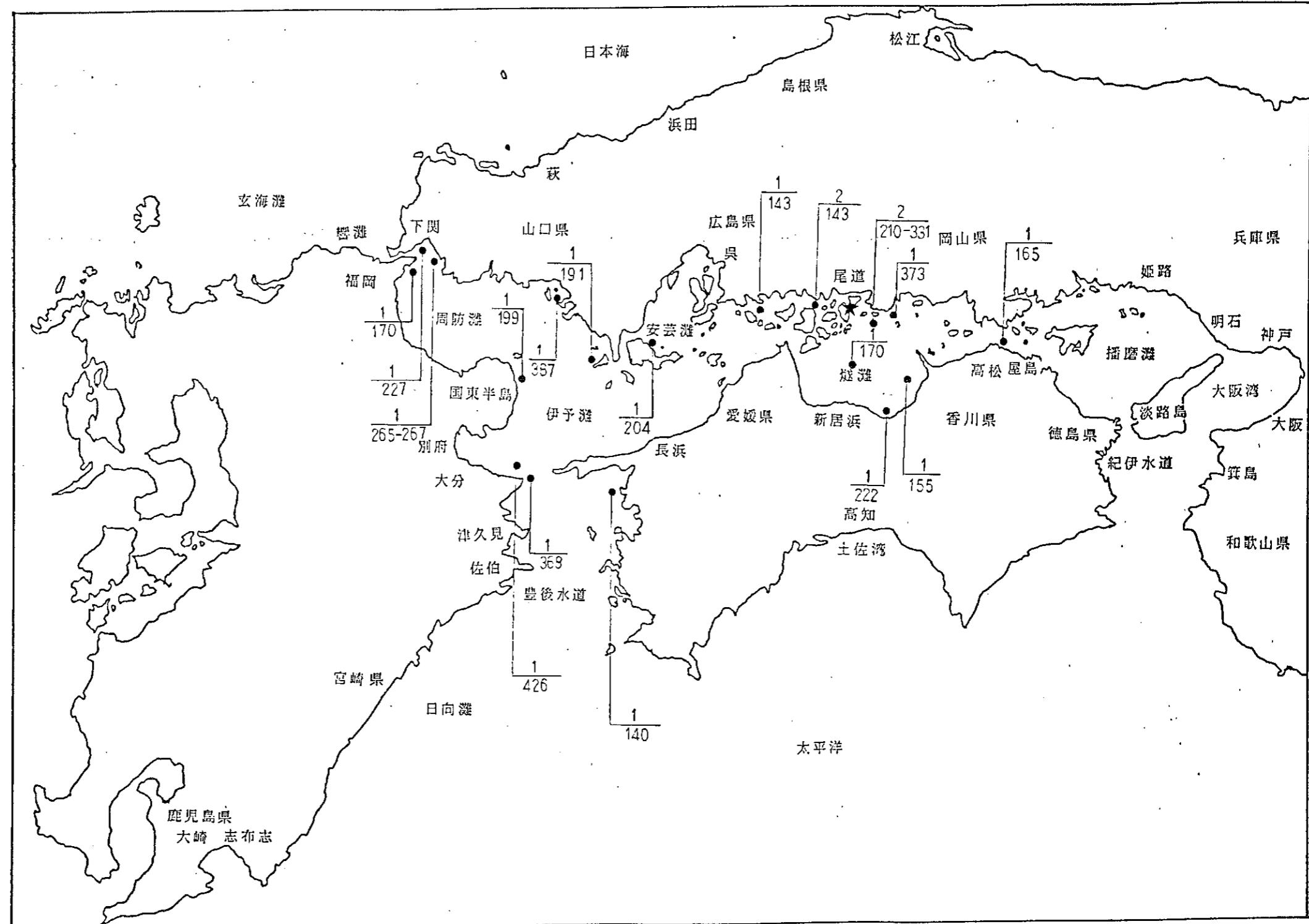


図5 トラフグ 平成元年ヤシマ2群の再捕状況 (屋島事業場)

★放流点

●10以下

上段：再捕尾数

下段：経過日数

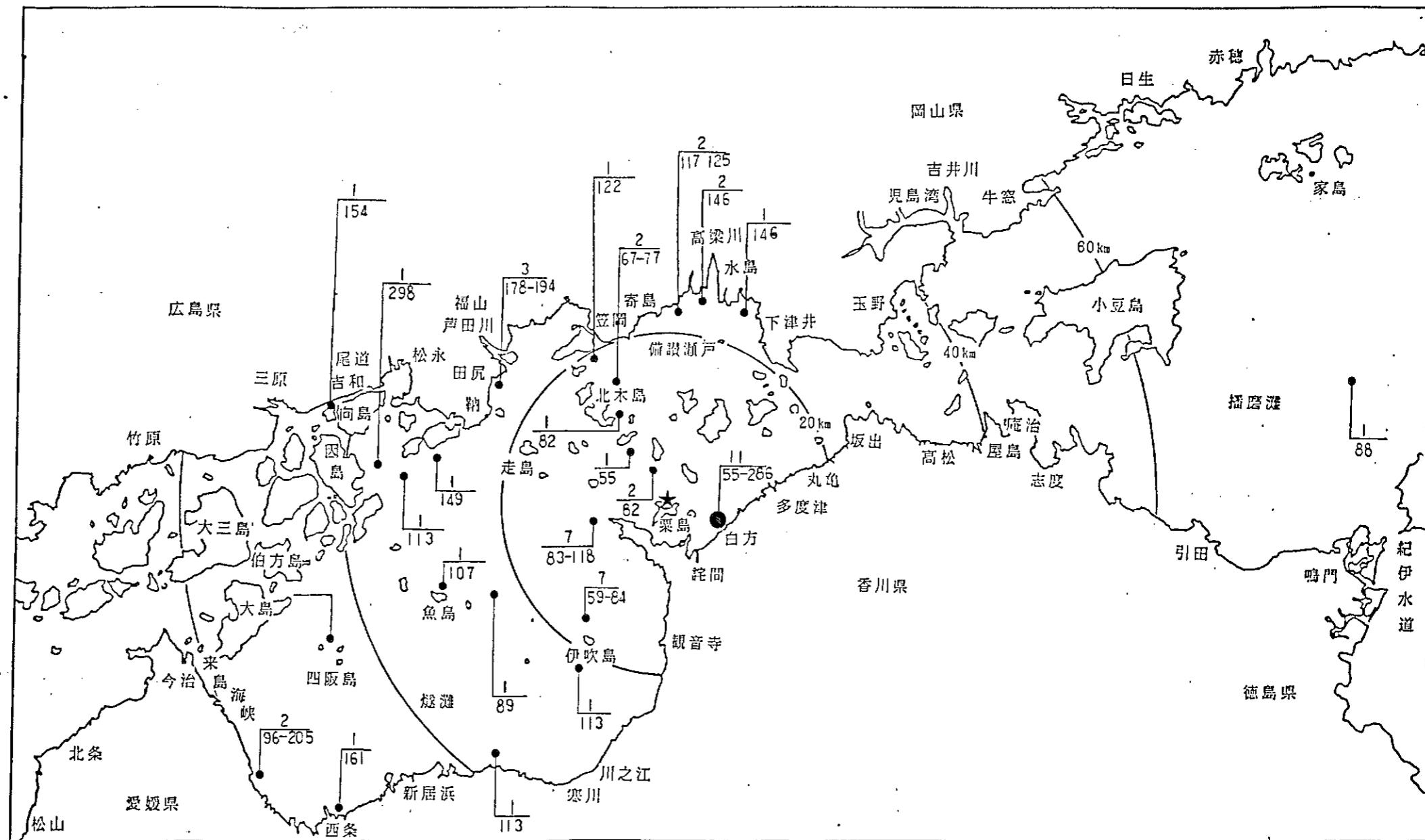


図6 トラフグ 平成元年ヤシマ3群の再捕状況 (屋島事業場)

★放流点 ●10以下 ●11~30

上段：再捕尾数

下段：経過日数

聞き取り調査の結果

(1) 目的

瀬戸内海中西部を中心にトラフグの生態並びに漁業実態を把握するために、燧灘・水島灘・備後灘・齊灘・伊予灘の漁協、魚市場からトラフグに関する情報を聞き取り調査主体に、一部魚体測定調査もあわせ行った。

(2) 調査の方法

聞き取り調査は香川県（高見島、佐柳島、箱浦、観音寺、丸亀市、多度津、詫間、白方、大浜、仁尾町、東讃、北灘、引田）、愛媛県（川之江、新居浜、今治、上灘、下灘、長浜）、広島県（横島）、岡山県（笠岡市大島）の各漁協、魚市場（観音寺漁協、丸亀市、伊吹漁協、笠岡、新居浜、多度津）を調査した。漁協及び魚場にて標識放流魚の再捕報告の協力を呼びかけた。

(3) 調査の結果

① トラフグの漁場と漁獲

i) 操業時期と漁法

9月中旬から小型底曳網（エビコギ）で漁獲されるがトラフグは群で移動しているので一度にかたまって漁獲される。10月下旬にトラフグの漁獲量が下がる頃、小型底曳網漁業は11月の漁具漁法の切り替えにより漁獲対象物が変り、主にエビジャコ、メイタカレイ等の操業が行われようになる。新居浜沖のフグ延縄漁は15隻以内であるが、10月初旬から12月末までの30-40日が最盛期である。1月以降はトラフグが釣れなくなるため、漁業種類をかえる漁業者多い。

ii) 漁獲量

聞き取りでは、平成2年は燧灘では平成元年の約5倍、過去5年間で最も小フグ（100-200g）が多い年であったが、大フグの漁獲は平年の1割以下である。平成2年に小フグが多かったことにより、平成3年の11月の延縄漁には700-800gのフグの豊漁が期待できる。

iii) 単価

10月の小フグは4-5年前までは500円/kg位であったが、近年冷凍技術の向上により『ミガキフグ』（作業工程 頭部切断、内蔵除去、皮剥離）にして一次加工され需要時期に流通市場にだせるようになったため、平成2年は小フグが1500-2000円/kgになった。

② トラフグの生育場

i) 産卵場

漁業者から聞き取り調査の結果から産卵場は岡山県笠岡と香川県栗島の中間に位置する真鍋島、飛島付近。備後灘の岡山県沼隈郡横島沖の当木島付近。広島県尾道市向島西の岩子島付近。来島海峡の近くの愛媛県宮窪町の大島から西にある武志島付近にあると思われる。

ii) 稚魚の出現時期と場所

7月には香川県多度津町の白方沖500-600m、水深10-15m付近に2-5cmのトラフグの稚魚が出現し、9月初旬一下旬には多度津の瀬（七百瀬）に集まる。やがて燧灘一帯に拡散していくと推定できる。6-7月に岡山県笠岡市大島の小型定置網に3-4cmのトラフグの稚魚が入る。この付近は遠浅でクルマエビの稚エビが多く出現する海域である。この沿岸で育ったフグは水島灘から燧灘、備後灘一帯に拡散するものと推定できる。

iii) 大フグの移動

4-5月頃、香川県庵治沖から西へ直島諸島を通り備讃瀬戸から燧灘に移動する群と備讃瀬戸から水島灘にぬけ備後灘に入る群があるらしい。

iv) 越冬場所

香川県多度津の瀬は冬季に潜水漁業（ミルクイ漁、九州からくる）を操業中に20-25cmのトラフグがかなりの量で砂に潜っているのを確認している。当オフグの越冬漁場と推定できる。

v) その他

新居浜の延縄漁では、釣り上げられた直後のトラフグの腹側に泥が良く付着していることが多いのが平成2年の特色である。

③ トラフグの成長と食性

i) 成長

燧灘では、9月中旬から10月下旬までは小型底曳網で全長15-20cm、体重100-200gの小フグが漁獲されている。11月より底曳の漁具漁法を変えエビやカレイの漁にでるため、魚市場にはトラフグは減少する。12月初旬、はえなわ漁で全長23-27cm、体重300-500gの中フグが漁獲される。

ii) 食性

釣られた200-300gのトラフグはアナダコ（手長タコ）を口一杯に頬張っていることがある。また、アナジャコを船の生間で吐いていることからこれらの生物を海底で捕食していると思われる。

平成2年度 聞き取り調査（トラフグ）

【概要】瀬戸内海中部におけるトラフグの当歳～若齢魚を中心とした漁獲実態調査を実施した。調査期間は平成2年10月3日から12月8日までとし、延べ22回の調査を実施した。

- 1 調査日：平成2年10月3日
場所：香川県 東讃漁協
内容：〔操業実態〕小型底曳網に当才魚が多く漁獲されている。
測定：〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕9尾 〔サイズ〕全長16.7cm, 体長14.0cm, 体重89.0g
- 2 調査日：平成2年10月4日
場所：香川県 多度津魚市場
内容：〔標識魚の状態〕標識フグは天然魚に較べ痩せていて、尾柄部も痛んでいる。
〔流通〕当才魚のフグはムキ身にして販売している。
測定：なし
- 3 調査日：平成2年10月9日
場所：香川県 観音寺地方卸売市場
内容：〔操業実態〕9月初旬から小型底曳網（エビコギ）で漁獲されている（全長約10cm）。
〔流通〕地元では、商品価値のない小フグを飼炊や干物についていたが、現在では加工業者が冬の鍋用として冷凍保管している。小フグを出買船が集め下津井から下関に送る。5月に掛網で漁獲されるフグは冷凍用。
測定：〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕10尾 〔サイズ〕全長18.6cm, 体長15.7cm, 体重138.0g
- 4 調査日：平成2年10月12日
場所：香川県 丸亀市漁協
内容：〔操業実態〕小型底曳網で漁獲される小フグの漁獲量は昨年の5倍。大フグの漁獲量は平年より減少。小潮での操業はフグが散らばり漁獲量が少ない。
〔漁場〕佐柳島と二面島の間の瀬（通称あしまの瀬）
〔標識魚の状態〕栗島で放流すれば三崎半島と六島の間が潮の合流点であり標識フグが集まる。
〔生態〕7月初旬、白方の沖500m, 水深10～15m付近に全長2～5cmの稚魚が棲息している。9月初旬から下旬には、全長13～18cmに成長し多度津沖（通称七百瀬）に移動する。冬にミリクイ漁の潜水夫がこの漁場で越冬し

ているフグ（全長20～25cm）を見ている。

大フグは5～6月に三ツ子橋（与島～沙弥島）の近くを離れない。

- 5 調査日：平成2年10月12日
場所：香川県 多度津魚市場
内容：〔標識魚の状態〕標識フグは天然魚に較べ小さい。
〔標識魚の計測〕〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕1尾 〔サイズ〕全長16.0cm, 体長14.3cm, 体重100.0g
- 6 測定：〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕13尾 〔サイズ〕全長19.0cm, 体長15.8cm, 体重126.0g
〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕10尾 〔サイズ〕全長19.3cm, 体長15.8cm, 体重132.0g
- 6 調査日：平成2年10月16日
場所：香川県 観音寺地方卸売市場
内容：〔操業実態〕小型底曳網（大浜漁協）の小フグの漁獲量は約7kg。
〔漁場〕宇治島周辺
測定：〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕21尾 〔サイズ〕全長20.4cm, 体長17.1cm, 体重160.7g
- 7 調査日：平成2年10月16日
場所：香川県 観音寺漁協魚市場
内容：〔操業実態〕小型底曳網で漁獲する小フグは昼間の操業に多い。昨年よりサイズは大きく漁獲量も多い。
- 8 調査日：平成2年10月16日
場所：愛媛県 川之江漁協魚市場
内容：〔生態〕小型底曳網で漁獲した小フグは白イカを食べていた。
- 9 調査日：平成2年10月17日
場所：香川県 丸亀市漁協
測定：〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕15尾 〔サイズ〕全長19.6cm, 体長16.3cm, 体重143.3g
- 10 調査日：平成2年10月17日
場所：香川県 引田漁協
測定：〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕3尾 〔サイズ〕全長19.3cm, 体長16.6cm, 体重126.6g
- 11 調査日：平成2年10月24日

- 場 所：岡山県 笠岡魚市場
内 容：〔漁場〕大フグは多度津の高見島付近に多い。
測 定：〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕16尾 〔サイズ〕全長20.9cm, 体長17.4cm, 体重155.6g
- 12 調査日：平成2年10月24日
場 所：岡山県 笠岡市大島漁協魚市場
内 容：〔操業実態〕現在チェーンコギだが11月からケタコギ（コックリマンガ）にかわるため小フグの漁獲量は少なくなる。
〔漁場〕走島～大飛島。
〔標識魚の状態〕標識フグの尾柄部はほとんどとろけている。
- 13 調査日：平成2年10月24日
場 所：広島県 横島漁協
内 容：〔操業実態〕走島のバッチ網は小フグを300kg/日も漁獲している。小さな漁場に500隻の底曳船がひしめきあっている状態で乱獲している。漁業権が入り交じっているので統制がとりにくい。瀬戸内海の活性化の為に共済掛金をして休漁をするべきである。資源管理型漁業の実践は休漁しかない（組合長）。
- 14 調査日：平成2年10月25日
場 所：香川県 多度津魚市場
内 容：〔操業実態〕小型底曳船（詫間漁協）の主な漁獲物はエビジャコでカレイ、チヌ、コチ、アイナメ、シズ、タコ、ガザミ、イシガニ等を漁獲している。小フグは約20尾程である。
〔標識魚の状態〕標識フグは天然魚に較べ小さくかなりの差が生じている。
〔標識魚の計測〕〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕2尾 〔サイズ〕全長15.9cm, 体長13.9cm, 体重72.5g
測 定：〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕17尾 〔サイズ〕全長21.3cm, 体長17.8cm, 体重164.7g
- 15 調査日：平成2年10月26日
場 所：愛媛県 新居浜漁協魚市場
内 容：〔操業実態〕小型底曳船は小フグを獲る為にエビコギより網をやや上で曳くように改良している（フグコギ）。
〔流通〕小フグが売れる原因のひとつにフグの皮を食べる習慣がある。新居浜から出荷され松山で流行している。食べ方は皮に酢とからしをつけて食べる。小料理屋では必需品となっている。
〔単価〕2000円/kg
〔生態〕漁獲されている小フグ（体重200～300g）はテナガタコ（アナダコ）を口一杯にほうばっている。
- 16 豊浜港沖に小フグがいると必ず新居浜沖のフグ漁は期待できる。
〔歯切りの方法〕下歯を深く切ると生きにくい。下歯の一部だけ切っている。
測 定：〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕16尾 〔サイズ〕全長20.6cm, 体長18.3cm, 体重188.7g
- 17 調査日：平成2年10月29日
場 所：香川県 観音寺地方卸売市場
内 容：〔操業実態〕11月から小型底曳網の漁具がエビコギから鉄管コギにかわるため小フグの漁獲量は減少する。
〔漁場〕三崎沖
測 定：〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕21尾 〔サイズ〕全長21.3cm, 体長17.7cm, 体重180.7g
- 18 調査日：平成2年12月7日
場 所：愛媛県 新居浜漁協魚市場
内 容：〔操業実態〕延縄 9月初旬から操業が始まり10月中旬でフグ減少し12月末で終漁する。フグ縄が終漁し春になるとイカ巣漁となる。1当り漁獲量は16kg前後。3月末から伊予の上灘、下灘で400～500gのフグが釣れる。
〔生態〕今年はフグの腹に泥が付着している場合が多い。
測 定：〔漁法〕小型底曳網 〔測定数〕10尾 〔サイズ〕全長25.6cm, 体長20.9cm, 体重314.g
- 19 調査日：平成2年12月7日
場 所：愛媛県 上灘漁協
内 容：〔操業実態〕4月になると産卵フグが海底についているので底曳網で漁獲される。産卵時期のフグは延縄では釣れない。7～8年前は300g前後のフグが春先に釣れた。
〔価格〕小フグ（300～400g） 2800円/kg, 大フグ（1.7kg） 24000円/kg
- 20 調査日：平成2年12月7日
場 所：愛媛県 下灘漁協
内 容：〔操業実態〕大フグの最盛期は11月中旬。水温が高い時のエサはサンマ

を使用する。現在はイカを使用している。

21 調査日：平成2年12月7日

場 所：愛媛県 長浜漁協

内 容：〔漁場〕青島を越えると上下に真っ直ぐな潮が流れ、青島をかわると丘に差込む。

〔生態〕豊後水道より上ってくる2~3kgのフグは棲みつき育つ。底についている。

22 調査日：平成2年12月8日

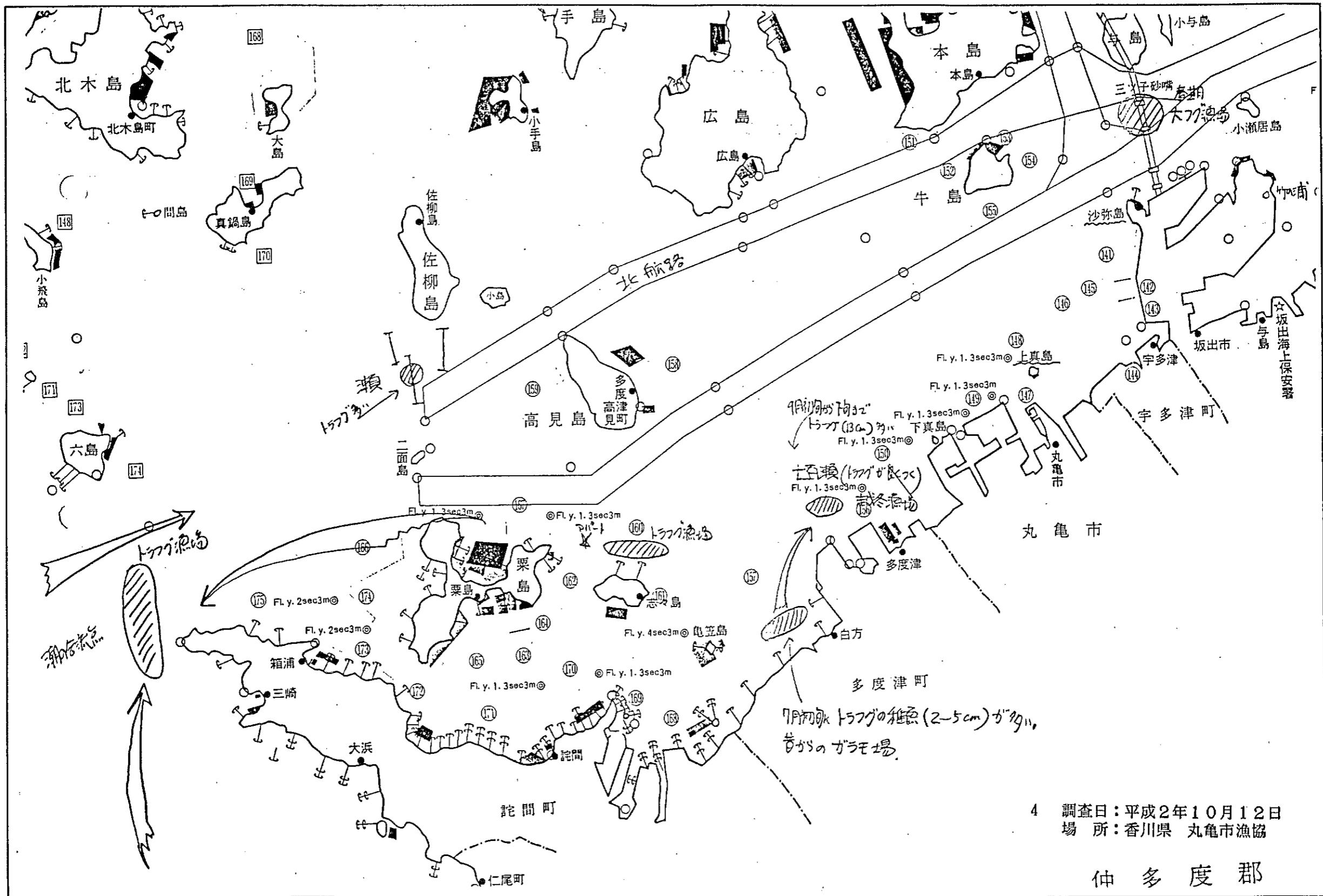
場 所：愛媛県 新居浜漁協 延縄船乗船

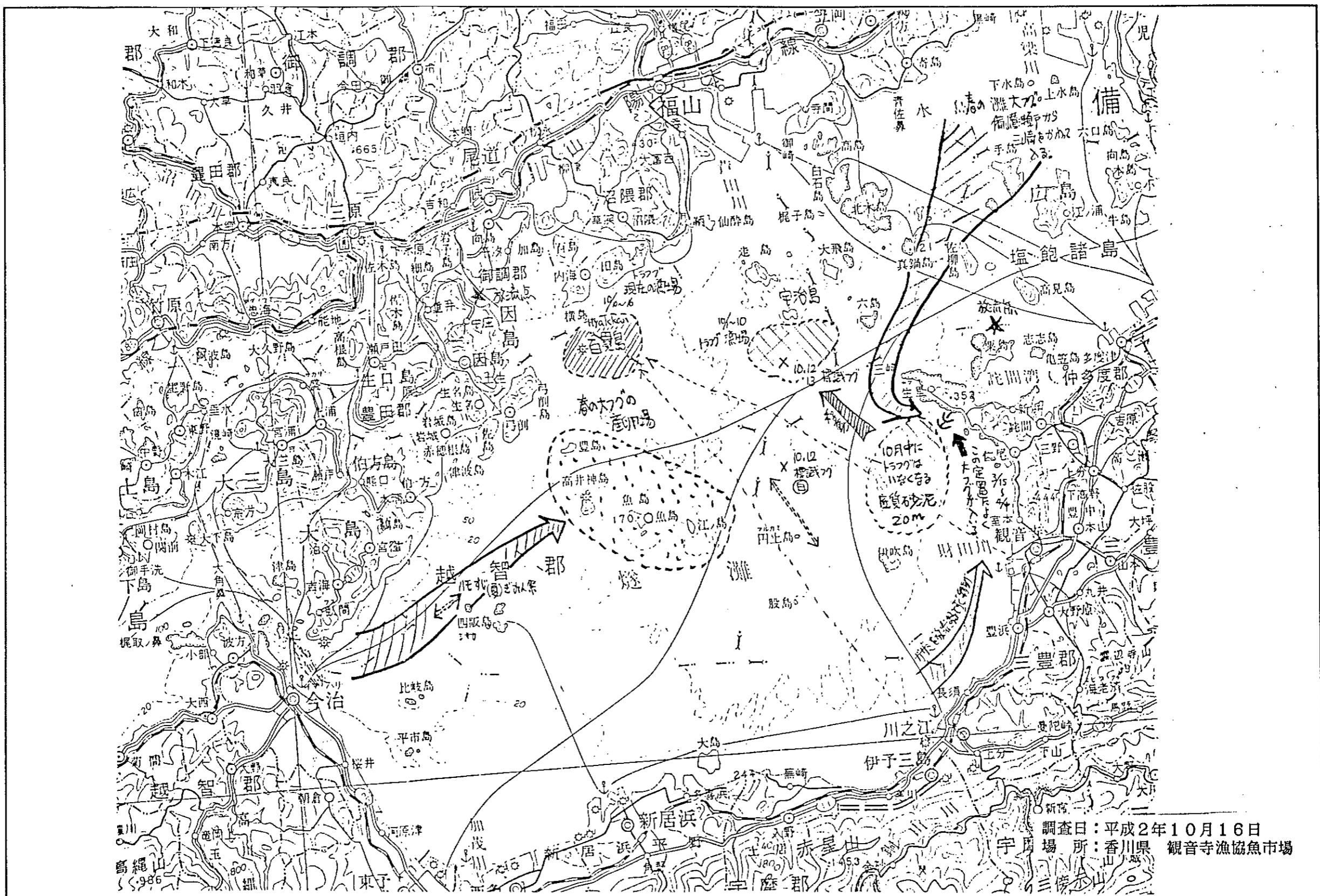
内 容：〔操業実態〕小型底曳網漁船の操業していない土曜日に広範囲に縄を入れ、フグのいる漁場を探しておき翌日に縄をいれる参考にする。潮が上潮から下潮に变ろうとする時餌をよく喰う。底曳網が操業すると海が濁りシャコができるので餌をとられる。太陽が出ると餌をシャコにとられない。北西の風が良いが東の風、山ぜ、雨になると釣れない。釣り落としが多い時は潮がおちている時にあたる（フグが餌を少しだけくわえている）。

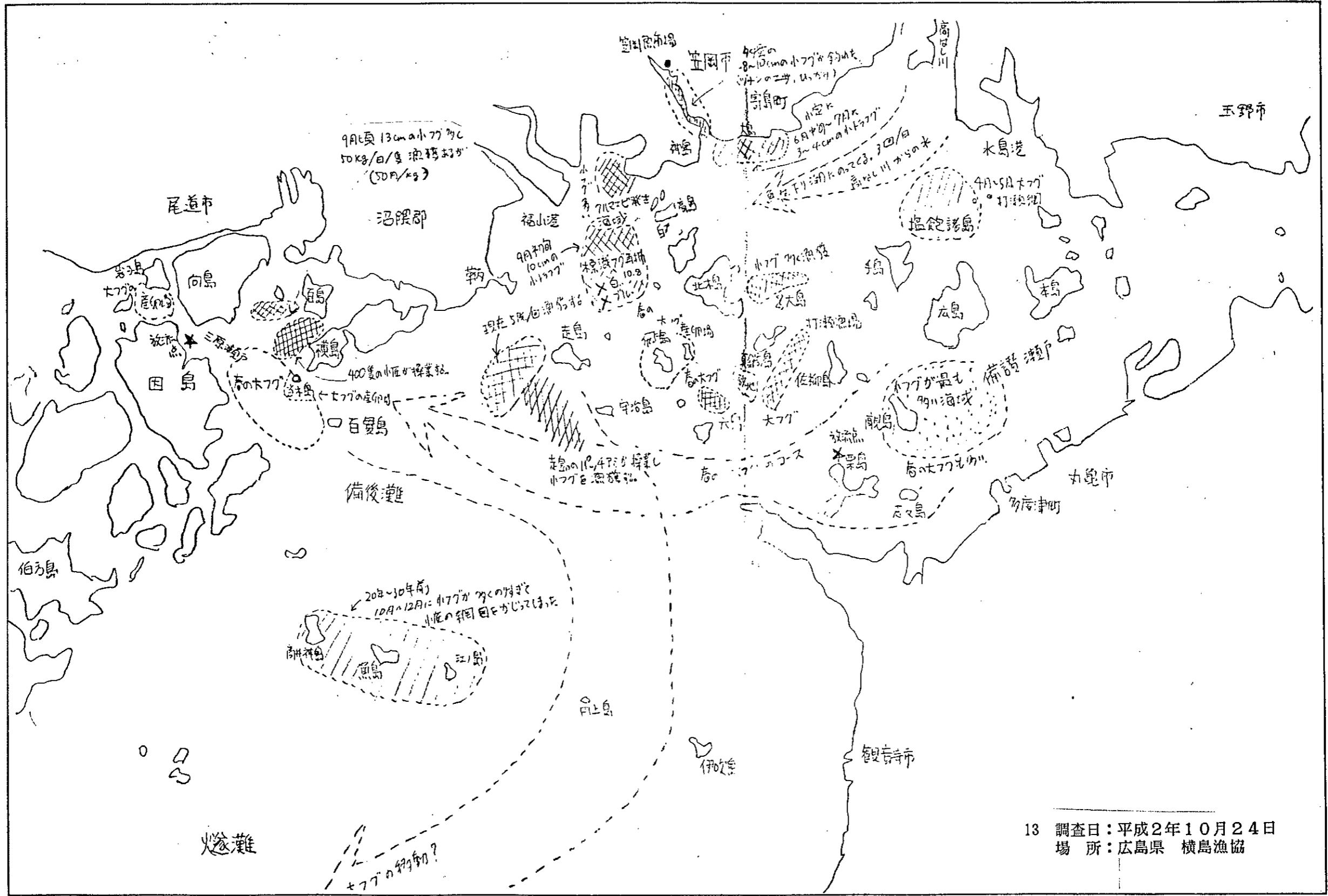
〔漁場〕新居浜から観音寺沖の水深25m付近で操業。底質のベタベタしている漁場、四つ手ヒトデのいるところ漁場にはフグがない。きれいな砂地を好む。水深は浅い場所から深い場所までの中间位が良い。エソの多い場所は低質が硬い。

〔価格〕昨年は500~600gで6000円/kg, 700~900gで9000円/kg。今年は半値。

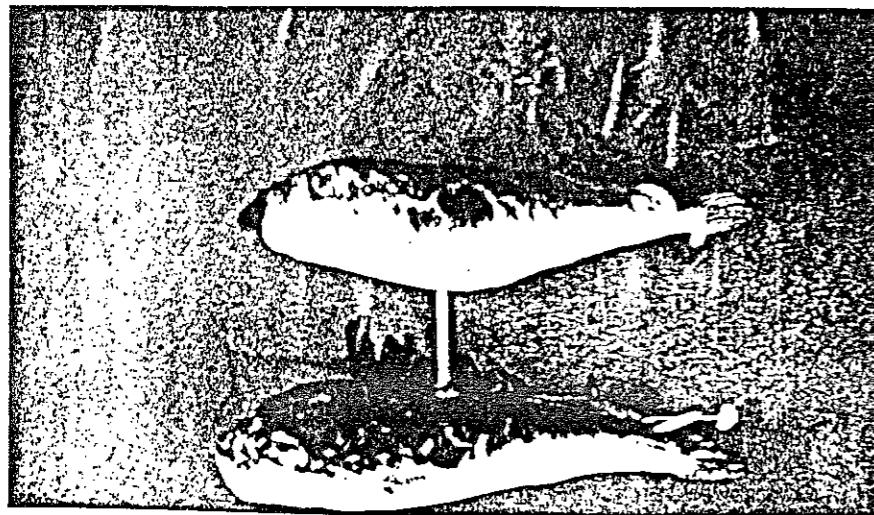
〔生態〕フグは歯を大切にする。アナジャコを食べている。







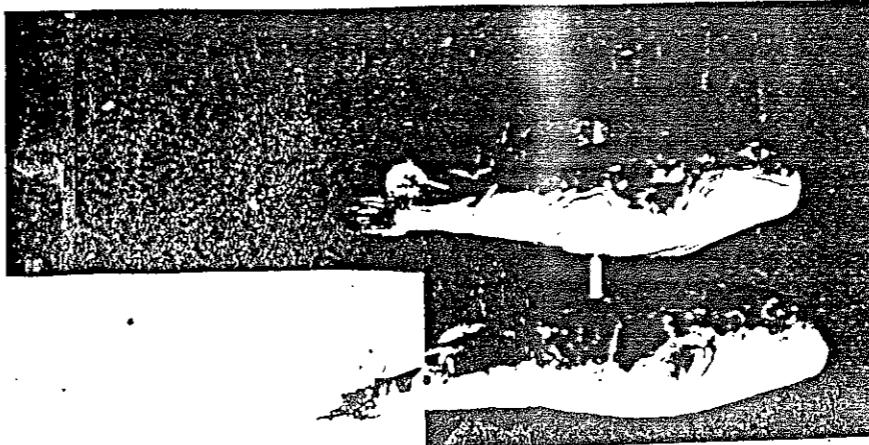
13 調査日：平成2年10月24日
場 所：広島県 横島漁協



20 25 30

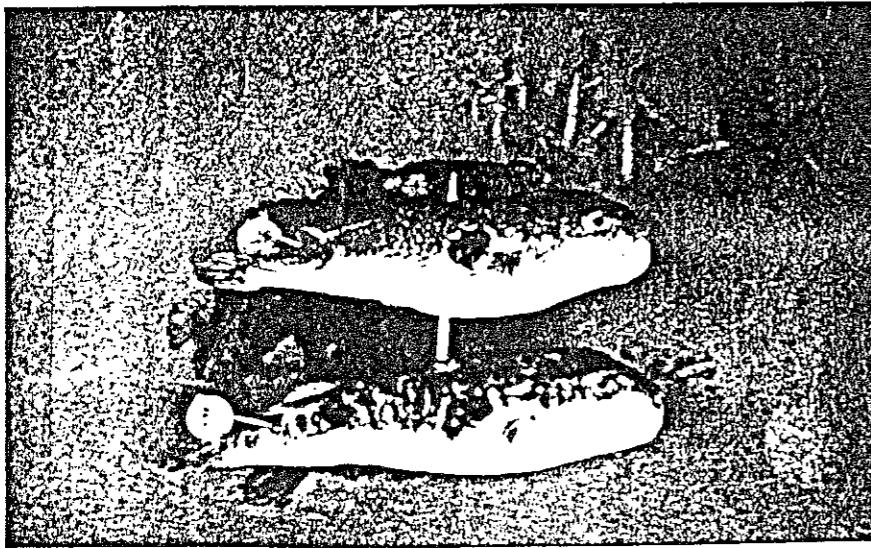
Date	/
Year	/

下のアグの尾ビレ
がタグによく傷
ついています。
中には全く尾
ビレが無くな
って再捕され
た遊泳能力



3

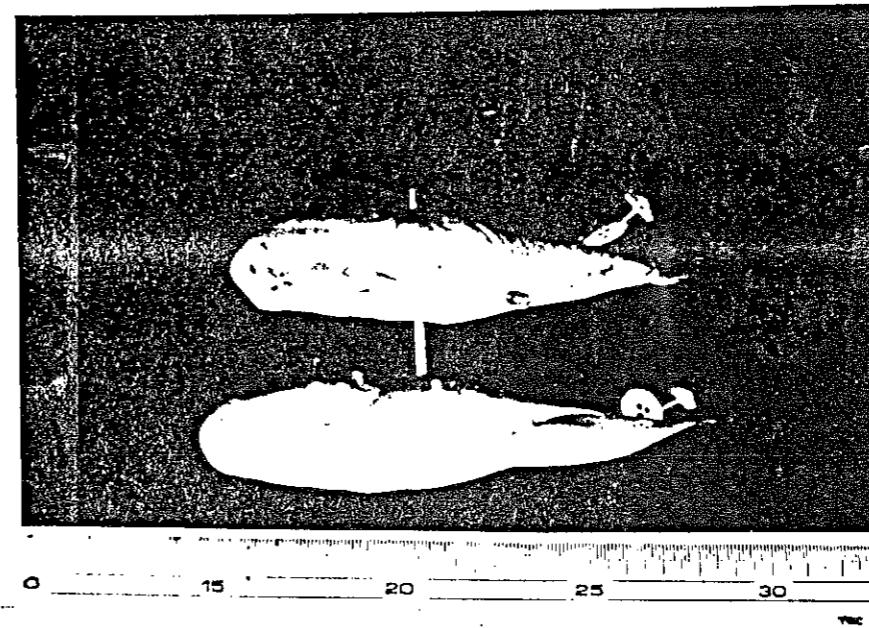
7月13日で
す。下のアグの
尾は稚鰐を
指で落してお
ります。



20 25 30

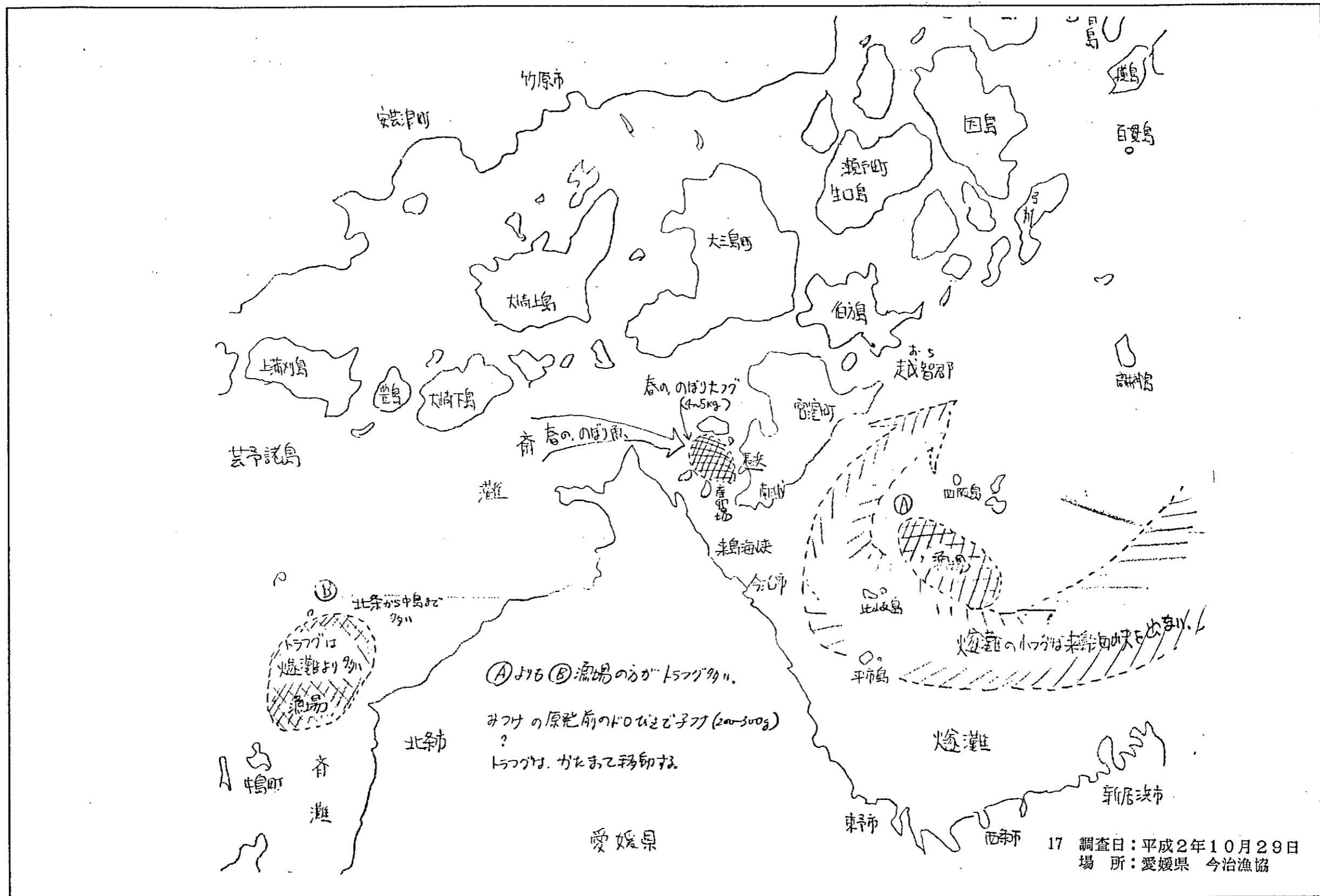
Date	2
Year	/

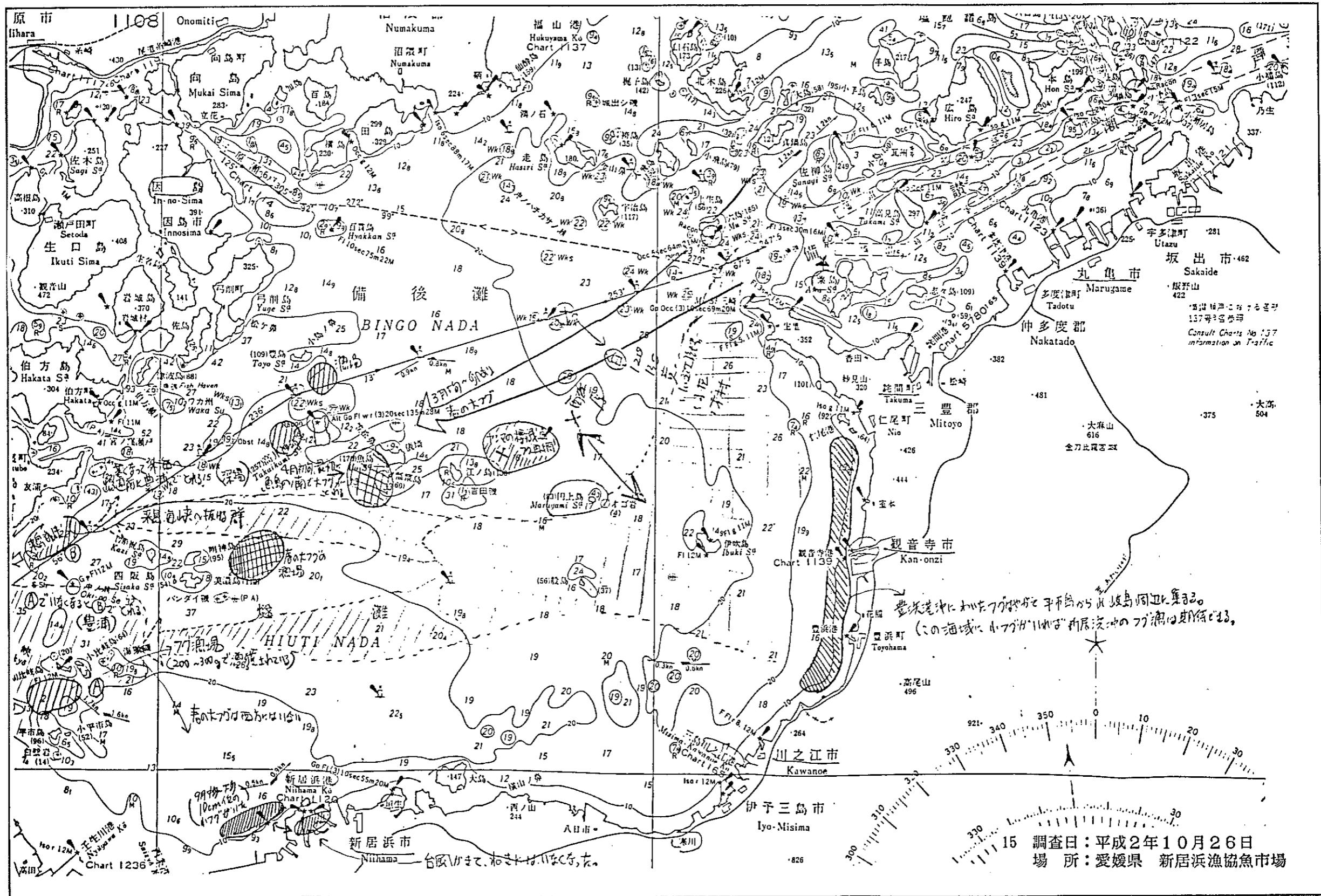
も落ちて、今
アグの状況は
どうです。
また、タグに
は稚鰐類が着
き、長い物は
1cm前後でした



4

上のアグは尾ビ
れは健全なうじ
ですが、腹部から
胸部にかけて
出血のためか
赤変しており
ます。





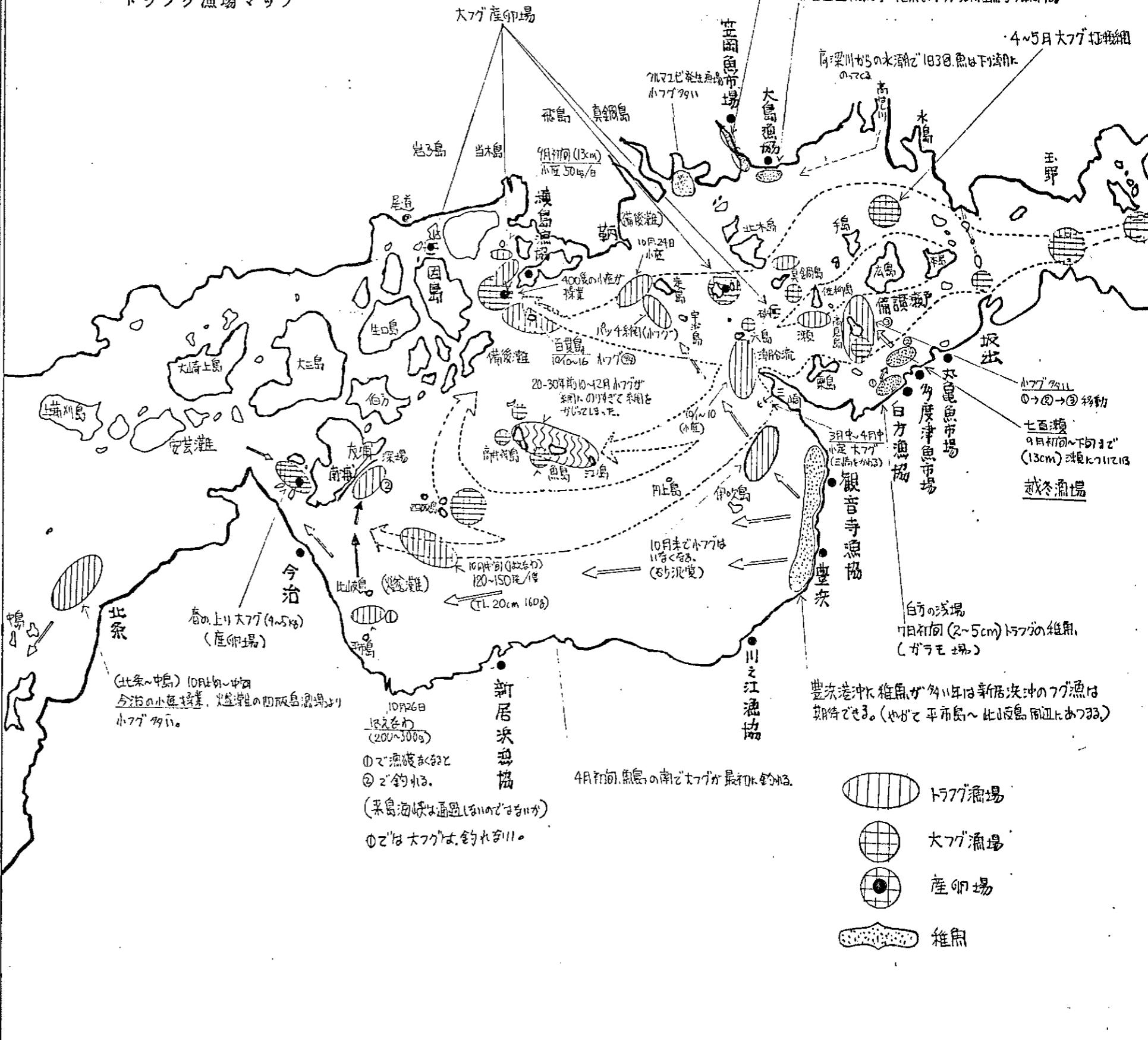
8~10cmの小フグが、ツナのエサとなり、かけて釣れる。

6月中旬~7月初旬

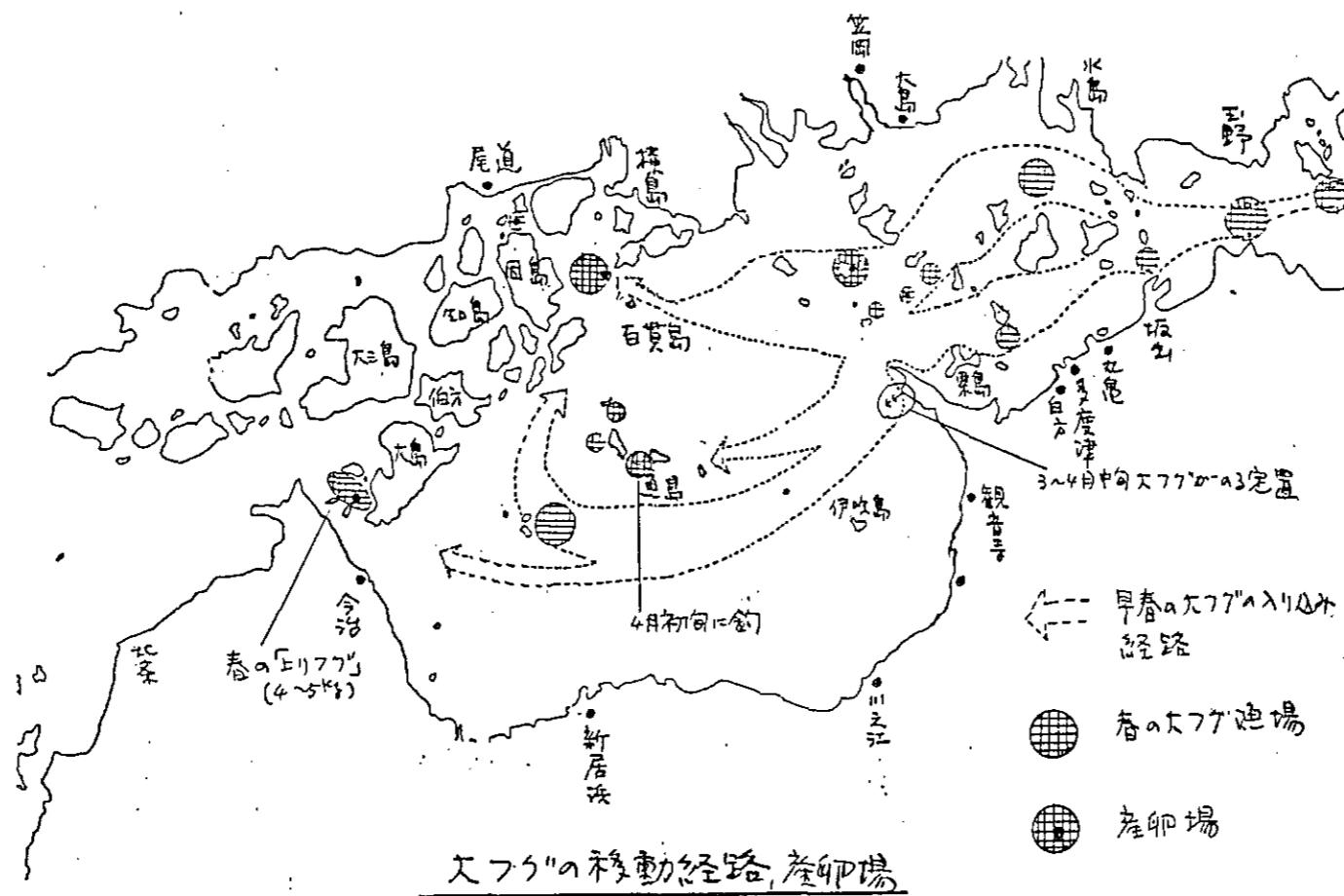
小型定置網で3~4cmのトラフグの稚魚が入網する。

4~5月大フグ捕獲網

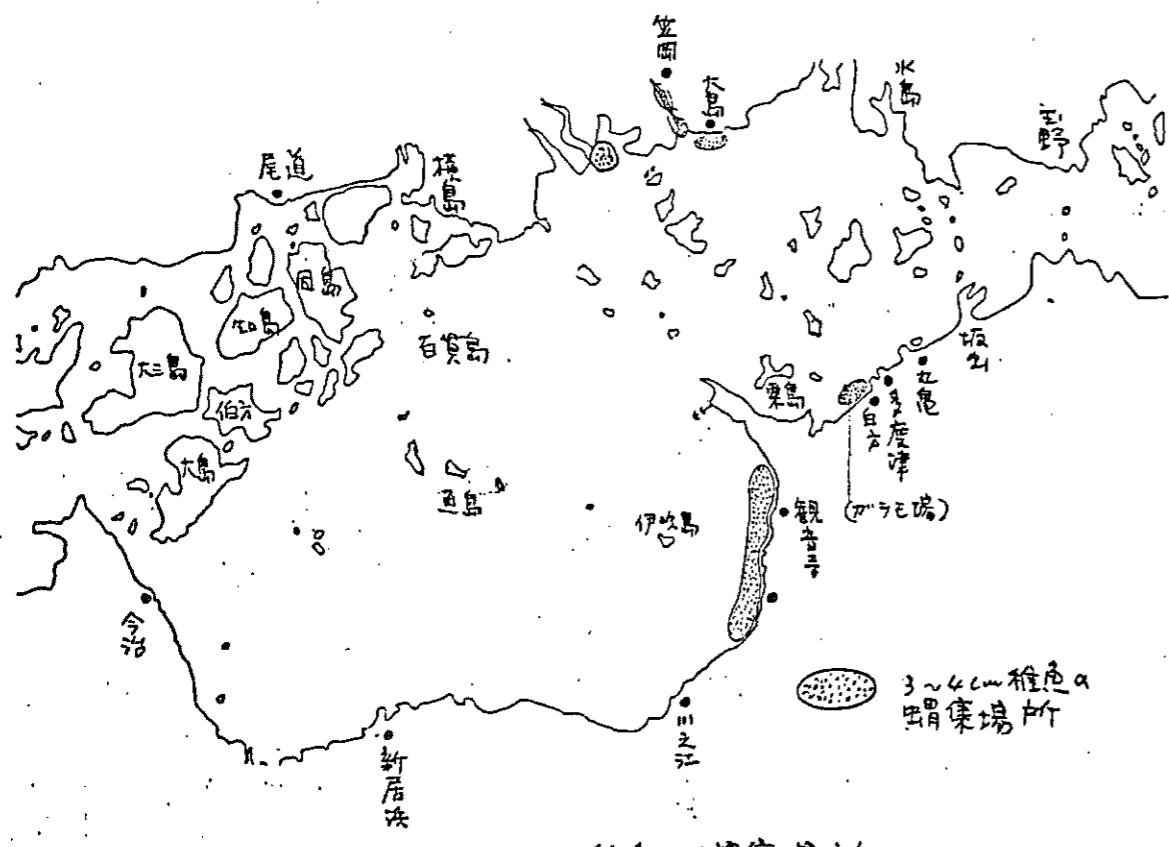
高梁川からの水潮が103日魚は下潮期



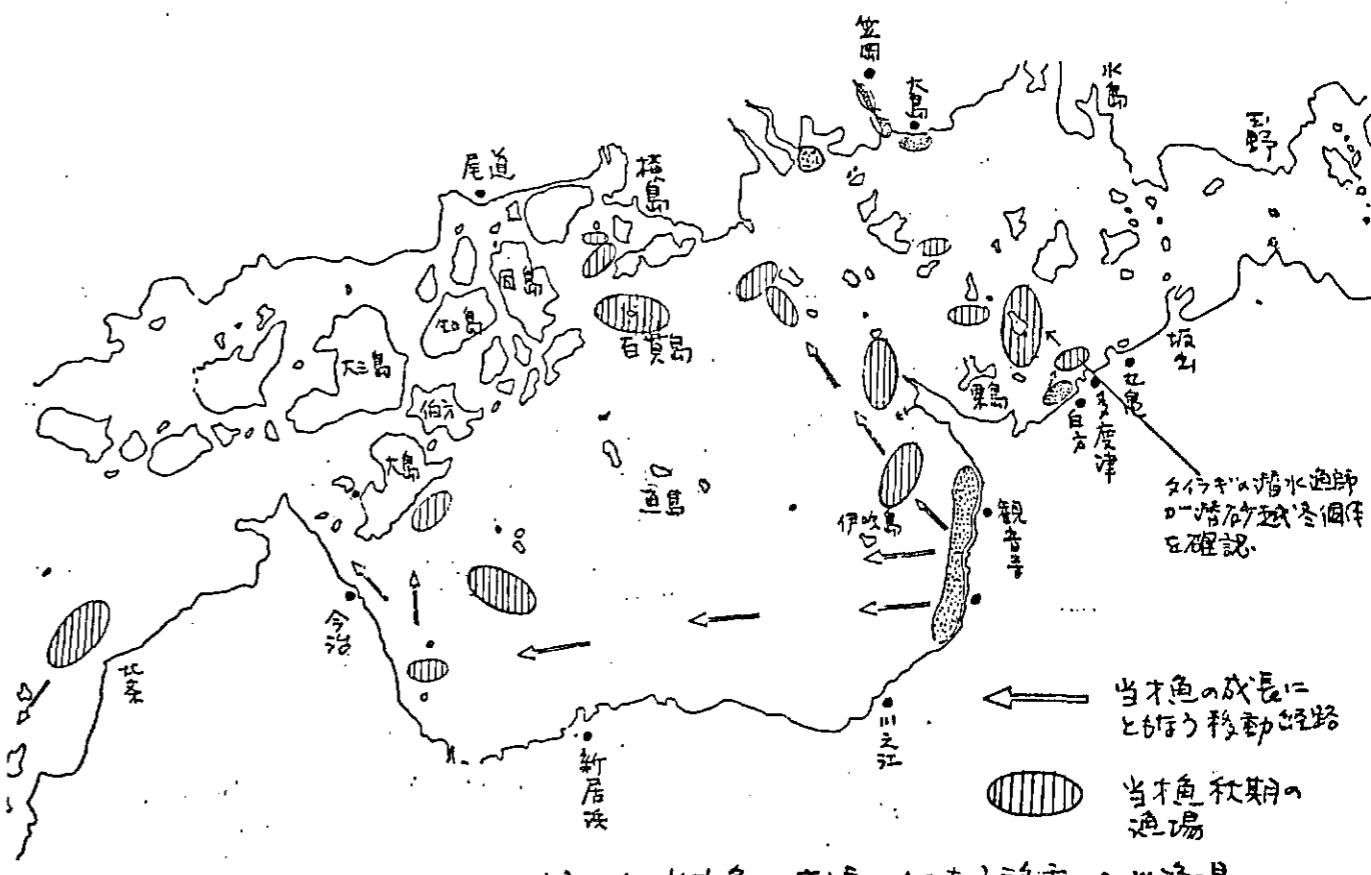
市場調査からのトフサ
漁場マップ



トフサの移動ルート、産卵場

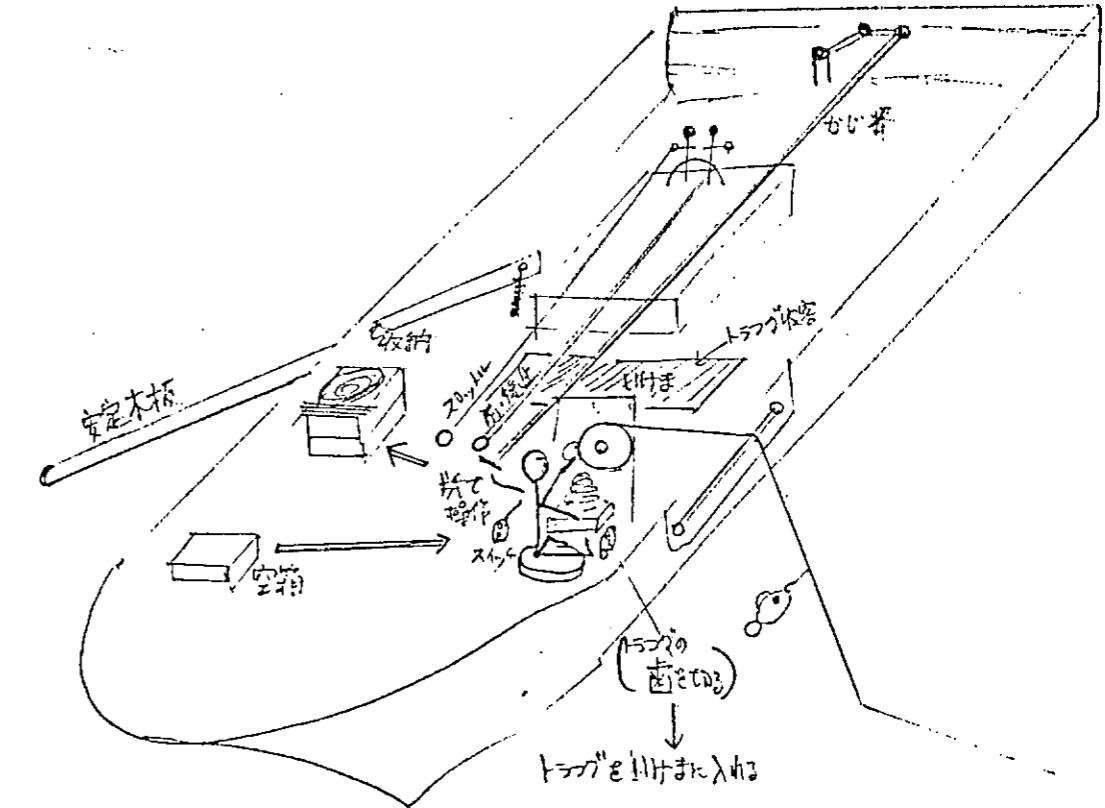
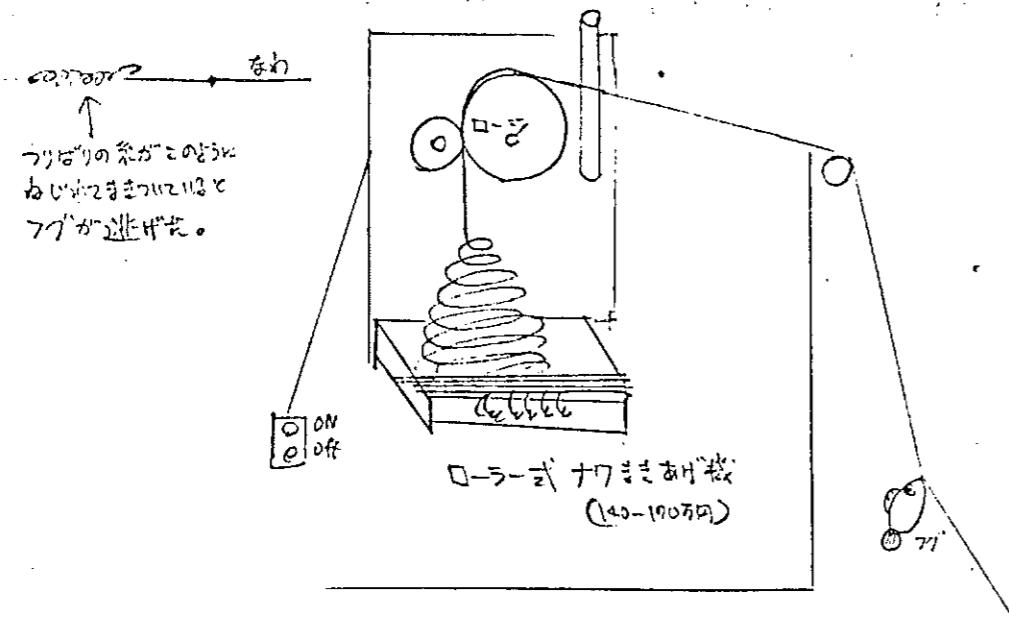


トフサ稚魚の産卵集場

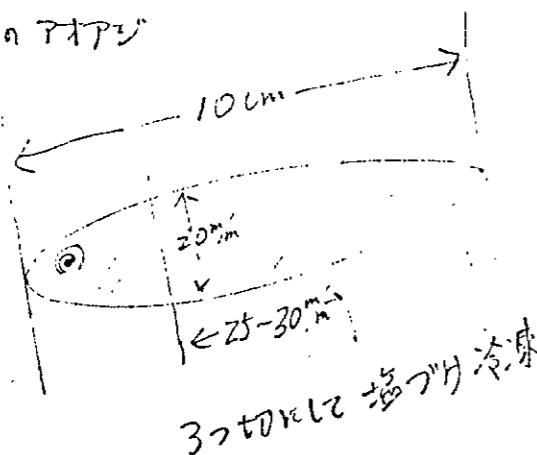


トフサ当才魚の成長による移動ルート及び漁場

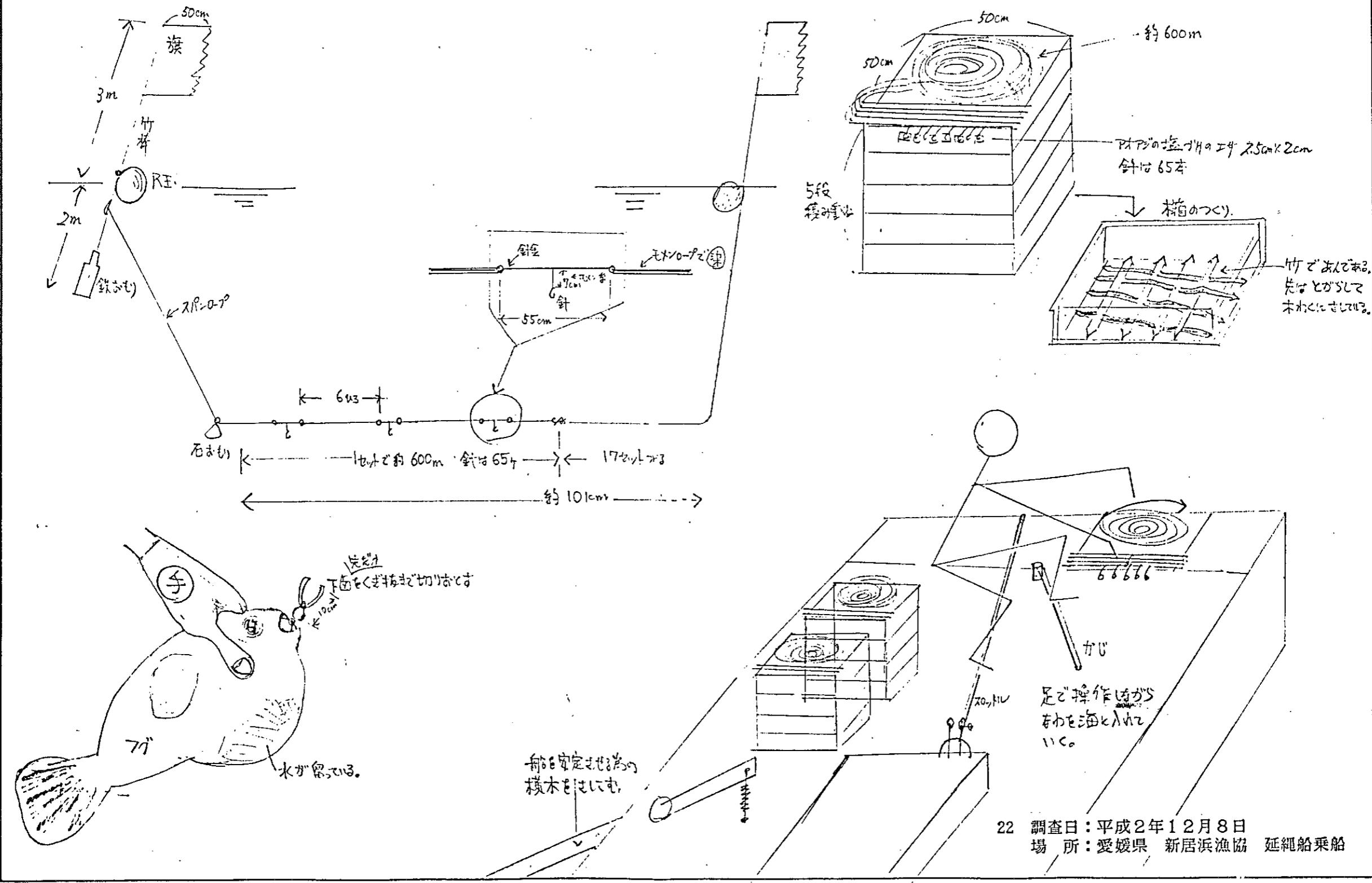
スケッチ NO.2.



エアコンピュ

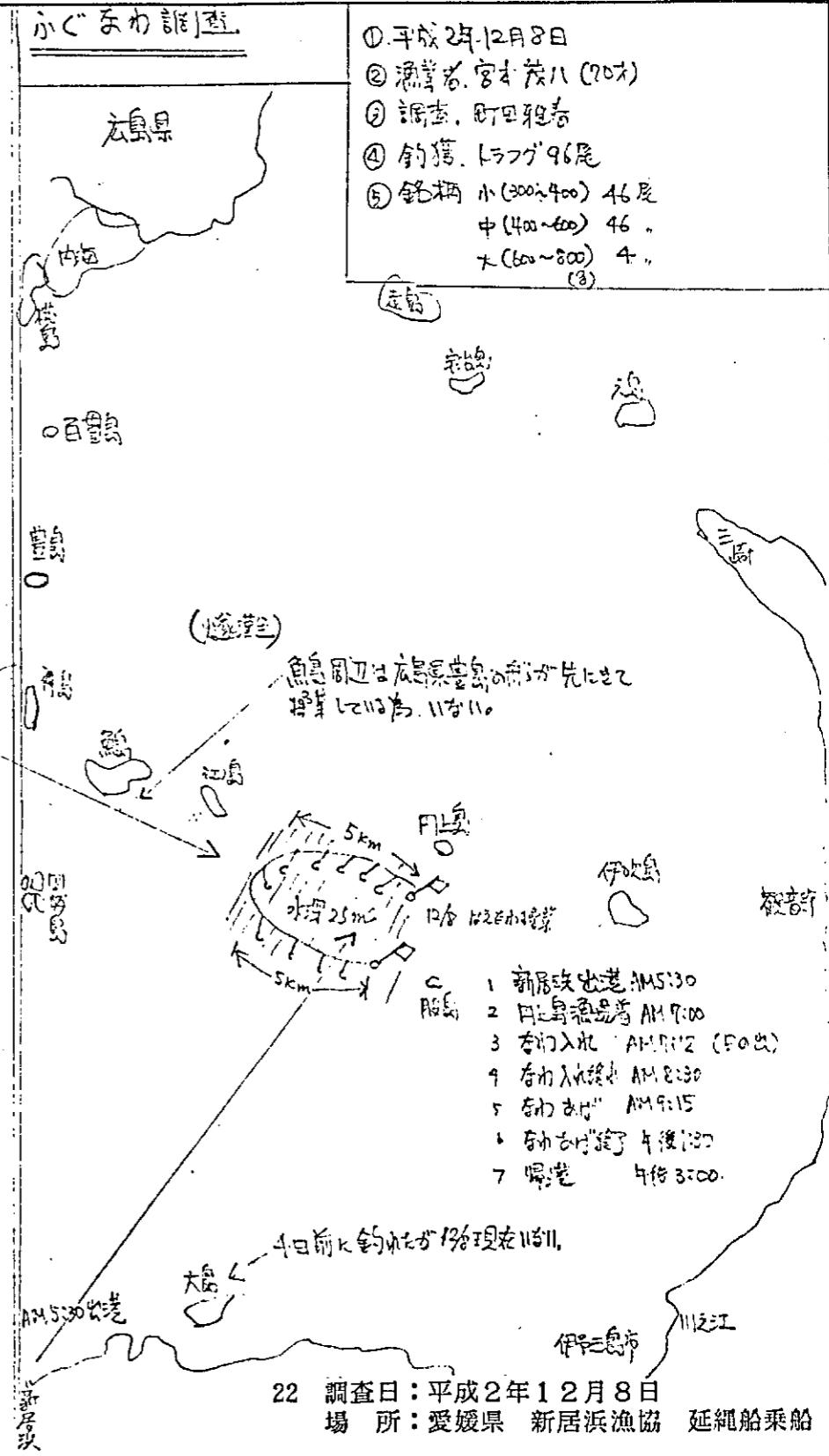
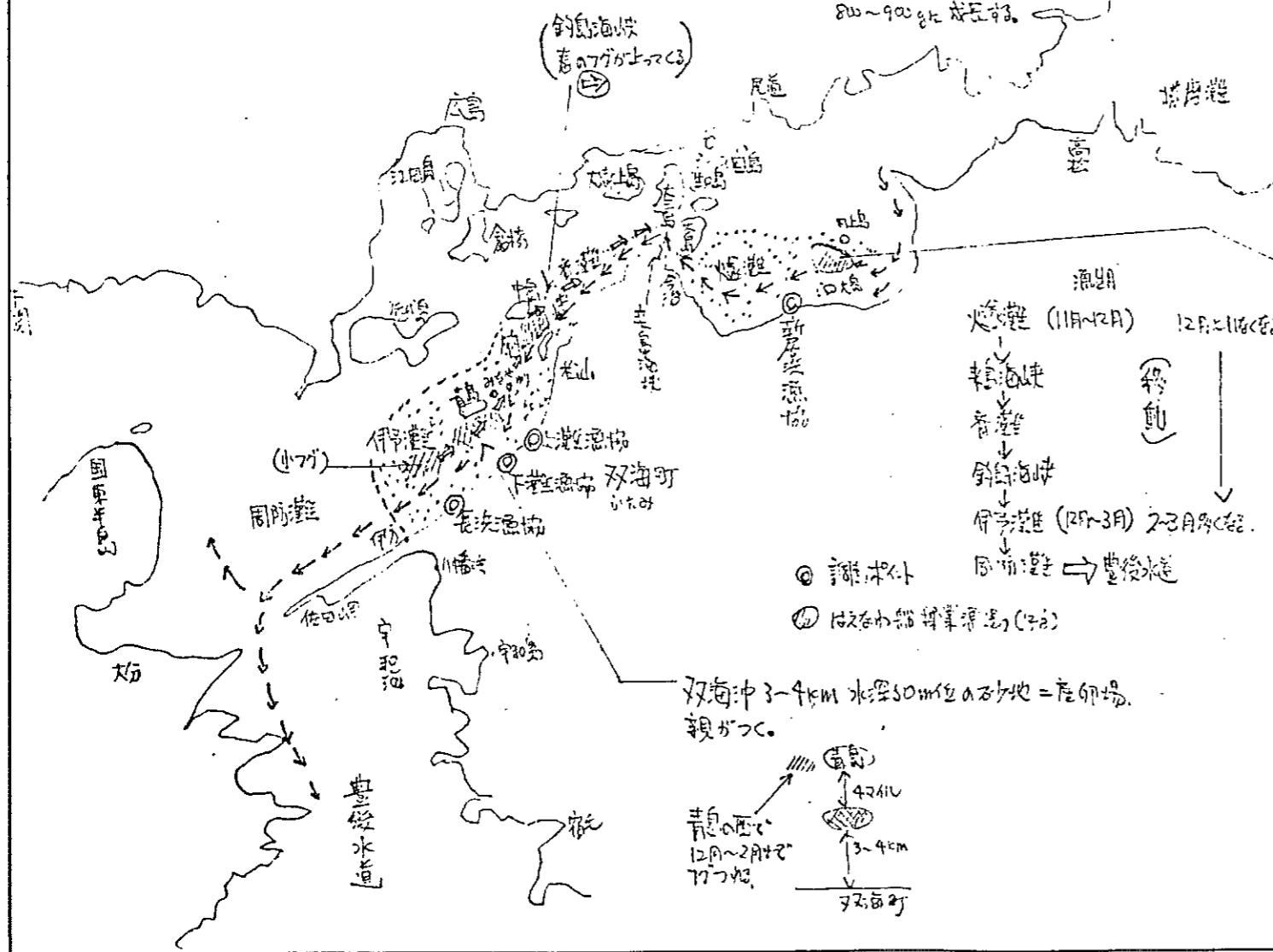


(スケッチ)

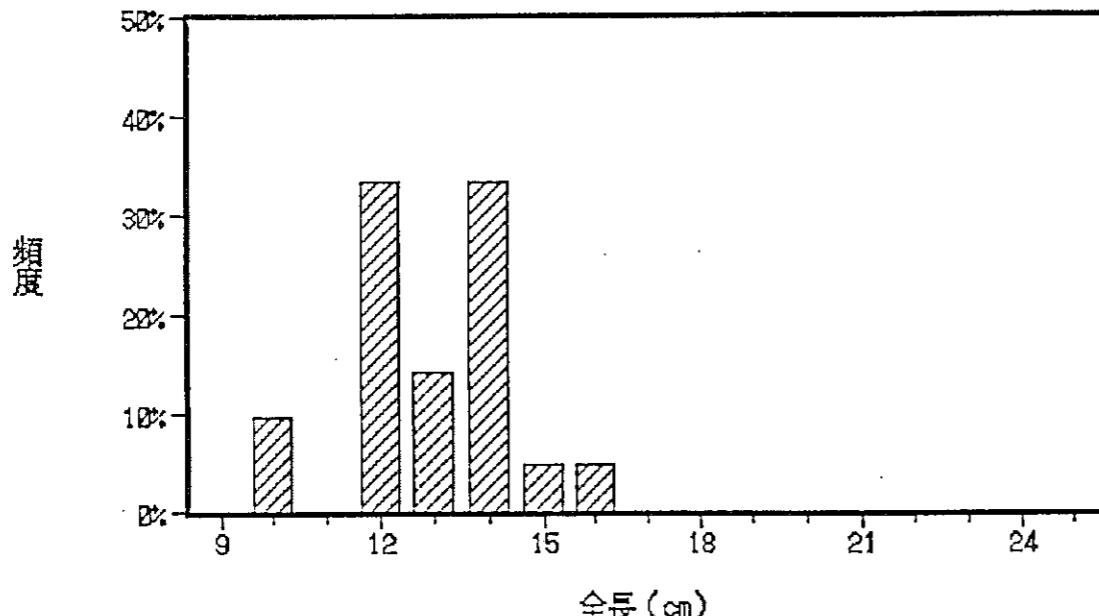


トフグの行動

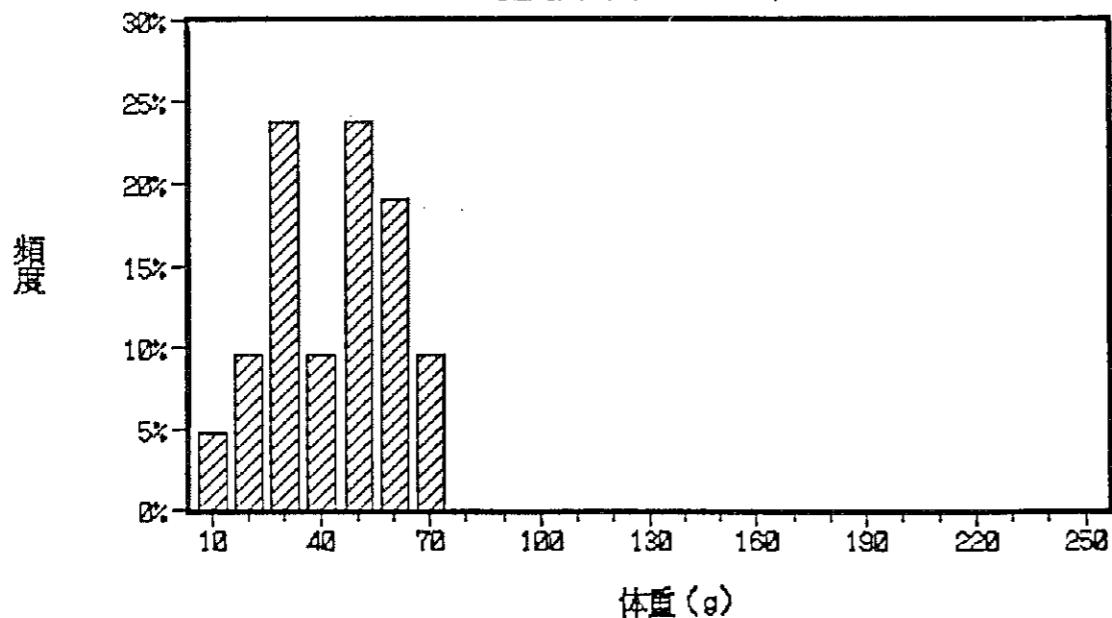
- ・ 鮎港で11月~12月にトフグは一部減るが
伊予港で2月~3月頃にとれる。移動して
いたと思われる。
- ・ 秋の小フグは今季漁獲には少なかった。
鮎港等、大きめが多。
- ・ 鮎港でのトフグは翌年11月に
800~900尾が成る。



トラフグ漁獲組成(小型定置網)
笠岡大島(1991.10.7)



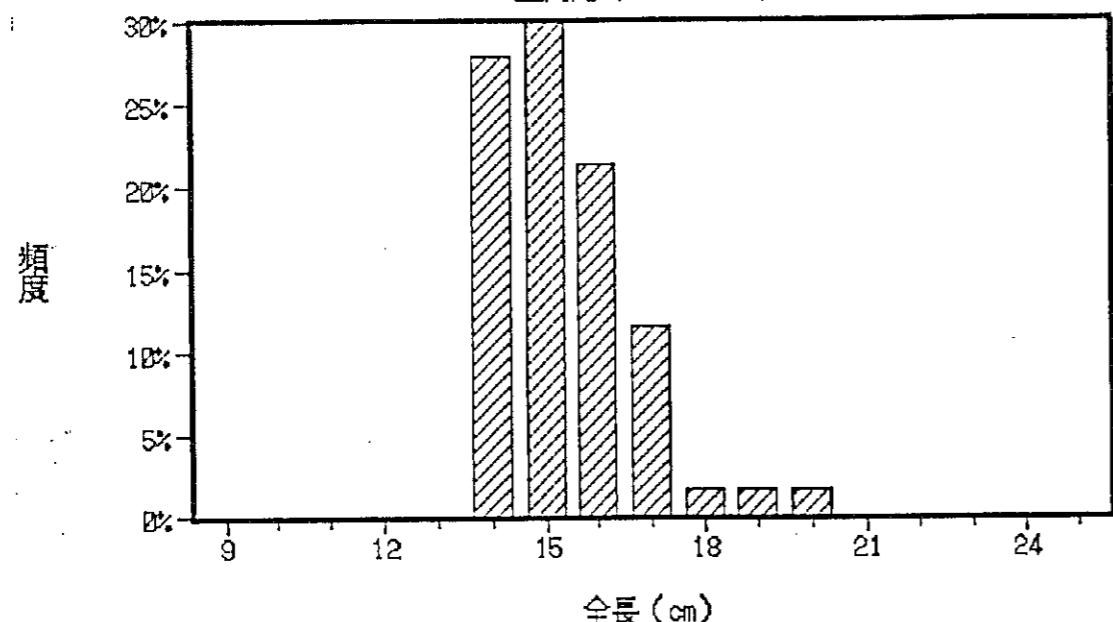
トラフグ漁獲組成(小型定置網)
笠岡大島(1991.10.7)



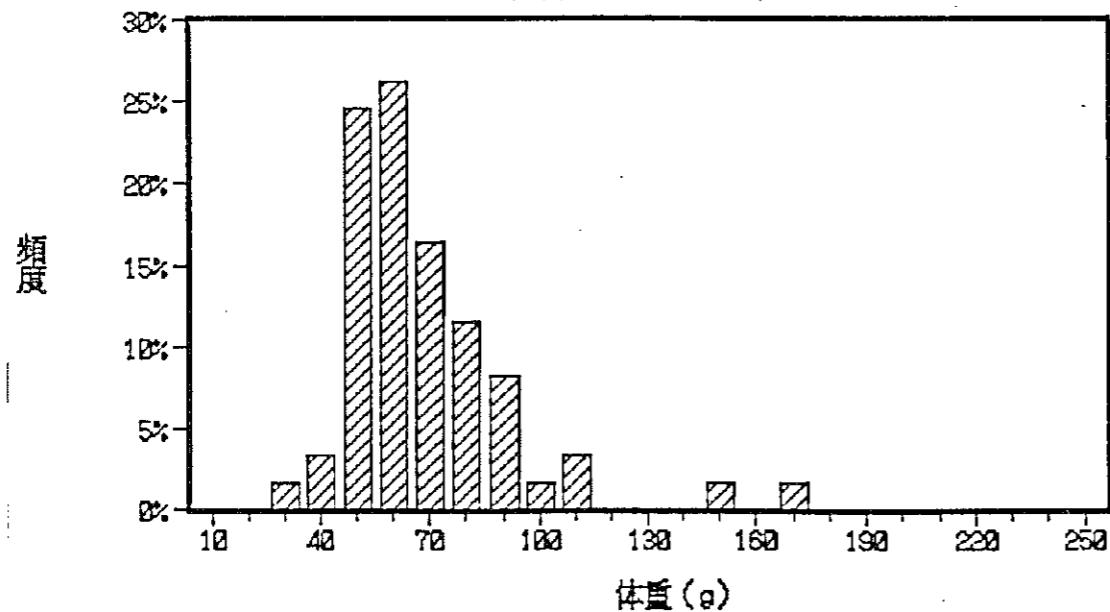
全長	体長	体重	全長	階級	尾数	割合	体重	階級	尾数	割合	
1 10.4	8.5	28	9 ~ 9.9	0	0	10 ~ 18.9	2	0.095	18 ~ 18.9	1	0.047
2 10.7	8.8	15	10 ~ 11.9	0	0	18 ~ 29.9	2	0.095	20 ~ 29.9	2	0.095
3 12.2	10	38	11 ~ 12.9	7	0.333	30 ~ 39.9	5	0.238	30 ~ 39.9	5	0.238
4 12.3	10.3	40	12 ~ 13.9	3	0.142	40 ~ 49.9	2	0.095	40 ~ 49.9	2	0.095
5 12.5	10.2	38	13 ~ 14.9	7	0.333	50 ~ 59.9	5	0.238	50 ~ 59.9	5	0.238
6 12.5	10	38	14 ~ 15.9	1	0.047	60 ~ 69.9	4	0.190	60 ~ 69.9	4	0.190
7 12.5	10	35	15 ~ 16.9	1	0.047	70 ~ 79.9	2	0.095	70 ~ 79.9	2	0.095
8 12.5	10.4	26	16 ~ 17.9	0	0	80 ~ 89.9	0	0	80 ~ 89.9	0	0
9 12.7	10.5	35	17 ~ 18.9	0	0	90 ~ 99.9	0	0	90 ~ 99.9	0	0
10 13	10.6	48	18 ~ 19.9	0	0	100 ~ 109.9	0	0	100 ~ 109.9	0	0
11 13.5	11	58	19 ~ 19.9	0	0	110 ~ 119.9	0	0	110 ~ 119.9	0	0
12 13.5	11.2	58	20 ~ 20.9	0	0	120 ~ 129.9	0	0	120 ~ 129.9	0	0
13 14.2	12	58	21 ~ 21.9	0	0	130 ~ 139.9	0	0	130 ~ 139.9	0	0
14 14.2	12	55	22 ~ 22.9	0	0	140 ~ 149.9	0	0	140 ~ 149.9	0	0
15 14.3	12.3	68	23 ~ 23.9	0	0	150 ~ 159.9	0	0	150 ~ 159.9	0	0
16 14.5	12.5	68	24 ~ 24.9	0	0	160 ~ 169.9	0	0	160 ~ 169.9	0	0
17 14.5	12	58	25 ~ 25.9	0	0	170 ~ 179.9	0	0	170 ~ 179.9	0	0
18 14.5	12.5	68	avg 12.76	10.62	42.72	180 ~ 189.9	0	0	180 ~ 189.9	0	0
19 14.9	12.5	78	min 10.4	8.5	15	190 ~ 199.9	0	0	190 ~ 199.9	0	0
20 15.5	13	65	max 16	13.5	78	200 ~ 209.9	0	0	200 ~ 209.9	0	0
21 16	13.5	78				210 ~ 219.9	0	0	210 ~ 219.9	0	0
						220 ~ 229.9	0	0	220 ~ 229.9	0	0
						230 ~ 239.9	0	0	230 ~ 239.9	0	0
						240 ~ 249.9	0	0	240 ~ 249.9	0	0
						250 ~ 259.9	0	0	250 ~ 259.9	0	0

トラフグ調査
H3.10.7
am5:00
笠岡大島漁協魚市場
笠岡大島漁協
小型定置網
笠岡沖

トラフグ漁獲組成(小型底曳網)
笠岡湾(1991.10.7)



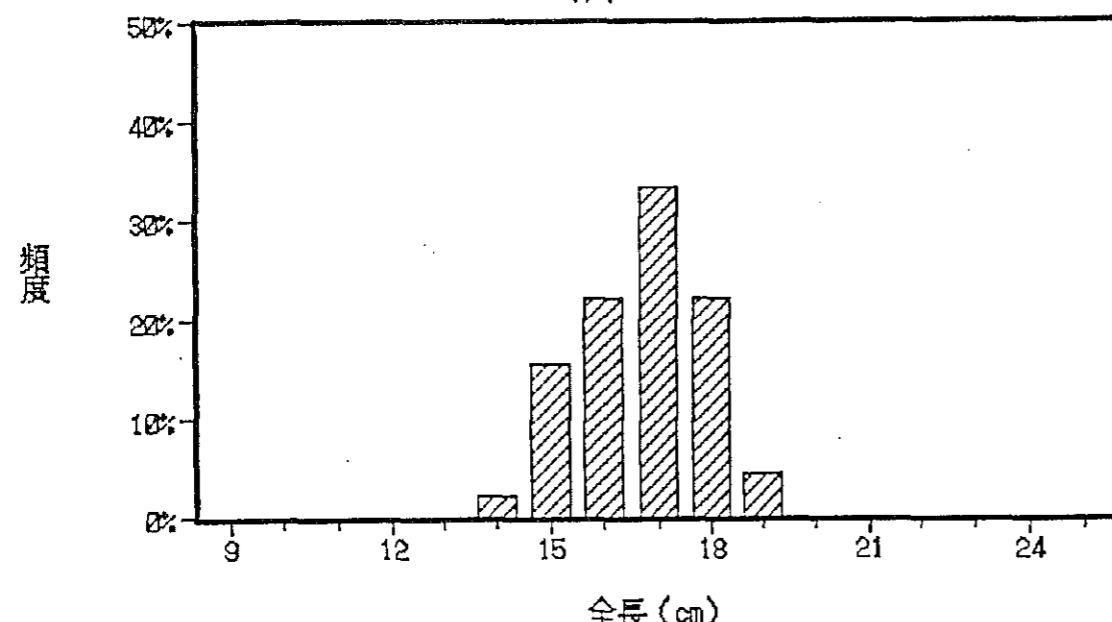
トラフグ漁獲組成(小型底曳網)
笠岡湾(1991.10.7)



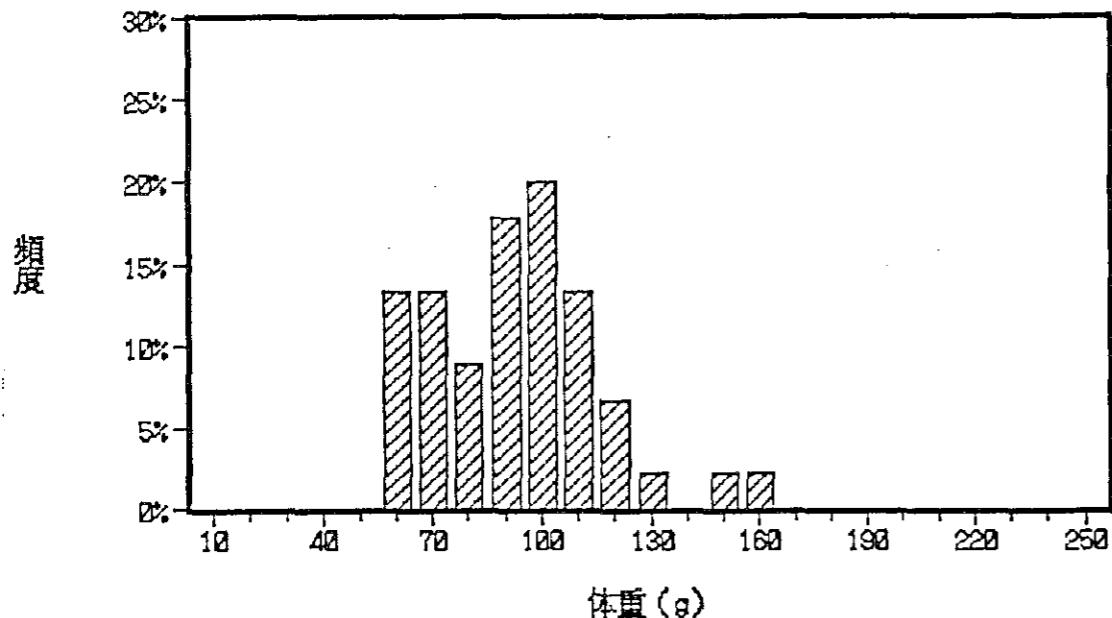
全長 階級	体長 階級	体重 階級	割合	割合
1 14	11.5	60	9 ~ 9.9	0 0
2 14.2	11.8	35	10 ~ 10.9	0 0
3 14.2	11.5	50	11 ~ 11.9	0 0
4 14.3	12	60	12 ~ 12.9	0 0
5 14.3	11.5	60	13 ~ 13.9	0 0
6 14.3	12	65	14 ~ 14.9	17 0.273
7 14.5	12	60	15 ~ 15.9	21 0.344
8 14.5	12	50	16 ~ 16.9	13 0.213
9 14.5	12	50	17 ~ 17.9	7 0.114
10 14.5	12	50	18 ~ 18.9	1 0.016
11 14.5	12	45	19 ~ 19.9	1 0.016
12 14.5	12	50	20 ~ 20.9	1 0.016
13 14.8	12	50	21 ~ 21.9	0 0
14 14.8	12.3	50	22 ~ 22.9	0 0
15 14.8	12	45	23 ~ 23.9	0 0
16 14.8	12	50	24 ~ 24.9	0 0
17 14.9	12	50	25 ~ 25.9	0 0
18 15	12.5	60		
19 15	12.3	65		
20 15.2	12.5	50		
21 15.2	12.5	70		
22 15.2	12.3	60		
23 15.2	12.3	60		
24 15.2	12.5	50		
25 15.2	12.5	50		
26 15.3	12.5	60		
27 15.3	12.5	70		
28 15.5	12.7	60		
29 15.5	13	65		
30 15.5	12.5	52		
31 15.5	12	70		
32 15.5	12.5	68		
33 15.5	12.5	70		
34 15.5	12.5	60		
35 15.6	13	70		
36 15.7	12.7	70		
37 15.7	13	60		
38 15.8	13	60		
39 16	13	65		
40 16	13	65		
41 16	13	65		
42 16	13	68		
43 16	13.2	70		
44 16	13	70		
45 16	13	70		
46 16.3	13.2	90		
47 16.5	13.5	85		
48 16.5	13.5	70		
49 16.5	14	65		
50 16.5	13.5	80		
51 16.5	13.5	80		
52 17	14	60		
53 17.2	14.3	90		
54 17.5	15	100		
55 17.5	14.2	90		
56 17.5	14.5	110		
57 17.5	14.5	90		
58 17.5	14.5	85		
59 18.5	15.2	110		
60 19	16	150		
61 20.2	17	170		
<hr/>				
avg	15.27	12.52	61.70	
min	14	11.5	35	
max	16.5	14	90	

トラフグ市場調査
H3.10.7
■n5:00
笠岡魚市場
笠岡港漁港
小型底曳 久武
笠岡沖

トラフグ漁獲組成(小型底曳網)
寒川 1991.10.8



トラフグ漁獲組成(小型底曳網)
寒川 1991.10.8

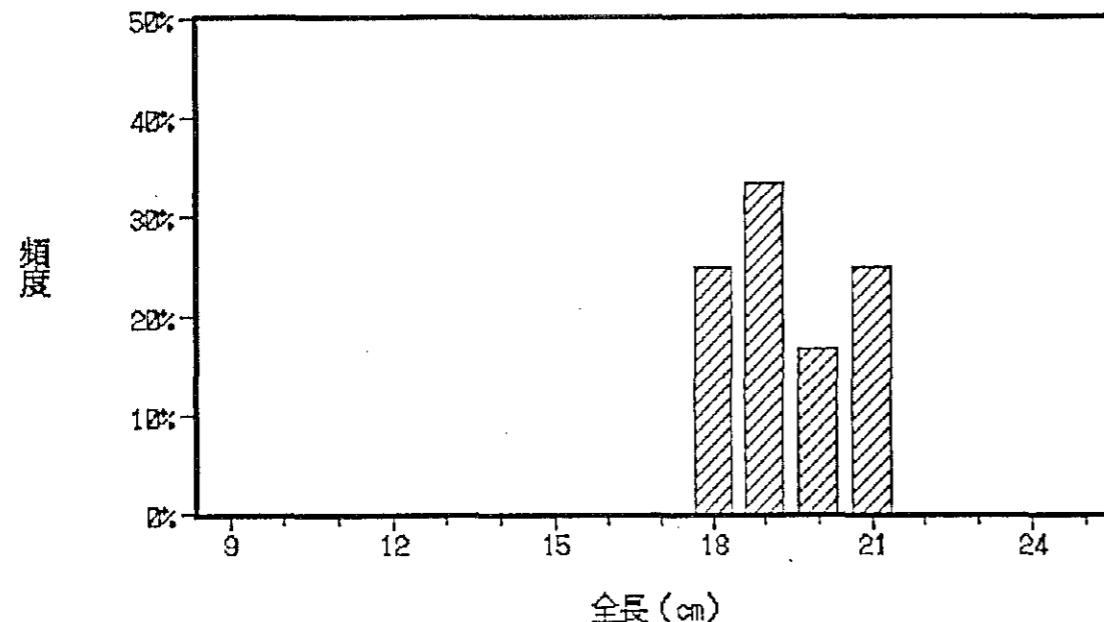


順位	全長	体長	体重	全長 頻度 尾数 割合			体重 頻度 尾数 割合		
				頻度	尾数	割合	頻度	尾数	割合
1	14.7	12.6	65	9 ~	9.9	0 0.00	18 ~	19.9	0 0.00
2	15	12.3	65	10	10.9	0 0.00	28	29.9	0 0.00
3	15.5	13	65	11	11.9	0 0.00	38	39.9	0 0.00
4	15.5	13	70	12	12.9	0 0.00	48	49.9	0 0.00
5	15.5	12.6	65	13	13.9	0 0.00	58	59.9	0 0.00
6	15.5	12.8	70	14	14.9	1 0.02	68	69.9	6 0.13
7	15.8	13.2	65	15	15.9	7 0.16	78	79.9	6 0.13
8	15.8	13	70	16	16.9	10 0.22	88	89.9	4 0.09
9	16	13	70	17	17.9	15 0.33	98	99.9	8 0.18
10	16.2	13.2	65	18	18.9	10 0.22	108	109.9	9 0.20
11	16.3	13.5	98	19	19.9	2 0.04	118	119.9	6 0.13
12	16.3	13.7	80	20	20.9	0 0.00	128	129.9	3 0.07
13	16.3	13.7	70	21	21.9	0 0.00	138	139.9	1 0.02
14	16.3	14	70	22	22.9	0 0.00	148	149.9	0 0.00
15	16.5	14	98	23	23.9	0 0.00	158	159.9	1 0.02
16	16.5	14	80	24	24.9	0 0.00	168	169.9	1 0.02
17	16.7	14	100	25	25.9	0 0.00	178	179.9	0 0.00
18	16.8	14	110			0 0.00	188	189.9	0 0.00
19	17	14	90			0 0.00	198	199.9	0 0.00
20	17	14	90			0 0.00	208	209.9	0 0.00
21	17	14	90			0 0.00	218	219.9	0 0.00
22	17	14	90			0 0.00	228	229.9	0 0.00
23	17	14	110			0 0.00	238	239.9	0 0.00
24	17	14	90			0 0.00	248	249.9	0 0.00
25	17	14	100			0 0.00	258	259.9	0 0.00
26	17.2	14.2	100			0 0.00			0 0.00
27	17.2	14.6	100			0 0.00			0 0.00
28	17.2	14	100			0 0.00			0 0.00
29	17.3	14.2	110			0 0.00			0 0.00
30	17.3	14	90			0 0.00			0 0.00
31	17.3	14.6	100			0 0.00			0 0.00
32	17.3	14.3	100			0 0.00			0 0.00
33	17.5	14.7	100			0 0.00			0 0.00
34	18	14.2	90			0 0.00			0 0.00
35	18	15	125			0 0.00			0 0.00
36	18	15.2	110			0 0.00			0 0.00
37	18	15	120			0 0.00			0 0.00
38	18	15	90			0 0.00			0 0.00
39	18.2	15.1	110			0 0.00			0 0.00
40	18.3	15	120			0 0.00			0 0.00
41	18.5	15.3	110			0 0.00			0 0.00
42	18.8	15.8	130			0 0.00			0 0.00
43	18.8	15.5	100			0 0.00			0 0.00
44	19.3	16	150			0 0.00			0 0.00
45	19.3	16.2	160			0 0.00			0 0.00
46						0 0.00			0 0.00
47						0 0.00			0 0.00
48						0 0.00			0 0.00
49						0 0.00			0 0.00
50						0 0.00			0 0.00
51						0 0.00			0 0.00

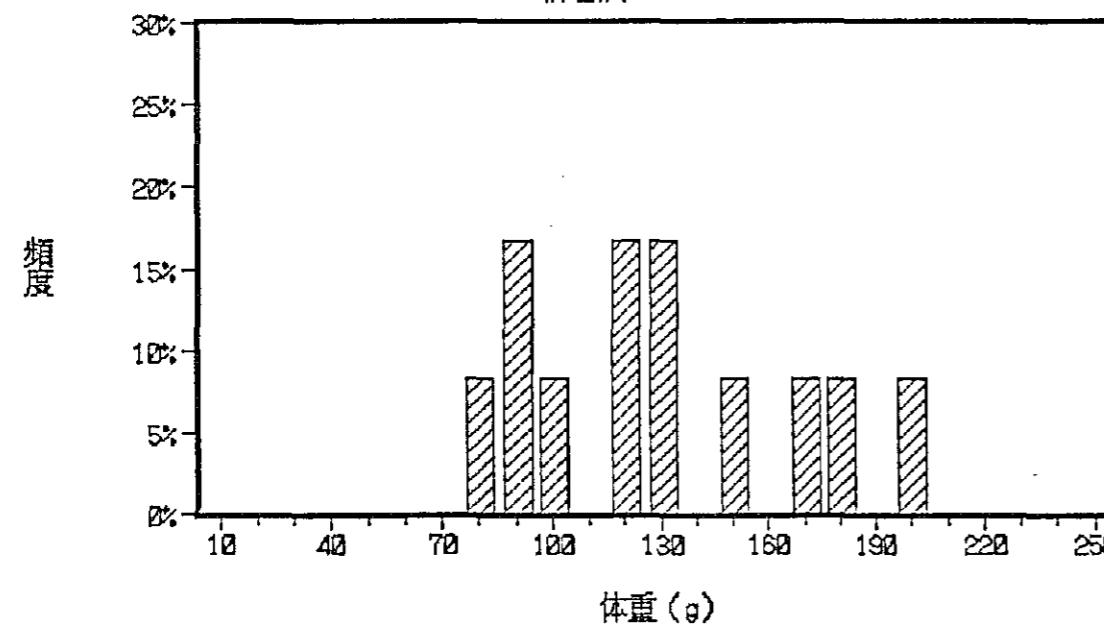
avg 17.01 14.12 93.84
min 14.7 12.3 65
max 19.3 18.2 160

トラフグ調査
H3.10.8
AM8:40
寒川漁協魚市場
寒川漁協
小型底曳 竹こぎ
沖

トラフグ漁獲組成(延縄)
新居浜 1991.10.21



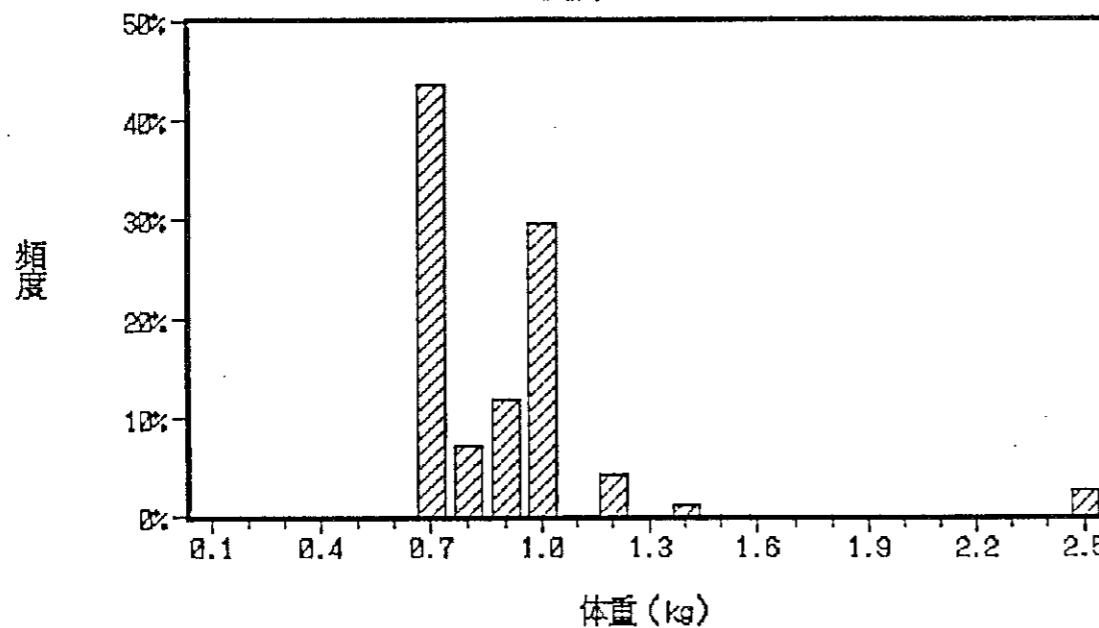
トラフグ漁獲組成(延縄)
新居浜 1991.10.21



全長	体長	体重	全長	階級	尾数	割合	体長	階級	尾数	割合
1	18	98	9 ~	9.0	0	0	10	~ 19.0	0	0
2	18	88	10	10.0	0	0	20	29.9	0	0
3	18.2	98	11	11.0	0	0	30	39.9	0	0
4	19	120	12	12.0	0	0	40	49.9	0	0
5	19.2	100	13	13.0	0	0	50	59.9	0	0
6	19.2	135	14	14.0	0	0	60	69.9	0	0
7	19.7	130	15	15.0	0	0	70	79.9	0	0
8	20	120	16	16.0	0	0	80	89.9	1	0.083
9	20.8	150	17	17.0	0	0	90	99.9	2	0.166
10	21	170	18	18.0	3	0.25	100	189.9	1	0.083
11	21	200	19	19.0	4	0.333	110	119.9	0	0
12	21.7	180	20	20.0	2	0.166	120	129.9	2	0.166
			21	21.0	3	0.25	130	139.9	2	0.166
			22	22.0	0	0	140	149.9	0	0
			23	23.0	0	0	150	159.9	1	0.083
			24	24.0	0	0	160	169.9	0	0
			25	25.0	0	0	170	179.9	1	0.083
					0	0	180	189.9	1	0.083
							190	199.9	0	0
							200	209.9	1	0.083
							210	219.9	0	0
							220	229.9	0	0
							230	239.9	0	0
							240	249.9	0	0
							250	259.9	0	0

トラフグ調査
H3.10.21
AM4:50
新居浜魚市場
新居浜漁
延縄
沖
漁獲量5.1 700/k

トラフグ漁獲組成(延縄)
長浜 1991.10.24



① 数量 (尾)	重量 (kg)	平均体重 (kg)	体重別割合	
			本数	割合
121	85.0	0.78	43.53%	
28	16.2	0.81	7.19%	
33	29.7	0.90	11.87%	
82	85.3	1.04	29.50%	
12	14.9	1.24	4.32%	
3	4.3	1.43	1.08%	
7	17.5	2.50	2.52%	
計	278	252.9	0.91	

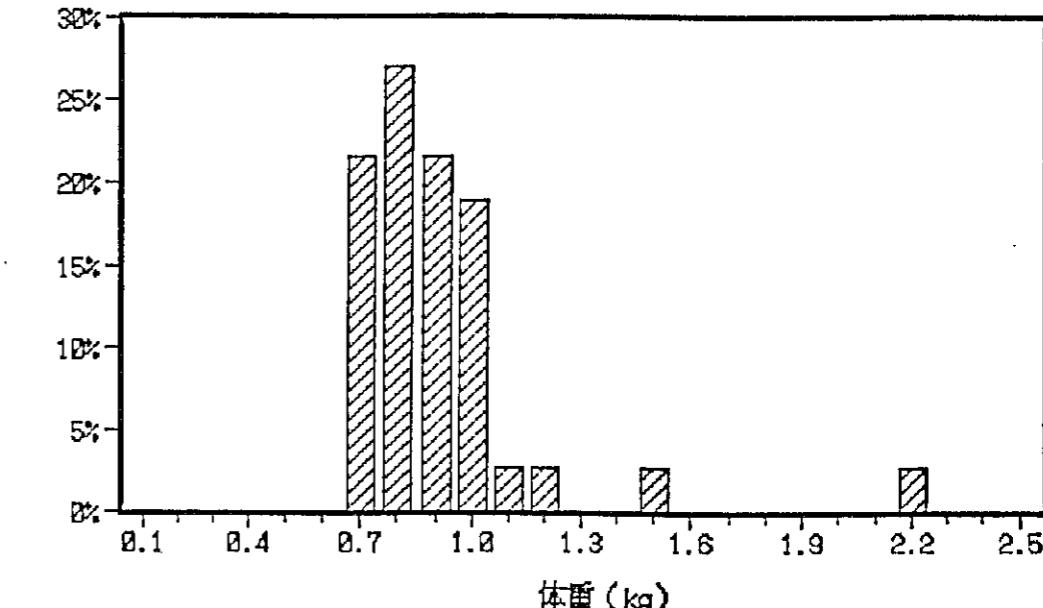
トラフグ市場調査
調査日： 1991.10.24
場所： 愛媛県長浜
調査対象者： 広島県豊島の密留船
操業場所： 長浜沖
備考： 浜風
備考： ①2日分の買量
②5隻分の漁獲量
③18隻分の漁獲量
④測定

① 本数	重量 (kg)	平均体重 (kg)	体重別割合	
			階級	尾数
8	0.1 ~ 0.19	0	0.00	
5	0.2 ~ 0.29	0	0.00	
5	0.3 ~ 0.39	0	0.00	
2	0.4 ~ 0.49	0	0.00	
6	0.5 ~ 0.59	0	0.00	
4	0.6 ~ 0.69	0	0.00	
121	0.7 ~ 0.79	0.44	0.44	
20	0.8 ~ 0.89	0.07	0.07	
33	0.9 ~ 0.99	0.12	0.12	
82	1.0 ~ 1.09	0.29	0.29	
8	1.1 ~ 1.19	0	0.00	
12	1.2 ~ 1.29	0.04	0.04	
0	1.3 ~ 1.39	0	0.00	
3	1.4 ~ 1.49	0.01	0.01	
0	1.5 ~ 1.59	0	0.00	
0	1.6 ~ 1.69	0	0.00	
0	1.7 ~ 1.79	0	0.00	
0	1.8 ~ 1.89	0	0.00	
0	1.9 ~ 1.99	0	0.00	
0	2.0 ~ 2.09	0	0.00	
0	2.1 ~ 2.19	0	0.00	
0	2.2 ~ 2.29	0	0.00	
0	2.3 ~ 2.39	0	0.00	
7	2.4 ~ 2.49	0.03	0.03	
0	2.5 ~ 2.59	0	0.00	

278

1

トラフグ漁獲組成(延縄)
長浜② 1991.10.24



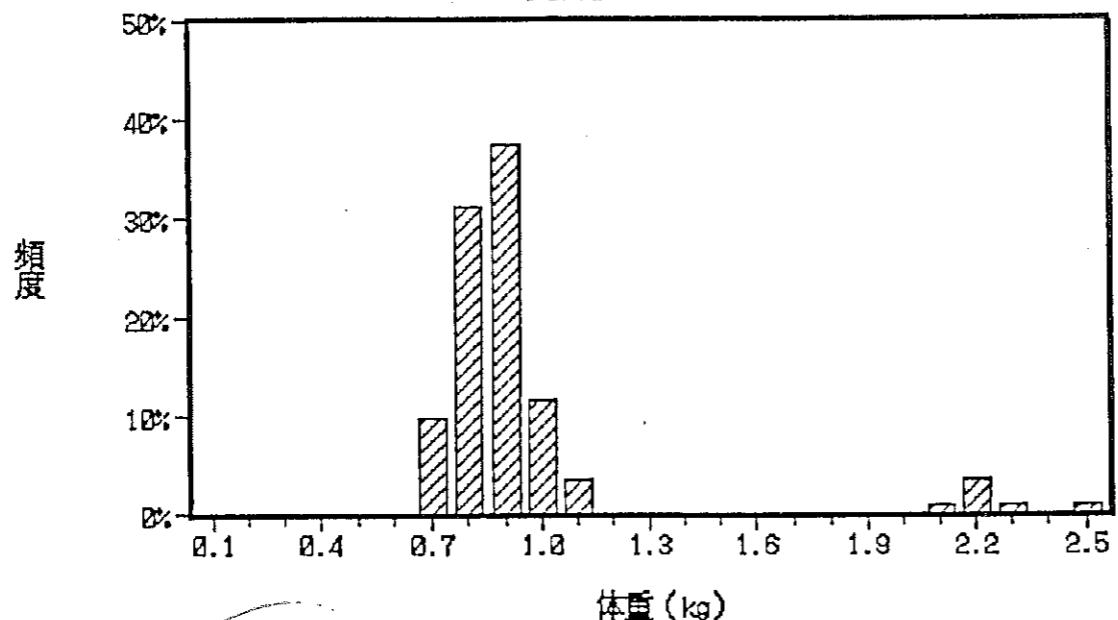
② 本数	重量 (kg)	平均体重 (kg)	体重別割合	
			階級	尾数
6	0.1 ~ 0.19	0.75	21.62%	
4	0.2 ~ 0.29	0.80	13.51%	
4	0.3 ~ 0.39	0.80	13.51%	
2	0.4 ~ 0.49	0.90	5.41%	
6	0.5 ~ 0.59	0.90	16.22%	
4	0.6 ~ 0.69	1.00	10.81%	
2	0.7 ~ 0.79	1.00	5.41%	
1	0.8 ~ 0.89	1.00	2.70%	
1	0.9 ~ 0.99	1.10	2.70%	
1	1.0 ~ 1.09	1.20	2.70%	
1	1.1 ~ 1.19	1.50	2.70%	
1	1.2 ~ 1.29	2.20	2.70%	
1	1.3 ~ 1.39	0	0.00	
1	1.4 ~ 1.49	0	0.00	
1	1.5 ~ 1.59	0	0.00	
1	1.6 ~ 1.69	0	0.00	
1	1.7 ~ 1.79	0	0.00	
1	1.8 ~ 1.89	0	0.00	
1	1.9 ~ 1.99	0	0.00	
0	2.0 ~ 2.09	0	0.00	
0	2.1 ~ 2.19	0	0.00	
0	2.2 ~ 2.29	0	0.00	
0	2.3 ~ 2.39	0	0.00	
0	2.4 ~ 2.49	0	0.00	
7	2.5 ~ 2.59	0.03	0.03	
0	2.6 ~ 2.69	0	0.00	

37

1

トラフグ漁獲組成(延縄)
長浜③ 1991.10.24

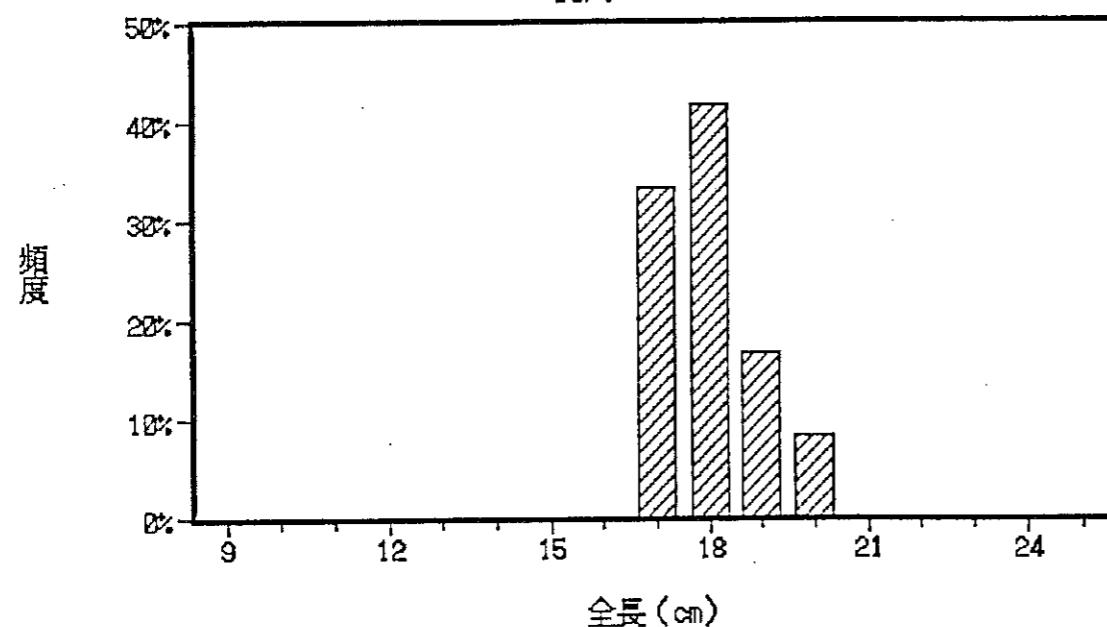
1991.10.24
愛媛県長浜



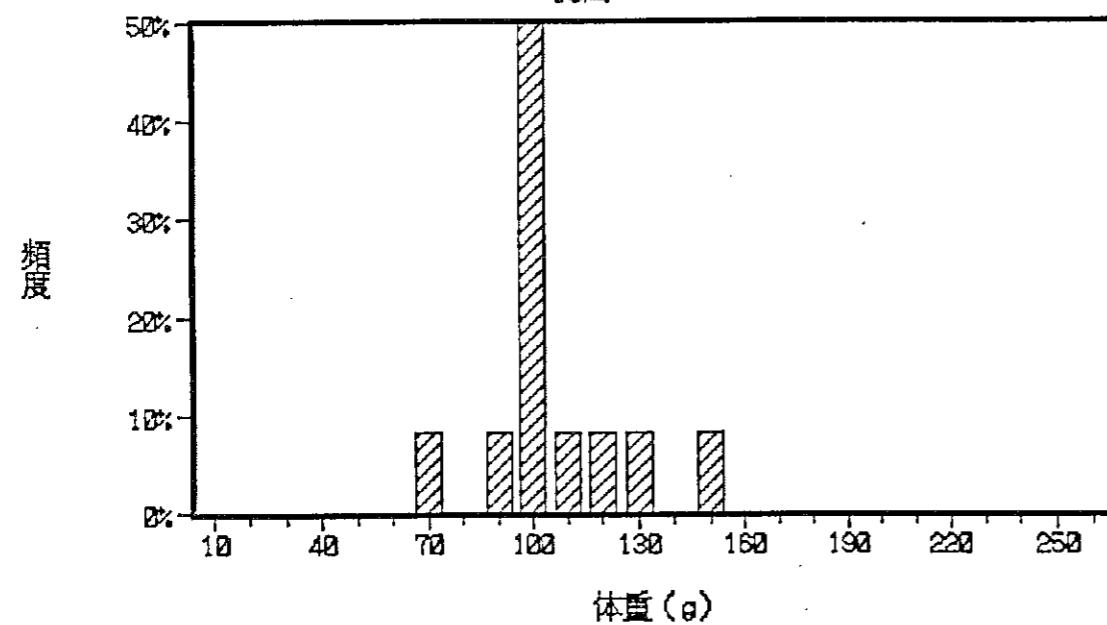
③

本数	重量 (kg)	平均体重 (kg)	体重級	尾数	割合
3	2.1	0.70	0.1 ~ 0.19	0	0.00
8	5.6	0.70	0.2	0	0.00
5	4	0.80	0.3	0	0.00
6	4.8	0.80	0.4	0	0.00
2	1.6	0.80	0.5	0	0.00
8	6.8	0.85	0.6	0	0.00
6	5.1	0.85	0.7	11	0.10
4	3.4	0.85	0.8	35	0.31
4	3.4	0.85	0.9	42	0.38
1	0.9	0.90	1.0	13	0.12
8	7.2	0.90	1.1	4	0.04
4	3.6	0.90	1.2	0	0.00
4	3.6	0.90	1.3	0	0.00
6	5.4	0.90	1.4	0	0.00
15	13.5	0.90	1.5	0	0.00
4	3.8	0.95	1.6	0	0.00
9	9	1.00	1.7	0	0.00
4	4	1.00	1.8	0	0.00
4	4.4	1.10	1.9	0	0.00
1	2.15	2.15	2.0	0	0.00
2	4.4	2.20	2.1	1	0.01
2	4.4	2.20	2.2	4	0.04
1	2.3	2.30	2.3	1	0.01
1	2.5	2.50	2.4	0	0.00
			2.5	1	0.01
				0	0.00
112	107.95	0.96			

トラフグ漁獲組成(小型底曳網)
誌回 1991.11.6



トラフグ漁獲組成(小型底曳網)
誌回 1991.11.6

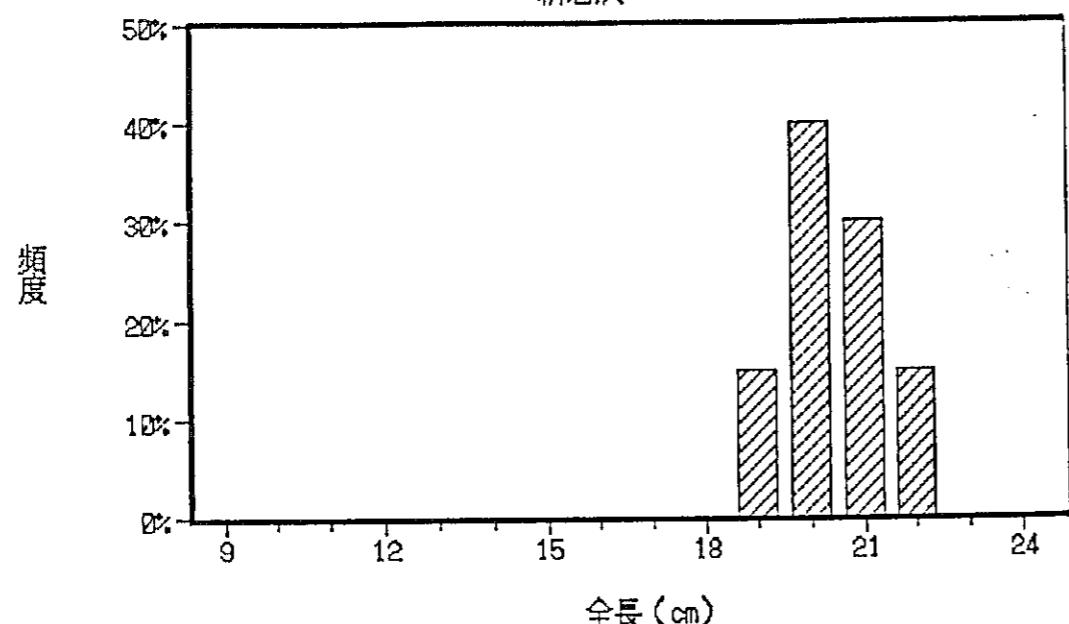


全長 cm	体長 cm	体重 g	全長 階級			尾数			割合					
			尾数	割合	尾数	割合	尾数	割合	尾数	割合	尾数			
1	17	13.6	100		9 ~	9.9	0	0.00	10 ~	19.9	0	0.00		
2	17	14	70		10	10.9	0	0.00	20	29.9	0	0.00		
3	17.3	14	100		11	11.9	0	0.00	30	39.9	0	0.00		
4	17.7	14.5	90		12	12.9	0	0.00	40	49.9	0	0.00		
5	18	14.5	100		13	13.9	0	0.00	50	59.9	0	0.00		
6	18	15	100		14	14.9	0	0.00	60	69.9	0	0.00		
7	18	14.5	100		15	15.9	0	0.00	70	79.9	1	0.08		
8	18.5	15.5	120		16	16.9	0	0.00	80	89.9	0	0.00		
9	18.5	15.5	130		17	17.9	4	0.33	90	99.9	1	0.08		
10	19	16	100		18	18.9	5	0.42	100	109.9	6	0.50		
11	19.7	16.2	110		19	19.9	2	0.17	110	119.9	1	0.08		
12	20.5	17	150		20	20.9	1	0.08	120	129.9	1	0.08		
avg			18.26	15.03	106.8		21	21.9	0	0.00	130	139.9	1	0.08
min			17	13.6	70		22	22.9	0	0.00	140	149.9	0	0.00
max			20.5	17	150		23	23.9	0	0.00	150	159.9	1	0.08
							24	24.9	0	0.00	160	169.9	0	0.00
							25	25.9	0	0.00	170	179.9	0	0.00
									0	0.00	180	189.9	0	0.00
									12	1				

トラフグ調査
H3.11.6
an3:10
多賀津魚市場
誌回漁協
小型底曳網 尾崎安男
誌回沖

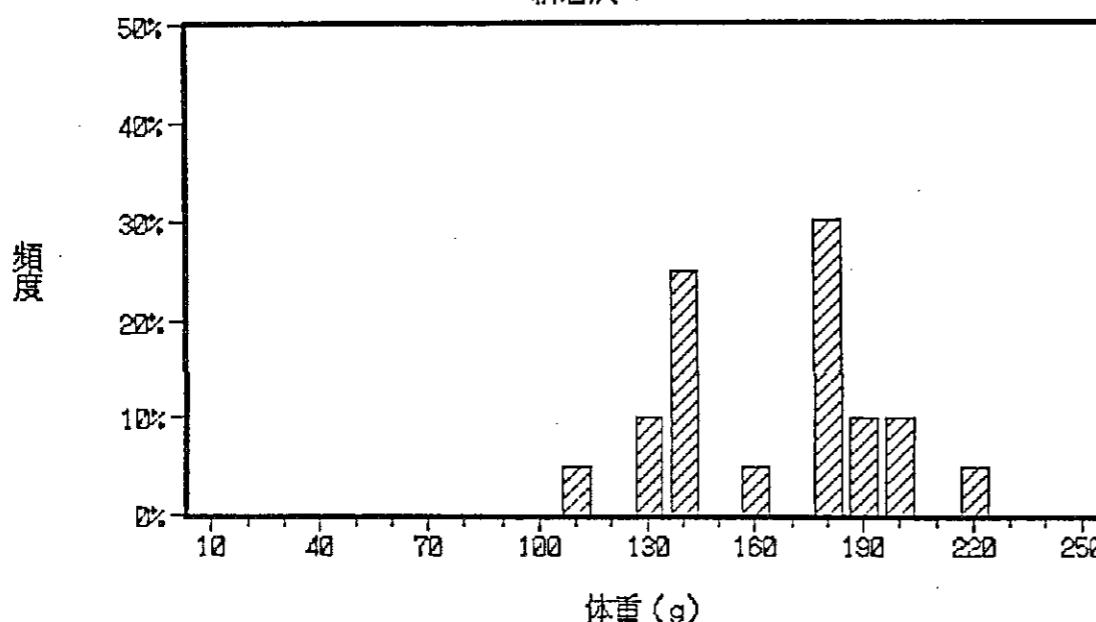
トラフグ漁獲組成(延縄)

新居浜 1991.11.8



トラフグ漁獲組成(延縄)

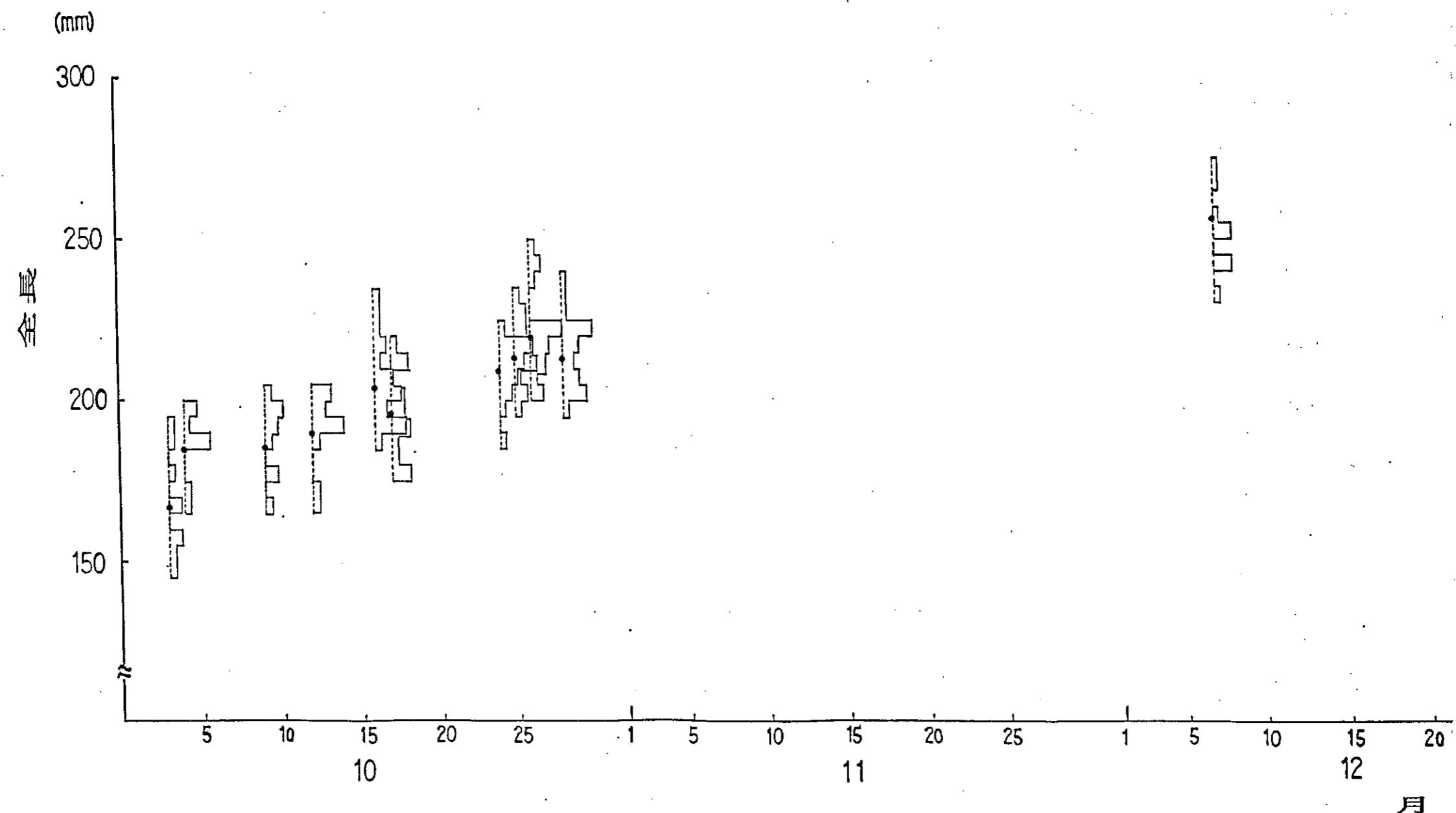
新居浜 1991.11.8



全長	体長	体重	階級	尾数	割合	全長	体長	体重	階級	尾数	割合
1	19	15.7	116	9 ~	9.9	0	0	10 ~	19.9	0	0
2	19.5	16.3	140	10	10.9	0	0	20	29.9	0	0
3	19.5	16.2	160	11	11.9	0	0	30	39.9	0	0
4	20	18.4	190	12	12.9	0	0	40	49.9	0	0
5	20	16.2	140	13	13.9	0	0	50	59.9	0	0
6	20.2	16.8	140	14	14.9	0	0	60	69.9	0	0
7	20.2	17	130	15	15.9	0	0	70	79.9	0	0
8	20.5	16.7	130	16	16.9	0	0	80	89.9	0	0
9	20.7	17.2	140	17	17.9	0	0	90	99.9	0	0
10	20.8	17.1	185	18	18.9	0	0	100	109.9	0	0
11	20.8	16.5	140	19	19.9	3	0.15	110	119.9	1	0.05
12	21	17.2	180	20	20.9	6	0.4	120	129.9	0	0
13	21.2	18	180	21	21.9	6	0.3	130	139.9	2	0.1
14	21.4	17.8	200	22	22.9	3	0.15	140	149.9	5	0.25
15	21.4	17.8	185	23	23.9	0	0	150	159.9	0	0
16	21.5	18.3	180	24	24.9	0	0	160	169.9	1	0.05
17	21.7	18.3	220	25	25.9	0	0	170	179.9	0	0
18	22	18.3	185			0	0	180	189.9	6	0.3
19	22	18.5	200			0	0	190	199.9	2	0.1
20	22.2	17.6	190			0	0	200	209.9	2	0.1
				20	1			210	219.9	0	0
						0	0	220	229.9	1	0.05
						0	0	230	239.9	0	0
						0	0	240	249.9	0	0
						0	0	250	259.9	0	0

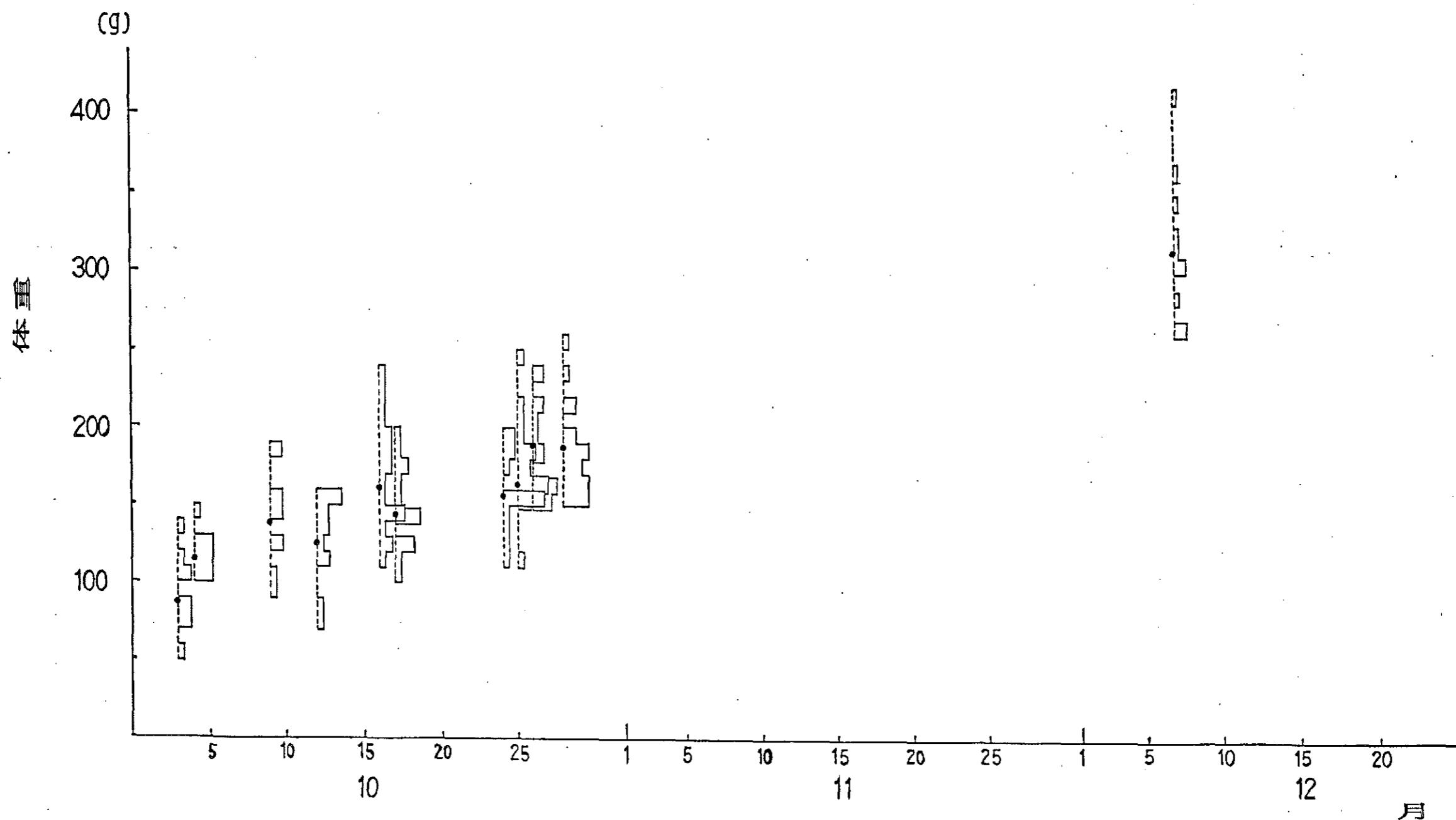
avg 20.76 17.27 166.6
min 19 15.7 116
max 22.2 18.5 220

トラフグ調査
H3.11.8
AM2:40
新居浜魚市場
新居浜漁協
延縄
西条海苔漁場



図一 天然トラフグの測定結果（全長）

← 1尾
← 平均全長



図～ 天然トラフグの測定結果（体重）

マダイの放流及び追跡調査

本年は、昨年放流初期の減耗の一要因と考えられる放流直後の天然餌料の摂餌不良の影響を把握する目的で中間育成段階から餌料条件を変えて育成して放流された平成元年沼島放流群の継続調査を実施した。

1. 平成元年沼島放流群の放流実施状況を表1に、再捕状況を表2に、各群（飢餓群、海底餌料餌付け群、対照群）の再捕結果を表3に示す。

2. 沼島放流群全体の再捕尾数は2423尾（再捕率4.1%）で、このうちの84%が放流年内（放流後2ヶ月以内）に集中して再捕された。漁法別の再捕率は小型底曳網89%が、小型定置網5%，刺網4%，釣1%であった。移動分散状況は紀伊水道内全域に分散し、特に放流点から南部海域（紀伊水道域とその外域付近にある伊島周辺）へ速やかに移動する傾向がみられこれ以外の海域からの再捕報告は今のところない。

3. 放流前の育成状況の異なる（飢餓群、海底餌料餌付け群、対照群）放流群の放流群別、時期別、場所別再捕の内訳を図1～3に示す。放流年内の再捕率は、飢餓群（元年ヤシマ3）3.4%，海底餌料餌付け群（元年ヤシマ4）4.6%，対照群（元年ヤシマ5）

4.3%で、放流翌年（平成2年1月から10月まで）の再捕率は、同様に0.2%，0.7%，0.6%であった。各放流群の漁法別再捕率は底曳網では飢餓群89%，海底餌料餌付け群88%，対照群89%，同様に小型定置網では7%，5%，5%，刺網では2%，5%，3%であった。釣では1%，5%，3%であった。

4. 以上の結果から放流前の中間育成段階での餌料条件付けの効果については特に顕著な差がなく判然としなかった。今後は当面問題となっている不合理漁獲を避けるための方策として、種苗放流前の種苗性付与方法の改善および放流方法、放流場所の検討も必要である。

町田雅春

表1 平成元年マダイの沼島放流群放流実施状況

放流群No.	担当 事業場	放流点	放流月日	放流尾数		放流 サイズ (mm)	標識のタイプ	放流のねらい等
				全尾数	内標識尾数			
元年ヤシマ3	屋 島	兵庫県沼島南岸	11.15-16	19320	19320	132 (118-146)	スハケ"テイ-型	赤 ヤシマ89 飢餓群
元年ヤシマ4		兵庫県沼島南岸	11.15-16	19770	19770	132 (118-146)	スハケ"テイ-型	黄 ヤシマ89 海底餌料餌付け群
元年ヤシマ5		兵庫県沼島南岸	11.15-16	19760	19760	132 (118-146)	スハケ"テイ-型	緑 ヤシマ89 対照群

表2 マダイ標識放流、平成元年沼島放流群の再捕状況

饥饿群(元年ヤシマ3)					海底餌料餌付け群(元年ヤシマ4)					対照群(元年ヤシマ5)					合計									
再捕月	底曳網	刺網	定置網	釣他	底曳網	刺網	定置網	釣他	小計	底曳網	刺網	定置網	釣他	小計	底曳網	刺網	定置網	釣他	合計					
平1.11	244	4	19	0	0	267	320	11	17	0	0	348	297	8	19	0	1	325	861	23	55	0	1	940
1.12	257	5	25	6	0	293	380	10	19	5	0	414	362	6	24	6	0	398	999	21	68	17	0	1105
2. 1	38	0	1	0	0	39	37	5	6	1	0	49	53	2	1	2	1	59	128	7	8	3	1	147
2. 2	22	3	0	0	0	25	20	10	0	2	0	32	20	8	0	2	1	31	62	21	0	4	1	88
2. 3	7	2	0	0	0	9	12	2	0	0	0	14	7	0	0	0	0	7	26	4	0	0	0	30
2. 4	11	1	0	0	0	12	28	2	3	1	1	35	17	2	0	2	0	21	56	5	3	3	1	68
2. 5	1	2	0	0	1	4	5	1	0	2	1	9	3	1	0	0	0	4	9	4	0	2	2	17
2. 6	3	0	0	0	0	3	1	1	2	0	0	4	4	1	0	1	0	6	8	2	2	1	0	13
2. 7	0	0	0	2	0	2	1	2	1	0	0	4	0	1	0	1	0	2	1	3	1	3	0	8
2. 8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
2. 9	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	2	0	3
2.10	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
計	585	17	45	8	1	656	807	44	48	12	2	913	763	29	44	15	3	854	2155	90	137	35	6	2423
漁法別割合(%)	89	2	7	1	1>	88	5	5	1	1>	89	3	5	1	2	89	4	5	1	1>				

表3-1 平成元年度マダイの沼島放流群(飢餓群)再捕結果

再捕年月	経過日数	再捕尾数	漁具別再捕尾数					移動距離別再捕結果				
			底曳網	小型定置	刺網	釣	その他	10km>	10~20	20~30	30~40	
平.1.11	0~13	267	244	19	4	0	0	61	108	100	0	
平.1.12	14~44	293	257	25	5	6	0	41	105	136	11	
平.2. 1	45~75	39	38	1	0	0	0	2	16	21	0	
平.2. 2	76~103	25	22	0	3	0	0	1	8	15	1	
平.2. 3	104~134	9	7	0	2	0	0	0	2	6	1	
平.2. 4	135~164	12	11	0	1	0	1	1	5	6	0	
平.2. 5	165~195	4	1	0	2	0	0	1	1	2	0	
平.2. 6	196~225	3	3	0	0	0	0	2	1	0	0	
平.2. 7	226~255	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	
平.2. 8	256~286	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
平.2. 9	287~316	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
平.2.10	317~347	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
計		656	585	45	17	8	1	111	248	285	13	

表3-2 平成元年度マダイの沼島放流群(海底餌料餌付け群)再捕結果

再捕年月	経過日数	再捕尾数	漁具別再捕尾数					移動距離別再捕結果				
			底曳網	小型定置	刺網	釣	その他	10km>	10~20	20~30	30~40	
平.1.11	0~13	348	320	17	11	0	0	61	148	139	0	
平.1.12	14~44	414	380	19	10	5	0	42	165	190	17	
平.2. 1	45~75	49	37	6	5	1	0	0	14	34	2	
平.2. 2	76~103	32	20	0	10	2	0	3	6	20	3	
平.2. 3	104~134	14	12	0	2	0	0	1	3	10	0	
平.2. 4	135~164	35	28	3	2	1	1	5	13	17	0	
平.2. 5	165~195	9	5	0	1	2	1	1	6	2	0	
平.2. 6	196~225	4	1	2	1	0	0	1	0	3	0	
平.2. 7	226~255	4	1	1	2	0	0	2	1	1	0	
平.2. 8	256~286	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
平.2. 9	287~316	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	
平.2.10	317~347	2	2	0	0	0	0	1	1	0	0	
計		913	807	48	44	12	2	117	358	417	22	

表3-3 平成元年度マダイの沼島放流群(対照群)再捕結果

再捕年月	経過日数	再捕尾数	漁具別再捕尾数					移動距離別再捕結果				
			底曳網	小型定置	刺網	釣	その他	10km>	10~20	20~30	30~40	
平.1.11	0~13	325	297	19	8	0	1	66	125	134	0	
平.1.12	14~44	398	362	24	6	6	0	34	153	194	17	
平.2. 1	45~75	59	53	1	2	2	1	3	18	37	1	
平.2. 2	76~103	31	20	0	8	2	1	2	9	17	3	
平.2. 3	104~134	7	7	0	0	0	0	1	2	4	0	
平.2. 4	135~164	21	17	0	2	2	0	4	9	8	0	
平.2. 5	165~195	4	3	0	1	0	0	0	2	2	0	
平.2. 6	196~225	6	4	0	1	1	0	3	2	0	0	
平.2. 7	226~255	2	0	0	1	1	0	3	0	0	0	
平.2. 8	256~286	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
平.2. 9	287~316	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	
平.2.10	317~347	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		854	763	44	29	15	3	117	320	396	21	

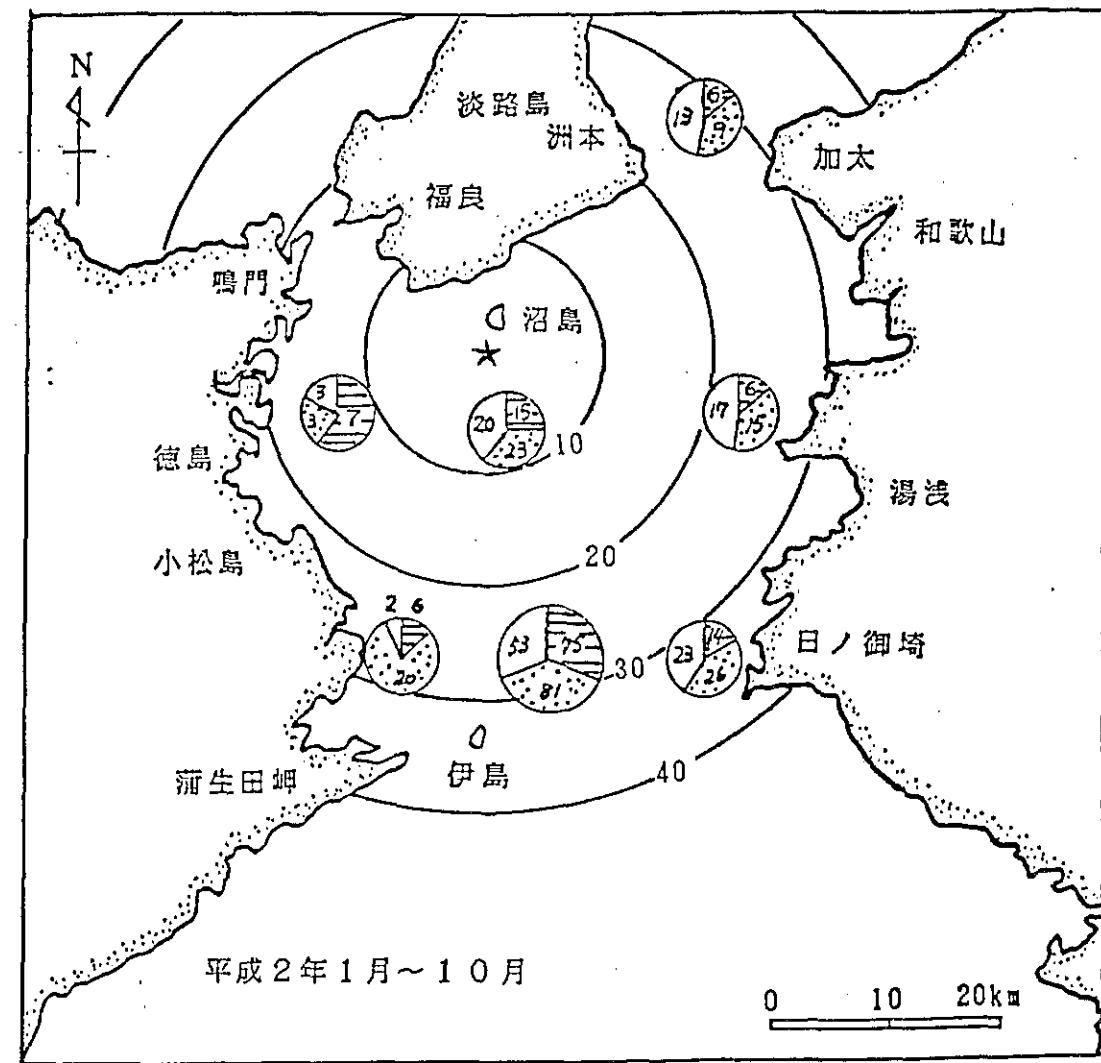
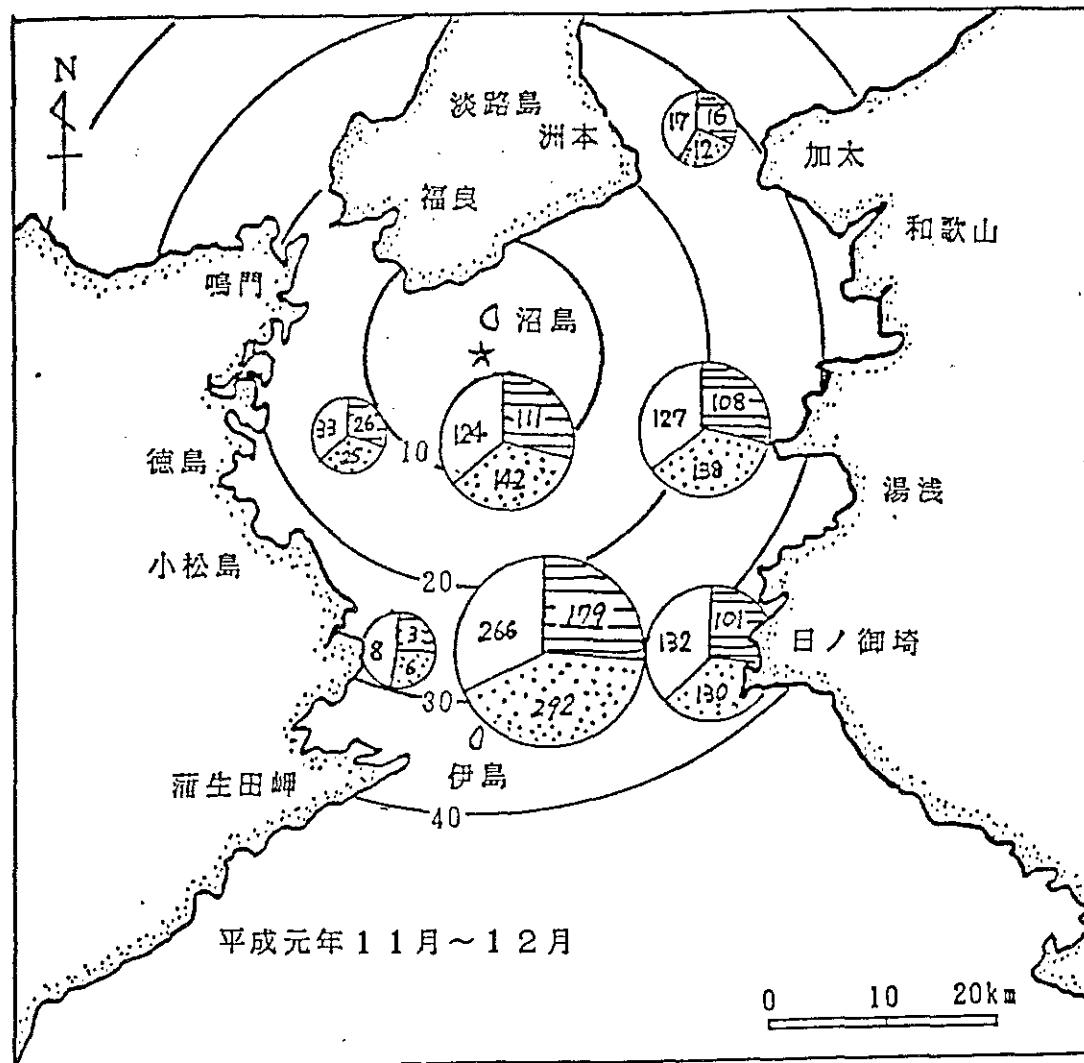
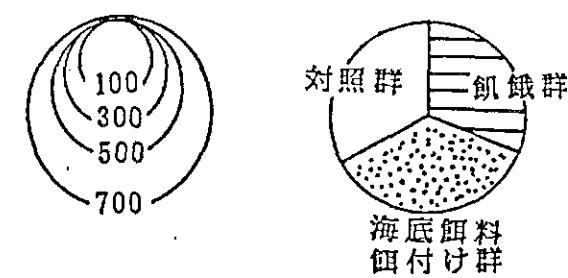


図1 平成元年沼島放流群の平成元年11月から2年10月までの放流群別、時期別、場所別再捕内訳



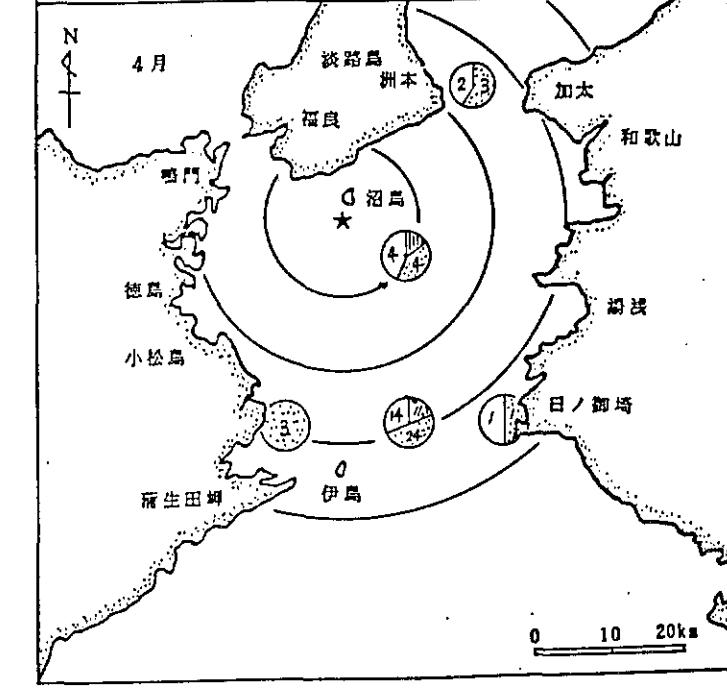
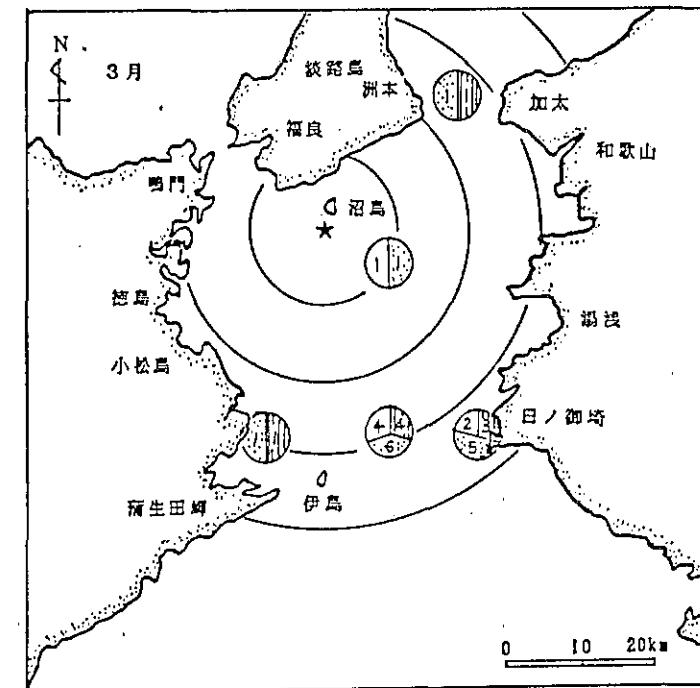
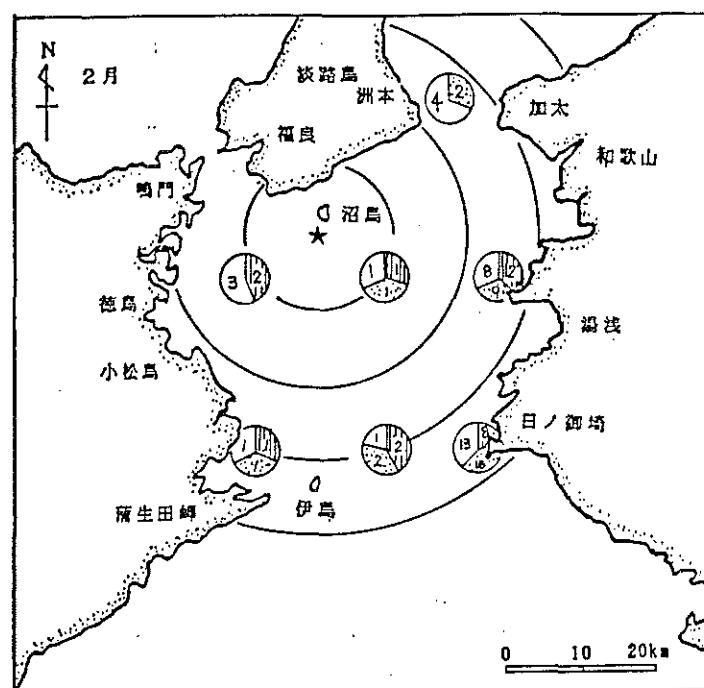
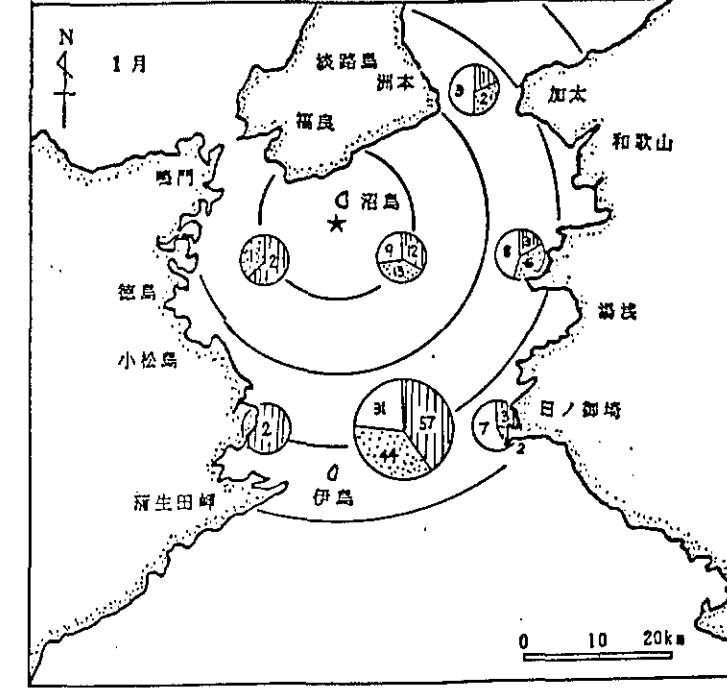
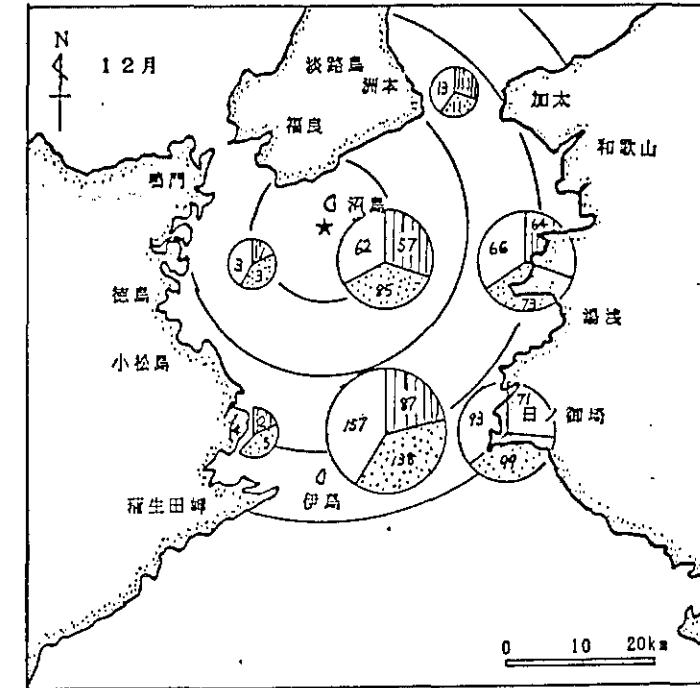
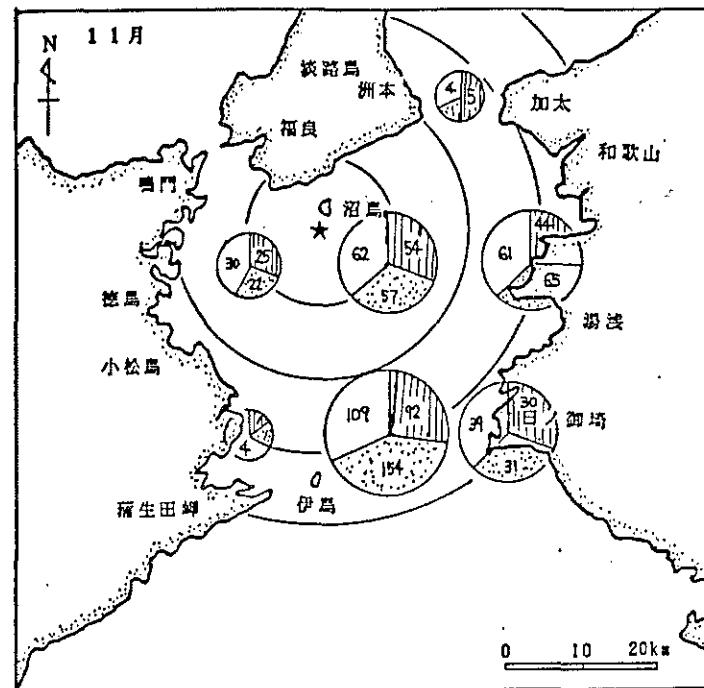
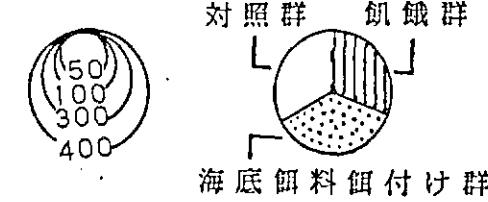


図2 平成元年のマダイ放流群の再捕内訳



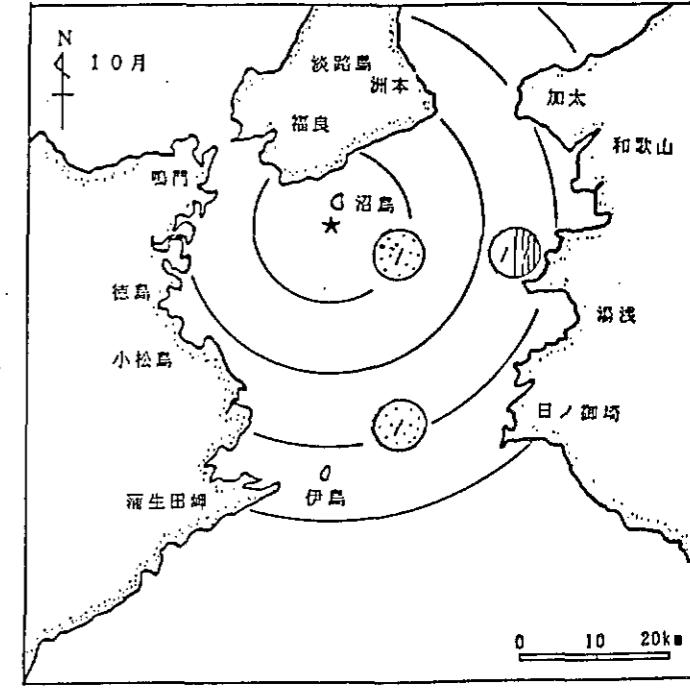
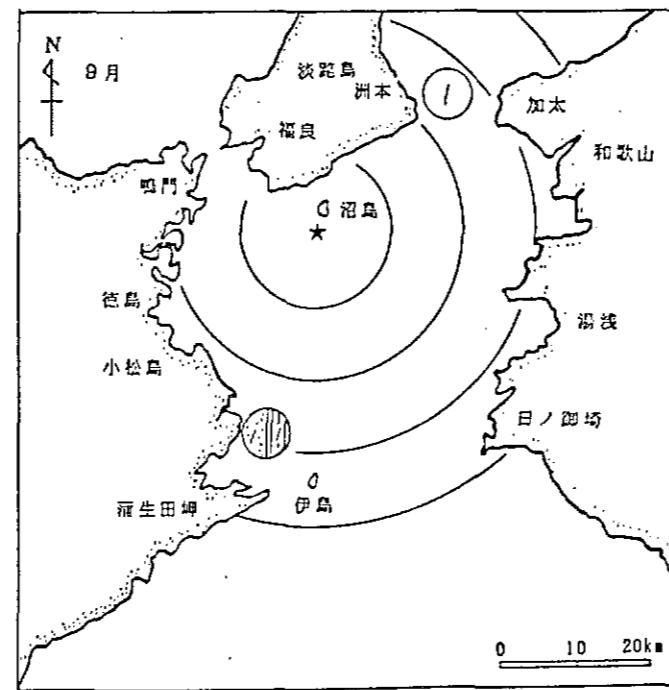
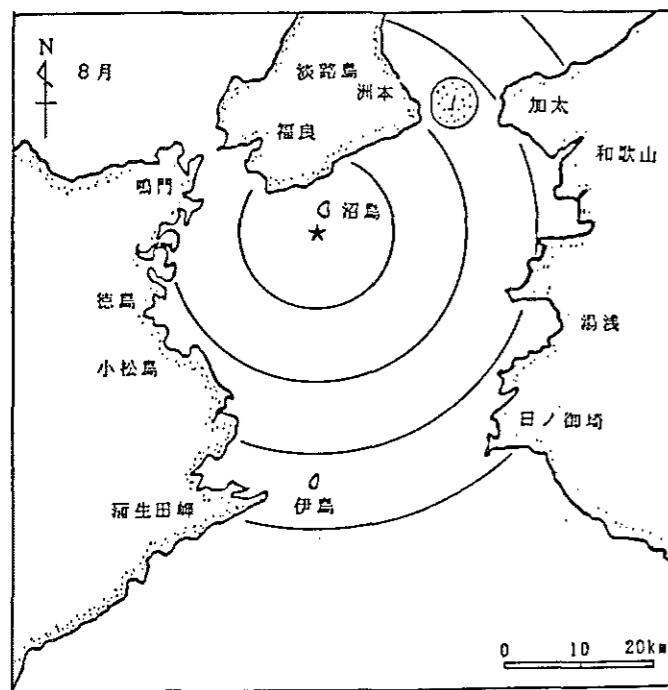
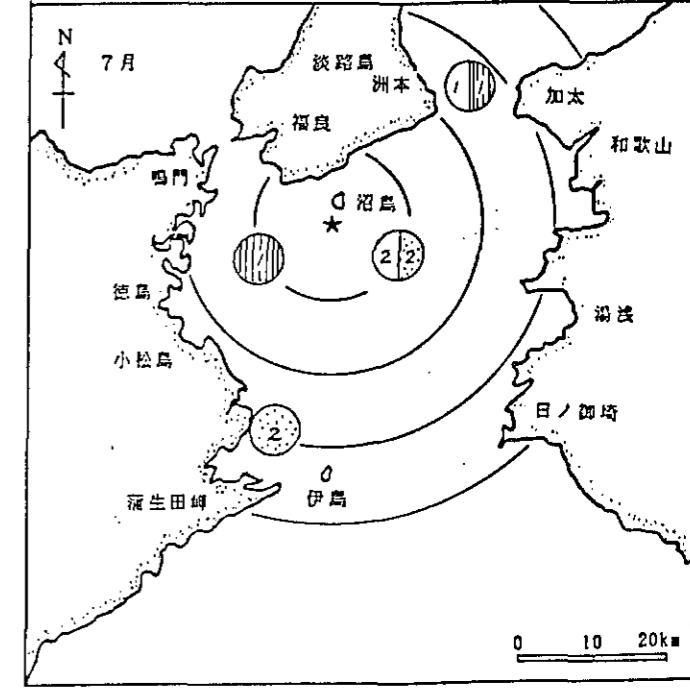
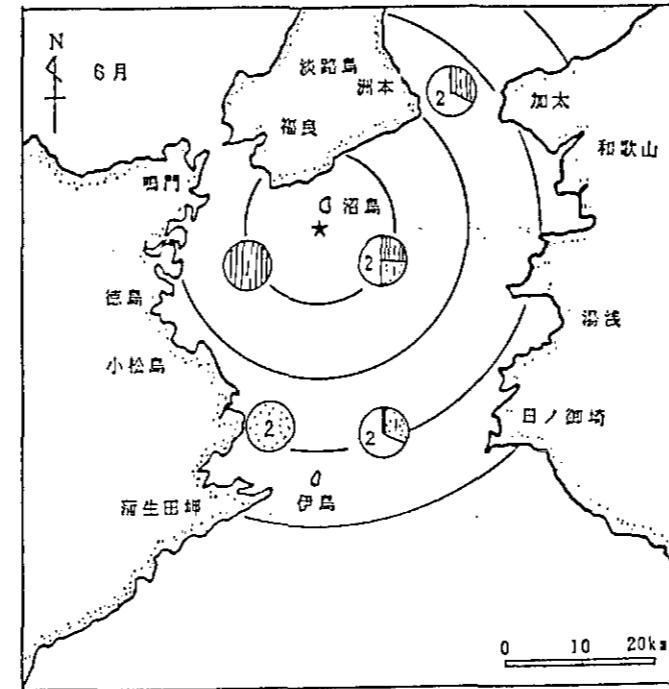
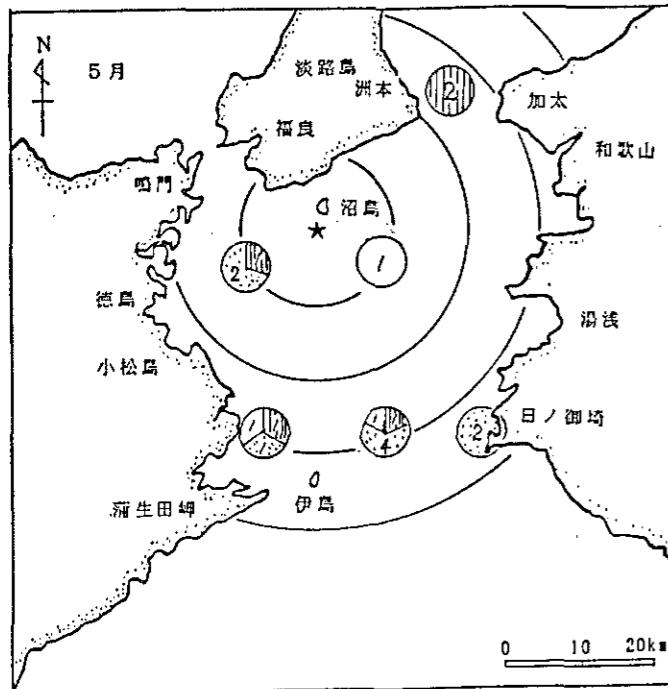


図3 平成元年のマダイ放流群の再捕内訳

